

授 業 計 画

平成 28 年度

Syllabus 2016

生涯福祉学部 社会福祉学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の十七条憲法に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



アドミッションポリシー (AP)

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー (CP)

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

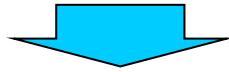
ディプロマポリシー (DP)

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

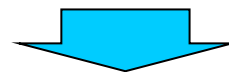


兵庫大学

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

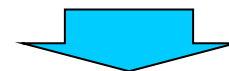


生涯福祉学部

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)



社会福祉学科

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

みなさんは、

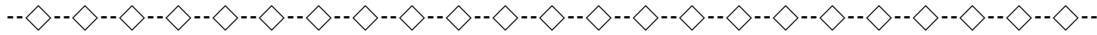
APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

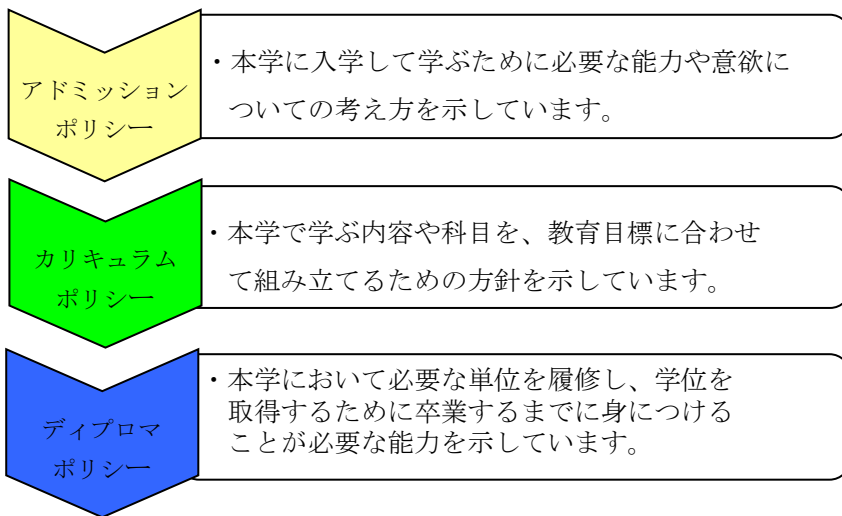
DPに定められた能力を身につけて卒業します。

生涯福祉学部ポリシー

アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・生涯福祉学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲と学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力し、向上しようとする心を忘れず、柔軟な姿勢を有する学生を受け入れます。</p>	<p>・生涯福祉学部では、「和」の精神に基づく教養を広く基礎として、人と人の生涯発達について理解するとともに、主に小都市・町村での学びを通して、生涯発達に応じ人を支援する地域社会に貢献できる「幅広い職業人」の育成を目指してカリキュラムを編成します。</p>	<p>・生涯福祉学部では、人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係を踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



3つの方針（ポリシー）について



社会福祉学科ポリシー

社会福祉学科は、学部ポリシーに基づき、「和」の精神と地球規模でのソーシャルワークの価値と倫理を理解し、主に小都市・町村において実践する福祉の専門職を養成するとともに、生涯にわたって福祉社会の一翼を担う市民の育成を目指します。

アドミッション ポリシー

・生涯福祉学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. ソーシャルワークの専門職を希望し、自ら学ぶ意欲のある人
2. ソーシャルワークの価値である、社会的な弱者を支援することを希望する人
3. 社会福祉の分野に関心を持ち、将来にわたり地域や社会に貢献する意欲のある人

カリキュラム ポリシー

・社会福祉学科のディプロマポリシーで示された3つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学で学ぶための基本的学習技術を習得し、ソーシャルワークの価値を理解し倫理を身につけるために、調べ、考え、議論をする学習態度を身につける
2. ソーシャルワークの価値と倫理を認識し身につけるために、「人」と「人を取り巻く社会」との関係及び文化など社会の基盤と高い精神性を養う幅広い学問分野の知識や技能を身につける
3. 人の生涯に関わり、社会の変革者たるソーシャルワークの実践的専門家になるために必要な、学際性のある専門的知識や技能を習得し、運用する力を身につける
4. 主に小都市・町村を中心として、社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や技能を運用し行動する力を身につける
5. 福祉社会の一員たる市民として、また、ソーシャルワークの実践的専門家として、卒業後も自律的に学習を継続する力を身につける

ディプロマ ポリシー

・生涯福祉学部のポリシーに基づき、卒業までに、次の力を身につけた人に学士（社会福祉学）の学位を授与します。

1. ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力
2. ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力
3. ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

社会福祉学科カリキュラムマップ【共通教育科目】(平成28年度入学者)

授業科目の区分		授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○							
			兵庫大学ディプロマポリシー							
			1) 自己を認識し、物事に進んで取り組む力 2) まわりに働きかけ、共に行動する力 3) 学んだ知識や身につけた技術を活用し、生涯にわたって活用できる力							
			A	B	C	D	E	F	G	
		コミュニケーション力	情報リテラシー(情報処理能力、情報収集・発信力)	多様なものの見方、考え方ができる力	自己を認識し、他者を理解する力	社会・文化について理解する力	自然・健康について理解する力	論理的思考力		
共通教育科目	精神の	宗教と人生			○	◎	○			
		仏教と現代社会			◎	○	○			
	コミュニケーション	日本語(読解と表現)	◎				○		○	
		英語	◎		○		○			
		実用英語Ⅰ	◎				○			
		実用英語Ⅱ	◎				○			
		実用英語Ⅲ	◎				○		○	
		中国語(初級)	◎				○			
		中国語(中級)	◎				○			
		韓国語(初級)	◎				○			
		韓国語(中級)	◎				○			
	コンピュータ演習	○	◎						○	
	国際理解	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)			◎	○	○			
		国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)			◎	○	○			
		国際関係論			◎		○			
		比較文化論			◎	○	○			
	歴史と文化	歴史学			○	○	◎			
		文学			◎	○	○			
		芸術			◎		○			
		色彩とデザイン		○	○		◎		○	
	地域に	地域文化論			○	○	◎			
		現代社会を読み解く	哲学			◎	○			○
			法と社会			○		◎		○
			日本国憲法			○		◎		○
			人権の歴史			○	◎	○		
			政治学			◎		○		○
			社会学			○		◎		○
経済学					◎		○		○	
自然と科学		生命倫理学			○			◎		
		心理学			◎	○			○	
	化学			○			◎			
	生物学			○			◎			
くらしと健康	食と健康	○				○	◎			
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)			○			◎	○		
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	○			○		◎			
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	○			○		◎			
キャリア	私のためのキャリア設計	○		○	◎			○		

社会福祉学科カリキュラムマップ【基礎・教養科目】(平成27、26、25年度入学者)

授業科目の区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○						
		兵庫大学ディプロマポリシー						
		1) 自己を認識し、物事に進んで取り組む力 2) まわりに働きかけ、共に行動する力 3) 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力						
		A	B	C	D	E	F	G
		コミュニケーション力	情報リテラシー(情報処理能力、情報収集・発信力)	多様なものの見方、考え方ができる力	自己を認識し、他者を理解する力	社会・文化について理解する力	自然・健康について理解する力	論理的思考力
基礎科目	日本語(読解と表現)	◎				○		○
	英語	◎		○		○		
	コンピュータ演習	○	◎					○
	化学基礎			○			◎	○
	生物基礎			○			◎	○
教養科目	宗教と人生			○	◎	○		
	生命倫理学			○			◎	
	哲学			◎	○			○
	文学			◎	○	○		
	芸術			◎		○		
	心理学			◎	○			○
	仏教と現代社会			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)			◎	○	○		
	色彩とデザイン		○	○		◎		○
	法と社会			○		◎		○
	日本国憲法			○		◎		○
	人権の歴史			○	◎	○		
	政治学			◎		○		○
	社会学			○		◎		○
	経済学			◎		○		○
	化学			○			◎	
	生物学			○			◎	
	食と健康	○				○	◎	
	実用英語(初級)	◎				○		
	実用英語(中級)	◎				○		
	中国語(初級)	◎				○		
	中国語(中級)	◎				○		
	韓国語(初級)	◎				○		
	韓国語(中級)	◎				○		
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)			○			◎	○
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	○			○		◎	
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	○			○		◎	
	私のためのキャリア設計	○		○	◎			○

社会福祉学科カリキュラムマップ(H28年度入学者)

【生涯福祉学部ディプロマポリシー】 人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係を踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目の区分		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		社会福祉学科のディプロマポリシー														
		1					2					3				
		ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力					ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力					ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力				
授業科目の名称		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
専門基礎科目	生物基礎	◎														
	人体の構造と機能及び疾病									◎		○	○			
	心理学理論と心理的支援	○	◎						○	○	○					
	社会理論と社会システム	○	◎						○							
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ								○	◎		○	○	○		
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ								○	◎		○	○	○		
	介護概論		○							○	○	◎	○			
	法学			○								◎				○
	行政法					○						◎			○	
	生涯発達心理学	○									○		○		○	
	こころの基盤の理解	○	◎							○	○					
	コミュニケーション論		○							◎	○	○		○	○	
	社会心理学	○	◎			○			○	○						
	態度の心理学		◎			○			○	○						
	基礎ゼミナールⅠ			○	◎		○	○	○							
基礎ゼミナールⅡ			○	◎		○										
専門教育科目	現代社会と福祉Ⅰ			○						◎	○	○	○			
	現代社会と福祉Ⅱ			○						◎	○	○	○			
	社会保障論Ⅰ	○	○							○	○					○
	社会保障論Ⅱ	○	○							○	○					○
	社会調査の基礎						◎									
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ			○					○	○	○	◎	○			
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ			○					○	○	○	◎	○			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度		○			○				◎		○		○	○	
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度									◎	○	○		○	○	
	地域福祉の理論と方法Ⅰ										○			◎	○	
	地域福祉の理論と方法Ⅱ										○			◎	○	
	保健医療サービス			○	○		○			◎						○
	医療ソーシャルワーク論								○	○	○			◎	○	
	医療ソーシャルワーク演習								○	○	○			◎	○	
	低所得者に対する支援と生活保護制度			○						○		◎				○
	権利擁護と成年後見制度				○							◎	○			○
	福祉行政と福祉計画											◎				○
	相談援助の理論と方法Ⅰ		○	○		○				○		○	◎			
	相談援助の理論と方法Ⅱ		○						○	○			◎	○		
	相談援助演習ⅠA								○	○	◎	○		○		
	相談援助演習ⅠB								○	○	◎	○		○		
	相談援助演習Ⅱ											◎	○	○		
	相談援助実習指導Ⅰ	○	○	○	○						○		◎			
	相談援助実習指導Ⅱ									○	○		◎	○	○	
	相談援助実習指導Ⅲ		○							○		○	◎		○	
	相談援助基礎実習									◎		○	○			
	相談援助実習					○	○		○	○			◎			
	専門ゼミナールⅠ											○	○			◎
	専門ゼミナールⅡ											○	○			◎
	社会福祉特別演習											○	○			◎
卒業演習			○	○			○	○		○	○			○	◎	

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		社会学科のディプロマポリシー														
		1					2					3				
授業科目の区分		ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力					ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力					ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力				
授業科目の名称		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
		何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集し読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つことと態度(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)
就労支援サービス											○	◎	○			
更生保護制度			○								○		◎			
福祉サービスの組織と経営									○				◎	○		
心理検査法										◎		○	○			
臨床心理学										◎						
統計学の基礎										◎						
加齢及び障害に関する理解											◎	○	○			
人体の構造及び日常生活行動に関する理解			○	○		○	○	○	◎	○	○		○	○	○	○
福祉住環境論			○								◎	○	○	○		
精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ			○									◎			○	
精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ			○									◎			○	
精神障害者の生活支援システム			○									○			◎	
精神疾患とその治療Ⅰ													◎			
精神疾患とその治療Ⅱ													◎			
精神保健の課題と支援Ⅰ		○					○	○	○	◎						
精神保健の課題と支援Ⅱ		○	○				○	○	○	◎						
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)				○						◎						
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠA			○	◎												
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠB			○	◎												
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡA		○							○	◎						
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB		○							○	◎						
精神保健福祉援助演習(専門)A											○	○	◎			
精神保健福祉援助演習(専門)B											○	○	◎			
精神保健福祉援助実習指導											○	○	◎	○		
精神保健福祉援助実習											○		○		○	○
レクリエーションワーク													◎	○		
福祉レクリエーションⅠ													◎	○		
福祉レクリエーションⅡ													◎	○		
福祉レクリエーション演習ⅠA													◎	○		
福祉レクリエーション演習ⅠB													◎	○		
福祉レクリエーション演習Ⅱ													◎	○		
生活支援技術		○								○		◎				
病気の理解										◎		○	○			
ケアマネジメントⅠ		○	○				○	○		◎						
ケアマネジメントⅡ		○	○				○	○		◎						
在宅ケア論										◎		○	○			
児童・高齢者・障害者の心理		○								◎	○	○	○			
教育心理学		○	○						○		○			○	◎	
国際福祉論		◎	○							○	○				○	
仏教と社会福祉		◎	○						○			○	○			○
インターンシップ										◎	○					

社会福祉学科カリキュラムマップ(H27年度入学者)

【生涯福祉学部ディプロマポリシー】 人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係を踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目の区分	授業科目の名称	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		社会福祉学科のディプロマポリシー														
		1					2					3				
		ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力					ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力					ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5		
		何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つ態度(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせた柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づける政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)
専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病								◎		○	○				
	心理学理論と心理的支援	○	◎					○	○	○						
	社会学理論と社会システム	○	◎						○							
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ								○	◎	○	○	○			
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ								○	◎	○	○	○			
	介護概論		○							○	○	◎	○			
	法学			○							◎					○
	行政法				○						◎			○		
	家族福祉論		○							◎						
	生涯発達心理学	○								○	○	○	○			
	こころの基盤の理解	○	◎							○						
	コミュニケーション論		○							◎	○	○	○	○		
	社会心理学	○	◎			○			○	○	○					
	態度の心理学		◎			○			○	○						
	基礎ゼミナールⅠ			○	◎		○	○	○							
	基礎ゼミナールⅡ			○	◎		○									
専門プレゼミナールⅠ					○	○		◎	○							
専門プレゼミナールⅡ					○	○		◎	○							
専門教育科目	現代社会と福祉Ⅰ			○					◎	○	○	○				
	現代社会と福祉Ⅱ			○					◎	○	○	○				
	社会保障論Ⅰ	○	○						○	○						○
	社会保障論Ⅱ	○	○						○	○						○
	社会調査の基礎						◎									
	社会福祉調査							◎								
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ			○					○	○	○	◎	○			
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ			○					○	○	○	◎	○			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度		○			○				◎		○		○	○	
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度									◎	○	○		○	○	
	地域福祉の理論と方法Ⅰ										○			◎	○	
	地域福祉の理論と方法Ⅱ										○			◎	○	
	保健医療サービス			○	○		○			◎					○	
	医療ソーシャルワーク								○	○	○			◎	○	
	低所得者に対する支援と生活保護制度			○						○		◎			○	
	権利擁護と成年後見制度				○						◎	○			○	
	福祉行財政と福祉計画										◎				○	○
	福祉行財政と福祉計画(応用)										◎					
	相談援助の理論と方法Ⅰ		○	○		○				○	○	○	◎			
	相談援助の理論と方法Ⅱ		○						○	○		◎	○			
	相談援助演習ⅠA								○	○	◎	○		○		
	相談援助演習ⅠB								○	○	◎	○		○		
	相談援助演習Ⅱ											◎	○	○		
	相談援助演習(統合)											◎	○	○		
	相談援助実習指導Ⅰ	○	○	○	○					○	○		◎			
	相談援助実習指導Ⅱ									○	○		◎	○	○	
	相談援助実習指導Ⅲ		○							○		○	◎		○	
	相談援助実習				○	○			○	○		◎				
	専門ゼミナールⅠ											○	○			◎
	専門ゼミナールⅡ											○	○			◎
卒業演習			○	○		○	○		○	○				○	◎	

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○															
		社会福祉学科のディプロマポリシー															
授業科目の区分	授業科目の名称	1					2					3					
		ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力															
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	
		何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集し読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つ態度(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)	
専門教育科目	就労支援サービス											○	◎	○			
	更生保護制度		○									○		◎			
	福祉サービスの組織と経営									○				◎	○		
	福祉サービスの組織と経営(応用)									○				◎	○		
	心理検査法											◎		○	○		
	臨床心理学												◎				
	統計学の基礎												◎				
	加齢及び障害に関する理解												◎	○	○		
	人体の構造及び日常生活行動に関する理解		○	○			○	○	○	◎	○	○		○	○	○	○
	福祉工学												◎			○	○
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ		○										◎			○	
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ		○										◎			○	
	精神障害者の生活支援システム		○										○			◎	
	精神疾患とその治療Ⅰ													◎			
	精神疾患とその治療Ⅱ													◎			
	精神保健の課題と支援Ⅰ	○						○	○	○	◎						
	精神保健の課題と支援Ⅱ	○	○					○	○	○	◎						
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)			○									◎				
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠA		○	◎													
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠB		○	◎													
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡA	○								○	◎						
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB	○								○	◎						
	精神保健福祉援助演習(専門)A											○	○	◎			
	精神保健福祉援助演習(専門)B											○	○	◎			
	精神保健福祉援助実習指導											○	○	◎	○		
	精神保健福祉援助実習											○		○		○	○
	レクリエーションワーク													◎	○		
	福祉レクリエーションⅠ													◎	○		
	福祉レクリエーションⅡ													◎	○		
	福祉レクリエーション演習Ⅰ													◎	○		
	福祉レクリエーション演習Ⅱ													◎	○		
	生活支援技術	○									○		◎				
病気の理解										◎		○	○				
ケアマネジメント論	○	○					○	○		◎							
在宅ケア論										◎		○	○				
児童・高齢者・障害者の心理	○									◎	○	○	○				
教育心理学	○	○							○		○			○	◎		
国際福祉論	◎	○								○	○				○		
インターンシップ										◎	○						
社会福祉特別講義Ⅰ	○	◎							○	○	○						
社会福祉特別講義Ⅱ	○	◎							○	○	○						

社会福祉学科カリキュラムマップ(H26年度入学者)

【生涯福祉学部ディプロマポリシー】 人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係を踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目の区分	授業科目の名称	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		社会福祉学科のディプロマポリシー														
		1					2					3				
		ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力					ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力					ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5		
		何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つ態度(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせた柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づける政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)
専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病								◎		○	○				
	心理学理論と心理的支援	○	◎					○	○	○						
	社会学理論と社会システム	○	◎													
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ								○	◎	○	○	○			
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ									○	◎	○	○			
	介護概論		○							○	○	◎	○			
	法学			○							◎					○
	行政法					○					◎			○		
	家族福祉論		○								◎					
	生涯発達心理学	○								○		○		○		
	こころの基盤の理解	○	◎							○						
	コミュニケーション論		○								◎	○	○	○	○	
	社会心理学	○	◎			○				○						
	態度の心理学		◎			○				○						
	基礎ゼミナールⅠ			○	◎		○	○	○							
	基礎ゼミナールⅡ			○	◎		○									
	専門プレゼミナールⅠ					○	○		◎	○						
専門プレゼミナールⅡ					○	○		◎	○							
専門教育科目	現代社会と福祉Ⅰ			○					◎	○	○	○				
	現代社会と福祉Ⅱ			○					◎	○	○	○				
	社会保障論Ⅰ	○	○							○	○					○
	社会保障論Ⅱ	○	○							○	○					○
	社会調査の基礎						◎									
	社会福祉調査							◎								
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ			○					○	○	○	◎	○			
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ			○					○	○	○	◎	○			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度		○			○					◎	○		○	○	
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度										◎	○		○	○	
	地域福祉の理論と方法Ⅰ										○			◎	○	
	地域福祉の理論と方法Ⅱ										○			◎	○	
	保健医療サービス			○	○		○				◎				○	
	医療ソーシャルワーク								○	○	○			◎	○	
	低所得者に対する支援と生活保護制度			○							○	◎			○	
	権利擁護と成年後見制度				○							◎	○		○	
	福祉行政と福祉計画											◎			○	○
	福祉行政と福祉計画(応用)											◎				
	相談援助の理論と方法Ⅰ		○	○		○				○		○	◎			
	相談援助の理論と方法Ⅱ		○							○	○		◎	○		
	相談援助演習ⅠA									○	○	◎	○		○	
	相談援助演習ⅠB									○	○	◎	○		○	
	相談援助演習Ⅱ												◎	○	○	
	相談援助演習(統合)												◎	○	○	
	相談援助実習指導Ⅰ	○	○	○	○									◎		
	相談援助実習指導Ⅱ									○	○			◎	○	○
	相談援助実習指導Ⅲ		○							○		○	◎		○	
	相談援助実習				○	○			○	○				◎		
	専門ゼミナールⅠ											○	○			◎
	専門ゼミナールⅡ											○	○			◎
卒業演習			○	○		○	○		○	○				○	◎	

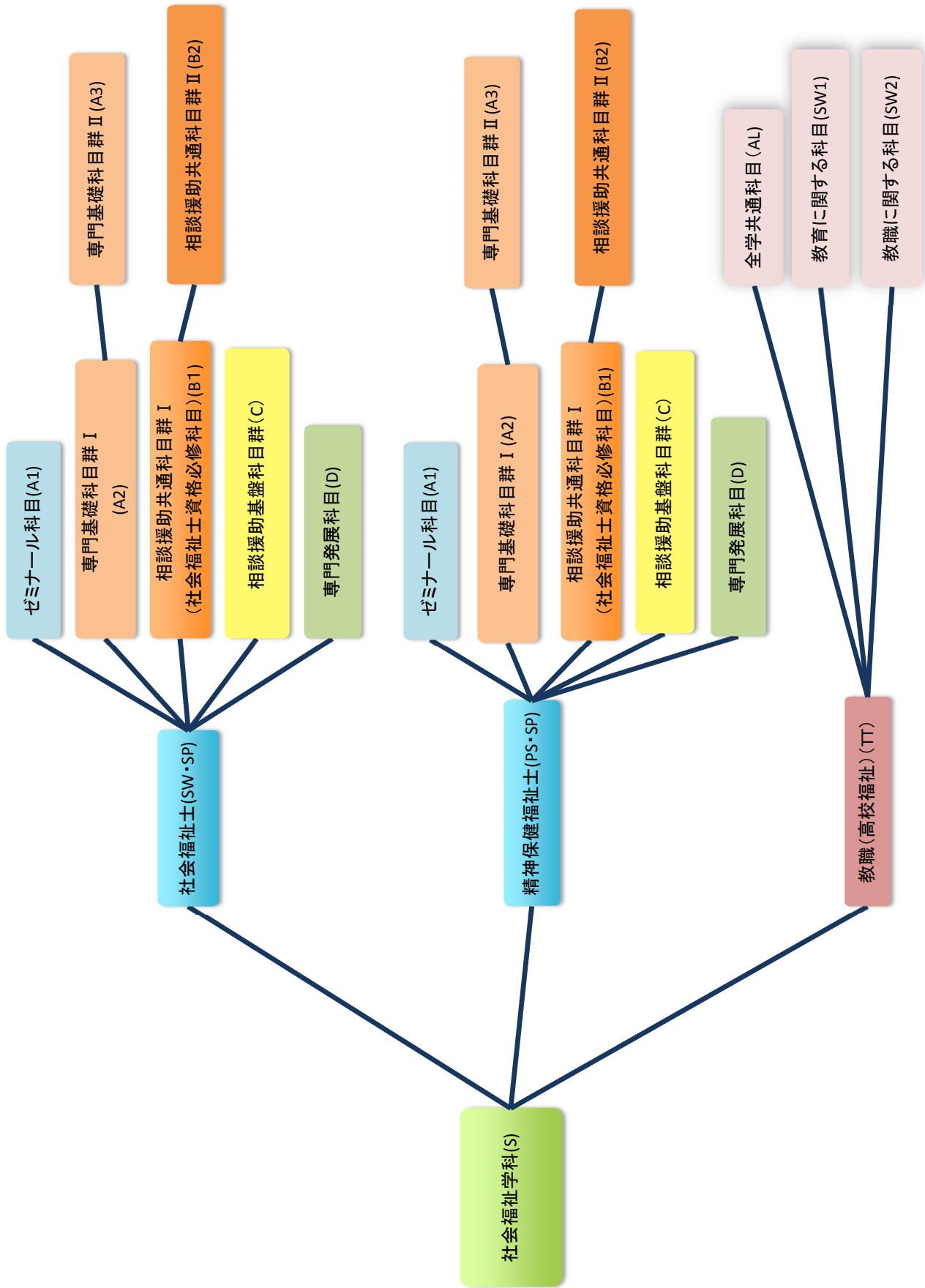
		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○															
		社会福祉学科のディプロマポリシー															
授業科目の区分	授業科目の名称	1					2					3					
		ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力					ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力					ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力					
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	
		何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集し読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つととる態度(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)	
専門教育科目	就労支援サービス										○	◎	○				
	更生保護制度		○								○		◎				
	福祉サービスの組織と経営									○			◎	○			
	福祉サービスの組織と経営(応用)									○			◎	○			
	心理検査法										◎		○	○			
	臨床心理学											◎					
	統計学の基礎											◎					
	加齢及び障害に関する理解												◎	○	○		
	人体の構造及び日常生活行動に関する理解		○	○		○	○	○	◎	○	○			○	○	○	○
	福祉工学												◎			○	○
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ		○										◎			○	
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ		○										◎			○	
	精神障害者の生活支援システム		○										○			◎	
	精神疾患とその治療Ⅰ													◎			
	精神疾患とその治療Ⅱ													◎			
	精神保健の課題と支援Ⅰ	○					○	○	○	◎							
	精神保健の課題と支援Ⅱ	○	○				○	○	○	◎							
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)			○							◎						
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠA		○	◎													
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠB		○	◎													
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡA	○							○	◎							
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB	○							○	◎							
	精神保健福祉援助演習(専門)A											○	○	◎			
	精神保健福祉援助演習(専門)B											○	○	◎			
	精神保健福祉援助実習指導										○	○	○	◎	○		
精神保健福祉援助実習										○			○		○	○	
専門発展科目	福祉レクリエーションⅠ													◎	○		
	福祉レクリエーションⅡ													◎	○		
	福祉レクリエーション演習Ⅰ																
	福祉レクリエーション演習Ⅱ																
	生活支援技術																
	病気の理解																
	ケアマネジメントⅠ	○	○				○	○		◎							
	ケアマネジメントⅡ										◎		○	○			
	在宅ケア論										◎		○	○			
	児童・高齢者・障害者の心理	○								◎	○	○	○				
	教育心理学	○	○							○		○			○	◎	
	国際福祉論	◎	○								○	○				○	
	インターンシップ										◎	○					
	社会福祉特別講義Ⅰ	○	◎							○	○	○					
	社会福祉特別講義Ⅱ	○	◎							○	○	○					

社会福祉学科カリキュラムマップ (H25年度入学者)

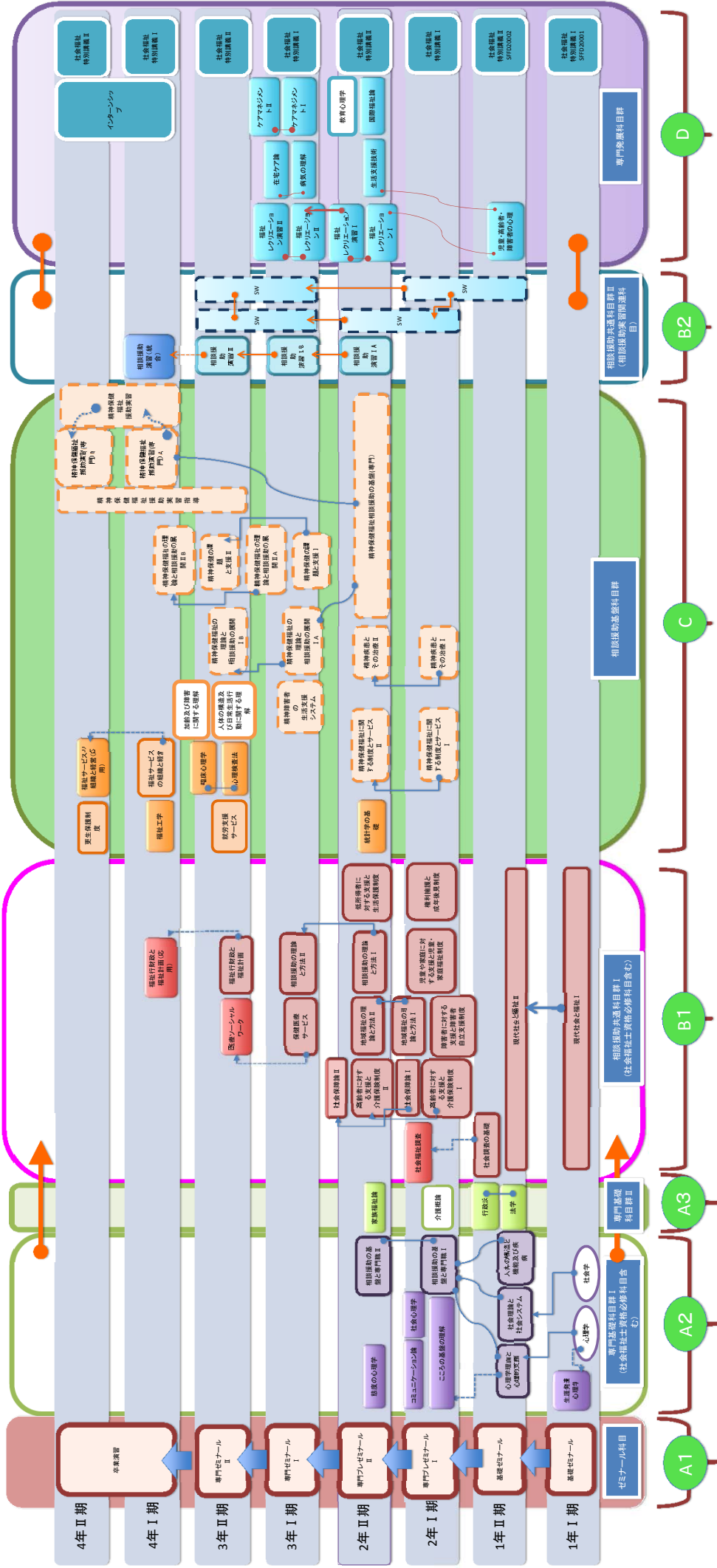
【生涯福祉学部ディプロマポリシー】 人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係の踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目の区分		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		社会福祉学科のディプロマポリシー														
		1					2					3				
		ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力					ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力					ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力				
授業科目の名称		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
授業科目の区分	授業科目の名称	何事にも関心を持ち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づける政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)
	人間の生物学的機能と反応		◎							○						
専門基礎科目	人間の心理・社会的機能と支援	○	◎					○	○	○						
	社会理論と社会システム	○	◎					○								
	ソーシャルワークの基盤と専門職 I		○	○		○	○		○	◎	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワークの基盤と専門職 II		○	○		○	○		○	◎	○	○	○	○	○	○
	美と感性	○	◎							○						
	法学			○							◎					○
	生涯学習社会とライフデザイン								○				○			◎
	行政法					○					◎			○		
	家族社会学		○							◎	○		○			
	家族福祉論		○							◎	○	○	○	○	○	
	発達心理学	○	◎							○	○	○				
	社会心理学	○	◎			○			○	○						
	演習 I			○	◎		○									
	演習 II						○	○	◎	○	○					
	専門教育科目	現代社会と福祉 I	○	○							◎	○	○			
現代社会と福祉 II		○	○							◎	○	○	○			
社会保障論 I		○	○							○	○	○				○
社会保障論 II		○	○							○	○	○				○
社会調査の基盤							◎									
社会調査の応用								◎								
高齢者に対する支援と介護保険制度 I		○	○							◎	○	○	○			
高齢者に対する支援と介護保険制度 II		○	○							◎	○	○	○			
障害者に対する支援と障害者自立支援制度		○	○			○				◎	○	○	○	○		
地域福祉の理論と方法 I									◎		○					
地域福祉の理論と方法 II											○			◎	○	
保健医療サービス		○		○	○		○			◎						
医療ソーシャルワーク		○		○	○		○		○	○	○	○		◎		
低所得者に対する支援と生活保護制度										○	○	○	○	◎	○	
権利擁護と成年後見制度					○						◎	○			○	
福祉行政と福祉計画										◎				○	○	
ソーシャルワークの理論と実践 I	○	○	○		○				○	○	○	◎	○	○	○	
ソーシャルワークの理論と実践 II	○	○	○		○				○	○	○	◎	○	○	○	
ソーシャルワーク基礎演習	○	○	○		○	◎										
社会福祉特別演習											○	○			◎	
卒業演習			○	○		○	○		○	○				○	◎	
ソーシャルワーク基盤科目	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度									◎	○	○		○	○	
	就労支援の制度とサービス									◎	○	○	○	○	○	
	介護概論					○				◎						
	ソーシャルワーク実習指導 I	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
	ソーシャルワーク実習指導 II	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
	ソーシャルワーク実習指導 III	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
	ソーシャルワーク実習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○
	ソーシャルワーク演習 I									○	○	○	◎	○	○	○
	ソーシャルワーク演習 II									○	○	○	◎	○	○	○
	地域ソーシャルワーク実践		○	○		○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
	成人教育と地域発展										◎			○	○	
	更生保護制度		○					○				◎				
	福祉サービスの組織と経営								○			◎	○			
	精神保健福祉に関する制度とサービス I		○									◎			○	
	精神保健福祉に関する制度とサービス II		○									◎			○	
精神障害者の生活支援システム		○									○			◎		
精神疾患とその治療 I											◎					
精神疾患とその治療 II											◎					
精神保健の課題と支援 I	○		○	○		○		○	◎							
精神保健の課題と支援 II	○		○	○		○		○	◎							
精神科ソーシャルワーク論 I	○		○	○		○		○	◎							
精神科ソーシャルワーク論 II	○		○	○		○		○	◎							
精神科ソーシャルワーク論 III	○		○	○		○		○	◎							
精神科ソーシャルワーク演習									○	○	○	◎	○	○	○	
精神保健福祉援助実習指導									○	○	○	◎	○	○	○	
精神保健福祉援助実習									○	○	○	◎	○	○	○	
インターンシップ	○			○	○				○	○			◎		○	

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		社会福祉学科のディプロマポリシー														
		1					2					3				
授業科目の区分	授業科目の名称	ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力					ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力					ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力				
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
		何事にも関心を持ち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集し読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)
専門 教育 科目	レクリエーションワーク											◎	○			
	人間関係論	○								◎						○
	親子関係の心理学									◎	○					
	健康心理学	○	○			○		○		◎						
	集団心理学	○	○			○		○		◎						
	コミュニケーション心理学	○	○	○			○	○		◎						
	教育心理学			○						◎						
	認知心理学	○	○					○		◎						
	心理統計学			○			○	◎	○							
	臨床心理学									◎						
	心理学研究法	○	○	○			◎	○	○	○	○					
	心理学基礎実験	○	○	○	○	○	◎	○								
	心理学研究実習	○	○	○	○	○	◎	○								
	心理療法									○		○	◎			
	心理検査法実習									◎		○	○			
	行動分析論	○	○				○	○		◎						
	加齢及び障害に関する理解									◎		○	○			
	人体の構造及び日常生活行動に関する理解									◎		○	○			
	福祉工学	○	◎							○	○	○		○		
	まちづくり論	○	○						○		○			○	◎	
国際福祉論	◎	○							○	○		○		○		
スクールソーシャルワーク		○	○		○	○		○	○	○	○	○	◎	○	○	
仏教と社会福祉	◎	○						○			○	○			○	
社会福祉特別講義Ⅰ	○	◎						○	○	○						
社会福祉特別講義Ⅱ	○	◎						○	○	○						



カリキュラムツリー2(精神保健福祉士取得課程)



科目名	科目内容
相談援助必修科目群 I (相談援助必修科目群 I)	心理学的理論と心理学的支援
相談援助必修科目群 II (相談援助必修科目群 II)	心理学的理論と心理学的支援
専門必修科目群 I (専門必修科目群 I)	心理学
専門必修科目群 II (専門必修科目群 II)	心理学
専門必修科目群 III (専門必修科目群 III)	心理学
専門必修科目群 IV (専門必修科目群 IV)	心理学
専門必修科目群 V (専門必修科目群 V)	心理学
専門必修科目群 VI (専門必修科目群 VI)	心理学
専門必修科目群 VII (専門必修科目群 VII)	心理学
専門必修科目群 VIII (専門必修科目群 VIII)	心理学
専門必修科目群 IX (専門必修科目群 IX)	心理学
専門必修科目群 X (専門必修科目群 X)	心理学
専門必修科目群 XI (専門必修科目群 XI)	心理学
専門必修科目群 XII (専門必修科目群 XII)	心理学
専門必修科目群 XIII (専門必修科目群 XIII)	心理学
専門必修科目群 XIV (専門必修科目群 XIV)	心理学
専門必修科目群 XV (専門必修科目群 XV)	心理学
専門必修科目群 XVI (専門必修科目群 XVI)	心理学
専門必修科目群 XVII (専門必修科目群 XVII)	心理学
専門必修科目群 XVIII (専門必修科目群 XVIII)	心理学
専門必修科目群 XIX (専門必修科目群 XIX)	心理学
専門必修科目群 XX (専門必修科目群 XX)	心理学
専門必修科目群 XXI (専門必修科目群 XXI)	心理学
専門必修科目群 XXII (専門必修科目群 XXII)	心理学
専門必修科目群 XXIII (専門必修科目群 XXIII)	心理学
専門必修科目群 XXIV (専門必修科目群 XXIV)	心理学
専門必修科目群 XXV (専門必修科目群 XXV)	心理学
専門必修科目群 XXVI (専門必修科目群 XXVI)	心理学
専門必修科目群 XXVII (専門必修科目群 XXVII)	心理学
専門必修科目群 XXVIII (専門必修科目群 XXVIII)	心理学
専門必修科目群 XXIX (専門必修科目群 XXIX)	心理学
専門必修科目群 XXX (専門必修科目群 XXX)	心理学

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1				2				3						
自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力				経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力				学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力						
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

授業科目のナンバリングについて

<ナンバリングとは？>

科目ごとに数字とアルファベットを用いて「ナンバー」を割り振ることを指します。これにより、科目の学修内容の順番や科目間のつながりなどがわかりやすくなります。また、学生が自分に合った科目のレベル（難易度）や専門内容を考えて履修計画を立てることができます。

<ナンバリングの見方>

各授業科目には、9桁のナンバーが付与されています。
そのナンバーは次の基準等により設定しています。

(基礎・教養科目、専門教育科目)

詳細	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ナンバー	学科	科目の位置づけ			履修区分	学年 (レベル)	通し番号 (001～)

詳細①：学科

S	社会福祉学科
---	--------

詳細②③④：科目の位置づけ

② ③			④	
S	W	社会福祉士専門科目	A	専門基礎科目
P	S	精神保健福祉士専門科目	B	相談援助共通科目
S	P	共通専門科目	C	相談援助基盤科目
T	T	教職専門科目	D	専門発展科目
F	F	自由選択科目		

詳細②③④：科目の位置づけ（共通教育科目）

② ③			④	
F	O	建学の精神	L	講義
C	O	コミュニケーション	S	演習
I	N	国際理解	P	実技
H	I	歴史と文化		
L	O	地域に学ぶ		
S	O	現代社会を読み解く		
N	A	自然と科学		
L	I	くらしと健康		
C	A	キャリアデザイン		

詳細②③④：科目の位置づけ（基礎・教養科目）

② ③		
B	A	基礎科目
H	U	教養科目（人文）
S	O	教養科目（社会）
N	A	教養科目（自然）
L	A	教養科目（語学）
P	H	教養科目（体育）
C	A	教養科目（キャリア）

④	
L	講義
S	演習
P	実技

詳細⑤：履修区分

1	必修
2	選択
3	選択必修

詳細⑥：学年（レベル）

1	1年
2	2年
3	3年
4	4年

詳細⑦：通し番号

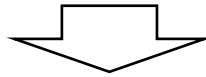
001～

（教職に関する科目）

詳細	学科	科目の位置づけ			免許必選の別	学年レベル		通し番号	
	①	②	③	④	⑤	⑥		⑦	
ナンバー	E N H K S	T	教職科目	A	L	全学科共通	4	必修	001～
				I	N	情報			
				P	U	公民			
				A	C	商業			
				E	I	栄養	5	選択	
				H	H	保健			
						保健体育			
				Y	O	養護			
S	W	福祉							

例えば、「人体の構造と機能及び疾病」という科目には、＜SSPA11001＞というナンバーが付与されています。このナンバーは、次の組み合わせにより付与されたものです。

詳細①：学科 → 社会福祉学科「S」
詳細②：科目の位置づけ → 共通専門科目「S」
詳細③：科目の位置づけ → 共通専門科目「P」
詳細④：科目の位置づけ → 専門基礎科目「A」
詳細⑤：履修区分 → 必修科目「1」
詳細⑥：学年レベル → 1年生相当「1」
詳細⑦：通し番号 → 通し番号「001」



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
詳細	社会福祉学科	共通専門科目	—	専門基礎科目	必修科目	1年生相当	通し番号
ナンバー	S	S	P	A	1	1	001

生涯福祉部社会福祉学科

【卒業要件単位数】

■平成 28(2016)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
共通教育科目		22 単位	8 単位	4 科目
専門教育科目	専門基礎科目	16 単位	16 単位	7 科目
	相談援助共通科目	30 単位	30 単位	10 科目
	相談援助基盤科目	4 単位	—	—
	専門発展科目	4 単位	—	—
その他上記の科目区分のいずれかから		48 単位	—	—
合計		124 単位	60 単位	21 科目

■平成 27～26(2015～2014)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		22 単位	8 単位	4 科目
専門教育科目	専門基礎科目	22 単位	22 単位	9 科目
	相談援助共通科目	30 単位	30 単位	10 科目
	相談援助基盤科目	4 単位	—	—
	専門発展科目	4 単位	—	—
その他上記の科目区分のいずれかから		48 単位	—	—
合計		130 単位	60 単位	23 科目

■平成 25(2013)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		22 単位	8 単位	4 科目
専門教育科目	専門基礎科目	20 単位	20 単位	7 科目
	ソーシャルワーク共通科目	28 単位	28 単位	10 科目
	ソーシャルワーク基盤科目	8 単位	—	—
	専門発展科目	8 単位	—	—
その他上記の科目区分のいずれかから		44 単位	—	—
合計		130 単位	56 単位	21 科目

平成 28（2016）年度入学者

共通教育科目

平成 27～25（2015～2013）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成28年度（2016年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	教員免許 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の 担当者	ページ	
				必修	選択				1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
神学	宗教と人生	SFOL11001	講義	2					2							(本多 彩)	30		
	仏教と現代社会	SFOL21002	講義		2				②		②		②		②	(本多 彩)	31		
	共通	日本語（読解と表現）	SCOS11001	演習	2				△	2							[野田 直恵]・[辻本 恭子]	32	
		英語	SCOS11002	演習	2												[Michael. H. FOX]	33	
		実用英語Ⅰ	SCOS21003	演習	2					②		②		②		②	[松盛 美紀子]	34	
		実用英語Ⅰ	SCOS21003	演習	2					②		②		②		②	[Michael. H. FOX]	35	
		実用英語Ⅰ	SCOS21003	演習	2					②		②		②		②	[笹平 康弘]	36	
		実用英語Ⅱ	SCOS21004	演習	2							②		②					
		実用英語Ⅲ	SCOS22005	演習	2								②	②		②			
		中国語（初級）	SCOS21006	演習	2					②		②		②		②		[佟 曉寧]	37
中国語（中級）		SCOS21007	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	38
韓国語（初級）		SCOS21008	演習	2					②		②		②		②		[高 秀美]	39	
韓国語（初級）	SCOS21008	演習	2					②		②		②		②		(李 良姫)	40		
韓国語（中級）	SCOS21009	演習	2						②		②		②		②	[高 秀美]	41		
韓国語（中級）	SCOS21009	演習	2						②		②		②		②	(李 良姫)	42		
コンピュータ演習	SCOS11010	演習	2					△	2							[佐竹 邦子]	43		
国際理解	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	SINL21001	講義	2					②		②		②		②	[根川 幸男]	44		
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	SINL21002	講義	2						②		②		②		[重親 知左子]	45		
	国際関係論	SINL21003	講義	2					②		②		②		②	(斎藤 正寿)	46		
	比較文化論	SINL21004	講義	2					②		②		②		②	(本多 彩)	47		
歴史と文化	歴史学	SHIL21001	講義	2					②		②		②		②	(金子 哲)	48		
	文学	SHIL21002	講義	2					②		②		②		②	[未定]	49		
	芸術	SHIL21003	講義	2						②		②		②		[岩見 健二]	50		
	色彩とデザイン	SHIL21004	講義	2					②		②		②		②	(稲富 恭)	51		
現代社会を読み解く	地域文化論	SL0L21001	講義	2						②		②		②		(金子 哲)	52		
	哲学	SSOL21001	講義	2						②		②		②		[三浦 摩美]	53		
	法と社会	SSOL21002	講義	2						②		②		②		[豊福 一]	54		
	日本国憲法	SSOL21003	講義	2					△	②		②		②		[笹田 哲男]	55		
	人権の歴史	SSOL21004	講義	2						②		②		②		[岩本 智依]	56		
	政治学	SSOL21005	講義	2						②		②		②		(斎藤 正寿)	57		
	社会学	SSOL21006	講義	2						2						吉原 恵子	58		
	経済学	SSOL21007	講義	2						②		②		②		(石原 敬子)	59		
	自然と科学	生命倫理学	SNAL21001	講義	2						②		②		②		[本多 真]	60	
		心理学	SNAL21002	講義	2						②		②		②		(北島 律之)	61	
化学		SNAL21003	講義	2						②		②		②		[阿部 真幸]	62		
生物学		SNAL21004	講義	2						②		②		②		(佐藤 隆)	63		
暮らしと健康	食と健康	SLIL21001	講義	2						②		②		②		(嶋津 裕子)	64		
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	SLIL21002	講義	2						②		②		②		(三宅 一郎)	65		
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	SLIL21002	講義	2						②		②		②		(矢野 琢也)	66		
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	SLIS21003	演習	2						②		②		②		(三宅 一)・(徳田)・(榎本)・(矢野)	67		
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	SLIS21004	演習	2						②		②		②		(三宅 一)・(徳田)・(榎本)・(矢野)	68		
キャリアデザイン	SCAL21001	講義	2						②		②		②		[三上 嘉代子]	69			

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目 ▲は福祉教員免許選択科目（いずれか1科目選択必修）

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成27年度（2015年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	PSW	教員 免許 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の 担 当 者	ページ	
				必修	選択				1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
基礎 科目	日本語（読解と表現）	SBAS11001	演習	2				△	2										
	英語	SBAS11002	演習	2				△	2										
	コンピュータ演習	SBAS11003	演習	2				△	2										
	生物基礎	SBAL21004	講義		2					2									
教 育	宗教と人生	SHUL11001	講義	2						2									
	生命倫理学	SHUL11002	講義	2						②		②		②			[本多 真]	70	
	哲学	SHUL11003	講義	2						②		②		②			[三浦 摩美]	71	
	文学	SHUL11004	講義	2						②		②		②			[未定]	72	
	芸術	SHUL11005	講義	2						②		②		②			[岩見 健二]	73	
	心理学	SHUL11006	講義	2						②		②		②			(北島 律之)	74	
	仏教と現代社会	SHUL11007	講義	2						②		②		②			(本多 彩)	75	
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	SHUL11008	講義	2						②		②		②			[根川 幸男]	76	
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	SHUL11009	講義	2						②		②		②			[重親 知左子]	77	
	色彩とデザイン	SHUL11010	講義	2						②		②		②			(稲富 恭)	78	
養 育	法と社会	SSOL21011	講義	2						②		②		②			[豊福 一]	79	
	日本国憲法	SSOL21012	講義	2				△	②		②		②				[笹田 哲男]	80	
	人権の歴史	SSOL21013	講義	2					②		②		②				[岩本 智依]	81	
	政治学	SSOL21014	講義	2					②		②		②				(斎藤 正寿)	82	
	社会学	SSOL21015	講義	2					2										
	経済学	SSOL21016	講義	2					②		②		②				(石原 敬子)	83	
	化学	SNAL21017	講義	2					②		②		②				[阿部 真幸]	84	
	生物学	SNAL21018	講義	2						②		②		②			(佐藤 隆)	85	
	食と健康	SNAL21019	講義	2						②		②		②			(嶋津 裕子)	86	
	実用英語（初級）	SLAS21020	演習	2						②		②		②				[松盛 美紀子]	87
目 録	実用英語（中級）	SLAS22021	演習	2						②		②		②				[松盛 美紀子]	88
	中国語（初級）	SLAS21022	演習	2					②		②		②					[佟 曉寧]	89
	中国語（中級）	SLAS21023	演習	2						②		②		②				[佟 曉寧]	90
	韓国語（初級）	SLAS21024	演習	2					②		②		②					[高 秀美]	91
	韓国語（中級）	SLAS21025	演習	2						②		②		②				[高 秀美]	92
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	SPHL21026	講義	2						②		②		②				(三宅 一郎)	93
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	SPHL21026	講義	2					△		②		②		②			(矢野 琢也)	94
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	SPHS21027	演習	2						②		②		②				(三宅 一郎)・(徳田 泰伸)	95
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	SPHS21028	演習	2							②		②		②			(三宅 一郎)・(徳田 泰伸)・(矢野 琢也)	96
	私のためのキャリア設計	SCAL21029	講義	2						②		②		②				[三上 嘉代子]	97

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成26年度（2014年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	PSW	教員 免許 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の 担 当 者	ページ
				必修	選択				1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎 科目	日本語（読解と表現）	SBAS11001	演習	2				△	2									
	英語	SBAS11002	演習	2				△	2									
	コンピュータ演習	SBAS11003	演習	2				△	2									
	生物基礎	SBAL21004	講義		2					2								
教 育	宗教と人生	SHUL11001	講義	2						2								
	生命倫理学	SHUL11002	講義	2						②		②		②			[本多 真]	70
	哲学	SHUL11003	講義	2						②		②		②			[三浦 摩美]	71
	文学	SHUL11004	講義	2						②		②		②			[未定]	72
	芸術	SHUL11005	講義	2						②		②		②			[岩見 健二]	73
	心理学	SHUL11006	講義	2						②		②		②			(北島 律之)	74
	仏教と現代社会	SHUL11007	講義	2						②		②		②			(本多 彩)	75
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	SHUL11008	講義	2						②		②		②			[根川 幸男]	76
養 育	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	SHUL11009	講義	2					②		②		②				[重親 知左子]	77
	色彩とデザイン	SHUL11010	講義	2					②		②		②				(稲富 恭)	78
	法と社会	SSOL21011	講義	2					②		②		②				[豊福 一]	79
	日本国憲法	SSOL21012	講義	2					△	②		②		②			[笹田 哲男]	80
	人権の歴史	SSOL21013	講義	2						②		②		②			[岩本 智依]	81
	政治学	SSOL21014	講義	2						②		②		②			(斎藤 正寿)	82
	社会学	SSOL21015	講義	2						2								
	経済学	SSOL21016	講義	2						②		②		②			(石原 敬子)	83
	化学	SNAL21017	講義	2						②		②		②			[阿部 真幸]	84
	生物学	SNAL21018	講義	2							②		②		②		(佐藤 隆)	85
	食と健康	SNAL21019	講義	2							②		②		②		(嶋津 裕子)	86
	目	実用英語（初級）	SLAS21020	演習	2						②		②		②			[松盛 美紀子]
実用英語（中級）		SLAS22021	演習	2							②		②		②		[松盛 美紀子]	88
中国語（初級）		SLAS21022	演習	2						②		②		②			[佟 曉寧]	89
中国語（中級）		SLAS21023	演習	2						②		②		②			[佟 曉寧]	90
韓国語（初級）		SLAS21024	演習	2						②		②		②			[高 秀美]	91
韓国語（中級）		SLAS21025	演習	2							②		②		②		[高 秀美]	92
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）		SPHL21026	講義	2						②		②		②			(三宅 一郎)	93
健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）		SPHL21026	講義	2						②		②		②			(矢野 琢也)	94
健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）		SPHS21027	演習	2					△	②		②		②			(三宅 一郎)・(徳田 泰伸)	95
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）		SPHS21028	演習	2							②		②		②		(三宅 一郎)・(徳田 泰伸)・(矢野 琢也)	96
私のためのキャリア設計	SCAL21029	講義	2						②		②		②			[三上 嘉代子]	97	

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成25年度（2013年度）入学者対象
 () は兼任、[] は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	PSW	教員 免許 福祉	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成28年度の 担 当 者	ページ		
								1年		2年		3年		4年					
								I	II	I	II	I	II	I	II				
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2				2												
	英語	演習	2				△	2											
	コンピュータ演習	演習	2				△	2											
	生物基礎	講義		2					2										
教 養 科 目	宗教と人生	講義	2						2										
	生命倫理学	講義		2					②		②		②		②		[本多 真]	70	
	哲学	講義		2					②		②		②		②		[三浦 摩美]	71	
	文学	講義		2					②		②		②		②		[未定]	72	
	芸術	講義		2					②		②		②		②		[岩見 健二]	73	
	心理学	講義		2					②		②		②		②		(北島 律之)	74	
	仏教と現代社会	講義		2					②		②		②		②		(本多 彩)	75	
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義		2					②		②		②		②		[根川 幸男]	76	
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義		2					②		②		②		②		[重親 知左子]	77	
	色彩とデザイン	講義		2					②		②		②		②		(稲富 恭)	78	
	法と社会	講義		2					②		②		②		②		[豊福 一]	79	
	日本国憲法	講義		2			△	②		②		②		②			[笹田 哲男]	80	
	人権の歴史	講義		2				②		②		②		②			[岩本 智依]	81	
	政治学	講義		2				②		②		②		②			(斎藤 正寿)	82	
	社会学	講義		2					2										
	経済学	講義		2					②		②		②		②			(石原 敬子)	83
	化学	講義		2					②		②		②		②			[阿部 真幸]	84
	生物学	講義		2						②		②		②		②		(佐藤 隆)	85
	食と健康	講義		2						②		②		②		②		(嶋津 裕子)	86
	実用英語（初級）	演習		2						②		②		②		②		[松盛 美紀子]	87
実用英語（中級）	演習		2						②		②		②		②		[松盛 美紀子]	88	
中国語（初級）	演習		2					②		②		②		②			[佟 曉寧]	89	
中国語（中級）	演習		2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	90	
韓国語（初級）	演習		2					②		②		②		②			[高 秀美]	91	
韓国語（中級）	演習		2						②		②		②		②		[高 秀美]	92	
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②		(三宅 一郎)	93	
健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	講義		2				△		②		②		②		②		(矢野 琢也)	94	
健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2					②		②		②		②			(三宅 一郎)・(徳田 泰伸)	95	
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2						②		②		②		②		(三宅 一郎)・(徳田)・(徳本)・(矢野)	96	
私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②			[三上 嘉代子]	97	

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

科目名	宗教と人生	科目ナンバリング	SFOL11001
担当者氏名	本多 彩		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

兵庫大学「建学の精神」と仏教についての理解を深める。また、宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。

《授業の到達目標》

- ・兵庫大学の「建学の精神」への理解を深め、兵庫大学の学生としての自覚を涵養する。
- ・日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約25%
 小テスト・レポート 約25%
 定期テスト 約50%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の子習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	建学の精神①	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
5	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る②	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学ぶ
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
9	仏教を知る①	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
10	仏教を知る②	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
11	仏教を知る③	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
12	日本の仏教を知る①	身近にある日本仏教の特性を理解することを目指す 建学の精神と関連の深い仏教の教えについて理解を目指す
13	日本の仏教を知る②	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
14	建学の精神③	兵庫大学の歴史と建学の精神について学ぶ
15	建学の精神④	建学の精神と仏教について理解を深め自ら考える

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加を推奨する。
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～ 参加を強く推奨する。
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。
 仏教の本を読んでみよう。

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	SFOL21002
担当者氏名	本多 彩			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義では幅広く仏教文化を解説する。そして仏教と人間、グローバル社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。現代社会や文化を通して仏教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
 ※現代仏教についての理解をめざす
 ※仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
 ※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約40%
 期末プロジェクト 約30%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の復習が必要となるがそれも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化と社会の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	基本となる教えについての理解をめざし社会や文化への影響について学ぶ
3	仏教・仏教文化の概説①	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	仏教・仏教文化の概説②	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
5	現代日本の仏教文化	現代の日本文化を取りあげて仏教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における仏教①	社会を読み解くカギとして仏教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における仏教②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
8	仏教と社会	現代日本社会における仏教や仏教施設と人々との関わりについて学ぶ
9	浄土仏教の展開と日本浄土仏教	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
10	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
11	宗教多元世界と仏教①	海外でみられる仏教の広がりについて学ぶ
12	宗教多元世界と仏教②	海外で展開される仏教と日本仏教について理解する
13	宗教多元世界と仏教③	グローバル社会における日本仏教と教えについて学ぶ
14	仏教の生命観①	仏教の死生観についての理解をめざす
15	仏教の生命観①	仏教の死生観についての理解をめざす

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への参加を積極的に評価する。
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー

その他に宗教ツアーや花まつり法要もあるので参加してほしい。

《備考》

科目名	日本語(読解と表現)	科目ナンバリング	SCOS11001		
担当者氏名	野田 直恵、辻本 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって、日本語の教養とコミュニケーション能力を高める。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

10回以上出席しないと単位を与えない。授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と定期試験(50%)によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くなどの課題を行うので、国語辞典(電子辞書も可)を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明・漢字の書き取り	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	漢字の書き取り・四字熟語	漢字の音読み・訓読みを理解し、同音異義語・同訓異義語を書き分ける。
3	漢字の書き取り・四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれども、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある(ない)などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語 I・II、丁寧語、美化語という敬語の5分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体について振り返り、授業内容をまとめる。

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	英語	科目ナンバリング	SCOS11002
担当者氏名	Michael. H. FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する。生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることは禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画が好きですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	On the telephone	電話の言葉
15	まとめ or 自己評価	まとめ or 自己評価

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	SCOS21003
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につけ、文法事項を再確認する。

《テキスト》

水本篤、Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC TEST Intro—レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』(桐原書店、2015年)

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1 Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法事項：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2 Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法事項：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3 People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法事項：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4 Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法事項：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5 Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法事項：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6 Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法事項：時制について理解を深める。
8	Unit 7 Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法事項：類語を整理する。
9	Unit 8 Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9 Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める①。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める②。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞 (to do) や動名詞 (~ing) について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法事項：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法事項：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	SCOS21003
担当者氏名	Michael. H. FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切的な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

試験をせず、出欠のみで成績を評価。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介をする
2	My Interests	臭味・興味を述べる
3	Geography	地理学を語る
4	Weather	気候や天気を述べる
5	Everyday Activities	日常活動を喋る
6	Life Experiences	人生の主な体験を語る
7	School Subjects	学内の教科・科目について語る
8	At School	大学にて。。話し合い
9	Phone Messages	電話で英語を
10	Favors and Requests	依頼とお願いを述べる
11	Wishes	将来の希望
12	Opinions	意見を述べる事
13	Getting Away	海外へ旅行
14	Talking About Sports	暇とスポーツ活動
15	Review and Self-Evaluation	復習と自己評価

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	SCOS21003
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、基礎教の「英語」で身につけたリスニング・スピーキングの基礎力をさらにレベルアップすることを目的とする。原則として、英語のみを使用して授業を展開する。ペア・グループ活動においても、すべて英語で実践することによって、英語で聞き、話すことを「日常化」する。そのため、授業は「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《テキスト》

Susan Stempleski他著「World Link 3rd Edition: Intro Combp Split B」(セーグージ出版) ISBN:978-1-3056-4780-0

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

日常語1000語程度を使って次のことができるようになる：
 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる；
 2) 話す：身の回りの出来事(日課、人間関係、仕事など)について意見交換できる；
 3) 読む：読んだ内容について話し合える；
 4) 書く：聞き、話し、読んだ内容を基にまとまった英文が書ける

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《成績評価の方法》

日頃の学習の積み重ねを重視し、次の項目で評価する：

- 1) 授業参加 20%
- 2) 課題 30%
- 3) 復習テスト 20%
- 4) 発表 30%

《備考》

基礎教「英語」で上記テキストの完全版(Unit 1-Unit 12)を購入している学生は、新たにテキストを購入する必要はない

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 7: Time	A: 日課などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み・書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
2	Unit 7: Time	B: 週末・余暇の過ごし方などをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
3	unit 8: Special Occasions	A: 休日、祭りをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
4	unit 8: Special Occasions	B: 祭りについてプレゼンテーションを行う。そのために必要な、語彙、文法を学ぶ
5	Unit 9: Come Together	A: 休日、友達関係をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
6	Unit 9: Come Together	B: デートをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
7	Review Quiz& Presentation	1) Unit 7からUnit 9までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 9で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
8	Unit 10: Home	A: 休日、自分の部屋、アパートなどをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
9	Unit 10: Home	B: ホーム・デザインをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
10	Unit 11: Clothing	A: 衣服、買い物をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
11	Unit 11: Clothing	B: ファッションをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
12	Unit 12: Jobs	A: アルバイトなどの仕事をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
13	Unit 12: Jobs	B: 将来のキャリアをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
14	Review Quiz& Presentation	1) Unit 10からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 10からUnit 12で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
15	Presentation and General Review	1) 前回はじめたプレゼンテーションを実施する；2) 全体のまとめ

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	SCOS21006
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

科目名	中国語（中級）	科目ナンバリング	SCOS21007
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	SCOS21008		
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、小テスト20%、期末テスト50%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
 『パスポート朝鮮語小事典』
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音②子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音③子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム（子音+母音の後に来る子音、支えると意味）について勉強する。
6	文化項目（1）：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか（합니다体）、～は（助詞）について学習する。
8	第2課 お名前は何ですか。	～です・ですかの（해요体）、～が（助詞）について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません（名詞文の否定）、～も（助詞）について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に（助詞）について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で（場所+에서）を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習する。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	SCOS21008
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようにする。韓国語の文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前回到学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 定期試験60%

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	韓国と韓国語について	韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について
2	基本母音・子音・平音	ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。
3	激音と濃音	日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。
4	パッチム	パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。
5	合成母音	合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。
6	挨拶／「私は日本人です。」	「～です」「～ですか？」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。
7	「日本人ではありません。」	「～ではありません」という基本文型について理解する。
8	「それは何ですか。」	日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。
9	「約束があります。」	「あります」「います」の基本文型を話す。
10	「約束がありません。」	「ありません」「いません」の基本文型を話す。
11	「会社はどこにありますか。」	位置、場所の表現について理解する。
12	「週末は何をしますか。」	基本動詞について理解し、話す。
13	「週末は何を作りますか。」	「です・ます型」、「並列」を理解する。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。
15	まとめ	今まで学んだ文法のまとめ。

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	SCOS21009
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、小テスト20%、期末テスト50%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
 『パスポート朝鮮語小事典』
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、「韓国語（初級）」を必ず受講してから「韓国語（中級）」を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	「韓国語（初級）」の学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞) について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	SCOS21009
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前回到学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 定期試験60%

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
2	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使える。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使える。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

科目名	コンピュータ演習	科目ナンバリング	SCOS11010		
担当者氏名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。この授業では、学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。授業は毎回演習形式で行います。

《授業の到達目標》

コンピュータやインターネットが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらを使いこなしていくための基礎知識を身につけられる。メールやインターネット、各種ソフトウェアの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《成績評価の方法》

- 1) 平常点 20%（参加姿勢、学習意欲）
- 2) 提出物 80%（課題ファイル等。学外Web教材含む。）

《テキスト》

『イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル』
noa出版、2014

《参考図書》

- ・『ネット社会を賢く生きよう！最新情報モラル』日経BP社
- ・『Microsoft Word 2013 ドリル』FOM出版
- ・『Microsoft Excel 2013 ドリル』FOM出版
- ・『Microsoft PowerPoint 2013 応用』FOM出版

《授業時間外学習》

- 1) 予習：次回授業範囲のテキストを読んでおくこと。分からない専門用語等が出てきた場合には、メモをしておくこと。
 - 2) 復習の方法：授業範囲のテキストや配布プリントを読み返すこと。分からない内容があるときは、関連図書を読んだり直接質問したりすること。
- 予習復習共にWeb教材を示された場合は指定箇所を行うこと。

《備考》

- 1) 欠席した場合、次回までに自習する。
- 2) 質問等はオフィスアワーなどに来る。授業時間直前の質問や欠席回プリント要求は控える。
- 3) 学外Web教材のID発行のためテキスト必須。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	シラバスの確認、学内情報システムに関する理解 実習室サインインアカウントの確認、パスワード管理方法の理解
2	Windowsの基礎 メール(1)	Windowsの基本操作、タイピング Webメールの送受信、署名の設定、ファイル添付
3	メール(2) 情報検索	メールに関するマナー ネット検索、検索オプションの活用
4	情報モラル	著作権・肖像権の理解、個人情報保護の理解、 ネットコミュニケーションの理解
5	文書作成(1)	Wordの画面構成、ポスターの編集（文字書式、各種段落書式、 表の作成、ワードアートなどのオブジェクトの挿入）
6	文書作成(2)	レポートの編集 （ページ設定、表紙の作成、フッター、グラフの挿入、引用）
7	Word課題	Wordを用いる演習課題
8	表作成(1)	Excelの画面構成 表の作成（範囲指定、書式設定、ページ設定、四則演算、絶対参照）
9	表作成(2)	関数（SUM、AVERAGE、ROUNDなど）
10	グラフ作成	グラフの種類と特徴、グラフの作成、グラフの編集、複合グラフ
11	Excel課題	Excelを用いる演習課題
12	スライド資料の作成(1)	PowerPointの画面構成 スライド作成（デザイン、スライド編集、SmartArt・表・グラフなどの挿入）
13	スライド資料の作成(2)	スライド作成（図形、画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショー）
14	PowerPoint課題	PowerPointを用いる演習課題
15	総合課題	これまでのまとめとなる課題を行なう。

科目名	国際理解と宗教 I (キリスト教)		科目ナンバリング	SINL21001
担当者氏名	根川 幸男			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

本講義では、キリスト教の教義、歴史、現在、キリスト者などについて学ぶとともに、それを通じて国際理解を深める。キリスト教をめぐるさまざまな事柄を手がかりに、教師と学生がコミュニケーションを深めながら、自分たちの人生や将来、それをとりまく世界や社会、文化、人間関係などについて考える。

《授業の到達目標》

*キリスト教について学ぶことによって、世界の歴史や国際関係、人間関係について理解できるようになる。
 *キリスト教について学ぶことによって、自分たちと異なる地域や集団の人々の文化や生き方が理解できるようになる。
 *復習シートやレポート作成を通じて、自覚的にテーマを選び、資料を探し、考え、発信する能力を獲得する。

《成績評価の方法》

*毎回の講義後に提出する復習シート(40%)と期末レポート(40%)、平常点(20%=出席10%+授業参加態度10%)を合算して評価する。
 *授業の性格上、講義を聞き、教師とコミュニケーションすることが大切です。

《テキスト》

講義の際に適宜資料を配布する。

《参考図書》

『よくわかるキリスト教』土井かおる著 (PHP研究所) 2004、
 『ふしぎなキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸 (講談社現代新書) 2011、
 『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編 (岩波書店) 2002

《授業時間外学習》

*その日の復習シートと質問(400字程度)をまとめ、次回の授業に提出する。用紙は授業ごとに配布する。
 *キリスト教の正典である聖書にふれておく。
 *配布資料が散在しないように整理しておく。
 *新聞・雑誌等でキリスト教に関する記事があれば目を通し、できればコメント付きのコピーを提出

《備考》

*授業進行は概ね授業計画に拠るが、学生の理解度やニーズに応じて変更していく。*携帯電話・メール使用、食事の禁止、遅刻20分以上=欠席、20分以内の欠席×3回=欠席とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	何のためにキリスト教について学ぶのか? 講義の目的とシラバスの説明。履修学生のキリスト教との関わり、イメージについて問う。
2	国際問題と宗教1	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
3	国際問題と宗教2	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
4	聖書の世界観・人間観1	旧約聖書の物語を追いながら、ユダヤ・キリスト教の世界観・人間観を読み解いていく。
5	聖書の世界観・人間観2	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
6	聖書の世界観・人間観3	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
7	キリスト教の歴史1	イエスと彼の弟子たちによるキリスト教の成立からローマ帝国での国教化、東西教会の分裂とイスラム教との接触を概観する。
8	キリスト教の歴史2	宗教改革による旧教と新教の分裂、キリスト教会の変容・再編成、日本への伝道を世界的視野で概観する。
9	キリスト教の歴史3	近現代におけるキリスト教の歴史と変遷、位置づけについて学び、その影響について考える。レポートのテーマ中間発表。
10	キリスト教と文化・芸術	キリスト教と西洋の文化・芸術について概観し、それが非西洋、特に日本の文化・芸術とどのように交渉をもったのかについて学ぶ。レポートのテーマ中間発表。
11	キリスト教と国際人口移動1	大航海時代以降の歴史を、宗教改革とキリスト教伝道の観点から読み解き、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのテーマ中間発表。
12	キリスト教と国際人口移動2	19~20世紀の人口移動をキリスト教の観点から読み解き、日本人の海外移民も含めて、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのアウトライン発表。
13	キリスト教と日本	日本に伝わったキリスト教がどのような影響を与えたのかを時系列的に概観し、自分たちの生活とどう関係しているのかを考える。レポートのアウトライン発表。
14	キリスト教の現在	生命、ジェンダー、中絶、同性愛、戦争、環境問題など、現代社会が抱えている問題を取り上げ、キリスト教との関係で読み解き、考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことをふりかえり、キリスト教がどのような宗教であり、自分たちとどう関わっているのか、また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理する。

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）		科目ナンバリング	SINL21002	
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラム教徒)の数は約16億人、総人口の約1/4を占める。ムスリム訪日人数や国内のモスク(イスラムの礼拝所)も増加している。一方、海外で邦人がイスラム関連の事件等に遭遇する可能性も高まっている。この授業を通して、イスラムに関する基本的な内容を把握すると同時に、激動期に入ったイスラムをめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。VTRの視聴を通して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラムに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(70%)と、VTR視聴後に課すレポート(30%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

店田廣文『イスラムを知る14 日本のモスク 滞日ムスリムの社会的活動』山川出版社、2015/辻上奈美江『イスラム世界のジェンダー秩序』明石書店、2014/内藤正典『イスラム戦争 中東崩壊と欧米の敗北』集英社、2015/『別冊歴史REAL イスラムと日本人』洋泉社、2015/『現代思想 2015年3月臨時増刊号 総特集◎シャル・エブド襲撃/イスラム人質事件の衝撃』青土社、2015

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェックし、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムと接点を持つ(例:モスクやハラルショップ 見学など)。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、ハラル(イスラム的に合法)をめぐる内外の状況について考察する。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
14	国際理解とイスラム(3)	イスラムをめぐる昨今の問題を取り上げ、その原因を検証すると同時に今後の課題について総括する。
15	日本とイスラム	日本とイスラム圏の関係を、歴史的に検証する。

科目名	国際関係論	科目ナンバリング	SINL21003
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

- 自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。
- 20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [帝国主義～現代] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史Ⅲ－世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（1）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（2）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（3）	アジアの近代
5	第1次世界大戦（1）	列強の対立・再編
6	第1次世界大戦（2）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（1）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（2）	ワシントン体制
9	第2次世界大戦（1）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第2次世界大戦（2）	極東の危機、日中戦争
11	第2次世界大戦（3）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（1）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（2）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

科目名	比較文化論		科目ナンバリング	SINL21004	
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

あなたの生活やあなたが生きている社会は、国内外の複雑で多様な人間や社会と結びついています。この授業は、アジア・ヨーロッパ・南北アメリカの文化・社会について、海外経験の豊富な教員がオムニバスで講義を行います。講義を通して文化の多様性について学び、他者理解を進めます。世界に広がる様々な文化を学び、考えることは、グローバル化する社会であなたが生きていくための一助となるでしょう。

《授業の到達目標》

- ・自国の文化を知り、海外の多様な文化や社会について理解を深める。
- ・兵庫大学が行う海外研修や提携大学の学生との交流の際に、相手を理解するための知識を身につける。

《テキスト》

特に指定しません。

《参考図書》

特に指定しません。適宜授業内で紹介します。

《成績評価の方法》

レポート・テスト50%
 受講態度（授業への積極的な参加）50%

《授業時間外学習》

メディア等に登場する国内外の動向に注目しておきましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	比較文化論概説（1）	「文化」とは何かを理解し、身近な文化について考える。
2	比較文化論概説（2）	文化を比較するとはどういうことかを考え、いくつかの理論を学び比較文化について理解を深める。
3	アジアの文化（1）	本学が交流している韓国の文化や社会について学ぶ。
4	アジアの文化（2）	本学が交流しているタイの文化や社会について学ぶ。
5	アジアの文化（3）	アジア各国・地域の文化や社会について理解を深める。
6	ヨーロッパの文化（1）	本学が交流しているヨーロッパの国の文化や社会について学ぶ。
7	ヨーロッパの文化（2）	本学が交流しているヨーロッパの国の文化や社会について学びを深める。
8	ヨーロッパの文化（3）	ヨーロッパの文化や社会について理解を深める。
9	北アメリカの文化（1）	本学が交流しているアメリカの文化や社会について学ぶ。
10	北アメリカの文化（2）	アメリカの文化や社会について学びを深める。
11	北アメリカの文化（3）	北アメリカの文化や社会について理解を深める。
12	南アメリカの文化（1）	本学や加古川市が交流している南アメリカの国の文化や社会について学ぶ。
13	南アメリカの文化（2）	南アメリカの国の文化や社会について理解を深める。
14	学習のまとめ（1）	各地域の文化や社会について学んだことをふりかえり、学んだことをまとめる。
15	学習のまとめ（2）	授業全体をふりかえり多様な文化や考え方について学ぶ。

科目名	歴史学	科目ナンバリング	SHIL21001		
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

主として日本の前近代を扱います。歴史事実の学習ではなく、「歴史の見方」「歴史的思考方法」の獲得を目指します。

アナル歴史学—社会史、等身大の視点からの歴史学—の方法論を主に用います。前近代の市井の人々の感覚世界を探求します。「前近代の自由」が通底するテーマとなります。

時代によって変わることのない普遍的人間の感覚、および、時代・地域により変化する感覚・諸価値を考察します。

《授業の到達目標》

1. 各自の感覚・価値観は「時代」「地域」「社会」に規定されている事に気付く。
2. 既に構築されている各自の感覚・価値観を相対化し、疑問を懐き、クラック（ひび割れ）を入れ、将来に脱皮しうるシード（種子）を獲得する。
3. 他時代・異文化のもつ、異なる感覚・価値観の存在を認め、共存しうる感性・理性を涵養する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、等を行います）を40パーセントとします。

学期末のペーパーテストを60パーセントとします。

《テキスト》

なし。
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

1. 網野善彦『増補 無縁・公界・楽』、平凡社ライブラリー（大学図書館にあり）
2. 『週刊朝日百科日本の歴史』、朝日新聞社（大学図書館にあり）
3. 福岡大学人文学部歴史学科『歴史はおもしろい』、西日本新聞社

《授業時間外学習》

異なる時代、異なる文化が発している情報に敏感になってください。テレビ、新聞、雑誌、映画、DVD、ゲーム、そして、ネットの板情報、などが発信している、「自分とは異なる感覚・論理」を拒絶するのではなく、受け止める気持を持って情報に接してください。

《備考》

オモチャ箱をひっくり返したような講義に出来たらな、と思っています。重い病苦にあえぐ人、不条理な差別を受ける人なども多数扱います。ご理解の上で御受講くださいませ。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義全体のガイダンス。全体計画説明。注意事項の説明。
2	創られた伝統 1	夫婦同姓問題。三行半って本当？ 近代の常識を疑え！
3	創られた伝統 2	「大和撫子」「日本男児」幻想。「盆」と「正月」って何？
4	創られた伝統 3	母系社会と父系社会。相続原理と社会倫理規範。
5	自由への賛歌 1	近代的「唯一絶対的自我」への疑問。多様な自我。「排他的近代」の限界。
6	自由への賛歌 2	市と自由 1。環太平洋的「マナ」世界と交換の原理。
7	自由への賛歌 3	市と自由 2。縁切りと変身の原理。
8	自由への賛歌 4	変容と変身の原理。俗世界と聖なる世界。
9	自由への賛歌 5	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理 1。
10	自由への賛歌 6	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理 2。
11	小さな神仏の世界 1	来世利益と現世利益。本堂・本殿と末社・摂社の世界。
12	小さな神仏の世界 2	背面信仰と第三項排除理論（差別問題を含む）。
13	小さな神仏の世界 3	暗黒世界の神仏と王権。王権と第三項排除理論（差別問題を含む）。
14	総括 1	各項目間の関連の確認。
15	総括 2	全体のまとめ。

科目名	文学	科目ナンバリング	SHIL21002
担当者氏名	未定		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

古典文学について講義し、「古典」とは何かを考える。日本の古典文学作品は数百年、あるいは千年以上もの間読み継がれてきている。なぜその作品が現代まで残り、「古典」となるのか。「古典」とはただ古い作品ということではない。授業では、いくつかの作品を取り上げて少しずつ読みながら、テーマや構想、文章、また作者と制作された時代について説明し、如上の問題を考える。

《テキスト》

毎回、プリントを配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

文学作品の言葉を読み解き、作品のテーマについて考え、また作者と時代について考えること。および、そのことによって文学および「古典」について深く理解することを目指す。

《授業時間外学習》

配布したプリントを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

10回以上出席しないと単位を与えない。その上で、授業時に提出する課題やレポートによる平常点（40%）、及び、定期試験（60%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『万葉集』を読む	最古の歌集である『万葉集』は8世紀半ばに成立した。内容は、宮廷を中心としたもの、防人や東歌など労働に関するものなどさまざまである。その歌を考える。
3	『古今和歌集』を読む	905年に成立し、和歌を春夏秋冬に分類して日本の四季の認識を確立するなど以降の文学や人間生活に大きな影響を及ぼした作品である。その歌を考える。
4	『伊勢物語』を読む	主人公在原業平が東国に下ったり、高貴な女性を盗んだりなど、当時としては驚かされる行動をとる。すべての章段に和歌がある物語であり、歌をめぐる面白さを読む。
5	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第一部・第二部の、主人公光源氏の女性たちとの恋愛、またさまざまな困難を乗り越えて栄華に至り、さらに死を迎えるまでの物語を読む。
6	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第三部の、光源氏死後、その子薫と孫匂宮が宇治を舞台として浮舟など女性たちをめぐる争い、恋のはかなさを認識するに至る物語を読む。
7	『新古今和歌集』を読む	最高権力者後鳥羽院が自ら撰集した勅撰和歌集である。藤原定家らの歌は、古典和歌との関係によって制作され、古典とは何かを考えさせる。
8	『方丈記』を読む	鴨長明作『方丈記』は無常をテーマとして災害の記述で有名である。災害は住居の破壊に繋がる。住居とはどうあるべきかを語る長明の思考について考える。
9	『愚管抄』を読む	著者慈円は撰家出身である。時代は鎌倉幕府を無視できない歴史の転換期にきている。そのとき貴族は歴史をどのように捉えるのか、考える。
10	『宇治拾遺物語』を読む	文学の担い手は貴族層から、武士や庶民に広がっていく。優雅さだけが価値ではなく、時代は俗を取り込み変化する。貴族文学とは異なる美意識や価値観について考える。
11	『奥の細道』を読む	江戸時代に入り、平和が訪れ、安全な旅が可能になる。松尾芭蕉の旅の追いながら、俳諧と紀行について考える。
12	『五輪書』『葉隠』を読む	『五輪書』は宮本武蔵が兵法の極意について語ったもの、『葉隠』は鍋島藩士山本常朝が、理想的武士像について説いたものである。江戸時代の武士について考える。
13	『雨月物語』を読む	江戸時代に書かれた上田秋成作の怪異小説を二回に分けて読む。恐怖の中にも人間を見つめたテーマ設定がなされている。この回は「白峯」「菊花の契り」を読む。
14	『雨月物語』を読む	女性や異類を主人公とした怪異譚である、「吉備津の釜」「蛇性の姪」を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた古典文学についてふりかえり、「古典」とは何かについて考える。

科目名	芸術	科目ナンバリング	SHIL21003
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 課題レポート (100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	色彩とデザイン		科目ナンバリング	SHIL21004	
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー (情報処理能力、情報収集・発信力) ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野に関する一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出は単位認定の必要条件になる。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株) (<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法: シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法: 授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート: 「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

・出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。他の受講生に迷惑になる行為があった場合、座席の指定を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス: デザインの基礎	デザインの要素である「色」「かたち」「素材」について理解し、授業全体の流れについて理解する。
2	デザインの基礎(1): 色① 色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明する。
3	デザインの基礎(2): 色② 配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによって配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。
4	デザインの基礎(3): かたち	デザインのかたちについて、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。
5	デザインの基礎(4): 素材	デザインの素材について、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。
6	デザインの基礎(5): デザインの歴史	近代以降のデザインの歴史について概観し、7回目以降の講義の流れを理解する。
7	デザインの各分野(1): グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。
8	デザインの各分野(2): 家具	家具のデザインについて、歴史的な変遷に従い解説する。
9	デザインの各分野(3): 建築	建築・インテリアを取り上げ、「もの」のデザイン、「空間」のデザインについて解説する。
10	デザインの各分野(4): ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、歴史的な変遷と社会の関わりについて解説する。
11	デザインの各分野(5): プロダクト	プロダクトデザインについて、主として携帯電話を例に、プロダクトデザインとマーケティングについて解説する。
12	デザインの各分野(6): 工業デザイン	工業デザイン分野について、主として産業革命以降のデザインと自動車デザインの変遷から解説する。
13	デザインの各分野(7): 都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について考察する。
14	デザインの各分野(8): 映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。

科目名	地域文化論	科目ナンバリング	SL0L21001
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input type="radio"/> 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 <input checked="" type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

播磨地域、特に東播地域の文化特質を考察する。アジア的視座、日本的視座、西国内部の視座、兵庫県内部の視座、からこれを比較検討する。

地理、歴史、文化、民俗、などから問題にアプローチしていきたい。

《授業の到達目標》

自らの属する地域を外部の視点から相対的に考察する能力の第一歩を獲得する事を目標とする。自文化の相対化、とも表現できる。

これは、異文化との共存、多文化共生をなし得る感覚の取得でもある。

《成績評価の方法》

学期末に行う筆記試験を60パーセントとする。毎回の講義への積極的関与度を40パーセントとする。毎回の講義では、様々な質問を提示し、回答してもらい、評価する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

網野善彦、『東と西の語る日本の歴史』、講談社学術文庫1343。

原田曜平、『ヤンキー経済』、幻冬舎新書335。

《授業時間外学習》

常に地域の文化、自分の文化に関心を払ってください。日常生活の中で、講義内容を時々思い出し、反芻して、納得してください。他地域の文化、異文化への関心を持つように心がけ、情報に接してください。

できれば、参考文献を御一読ください。

《備考》

楽しい講義にしたい、と考えております。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の全体像の提示。考え方の提示。
2	考現学的アプローチ1	現代日本社会を席卷する「マイルドヤンキー文化」に関する考察。
3	考現学的アプローチ2	「マイルドヤンキー文化」の「聖地」は、何故「東加古川」なのか。
4	アジアの中で日本を考えてみよう	日本は大国か？小国か？日本は「単一民族国家」なのか？日本文化は均質なのか？などなど、社会常識を再検討する。
5	東は東、西は西	日本の東西文化の極めて大きい差異を、様々な事例から考察する。
6	歴史的アプローチ1	日本文化の中に残る、縄文文化と弥生文化の濃淡を考察する。さらに、日本の「周縁地域」の文化的独自性を考察する。
7	歴史的アプローチ2	播磨、特に東播の古代を再考し、その位相を考察する。日本武尊関連の神話分析も行う。
8	歴史的アプローチ3	播磨、特に東播の中世を再考し、東播の全盛期の位相を考察する。
9	歴史的アプローチ4	播磨、特に東播の文化財を考察する。
10	歴史的アプローチ5	播磨、特に東播の近世・近代を、「産業」に重点をおいて考察する。
11	文化論的アプローチ1	播磨、特に東播の「祭り」「祭祀」を考察する。
12	文化論的アプローチ2	播磨、特に東播の「芸能」を考察する。
13	文化論的アプローチ3	播磨、特に東播の「食」を考察する。第一回。
14	文化論的アプローチ4	播磨、特に東播の「食」を考える。第二回。
15	おわりに	全体の総括。

科目名	哲学	科目ナンバリング	SSOL21001
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

原因・根拠・原理の探求として古代ギリシャに開かれた「哲学」が何をどのように問題にしてきたのか、すなわち哲学とは何かについて、いくつかの哲学思想を繙きながら概説する。この作業は哲学史の理解に寄与するが、哲学思想の歴史的な流れに関する学習というよりは、哲学上のいくつかの根本問題への理解につながるような哲学的探求を試みたいと思う。

《授業の到達目標》

・哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
 ・人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。
 ・各テーマについて、柔軟に自分なりの考察や感想を持つことができるよう試みる。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（60%）および学期末に設定するレポート課題（40%）によって評価を行う。

《テキスト》

岩崎武雄著『西洋哲学史』（再改定版）有斐閣、1996年

《参考図書》

適時紹介する。

《授業時間外学習》

・講義内容に関連するテキストの箇所をよく読むことで、予習や復習を行う。
 ・講義内容に直接関係のないテキストの箇所についても、目を通しておく。
 ・テキストや哲学者の著作、その他の参考文献を読み、レポートにまとめる。

《備考》

・講義中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。
 ・提出レポートは、必ずホッチキス止めをする。
 ・その他受講上必要な注意事項については、最初の講義内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学の創始 ソクラテス以前の哲学1.	哲学とは何かについて ミレトス学派およびエレア学派の哲学思想について
2	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテス以前の哲学2.	ピュタゴラス学派および多元論者の哲学思想について
3	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテスとプラトン1.	アテナイ期の哲学思想—ソクラテスとプラトンの哲学について 問答法と真理の探究について
4	古代ギリシャの哲学思想 プラトンの哲学2.	プラトンのイデア説について
5	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学1.	アリストテレスの哲学思想—存在・実体概念、自然・運動の概念について
6	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学2.	アリストテレスの哲学思想—靈魂論（心理学）・倫理学・論理学に関する学説について
7	中世の哲学思想	アウグスティヌスの教父哲学について
8	中世の哲学思想	トマス・アクィナスのスコラ哲学について
9	近世の哲学思想 デカルトの哲学1.	精神および物体の概念について
10	近世の哲学思想 デカルトの哲学2.	心身二元論について
11	近世の哲学思想 カントの哲学1.	カントの批判哲学—『純粋理性批判』について ア・プリオリな判断およびア・ポステリオリな判断、分析的判断・総合的判断について
12	近世の哲学 カントの哲学2.	カントの批判哲学—『実践理性批判』について（実践理性の根本法則） 『判断力批判』について（自然の合目的性）
13	現代の哲学 生の哲学・実存主義哲学	バルクソンの哲学思想およびハイデッガーの哲学思想について
14	現代の哲学 プラグマティズムの哲学	ジェイムズの哲学思想およびデューイの哲学思想について
15	まとめ	予備およびまとめ

《共通教育科目 現代社会を読み解く》

科目名	法と社会	科目ナンバリング	SSOL21002
担当者氏名	豊福 一		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

現在の日本社会において生活するうえで、法との関わりは避けて通ることのできないものである。そこで、日常生活と密接に関係すると思われる法制度について、その概略を紹介し、基礎的な法律知識への理解を深める。民法に限らず、刑事事件など幅広く講義する予定。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活において目にしたり、耳にしたりする法律用語、あるいは遭遇した法律問題やトラブルにおいて、その最低限の意味を理解できるようになること。

《授業時間外学習》

予習は不要であるが、授業内容の性質上、講義を聞くことによって初めて知識を得ることができるので、積極的に出席するように。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出（100%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり	日本の法制度の概略について理解し、今後の授業の流れも理解する。
2	土地・建物の賃貸借契約	賃貸借契約の内容、土地や建物を賃貸借する際に決めておくべきことやその注意点について理解する。
3	クレジットカード・キャッシング	クレジットカードやキャッシュカードを利用した金銭のやり取りに関する法律関係について理解する。
4	住宅・自動車ローン①	住宅や自動車を購入する際に締結される売買契約とそれに関する法律関係、さらには不動産や自動車の登記・登録制度等について理解する。
5	住宅・自動車ローン②	住宅や自動車を購入する際に金融機関からお金を借りる場合の法律関係とその注意点等について理解する。
6	債務の整理・清算	負担した債務（ローン）の返済が困難になった場合のその清算方法について、私的整理・公的整理に分けてその制度について理解する。
7	刑事事件①	犯罪が発生し、その被疑者（容疑者）が逮捕された場合の刑事手続きの流れについて理解する。
8	刑事事件②	逮捕された被疑者（容疑者）が起訴された場合の刑事裁判手続きについて理解する。
9	婚姻・離婚	結婚・離婚する場合の法律関係、注意点、さらに養子縁組や離縁についても理解する。
10	相続	相続人の範囲や順位、相続割合、遺言の書き方等相続に関する一般的知識を理解する。
11	成年後見制度	自らの財産を自らの意思で管理することが困難になった場合の主として高齢者保護のための成年後見の制度の概略を理解する。
12	交通事故	交通事故に遭遇した場合、どのような損害が発生し、それをどの程度賠償する必要があるのか、交通事故に関する一般的知識を理解する。
13	各種保険制度	日常生活に馴染みの深い自動車保険・生命保険・傷害保険・火災保険等の一般的知識を理解する。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟とは別に日常生活で市民が利用できる民事訴訟制度についてその概略を理解する。
15	知的財産権	著作権・特許権・意匠権・商標権等知的財産権の種類とその内容について、概略を理解する。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	SSOL21003
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、定期試験期間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史	科目ナンバリング	SSOL21004
担当者氏名	岩本 智依		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社
 砂川秀樹・RYOJI『カミングアウト・レターズ』太郎次郎社エディタス
 岩本孝樹『「いのち」の保育——一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。
 現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20%（学期末の最終授業を締切に参考図書を課題としたレポート）

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	人権の歴史とは①	人権の歴史を通して、人権の享有主体としての私たちのあり方を考える。
4	人権の歴史とは②	人権の歴史を通して、現代社会における人権の内容を学ぶ。
5	部落差別と現代社会①	部落差別とは何かをその歴史と部落史の発展の視点から学ぶ。
6	部落差別と現代社会②	「身元調査」を通して部落差別の現状と課題を学ぶ。
7	いのちと人権①	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権②	障害者差別禁止法と障がい者差別について学び、「差別の禁止」とは何かを考える。
9	いのちと人権③	尊厳死や生命倫理に関わる人権の歴史を通して、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
11	教育と差別	いじめや体罰など、教育や保育における人権的課題について学ぶ。また反差別の教育である「同和教育」について考える。
12	性差別と現代社会①	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会②	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会③	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

科目名	政治学	科目ナンバリング	SSOL21005
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

○政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
 ○現代の日本政治について鳥瞰図を手にする事ができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
 他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
 (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	社会学	科目ナンバリング	SSOL21006
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

- 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。(配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
- 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。(配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組みようとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵(2013, 有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000, 日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示しますこれについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会について理解する
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者について理解する
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会について理解する
4	行為の分析 (3) ステイグマ	ステイグマ、レイベリング、パッシングについて理解する
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類(社会的カテゴリー)について理解する
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界について理解する
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレーム申し立て活動、対抗クレームについて理解する
8	学習の総まとめ(1)	「行為の分析」についてふりかえる
9	秩序の解読 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブについて理解する
10	秩序の解読 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持について理解する
11	秩序の解読 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織について理解する
12	秩序の解読 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集团的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会について理解する
13	社会の構想 (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーションについて理解する
14	社会の構想 (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズムについて理解する
15	学習の総まとめ(2)	「秩序の解読」「社会の構想」についてふりかえるについて理解する

科目名	経済学	科目ナンバリング	SSOL21007
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業” “お金儲け” などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれません。たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう (3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	SNAL21001
担当者氏名	本多 真		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

人間の歴史は、新しい自由を持て余さないために、新しいルール／倫理を生み出すことで、社会に混乱が生み出されないよう絶えず工夫してきた。ところが技術が発達し、個々の自由が保証されてくると、「いのち」をめぐる課題についてのルール設定が難しくなってきた。この講義では、安楽死、脳死、臓器移植、妊娠中絶、遺伝子操作などのテーマを取り上げ、生命倫理学の入り口へ誘いたい。

《授業の到達目標》

技術とルールをめぐる「いのち」の問題について、自分なりに理解し、問題の複雑さを整理できるようになる。

《テキスト》

講義の時、配布する。

《参考図書》

講義時に指示する。

《授業時間外学習》

講義の時、次の講義内容について紹介するので、そのテーマに沿って関連する書籍や映像資料を閲覧する。

《成績評価の方法》

講義の出席 40%
 授業の参加態度 20%
 学期末レポート 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の概要説明
2	インフォームド・コンセント①	患者の権利／情報を与えられたうえでの合意
3	インフォームド・コンセント②	何をどこまで説明すればよいか／患者と医師の対立
4	安楽死と尊厳死①	安楽死と尊厳死／違いについて
5	安楽死と尊厳死②	誰が死期の決めるのか？
6	相互インタビュー	これまでの講義のふりかえり
7	脳死と臓器移植①	脳死と臓器移植
8	脳死と臓器移植②	「死の基準」について
9	脳死と臓器移植③	ドナーカードについて
10	相互インタビュー	これまでの講義のふりかえり
11	遺伝子操作／クローン技術①	遺伝子操作とクローン技術
12	遺伝子操作／クローン技術②	この問題をめぐる事例
13	生命倫理と宗教①	日本の宗教：神道
14	生命倫理と宗教②	日本の宗教：仏教
15	まとめ	講義のまとめ

科目名	心理学	科目ナンバリング	SNAL21002
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%，レポート・小テストなど10%，受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
(より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』齋藤勇/誠信書房
(内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 §1~9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 §1~2, §6~7》
3	覚えているって、どういこと？(記憶)	記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 §4》
4	どうやって、学んでいくの？(学習)	学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 §5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I	欲求の分類 各欲求の性質《第2章 §1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II	欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 §2~4》
8	君って、どんな人？(性格) I	性格の基本的考え方 類型論と特性論
9	君って、どんな人？(性格) II	性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 §1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 §2~3》
11	あの人って、きっとこうなんだ(社会的認知)	ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 §1~2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果《第6章 §4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識に関するいくつかの理論. 心理療法《第5章 §4, 第8章》
14	心理学アラカルト	身近にある心理学の様々なテーマ
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解.

科目名	化学	科目ナンバリング	SNAL21003
担当者氏名	阿部 真幸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《テキスト》

『コ・メディカル化学』
齋藤勝裕、荒井貞夫、久保勘二 共著（裳華房）

《参考図書》

『あなたと化学』くらしを支える化学
齋藤勝裕 著（裳華房）

《授業の到達目標》

- 溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互いに変換できる。
- 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
- 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
- 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験（80%）および授業中に行う小テスト（20%）により評価します。

《授業時間外学習》

- 授業前に、テキストの学習する範囲を読んでおくこと。
- 各自で演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

《備考》

- 授業中分からないところが有れば、その都度、質問してください。
- 他の履修者に迷惑になる行動はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	化学で扱う数値 原子の構造	物理量と単位 原子の構造、原子の電子構造、周期表と元素
2	化学結合と分子	イオン結合、共有結合、結合の極性、水素結合
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、パーセント濃度、モル濃度
4	酸・塩基と酸化・還元	酸と塩基の定義、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、酸化と還元、酸化・還元反応
5	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法
6	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質、異性体と立体構造
7	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、酸化・還元反応
8	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応
9	糖質（1）	糖質の定義と分類、単糖類
10	糖質（2）	二糖類、多糖類
11	脂質（1）	単純脂質、複合脂質
12	脂質（2）	誘導脂質、生体膜
13	アミノ酸とタンパク質（1）	アミノ酸の種類と構造、（ポリ）ペプチド
14	アミノ酸とタンパク質（2）	タンパク質の立体構造、タンパク質の種類と機能
15	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能、ATP

科目名	生物学	科目ナンバリング	SNAL21004
担当者氏名	佐藤 隆		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版（南雲保編、羊土社）

《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻
（デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳）

《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

教科書をよく読んで、授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験（100%）により評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能
2	生命体を構成する物質①	アミノ酸、タンパク質、糖質
3	生命体を構成する物質②	脂質、核酸、ビタミン
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系
6	光合成	光合成の機構
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化
9	多細胞生物の自己維持機構①	細胞間情報伝達システム
10	多細胞生物の自己維持機構②	恒常性（ホメオスタシス）、生体防衛機構
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病
12	生態系①	生物と環境
13	生態系②	環境問題、動物の行動
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療

科目名	食と健康	科目ナンバリング	SLIL21001		
担当者氏名	嶋津 裕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力				

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに食を中心とした消費生活全般における消費者力の向上を目指します。消費者問題の歴史とともに消費者教育の最前線で何が行われているか、多角的に提示します。国内外での実践事例や教材を紹介するので、特にエシカル消費についての理解を深め、消費者市民社会の担い手としての基礎づくりとなることをまぎしません。

《授業の到達目標》

- 消費生活、消費文化に関する基礎知識を習得することができる。
- 消費者市民教育の必要性と意義を理解することができる。
- エシカル消費（倫理的消費）について理解し、自らの生活を見つめなおし改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

課題レポート・提出物（50％）、定期試験（50％）
 ただし、授業の出席回数が授業実施回数の3分の2以上に満たない場合には、定期試験の受験資格はありません（遅刻・早退3回は欠席1回とみなします）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	高等学校までの学びのふりかえり及び身近な消費生活の課題を整理することができる。
2	消費者教育の必要性	消費者の権利と消費者教育の必要性について学ぶ。
3	消費者市民社会とは	消費者市民社会（コンシューマーシチズンシップ）の定義と概要を説明できる。
4	消費者問題と歴史 1	不良品問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
5	消費者問題と歴史 2	食品偽装問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
6	消費者問題と歴史 3	食の安全・安心問題について過去や近年に発生した事件・事例より具体的に捉えることができる。
7	法から見た消費生活	近年の消費トラブルの特徴から消費者行政法と行政の対応、消費生活センターの業務を理解する。
8	企業から見る消費者教育	ACAPの活動を中心に、消費者教育とコンプライアンス経営について理解する。
9	海外における消費者教育	ユニセフやACEの活動を通して海外における実情を理解することができる。
10	持続可能社会と消費者	持続可能社会の定義と必要性について主体的に考えることができる。
11	エシカル（倫理的）消費 1	エシカル消費の定義（フェアトレード、環境配慮型商品等）について概説できる。
12	エシカル（倫理的）消費 2	消費者教育実践例を学び、エシカル消費について理解を深めることができる。
13	エシカル（倫理的）消費 3	消費者教育教材を使って修得した知識について実感できる。
14	エシカル（倫理的）消費 4	エシカルコンシューマーについて主体的に考えることができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成し情報発信・情報交換ができる。

《テキスト》

「暮らしの豆知識2016年版」 国民生活センター

《参考図書》

「ハンドブック消費者」 消費者庁

《授業時間外学習》

- ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《備考》

- 授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。
- 課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)	科目ナンバリング	SLIL21002
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。
 体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達の科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。
 健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力”“自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《授業時間外学習》

<予習方法>
 下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
 <復習方法>
 学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せ
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)		科目ナンバリング	SLIL21002
担当者氏名	矢野 琢也			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1. 運動（トレーニング）、2. 栄養、3. 休養 の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1. 運動（トレーニング）、2. 栄養、3. 休養 の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出60%、期末の課題レポート20%、小テスト20%で評価します。出席回数が授業回数の2/3未満は評価対象外とします。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について3	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する（減量など）。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について1	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について2	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について3	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養（リカバリー）の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	科目ナンバリング	SLIS21003
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館)
『からだロジー入門』宮下充正(大修館)

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《共通教育科目 暮らしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	科目ナンバリング	SLIS21004
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 <復習方法>
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《共通教育科目 キャリアデザイン》

科目名	私のためのキャリア設計	科目ナンバリング	SCAL21001
担当者氏名	三上 嘉代子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら、体験的に社会が求める力について学ぶ。

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《成績評価の方法》

平常点（授業への取組姿勢）50%、各分野の学習後に課するレポート 50%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房2012年

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー①	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー②	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて①	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて②	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する①	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する②	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する③	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える①	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える②	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える③	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備（自分を語るシート記入）、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表

科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	SHUL11002
担当者氏名	本多 真		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

人間の歴史は、新しい自由を持って余さないために、新しいルール／倫理を生み出すことで、社会に混乱が生み出されないよう絶えず工夫してきた。ところが技術が発達し、個々の自由が保証されてくると、「いのち」をめぐる課題についてのルール設定が難しくなってきた。
この講義では、安楽死、脳死、臓器移植、妊娠中絶、遺伝子操作などのテーマを取り上げ、生命倫理学の入り口へ誘いたい。

《授業の到達目標》

技術とルールをめぐる「いのち」の問題について、自分なりに理解し、問題の複雑さを整理できるようになる。

《成績評価の方法》

講義の出席 40%
 授業の参加態度 20%
 学期末レポート 40%

《テキスト》

講義の時、配布する。

《参考図書》

講義時に指示する。

《授業時間外学習》

講義の時、次の講義内容について紹介するので、そのテーマに沿って関連する書籍や映像資料を閲覧する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の概要説明
2	インフォームド・コンセント①	患者の権利／情報を与えられたうえでの合意
3	インフォームド・コンセント②	何をどこまで説明すればよいか／患者と医師の対立
4	安楽死と尊厳死①	安楽死と尊厳死／違いについて
5	安楽死と尊厳死②	誰が死期の決めるのか？
6	相互インタビュー	これまでの講義のふりかえり
7	脳死と臓器移植①	脳死と臓器移植
8	脳死と臓器移植②	「死の基準」について
9	脳死と臓器移植③	ドナーカードについて
10	相互インタビュー	これまでの講義のふりかえり
11	遺伝子操作／クローン技術①	遺伝子操作とクローン技術
12	遺伝子操作／クローン技術②	この問題をめぐる事例
13	生命倫理と宗教①	日本の宗教：神道
14	生命倫理と宗教②	日本の宗教：仏教
15	まとめ	講義のまとめ

科目名	哲学	科目ナンバリング	SHUL11003
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

原因・根拠・原理の探求として古代ギリシャに開かれた「哲学」が何をどのように問題にしてきたのか、すなわち哲学とは何かについて、いくつかの哲学思想を繙きながら概説する。この作業は哲学史の理解に寄与するが、哲学思想の歴史的な流れに関する学習というよりは、哲学上のいくつかの根本問題への理解につながるような哲学的探求を試みたいと思う。

《テキスト》

岩崎武雄著『西洋哲学史』（再改定版）有斐閣、1996年

《参考図書》

適時紹介する。

《授業の到達目標》

・哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
 ・人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。
 ・各テーマについて、柔軟に自分なりの考察や感想を持つことができるよう試みる。

《授業時間外学習》

・講義内容に関連するテキストの箇所をよく読むことで、予習や復習を行う。
 ・講義内容に直接関係のないテキストの箇所についても、目を通しておく。
 ・テキストや哲学者の著作、その他の参考文献を読み、レポートにまとめる。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（60%）および学期末に設定するレポート課題（40%）によって評価を行う。

《備考》

・講義中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。
 ・提出レポートは、必ずホッチキス止めをする。
 ・その他受講上必要な注意事項については、最初の講義内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学の創始 ソクラテス以前の哲学1.	哲学とは何かについて ミレトス学派およびエレア学派の哲学思想について
2	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテス以前の哲学2.	ピュタゴラス学派および多元論者の哲学思想について
3	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテスとプラトン1.	アテナイ期の哲学思想—ソクラテスとプラトンの哲学について 問答法と真理の探究について
4	古代ギリシャの哲学思想 プラトンの哲学2.	プラトンのイデア説について
5	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学1.	アリストテレスの哲学思想—存在・実体概念、自然・運動の概念について
6	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学2.	アリストテレスの哲学思想—靈魂論（心理学）・倫理学・論理学に関する学説について
7	中世の哲学思想	アウグスティヌスの教父哲学について
8	中世の哲学思想	トマス・アクィナスのスコラ哲学について
9	近世の哲学思想 デカルトの哲学1.	精神および物体の概念について
10	近世の哲学思想 デカルトの哲学2.	心身二元論について
11	近世の哲学思想 カントの哲学1.	カントの批判哲学—『純粋理性批判』について ア・プリオリな判断およびア・ポステリオリな判断、分析的判断・総合的判断について
12	近世の哲学 カントの哲学2.	カントの批判哲学—『実践理性批判』について（実践理性の根本法則） 『判断力批判』について（自然の合目的性）
13	現代の哲学 生の哲学・実存主義哲学	バルクソンの哲学思想およびハイデッガーの哲学思想について
14	現代の哲学 プラグマティズムの哲学	ジェームズの哲学思想およびデューイの哲学思想について
15	まとめ	予備およびまとめ

科目名	文学	科目ナンバリング	SHUL11004
担当者氏名	未定		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

古典文学について講義し、「古典」とは何かを考える。日本の古典文学作品は数百年、あるいは千年以上もの間読み継がれてきている。なぜその作品が現代まで残り、「古典」となるのか。「古典」とはただ古い作品ということではない。授業では、いくつかの作品を取り上げて少しずつ読みながら、テーマや構想、文章、また作者と制作された時代について説明し、如上の問題を考える。

《授業の到達目標》

文学作品の言葉を読み解き、作品のテーマについて考え、また作者と時代について考えること。および、そのことによって文学および「古典」について深く理解することを目指す。

《成績評価の方法》

10回以上出席しないと単位を与えない。その上で、授業時に提出する課題やレポートによる平常点（40%）、及び、定期試験（60%）によって評価する。

《テキスト》

毎回、プリントを配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業時間外学習》

配布したプリントを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『万葉集』を読む	最古の歌集である『万葉集』は8世紀半ばに成立した。内容は、宮廷を中心としたもの、防人や東歌など労働に関するものなどさまざまである。その歌を考える。
3	『古今和歌集』を読む	905年に成立し、和歌を春夏秋冬に分類して日本の四季の認識を確立するなど以降の文学や人間生活に大きな影響を及ぼした作品である。その歌を考える。
4	『伊勢物語』を読む	主人公在原業平が東国に下ったり、高貴な女性を盗んだりなど、当時としては驚かされる行動をとる。すべての章段に和歌がある物語であり、歌をめぐる面白さを読む。
5	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第一部・第二部の、主人公光源氏の女性たちとの恋愛、またさまざまな困難を乗り越えて栄華に至り、さらに死を迎えるまでの物語を読む。
6	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第三部の、光源氏死後、その子薫と孫匂宮が宇治を舞台として浮舟など女性たちをめぐる争い、恋のはかなさを認識するに至る物語を読む。
7	『新古今和歌集』を読む	最高権力者後鳥羽院が自ら撰集した勅撰和歌集である。藤原定家らの歌は、古典和歌との関係によって制作され、古典とは何かを考えさせる。
8	『方丈記』を読む	鴨長明作『方丈記』は無常をテーマとして災害の記述で有名である。災害は住居の破壊に繋がる。住居とはどうあるべきかを語る長明の思考について考える。
9	『愚管抄』を読む	著者慈円は撰家出身である。時代は鎌倉幕府を無視できない歴史の転換期にきている。そのとき貴族は歴史をどのように捉えるのか、考える。
10	『宇治拾遺物語』を読む	文学の担い手は貴族層から、武士や庶民に広がっていく。優雅さだけが価値ではなく、時代は俗を取り込み変化する。貴族文学とは異なる美意識や価値観について考える。
11	『奥の細道』を読む	江戸時代に入り、平和が訪れ、安全な旅が可能になる。松尾芭蕉の旅の追いながら、俳諧と紀行について考える。
12	『五輪書』『葉隠』を読む	『五輪書』は宮本武蔵が兵法の極意について語ったもの、『葉隠』は鍋島藩士山本常朝が、理想的武士像について説いたものである。江戸時代の武士について考える。
13	『雨月物語』を読む	江戸時代に書かれた上田秋成作の怪異小説を二回に分けて読む。恐怖の中にも人間を見つめたテーマ設定がなされている。この回は「白峯」「菊花の契り」を読む。
14	『雨月物語』を読む	女性や異類を主人公とした怪異譚である、「吉備津の釜」「蛇性の姪」を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた古典文学についてふりかえり、「古典」とは何かについて考える。

科目名	芸術	科目ナンバリング	SHUL11005
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート (100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期バリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	心理学	科目ナンバリング	SHUL11006
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%，レポート・小テストなど10%，受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣 (より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』 齋藤勇/誠信書房 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 § 1~9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 § 1~2, § 6~7》
3	覚えているって、どうい うこと？(記憶)	記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 § 4》
4	どうやって、学んでいく のだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 § 1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 § 5~9》
6	いつも何かを望む(欲求と フラストレーション) I	欲求の分類 各欲求の性質《第2章 § 1~3》
7	いつも何かを望む(欲求と フラストレーション) II	欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 § 2~4》
8	君って、どんな人？(性 格) I	性格の基本的考え方 類型論と特性論
9	君って、どんな人？(性 格) II	性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 § 1, 第5章》
10	私たちは大人になってき た(発達)	生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 § 2~3》
11	あの人って、きつこう なんだ(社会的認知)	ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 § 1~2》
12	人が周りにいるから(社会 的影響)	説得や無言の圧力に関する効果《第6章 § 4》
13	無意識って何だろう？(無 意識と深層の心理)	無意識に関するいくつかの理論. 心理療法《第5章 § 4, 第8章》
14	心理学アラカルト	身近にある心理学の様々なテーマ
15	心理学はどんな学問か？ (まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解.

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	SHUL11007	
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義では幅広く仏教文化を解説する。そして仏教と人間、グローバル社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。現代社会や文化を通して仏教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

- ※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
- ※現代仏教についての理解をめざす
- ※仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
- ※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約40%
 期末プロジェクト 約30%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の復習が必要となるがそれも「受講態度」として評価する。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への参加を積極的に評価する。
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー

その他に宗教ツアーや花まつり法要もあるので参加してほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化と社会の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	基本となる教えについての理解をめざし社会や文化への影響について学ぶ
3	仏教・仏教文化の概説①	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	仏教・仏教文化の概説②	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
5	現代日本の仏教文化	現代の日本文化を取りあげて仏教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における仏教①	社会を読み解くカギとして仏教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における仏教②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
8	仏教と社会	現代日本社会における仏教や仏教施設と人々との関わりについて学ぶ
9	浄土仏教の展開と日本浄土仏教	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
10	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
11	宗教多元世界と仏教①	海外でみられる仏教の広がりについて学ぶ
12	宗教多元世界と仏教②	海外で展開される仏教と日本仏教について理解する
13	宗教多元世界と仏教③	グローバル社会における日本仏教と教えについて学ぶ
14	仏教の生命観①	仏教の死生観についての理解をめざす
15	仏教の生命観①	仏教の死生観についての理解をめざす

科目名	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）		科目ナンバリング	SHUL11008
担当者氏名	根川 幸男			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

本講義では、キリスト教の教義、歴史、現在、キリスト者などについて学ぶとともに、それを通じて国際理解を深める。キリスト教をめぐるさまざまな事柄を手がかりに、教師と学生がコミュニケーションを深めながら、自分たちの人生や将来、それを取りまく世界や社会、文化、人間関係などについて考える。

《授業の到達目標》

- *キリスト教について学ぶことによって、世界の歴史や国際関係、人間関係について理解できるようになる。
- *キリスト教について学ぶことによって、自分たちと異なる地域や集団の人々の文化や生き方が理解できるようになる。
- *復習シートやレポート作成を通じて、自覚的にテーマを選び、資料を探し、考え、発信する能力を獲得する。

《成績評価の方法》

- *毎回の講義後に提出する復習シート（40%）と期末レポート（40%）、平常点（20%＝出席10%＋授業参加態度10%）を合算して評価する。
- *授業の性格上、講義を聞き、教師とコミュニケーションすることが大切です。

《テキスト》

講義の際に適宜資料を配布する。

《参考図書》

『よくわかるキリスト教』土井かおる著（PHP研究所）2004、
『ふしぎなキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011、
『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編（岩波書店）2002

《授業時間外学習》

- *その日の復習シートと質問（400字程度）をまとめ、次回の授業に提出する。用紙は授業ごとに配布する。
- *キリスト教の正典である聖書にふれておく。
- *配布資料が散在しないように整理しておく。
- *新聞・雑誌等でキリスト教に関する記事があれば目を通し、できればコメント付きのコピーを提出

《備考》

*授業進行は概ね授業計画に拠るが、学生の理解度やニーズに応じて変更していく。*携帯電話・メール使用、食事の禁止、遅刻20分以上＝欠席、20分以内の欠席×3回＝欠席とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	何のためにキリスト教について学ぶのか？講義の目的とシラバスの説明。履修学生のキリスト教との関わり、イメージについて問う。
2	国際問題と宗教1	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
3	国際問題と宗教2	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
4	聖書の世界観・人間観1	旧約聖書の物語を追いながら、ユダヤ・キリスト教の世界観・人間観を読み解いていく。
5	聖書の世界観・人間観2	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
6	聖書の世界観・人間観3	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
7	キリスト教の歴史1	イエスと彼の弟子たちによるキリスト教の成立からローマ帝国での国教化、東西教会の分裂とイスラム教との接触を概観する。
8	キリスト教の歴史2	宗教改革による旧教と新教の分裂、キリスト教会の変容・再編成、日本への伝道を世界的視野で概観する。
9	キリスト教の歴史3	近現代におけるキリスト教の歴史と変遷、位置づけについて学び、その影響について考える。レポートのテーマ中間発表。
10	キリスト教と文化・芸術	キリスト教と西洋の文化・芸術について概観し、それが非西洋、特に日本の文化・芸術とどのように交渉をもったのかについて学ぶ。レポートのテーマ中間発表。
11	キリスト教と国際人口移動1	大航海時代以降の歴史を、宗教改革とキリスト教伝道の観点から読み解き、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのテーマ中間発表。
12	キリスト教と国際人口移動2	19～20世紀の人口移動をキリスト教の観点から読み解き、日本人の海外移民も含めて、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのアウトライン発表。
13	キリスト教と日本	日本に伝わったキリスト教がどのような影響を与えたのかを時系列的に概観し、自分たちの生活とどう関係しているのかを考える。レポートのアウトライン発表。
14	キリスト教の現在	生命、ジェンダー、中絶、同性愛、戦争、環境問題など、現代社会が抱えている問題を取り上げ、キリスト教との関係で読み解き、考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことをふりかえり、キリスト教がどのような宗教であり、自分たちとどう関わっているか、また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理する。

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）		科目ナンバリング	SHUL11009
担当者氏名	重親 知左子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラム教徒)の数は約16億人、総人口の約1/4を占める。ムスリム訪日人数や国内のモスク(イスラムの礼拝所)も増加している。一方、海外で邦人がイスラム関連の事件等に遭遇する可能性も高まっている。この授業を通して、イスラムに関する基本的な内容を把握すると同時に、激動期に入ったイスラムをめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。VTRの視聴を通して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラムに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(70%)と、VTR視聴後に課すレポート(30%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、ハラール(イスラム的に合法)をめぐる内外の状況について考察する。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
14	国際理解とイスラム(3)	イスラムをめぐる昨今の問題を取り上げ、その原因を検証すると同時に今後の課題について総括する。
15	日本とイスラム	日本とイスラム圏の関係を、歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

店田廣文『イスラムを知る14 日本のモスク 滞日ムスリムの社会的活動』山川出版社、2015/辻上奈美江『イスラム世界のジェンダー秩序』明石書店、2014/内藤正典『イスラム戦争 中東崩壊と欧米の敗北』集英社、2015/『別冊歴史REAL イスラムと日本人』洋泉社、2015/『現代思想 2015年3月臨時増刊号 総特集◎ジャリド・アブドゥル・アジズ 襲撃/イスラム人質事件の衝撃』青土社、2015

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェックし、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムと接点を持つ(例:モスクやハラールショップ 見学など)。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	色彩とデザイン		科目ナンバリング	SHUL11010	
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-B 情報リテラシー (情報処理能力、情報収集・発信力) ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 			

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野に関する一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出は単位認定の必要条件になる。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

・出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。他の受講生に迷惑になる行為があった場合、座席の指定を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス:デザインの基礎	デザインの要素である「色」「かたち」「素材」について理解し、授業全体の流れについて理解する。
2	デザインの基礎(1):色①色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明する。
3	デザインの基礎(2):色②配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによって配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。
4	デザインの基礎(3):かたち	デザインのかたちについて、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。
5	デザインの基礎(4):素材	デザインの素材について、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。
6	デザインの基礎(5):デザインの歴史	近代以降のデザインの歴史について概観し、7回目以降の講義の流れを理解する。
7	デザインの各分野(1):グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。
8	デザインの各分野(2):家具	家具のデザインについて、歴史的な変遷に従い解説する。
9	デザインの各分野(3):建築	建築・インテリアを取り上げ、「もの」のデザイン、「空間」のデザインについて解説する。
10	デザインの各分野(4):ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、歴史的な変遷と社会の関わりについて解説する。
11	デザインの各分野(5):プロダクト	プロダクトデザインについて、主として携帯電話を例に、プロダクトデザインとマーケティングについて解説する。
12	デザインの各分野(6):工業デザイン	工業デザイン分野について、主として産業革命以降のデザインと自動車デザインの変遷から解説する。
13	デザインの各分野(7):都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について考察する。
14	デザインの各分野(8):映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。

科目名	法と社会		科目ナンバリング	SSOL21011	
担当者氏名	豊福 一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 			

《授業の概要》

現在の日本社会において生活するうえで、法との関わりは避けて通ることのできないものである。そこで、日常生活と密接に関係すると思われる法制度について、その概略を紹介し、基礎的な法律知識への理解を深める。民法に限らず、刑事事件など幅広く講義する予定。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活において目にしたり、耳にしたりする法律用語、あるいは遭遇した法律問題やトラブルにおいて、その最低限の意味を理解できるようになること。

《授業時間外学習》

予習は不要であるが、授業内容の性質上、講義を聞くことによって初めて知識を得ることができるので、積極的に出席するように。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出（100%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり	日本の法制度の概略について理解し、今後の授業の流れも理解する。
2	土地・建物の賃貸借契約	賃貸借契約の内容、土地や建物を賃貸借する際に決めておくべきことやその注意点について理解する。
3	クレジット・キャッシング	クレジットカードやキャッシュカードを利用した金銭のやり取りに関する法律関係について理解する。
4	住宅・自動車ローン①	住宅や自動車を購入する際に締結される売買契約とそれに関する法律関係、さらには不動産や自動車の登記・登録制度等について理解する。
5	住宅・自動車ローン②	住宅や自動車を購入する際に金融機関からお金を借りる場合の法律関係とその注意点等について理解する。
6	債務の整理・清算	負担した債務（ローン）の返済が困難になった場合のその清算方法について、私的整理・公的整理に分けてその制度について理解する。
7	刑事事件①	犯罪が発生し、その被疑者（容疑者）が逮捕された場合の刑事手続きの流れについて理解する。
8	刑事事件②	逮捕された被疑者（容疑者）が起訴された場合の刑事裁判手続きについて理解する。
9	婚姻・離婚	結婚・離婚する場合の法律関係、注意点、さらに養子縁組や離縁についても理解する。
10	相続	相続人の範囲や順位、相続割合、遺言の書き方等相続に関する一般的知識を理解する。
11	成年後見制度	自らの財産を自らの意思で管理することが困難になった場合の主として高齢者保護のための成年後見の制度の概略を理解する。
12	交通事故	交通事故に遭遇した場合、どのような損害が発生し、それをどの程度賠償する必要があるのか、交通事故に関する一般的知識を理解する。
13	各種保険制度	日常生活に馴染みの深い自動車保険・生命保険・傷害保険・火災保険等の一般的知識を理解する。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟とは別に日常生活で市民が利用できる民事訴訟制度についてその概略を理解する。
15	知的財産権	著作権・特許権・意匠権・商標権等知的財産権の種類とその内容について、概略を理解する。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	SSOL21012
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、定期試験期間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史	科目ナンバリング	SSOL21013
担当者氏名	岩本 智依		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20% (学期末の最終授業を締切に参考図書を課題としたレポート)

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社
 砂川秀樹・RYOJI 『カミングアウト・レターズ』太郎次郎社エディタス
 岩本孝樹 『「いのち」の保育——一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	人権の歴史とは①	人権の歴史を通して、人権の享有主体としての私たちのあり方を考える。
4	人権の歴史とは②	人権の歴史を通して、現代社会における人権の内容を学ぶ。
5	部落差別と現代社会①	部落差別とは何かをその歴史と部落史の発展の視点から学ぶ。
6	部落差別と現代社会②	「身元調査」を通して部落差別の現状と課題を学ぶ。
7	いのちと人権①	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権②	障害者差別禁止法と障がい者差別について学び、「差別の禁止」とは何かを考える。
9	いのちと人権③	尊厳死や生命倫理に関わる人権の歴史を通して、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
11	教育と差別	いじめや体罰など、教育や保育における人権的課題について学ぶ。また反差別の教育である「同和教育」について考える。
12	性差別と現代社会①	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会②	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会③	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

科目名	政治学	科目ナンバリング	SSOL21014
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にする事ができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
 他の参考文献は講義をすすめるながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	社会学	科目ナンバリング	SSOL21015
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵 (2013, 有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也 (2000, 日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的ものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会的道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

- 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。(配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
- 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。(配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組みようとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的ものの見方	社会学の成立、個人と社会について理解する
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者について理解する
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会について理解する
4	行為の分析 (3) スティグマ	スティグマ、レイバリング、パッシングについて理解する
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類(社会的カテゴリー)について理解する
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界について理解する
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイムについて理解する
8	学習の総まとめ (1)	「行為の分析」についてふりかえる
9	秩序の解説 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブについて理解する
10	秩序の解説 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持について理解する
11	秩序の解説 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織について理解する
12	秩序の解説 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団の平等、格差、格差社会、不平等、階級社会について理解する
13	社会の構想 (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーションについて理解する
14	社会の構想 (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズムについて理解する
15	学習の総まとめ (2)	「秩序の解説」「社会の構想」についてふりかえるについて理解する

科目名	経済学	科目ナンバリング	SSOL21016
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材（自習用）を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう (3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

科目名	化学	科目ナンバリング	SNAL21017
担当者氏名	阿部 真幸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《テキスト》

『コ・メディカル化学』
 齋藤勝裕、荒井貞夫、久保勘二 共著（裳華房）

《参考図書》

『あなたと化学』暮らしを支える化学
 齋藤勝裕 著（裳華房）

《授業の到達目標》

- 溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互いに変換できる。
- 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
- 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
- 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

《授業時間外学習》

- 授業前に、テキストの学習する範囲を読んでおくこと。
- 各自で演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

《成績評価の方法》

定期試験（80%）および授業中に行う小テスト（20%）により評価します。

《備考》

- 授業中分からないところが有れば、その都度、質問してください。
- 他の履修者に迷惑になる行動はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	化学で扱う数値 原子の構造	物理量と単位 原子の構造、原子の電子構造、周期表と元素
2	化学結合と分子	イオン結合、共有結合、結合の極性、水素結合
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、パーセント濃度、モル濃度
4	酸・塩基と酸化・還元	酸と塩基の定義、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、酸化と還元、酸化・還元反応
5	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法
6	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質、異性体と立体構造
7	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、酸化・還元反応
8	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応
9	糖質（1）	糖質の定義と分類、単糖類
10	糖質（2）	二糖類、多糖類
11	脂質（1）	単純脂質、複合脂質
12	脂質（2）	誘導脂質、生体膜
13	アミノ酸とタンパク質（1）	アミノ酸の種類と構造、（ポリ）ペプチド
14	アミノ酸とタンパク質（2）	タンパク質の立体構造、タンパク質の種類と機能
15	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能、ATP

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生物学	科目ナンバリング	SNAL21018
担当者氏名	佐藤 隆		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版（南雲保編、羊土社）

《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻（デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳）

《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

教科書をよく読んで、授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験（100%）により評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能
2	生命体を構成する物質①	アミノ酸、タンパク質、糖質
3	生命体を構成する物質②	脂質、核酸、ビタミン
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系
6	光合成	光合成の機構
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化
9	多細胞生物の自己維持機構①	細胞間情報伝達システム
10	多細胞生物の自己維持機構②	恒常性（ホメオスタシス）、生体防衛機構
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病
12	生態系①	生物と環境
13	生態系②	環境問題、動物の行動
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療

科目名	食と健康	科目ナンバリング	SNAL21019
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに食を中心とした消費生活全般における消費者力の向上を目指します。消費者問題の歴史とともに消費者教育の最前線で何が行われているか、多角的に提示します。国内外での実践事例や教材を紹介しますので、特にエシカル消費についての理解を深め、消費者市民社会の担い手としての基礎づくりとなることをまぎします。

《テキスト》

「くらしの豆知識2016年版」 国民生活センター

《参考図書》

「ハンドブック消費者」 消費者庁

《授業の到達目標》

- 消費生活、消費文化に関する基礎知識を習得することができる。
- 消費者市民教育の必要性と意義を理解することができる。
- エシカル消費（倫理的消費）について理解し、自らの生活を見つめなおし改善する能力を身につけることができる。

《授業時間外学習》

- ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《成績評価の方法》

課題レポート・提出物（50%）、定期試験（50%）

ただし、授業の出席回数が授業実施回数の3分の2以上に満たない場合には、定期試験の受験資格はありません（遅刻・早退3回は欠席1回とみなします）。

《備考》

- 授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。
- 課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	高等学校までの学びのふりかえり及び身近な消費生活の課題を整理することができる。
2	消費者教育の必要性	消費者の権利と消費者教育の必要性について学ぶ。
3	消費者市民社会とは	消費者市民社会（コンシューマーシチズンシップ）の定義と概要を説明できる。
4	消費者問題と歴史 1	不良品問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
5	消費者問題と歴史 2	食品偽装問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
6	消費者問題と歴史 3	食の安全・安心問題について過去や近年に発生した事件・事例より具体的に捉えることができる。
7	法から見た消費生活	近年の消費トラブルの特徴から消費者行政法と行政の対応、消費生活センターの業務を理解する。
8	企業から見る消費者教育	A C A Pの活動を中心に、消費者教育とコンプライアンス経営について理解する。
9	海外における消費者教育	ユニセフやA C Eの活動を通して海外における実情を理解することができる。
10	持続可能社会と消費者	持続可能社会の定義と必要性について主体的に考えることができる。
11	エシカル（倫理的）消費 1	エシカル消費の定義（フェアトレード、環境配慮型商品等）について概説できる。
12	エシカル（倫理的）消費 2	消費者教育実践例を学び、エシカル消費について理解を深めることができる。
13	エシカル（倫理的）消費 3	消費者教育教材を使って修得した知識について実感できる。
14	エシカル（倫理的）消費 4	エシカルコンシューマーについて主体的に考えることができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成し情報発信・情報交換ができる。

科目名	実用英語（初級）	科目ナンバリング	SLAS21020
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につけ、文法事項を再確認する。

《テキスト》

水本篤、Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC TEST Intro—レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』（桐原書店、2015年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1 Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法事項：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2 Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法事項：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3 People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法事項：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4 Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法事項：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5 Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法事項：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6 Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法事項：時制について理解を深める。
8	Unit 7 Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法事項：類語を整理する。
9	Unit 8 Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9 Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める①。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める②。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞 (to do) や動名詞 (~ing) について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法事項：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法事項：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	SLAS21022
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

科目名	中国語（中級）		科目ナンバリング	SLAS21023
担当者氏名	佟 曉寧			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）		科目ナンバリング	SLAS21024	
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、小テスト20%、期末テスト50%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
 『パスポート朝鮮語小事典』
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音②子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音③子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム（子音+母音の後に来る子音、支えろと意味）について勉強する。
6	文化項目（1）：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか（합니체）、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何か。	～です・ですかの(해요체)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習する。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語（中級）		科目ナンバリング	SLAS21025	
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、小テスト20%、期末テスト50%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
 『パスポート朝鮮語小事典』
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、「韓国語（初級）」を必ず受講してから「韓国語（中級）」を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	「韓国語（初級）」の学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞) について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)		科目ナンバリング	SPHL21026	
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。
 体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。
 健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達の科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《授業時間外学習》

<予習方法>
 下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
 <復習方法>
 学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)	科目ナンバリング	SPHL21026		
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1. 運動（トレーニング）、2. 栄養、3. 休養 の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1. 運動（トレーニング）、2. 栄養、3. 休養 の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出60%、期末の課題レポート20%、小テスト20%で評価します。出席回数が授業回数の2/3未満は評価対象外とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について3	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する（減量など）。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について1	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について2	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について3	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養（リカバリー）の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	科目ナンバリング	SPHL21027
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていきながら、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館)
『からだロジー入門』宮下充正(大修館)

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	科目ナンバリング	SPHL21028
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 <復習方法>
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

科目名	私のためのキャリア設計		科目ナンバリング	SCAL21029
担当者氏名	三上 嘉代子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 			

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら、体験的に社会が求める力について学ぶ。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房2012年

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《成績評価の方法》

平常点(授業への取組姿勢) 50%、各分野の学習後に課するレポート 50%

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー①	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー②	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて①	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて②	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する①	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する②	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する③	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える①	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える②	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える③	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備（自分を語るシート記入）、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表

平成 28（2016）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成28年度（2016年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	P S W	高等 学校 教諭 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)				平成28年度の 担当者	ページ				
				必修	選択				1年		2年				3年		4年	
									I	II	I	II			I	II	I	II
専 門 基 礎 科 目	生物基礎	SFFA21001	講義	2	2				2					[立谷 正樹]	103			
	人体の構造と機能及び疾病	SSPA11001	講義	2		○	◆		2					(長尾 光城)	104			
	心理学理論と心理的支援	SSPA11002	講義	2		○	◆		2					(北島 律之)	105			
	社会理論と社会システム	SSPA11003	講義	2		○	◆		2					吉原 恵子	106			
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	SSPA12001	講義	2		○	◇		2					竹内 一夫	107			
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	SSPA12002	講義	2		○	◇			2								
	介護概論	STTA22003	講義	2				△		2								
	法学	SFFA21004	講義	2					2					[塩見 佳也]	108			
	行政法	SFFA21005	講義	2					2					[塩見 佳也]	109			
	生涯発達心理学	SFFA21006	講義	2					2					原 志津	110			
	こころの基盤の理解	SFFA22005	講義	2						2								
	コミュニケーション論	SFFA22006	講義	2						2								
	社会心理学	SFFA22007	講義	2						2								
	態度の心理学	SFFA22008	講義	2							2							
教 育 科 目	基礎ゼミナールⅠ	SFFA11007	演習	4					4					吉原・牧田・原	111			
	基礎ゼミナールⅡ	SFFA11008	演習	2					2					吉原・牧田・原	112			
	現代社会と福祉Ⅰ	SSPB11009	講義	2		○	◇	△	2					牧田 満知子	113			
	現代社会と福祉Ⅱ	SSPB11010	講義	2		○	◇	△	2					牧田 満知子	114			
	社会保障論Ⅰ	SSPB12011	講義	2		○	◇			2								
	社会保障論Ⅱ	SSPB12012	講義	2		○	◇				2							
	社会調査の基礎	SSWB21011	講義	2		○			2					田端 和彦	115			
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	SSWB22013	講義	2		○		△		2								
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	SSWB22014	講義	2		○		△			2							
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	SSPB22015	講義	2		○	◇	△		2								
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	SSWB22016	講義	2		○		△		2								
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	SSPB12017	講義	2		○	◇				2							
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	SSPB13002	講義	2		○	◇					2						
	保健医療サービス	SSPB23003	講義	2		○	◇			2								
	医療ソーシャルワーク論	SFFB23011	講義	2							2							
	医療ソーシャルワーク演習	SFFB23012	演習									4						
	低所得者に対する支援と生活保護制度	SSPB22018	講義	2		○	◇				2							
	権利擁護と成年後見制度	SSPB22019	講義	2		●	◇				2							
	福祉行財政と福祉計画	SSPB23004	講義	2		○	◇					2						
	相談援助の理論と方法Ⅰ	SSPB12020	講義	4		○	◇	△			4							
	相談援助の理論と方法Ⅱ	SSPB13005	講義	4		○	◇	△				4						
	相談援助演習ⅠA	SSPB12021	演習	2		○	◇	△			2							
	相談援助演習ⅠB	SSPB23006	演習	4		○	◇					4						
	相談援助演習Ⅱ	SSPB23007	演習	4		○	◇	△					4					
	相談援助実習指導Ⅰ	SSWB21012	実習	1		○		△	2					田端 和彦・(稲富 恭)	116~117			
	相談援助実習指導Ⅱ	SSWB22022	実習	1		○		△		2								
	相談援助実習指導Ⅲ	SSWB23008	実習	1		○		△				2						
	相談援助基礎実習	SFFB22013	実習	2						2								
	相談援助実習	SSWB23009	実習	4		○		△				12						
	専門ゼミナールⅠ	SFFB13010	演習	2								2						
	専門ゼミナールⅡ	SFFB13011	演習	2									2					
	社会福祉特別演習	SSPB24001	演習	4									4					
	卒業演習	SFFB14004	演習	4										4				

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成28年度（2016年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	ナンバリング	授 業 方 法	単 位 数		社 会 福 祉 士	P S W	高 等 学 校 教 諭 福 祉	学 年 配 当 （ <small>数字は週当たり授業時間</small> ）				平 成 28 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ				
				必 修	選 択				1年		2年				3年		4年	
									I	II	I	II			I	II	I	II
専 門 基 盤 教 育 目 的	就労支援サービス	SSWC23012	講義	2		●						2						
	更生保護制度	SSWC24005	講義	1		●							1					
	福祉サービスの組織と経営	SSWC24006	講義	2		○								2				
	心理検査法	SFFC23013	講義	2									2					
	臨床心理学	SFFC23014	講義	2									2					
	統計学の基礎	SFCC22023	講義	2							2							
	加齢及び障害に関する理解	STTC23015	講義	2				△					2					
	人体の構造及び日常生活行動に関する理解	STTC23016	講義	2				△					2					
	福祉住環境論	SFCC21001	講義	2						2						(稲富 恭)	118	
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	SPSC22024	講義	2			◇			2								
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	SPSC22025	講義	2			◇			2								
	精神障害者の生活支援システム	SPSC23017	講義	2			◇					2						
	精神疾患とその治療Ⅰ	SPSC22026	講義	2			◇			2								
	精神疾患とその治療Ⅱ	SPSC22027	講義	2			◇			2								
	精神保健の課題と支援Ⅰ	SPSC23018	講義	2			◇					2						
	精神保健の課題と支援Ⅱ	SPSC23019	講義	2			◇					2						
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	SPSC22028	講義	2			◇			2								
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠA	SPSC23020	講義	2			◇					2						
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠB	SPSC23021	講義	2			◇					2						
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡA	SPSC23022	講義	2			◇					2						
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB	SPSC23023	講義	2			◇					2							
精神保健福祉援助演習(専門) A	SPSC23024	演習	2			◇						2						
精神保健福祉援助演習(専門) B	SPSC23025	演習	2			◇							2					
精神保健福祉援助実習指導	SPSC23026	実習	3			◇							6					
精神保健福祉援助実習	SPSC24009	実習	4			◇							12					
専 門 発 展 目 的	レクリエーションワーク	SFFD22028	講義	2					2						原 志津・[田島 栄文]	119		
	福祉レクリエーションⅠ	SFFD22029	講義	2						2								
	福祉レクリエーションⅡ	SFFD23027	講義	2							2							
	福祉レクリエーション演習ⅠA	SFFD22030	演習	2						2								
	福祉レクリエーション演習ⅠB	SFFD22032	演習	2							2							
	福祉レクリエーション演習Ⅱ	SFFD23028	演習	2								2						
	生活支援技術	SFFD22031	演習	2				△			2							
	病気の理解	SFFD23029	講義	2							2							
	ケアマネジメントⅠ	SFFD23001	講義	2							2							
	ケアマネジメントⅡ	SFFD23002	講義	2								2						
	在宅ケア論	SFFD23032	講義	2					▲				2					
	児童・高齢者・障害者の心理	SFFD21013	講義	2						2					原 志津	120		
教育心理学	STTD22032	講義	2					△			2							
国際福祉論	SFFD22033	講義	2								2							
仏教と社会福祉	SFFD22034	講義	2									2						
インターンシップ	SFFD24010	実習	4										12					

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士(PSW)国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成28年度（2016年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	P S W	高等 学校 教諭 福祉	学年配当（数字は週当たり授業時間）								担当者 平成28年度の 担当者	ページ	
				必修	選択				1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	STAL41001	講義		2			△	2									(古田 薫)	121
	教育原理	STAL41002	講義		2			△	2									(古田 薫)	122
	教育制度論	STAL42003	講義		2			△		2								(古田 薫)	123
	教育課程論	STAL42004	講義		2			△			2								
	福祉科教育法	STSW43001	講義		4			△				4							
	特別活動論	STAL42005	講義		2			△			2								
	教育方法・技術論	STAL42006	講義		2			△			2								
	生徒指導論	STAL42007	講義		2			△			2								
	進路指導論	STAL42009	講義		2			△				2							
	教育相談（含カウンセリング）	STAL41008	講義		2			△		2								原 志津	124
	事前・事後指導	STSW43002	演習		1			△					1						
	高等学校教育実習	STSW44003	実習		2			△						4					
	教職実践演習（高）	STSW44004	演習		2			△							2				

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士（PSW）国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士（PSW）国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、
日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、
指定の科目を履修すること。

科目名	生物基礎	科目ナンバリング	SFFA21001
担当者氏名	立谷 正樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）		

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の免疫系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能 細胞膜の性質	細胞は生物の基本単位。 細胞膜は半透膜・・・半透膜はどんな膜？
2	細胞をつくる物質	主役はタンパク質。 生体元素と生体を構成する化合物
3	酵素の機能と性質 体細胞分裂	酵素は働き者。生命現象と化学反応。 遺伝情報の分配。
4	小テスト 呼吸と光合成	生きるにはエネルギーがいる。 細胞がエネルギーを得る仕組み。
5	多様な生殖法 減数分裂	生物は寿命があるが、子孫を残す。生物はどのように増えるのか？ 染色体と遺伝子。遺伝的なバラエティーはどのようにして生まれるか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで。
7	遺伝Ⅰ メンデルの遺伝の法則	遺伝の基本的なしくみ。
8	遺伝Ⅱ 様々な遺伝・ヒトの遺伝	親の形質の伝わり方。 あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
9	小テスト 核酸の構造と複製	遺伝情報の複製のしくみ。
10	タンパク質の合成	遺伝子からタンパク質へ。転写と翻訳。
11	神経細胞と伝導・伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク。
12	小テスト 血液・肝臓・腎臓の働き	体内の物質の移動・循環。 ものを作り、貯え、分解する化学工場（肝臓）、そして排出する浄化装置（腎臓）。
13	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ。内分泌系で持続的な調節。 自律神経とホルモンの連携で体内環境を調節。
14	免疫系	体を外敵から守るしくみ。
15	アチーブメントテスト	学習の総括。評価。

《テキスト》

「新課程版 フォトサイエンス生物図録」
数研出版編集部編（数研出版）

《参考図書》

「タンパク質の一生——生命活動の舞台裏」
永田和宏（岩波新書）
「細胞のはたらきがわかる本」伊藤明夫（岩波ジュニア新書）
「DNAがわかる本」中内光昭（岩波ジュニア新書）
「カラー図説アメリカ版大学生物学教科書」全5巻
グレイグ・H・ヘラー他著（ブルーバックス）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	人体の構造と機能及び疾病		科目ナンバリング	SSPA11001	
担当者氏名	長尾 光城				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

医学とりわけ臨床医学の近年の進歩はめざましく、疾病構造やそれに伴う医療も変化している。そこで、社会福祉関係者にも人体の構造と機能及び疾病への幅広い専門的理解と必要な知識を学べるよう指導する。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病』（中央法規）

《参考図書》

①『新版 病気の地図帳』講談社（最新版）

《授業の到達目標》

授業終了時には、クライアントを支援する際に、疾病の特徴を理解し、疾病と生活との関連を考慮した支援を展開できるようになることを到達目標とする。

《授業時間外学習》

テキストの予習を心がけること。興味を持った医学関連の記事について自ら調べる習慣を持つこと。

《成績評価の方法》

授業態度（20%）
レポート課題（30%）
定期試験（50%）

《備考》

医学の入り口に立って、人体の構造、機能、疾病についての理解を深めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身体構造と心身の機能 1	部位名称について理解する。
2	身体構造と心身の機能 2	循環器・消化器系について学習する。
3	身体構造と心身の機能 3	神経内分泌・感覚器系について学習する
4	メタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームの診断基準および生活習慣について学習する。
5	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの診断基準及び予防について考える。
6	疾病の概要 1	生活習慣病－悪性腫瘍・脳血管疾患について学習する。
7	疾病の概要 2	生活習慣病－循環器・代謝疾患について学習する
8	疾病の概要 3	生活習慣病－呼吸・消化器・免疫・腎疾患について学習する。
9	疾病の概要 4	生活習慣病－泌尿器・整形外科・感覚器等疾患について学習
10	障がいの概要 1	感覚器・肢体・内部障がいについて学習する。
11	障がいの概要 2	知的・認知・精神等障がいについて学習する。
12	ドックと職場健診	職業と健康、健康診断について学習する。
13	感染症	感染症の治療と生活習慣について考える。
14	健康とはなにか	障がいを持っていても、持っていないでも健康に生活することの意義を考える。
15	生涯現役のすすめ	老いと健康について考え、生涯現役を過ごせるのか考える。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	心理学理論と心理的支援	科目ナンバリング	SSPA11002
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） 		

《授業の概要》

社会福祉領域で実践を行うためには、人間理解が欠かせません。本講義では共通教育科目「心理学」の基礎部分を確認しつつ、社会環境の中で生じる心の変化を学びます。特に、「対人交流」、「発達」、「ストレス」、「心理療法と見立て」に関する内容について中心的に解説します。

《テキスト》

「心理学理論と心理的支援—心理学」 [編集] 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規

《参考図書》

「図説心理学入門第2版」 齊藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《授業の到達目標》

- 共通教育科目「心理学」の基本テーマについて論じることができる。
- 対人交流、発達、ストレス、心理療法と見立てといった主要テーマについて、理解し説明できる。
- 社会福祉と心理学の関わりを説明できる。

《授業時間外学習》

・予習の方法 下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。どういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。
 ・復習の方法 授業中に整理するプリントを中心に復習してください。その際、用語の意味を理解し覚えてください。

《成績評価の方法》

筆記テスト60%
レポート・確認テスト等20%
受講態度 20%

《備考》

本科目は、共通教育科目「心理学」を修得後に受講することを奨めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	心理学の歴史と分野
2	心理学の基礎1	性格、感情
3	心理学の基礎2	欲求と動機づけ、感覚・知覚・認知
4	心理学の基礎3	学習・記憶、知能・創造性・思考
5	心理学の基礎4	知能・創造性・思考
6	人間環境と集団	社会的認知、集団、福祉現場とのかかわり
7	対人交流とコミュニケーション	コミュニケーションの特徴、自己表現の方法(アサーション)
8	発達の概念①	子どもの発達心理学とこころの発達心理学
9	発達の概念②	生涯発達心理学をめぐって
10	適応とストレス①	ストレスと身体、ストレスに関する心理学的理論
11	適応とストレス②	ストレスと性格、ストレスと心理的反応、ストレスからの回復
12	面接・見立て	ソーシャルワーカーの見立ての面接と様々な心理テストに関する知識
13	心理療法	ソーシャルワーカーの面接と様々な心理療法
14	脳と心	脳の働きと高次脳機能障害
15	まとめ	全体のふりかえり

科目名	社会理論と社会システム		科目ナンバリング	SSPA11003	
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） 				

《授業の概要》

本講義は、ソーシャルワークの基本となる「人・社会・生活と福祉の理解」のうち社会理論と社会システムについて学習する。現代社会における個人と社会の関係について、社会理論に関する専門用語によって、体系的に理解するとともに、社会的現実や実態について科学的手続きによってアプローチができるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会理論と社会システム』社会福祉士養成講座編集委員会〔新・社会福祉士養成講座3〕（2014, 中央法規出版）

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000, 日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学の理論における専門用語を習得して、現代社会の特徴を説明できる。
- (2) 人々の「生活」を構成する要素について体系的に学び、説明できる。
- (3) 社会問題について批判的に捉えるだけでなく、自分なりの考えをまとめて発表できる。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りのためファイリングして活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

- ミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）
- 学習のまとめにより学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする。（意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学的ものの見方	社会学の成立、社会学とは何か、個人と社会、社会学と社会福祉について理解する
2	現代社会の理解 (1) 社会システム	社会システム、社会指標、国民生活指標、新国民生活指標と行政評価、社会階層と社会移動について理解する
3	現代社会の理解 (2) 法とシステム	法の疎遠性、法の普遍性、法の不変性、開かれた法□□について理解する
4	現代社会の理解 (3) 経済と社会システム	交換と市場、市場における力の不均衡、市場の社会性と外部、労働市場と格差、経済の社会的制御について理解する
5	現代社会の理解 (4) 社会変動	社会変動、近代化、産業社会の発展、グローバル化について理解する
6	現代社会の理解 (5) 人口からみた社会変動	人口、人口転換、少子高齢化、人口の地理的分布について理解する
7	生活の理解 (1) 生活のとらえ方	生活構造の概念、ライフステージ、生活時間、生活様式、消費、生活の質について理解する
8	生活の理解 (2) 家族	家族の概念、家族の変容、家族の構造と形態、家族の機能、ジェンダーの視点、福祉国家と家族について理解する
9	生活の理解 (3) 地域	地域の概念、地域社会の集団・組織、都市化と過疎化、地域のグローバル化とエスニシティについて理解する
10	人と社会の関係 (1) 社会的行為と社会的役割	マイクロ-マクロリンク、社会的行為、秩序問題、自己と他者、役割と地位について理解する
11	人と社会の関係 (2) 社会集団と組織	社会集団の概念、集団の諸類型、集団のメカニズム、組織の概念、官僚制的組織について理解する
12	人と社会の関係 (3) 社会的ジレンマ	囚人のジレンマ、共有地の悲劇、社会的ジレンマについて理解する
13	人と社会の関係 (4) 社会関係資本・連帯	近代化と社会的連帯、社会関係資本の理論、社会的排除について理解する
14	社会問題の理解 (1) 日本社会と社会問題	社会問題の構築、新しい社会問題、転換期の社会問題、共生社会と権利、人権・生存権・社会権、社会運動、ネットワーキングについて理解する
15	学習のまとめ	学習内容をふりかえり、専門用語や理論の体系と関連性を確認する

科目名	相談援助の基盤と専門職 I		科目ナンバリング	SSPA12001	
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

社会福祉の実践方法であるソーシャルワーク実践に不可欠な価値、態度、基本理念を理解することが本講義の目的である。Ⅰ期では、ソーシャルワーク援助の原点、現在までの発展過程を学び、そこから相談援助に不可欠な専門職としての価値、実践原理、利用者の人権擁護について、教科書に基づき学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 第3版 新社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2015

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7「相談援助の理論と方法Ⅰ」 新社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版、2015

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論が理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉に関わる専門職	社会福祉士、精神保健福祉士の法律における位置づけと専門性を検討するが、同時に現代社会における期待と養成における問題点について検討する。
2	現代社会で生きるということ	現代社会での生活にみられる問題点と病理を検討する。また、地域社会の教育力、介護力、保育力の現状を検討し、福祉社会への移行のための課題について検討を加える。
3	ソーシャルワークとはなに？	現代社会におけるソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの諸定義について検討する。
4	ソーシャルワークを構成する要素とは	ソーシャルワーク援助を構成する、クライアント、ワーカー、ターゲット、アクションの各システムと、援助者の価値、態度について検討する。
5	ソーシャルワークの歴史 ① 前史	社会福祉確立までの歴史、特に相互扶助から慈善・博愛事業を中心に検討を加える。
6	ソーシャルワークの歴史 ② 基礎の確立	専門的援助技術の確立への取り組みの中で、特にCOS運動が、近代ソーシャルワーク援助に貢献した個別記録と教育について検討する。
7	ソーシャルワークの歴史 ③ 援助技術の確立	診断主義モデル、機能主義モデル、問題解決モデル、心理社会モデル、生態学モデル、生活モデルなど、現在に至るまでの各モデルの特徴を検討する。
8	ソーシャルワークの歴史 ④ 統合モデルの検討	利用者援助における複数の援助技術の必要性を検討するとともに、サービスを統合するケアマネジメントにも言及する。
9	ソーシャルワークの歴史 ⑤ グループの援助	グループを対象とし、グループメンバーの相互作用を活用した援助の歴史とグループワークの援助モデルについて言及する。
10	ソーシャルワークの援助 ⑥ 地域援助	コミュニティデベロプメントから、コミュニティーオーガニゼーション、そしてコミュニティワークへの変遷について検討する。
11	ソーシャルワーク実践と価値	ウェルフェアから、ウェルビーイングへと社会福祉の援助目標が変化したなかで、社会福祉に携わるソーシャルワーカーの価値はどのような変化したのかを検討する。
12	ソーシャルワーク実践と権利擁護	権利擁護とは、なぜ今権利擁護が必要とされるのか、我々専門職の目指す方向はどこかを検討する。エンパワメントの必要性についても検討する
13	ノーマライゼーションとは①ミクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションとは、その目的と、その援助方法とはについて検討する。まず個人のレベルを扱う。
14	ノーマライゼーションとは②メゾレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションであるが、ここでは地域社会でのノーマライゼーションの展開を扱う
15	ノーマライゼーションとは③マクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つは、ノーマライゼーションであるが、ここでは法律、社会制度でのノーマライゼーションの展開を扱う。

科目名	法学	科目ナンバリング	SFFA21004
担当者氏名	塩見 佳也		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）		

《授業の概要》

この授業では日常で用いる様々な契約についてその意味と効果を理解する。契約の法的責任を知ることは自分の身を守るためだけでなく、社会福祉士の大切な仕事である成年後見活動を理解するために不可欠である。また事故による損害賠償、結婚や離婚、親子関係や相続など家族に関する法の基本的な考え方を学ぶ。社会福祉士の活動や国家試験に必要な知識について、条文と具体的なケースをつなぐ思考回路を訓練する。

《授業の到達目標》

・社会福祉士試験に出題される法律問題を理解して解くことができる
 ・契約に関する仕組み・法的責任について理解することができる
 ・成年後見制度の基本となる法的考え方を理解することができる
 ・不動産売買に関する基本的な法的考え方を理解することができる
 ・損害賠償に関する基本的な法的考え方を理解することができる
 ・親子や夫婦関係、相続に関する基本的な法的考え方を理解することができる

《成績評価の方法》

- ・受講態度（10%）
- ・授業中の課題（20%）
- ・試験（70%）

《テキスト》

久塚純一，森田慎二郎，長沼建一郎『医療・福祉を学ぶ人のための法学入門』（行政法と共通）

《参考図書》

- ・新社会福祉士養成講座『11 社会福祉サービスの組織と運営』・新社会福祉士養成講座『19 権利擁護と成年後見』・伊藤真『ファーストトラック 民法』
- ・伊藤真『民法入門』・野村豊弘『民事法入門』・伊藤真『刑法入門』・池田真朗『プレステップ 法学』

《授業時間外学習》

- ・プリントでは図解やイラストを用いるが、それらが法律の条文の抽象的な言葉とつながってゆくように、プリントを見ながら条文を口に出して何度も読んで予習復習をすること
- ・プリントは教科書を自分で読めるようにするための基礎知識や具体例をかみ砕くものである。教科書の文章をプリントの図や具体例を使って、かみ砕いて（友人に）説明してみることに

《備考》

社会福祉制度の基礎を理解するには行政法を併せて受講してください。行政法の理解には法律の知識が不可欠です。併せて、日本国憲法も受講してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは？（ガイダンス）	①さまざまな「規範」、法と道徳の相違と関連 ②法的責任の全体像 ③三権分立
2	トラブルと法	①刑事事件 ②民事事件 ③行政による紛争処理 ④裁判の仕組み（全体像）
3	犯罪と刑罰	①犯罪とは ②医療事故 ③妊娠中絶や脳死 ④未成年者の犯罪 ⑤逮捕→起訴→裁判→判決→刑罰 ⑥刑罰の種類
4	社会福祉と契約	①措置から契約へ ②契約による権利義務の強制的実現方法 ③成年後見とは？
5	民法の全体像	①法における「人」（法人、代理） ②債権の発生原因
6	契約の種類（1）買う	①全体像 ②売買 ③売買契約に伴う様々な権利義務の関係
7	契約の種類（2）契約をやめる	①様々な「キャンセル」 ②取消 ③無効 ④消費者契約法と特定商取引法（クーリングオフ）
8	契約の種類（3）仕事をする	①雇用契約と労働基準法 ②請負 ③委任・準委任
9	仕事の種類（4）借りる	①賃貸借契約と借地借家法 ②借金（金銭消費貸借契約）と「過払い金」
10	契約の成立時に問題がある場合（1）	①全体像 ②未成年者 ③成年後見制度と代理人 ④契約の内容上の問題
11	契約の成立時に問題がある場合（2）	①取消と無効 ②追認 ③無効の後の後始末（不当利得返還請求債権） ④不法原因給付
12	不動産と法	①物権とは？ ②動産の売買との相違 ③登記 ④担保物権とは？
13	損害賠償（1）	①全体像 ②瑕疵担保責任 ③危険負担 ④債務不履行 ⑤不法行為損害賠償
14	損害賠償（2）	①交通事故 ②安全配慮義務・説明義務違反に基づく損害賠償と不法行為損害賠償
15	家族と法	①親族 ②親子関係 ③結婚と離婚 ④相続

科目名	行政法	科目ナンバリング	SFFA21005
担当者氏名	塩見 佳也		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）		

《授業の概要》

社会福祉は法令と行政機関の活動を通じて実施される。この授業は社会福祉実施体制の基本となる、行政組織・行政活動の法的構造、そして行政活動の誤りを是正する裁判所等の活動（行政救済法）、行政の個人情報管理の仕組みを学ぶ。これらは、社会福祉士国家試験問題の必須知識であり、二年時以降の学習に共通する基盤であるのみならず、社会福祉に関する行政活動の全体像を理解する。

《授業の到達目標》

①行政組織の概要を理解する②法律と行政活動の関係を理解する③行政処分・行政裁量と行政手続法を具体的例とともに理解する④行政による強制的措置を理解する⑤行政不服審査法・行政事件訴訟法による救済の仕組みを理解する⑥国家賠償法と損失補償の意味と具体例を理解する⑦情報公開法・個人情報保護法とその具体例を理解する

《成績評価の方法》

- ①授業中の小テスト（20%）
- ②定期試験（70%）
- ③授業態度（特に授業中の迷惑行為は減点する）

《テキスト》

久塚純一，森田慎二郎，長沼建一郎『医療・福祉を学ぶ人のための法学入門』（法学と共通）

《参考図書》

- ・伊藤真『行政法入門』
- ・『判例ライン 行政法』
- ・芝池義一『判例 行政法入門』
- ・新社会福祉士養成講座『12 社会保障』
- ・新社会福祉士養成講座『17 保健医療サービス』
- ・新社会福祉士養成講座『21 資料編』

《授業時間外学習》

・図解と言葉を結びつけることができるように、教科書や法律の条文の専門的な言葉を、あたかも外国語を学習するように、意味を確認しながら何度も口にしてみる。・友人に専門的な言葉や図を専門用語を用いて説明する練習をすること。・法の基本概念と具体的制度を関連付けるよう予習復習すること

《備考》

・二年時以降で学習する教科書を参照する必要があるが、試験対策などでその都度何度も確認し、全体像と具体的な制度とのつながりをつなぐ回路を頭の中に作っててください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法25条と行政（ガイドダンス）	①憲法25条と行政 ②朝日訴訟 ③医療・社会福祉と行政 ④この授業で学習する事項の全体像と流れ
2	行政と強制	①行政刑罰と刑事罰の関係 ②行政代執行 ③警察活動 ④精神病院への強制入院
3	行政組織（1）国の行政組織	①行政権と内閣 ②国家行政組織法 ③厚生労働省と・医療・社会福祉行政
4	行政組織（2）行政立法	①法令とは？ ②法規命令 ③行政規則 ④法律との関係（法律による行政の原理）
5	行政組織（3）地方公共団体と条例	①国と地方の関係 ②地方公共団体 ③条例 ④地方議会 ⑤地方分権とは？
6	行政による侵害処分と授益処分	①まちづくりと都市 ②食品安全と営業 ③生活保護・年金 ④病院をめぐる行政
7	行政手続法と行政活動	①申請と処分 ②届出 ③行政指導 ④行政手続法制定前の裁判例 ⑤不利益処分と行政の事前手続
8	行政行為の全体像	①行政行為とは ②行政行為の効果と「公定力」 ③行政行為の内容に問題がある場合（取消と無効）
9	行政裁量の意義とその誤りからの市民の保護	①行政行為と行政裁量の分類 ②行政行為の無効と取消 ③行政処分の撤回 ④裁判例
10	行政救済法の概要	①行政不服審査法と行政事件訴訟法の概要 ②国家賠償法の概要 ③損失補償と土地収用
11	行政不服審査法と社会福祉	①不服申立制度 ②国民年金法・健康保険法・介護保険法と社会保険審査会
12	行政事件訴訟法（1）	①社会福祉における取消訴訟の働き ②裁判をするうえでの資格（訴訟要件）
13	行政事件訴訟法（2）	①社会福祉における義務付け訴訟 ②様々な裁判例
14	国家賠償法	①対象 ②民法の使用責任（民715条）との関係 ③取消訴訟との関係
15	情報公開法と個人情報保護法	①個人情報とは？ ②医療・社会福祉

科目名	生涯発達心理学		科目ナンバリング	SFFA21006	
担当者氏名	原 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 			

《授業の概要》

従来の「発達心理学」は、乳幼児期から青年期までをその領域としていたが、近年の人の長寿化傾向と高齢化社会を背景に、成人期から高齢期までを含む「生涯発達心理学」として考えられるようになってきた。この授業では、人間の誕生前後から死に至るまでの一生涯を対象とし、人は一生発達し・成熟していくという存在であるということを様々な教材を用いて考えていきたい。

《テキスト》

「老いる」とはどのようなことか 河合隼雄 講談社+α文庫（本体640円）

《参考図書》

授業中に随時紹介する

《授業の到達目標》

発達心理学や生涯発達心理学で用いられる基礎的な用語について説明できる。
 発達段階ごとの発達課題や発達段階の問題について説明できる。
 自分自身を生涯発達する者として認識し、向上しようとする意欲が持てる。また出会う人に対しても、そのような意識をもって尊重し、その方の可能性を見いだせるような視点を持てる。

《授業時間外学習》

人生に関する新聞記事などの印刷物を目にしたらメモしておく。終末期を考える講演会などに積極的に参加し最新の生涯福祉の情報を得て今後活かせるように学ぶ。

《成績評価の方法》

受講態度 30%
 日常のレポート 20%
 授業最終日のまとめ 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	生涯発達心理学の考え方を知る
2	胎児期・新生児期	ヒトとしての発達は、胎内にいる時から始まっているのか、ということを考える
3	乳児期	乳児が「泣く」ことと母親との相互関係について学ぶ
4	幼児期	幼児期に獲得する力・社会性の発達について知る
5	児童期	児童期に獲得する力を知る
6	青年期①	思春期について知る
7	青年期②	アイデンティティの統合について考える
8	成人期①	他者と社会との関わりについて知る
9	成人期②	一人前になること（パートナーとの関係・仕事・子育て）について考える
10	中年期①	中年期の危機について知る
11	中年期②	『人生の後半からの心理学』ユングの心理学について知る
12	高齢期①	時計の時間とこころの時間について考える
13	高齢期②	高齢者の知恵をどのように発揮するか考える
14	生涯発達心理学	死に至るまでの限りある生をいかに生きるか・自己実現について考える
15	生涯発達心理学のまとめ	全体のふり返しを行う

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	基礎ゼミナール I		科目ナンバリング	SFFA11007
担当者氏名	吉原 恵子、牧田 満知子、原 志津			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） <input checked="" type="radio"/> 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） <input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） <input type="radio"/> 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）			

《授業の概要》

本演習は、大学ではじめて学ぶ者が、(1)学ぶ空間であるキャンパスにできるだけ早く慣れ、(2)大学の授業を受けるための基礎的学習スキルを身につけ、(3)4年間の見通しをもって専門教育への準備ができるようになること、また、学生生活を自分自身で設計できるようになることを目的としている。この演習は少人数で構成され、相互に交流をはかりながら、個々人の能力を開発し発揮することをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 大学生活に慣れる
- (2) 大学での学び方を身につける
- (3) 大学生に必要な学習スキルを習得する
- (4) 4年間の学習方針を明確にする
- (5) 社会福祉分野における基礎的知識を習得する

《成績評価の方法》

・授業への参加態度およびグループ活動への参加（配点：意欲・関心、協力性20点）
 ・課題、提出物（配点：知識とスキルの獲得度80点）
 ・課題提出が遅れた場合は減点対象とする。

《テキスト》

なし

《参考図書》

『スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための25のスキル』吉原恵子・間渕泰尚・富江英俊・小針誠（2011、実教出版）『知へのステップ（改訂版）』学習技術研究会編（2007、くろしお出版）『プラクティカル・プレゼンテーションスキル』上村和美・内田充美（2005、くろしお出版）『大学生の学び・入門』溝上慎一（2006、有斐閣アルマ）

《授業時間外学習》

ほぼ毎回課題が出されるので、提出要領にしたがい、指定期日・提出場所を守って提出すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション(1)	1. アイスブレイクを行う 2. チューター制度、シラバス、履修登録について理解する
2	オリエンテーション(2)	講義の受け方、ノートテイキング、予習復習の方法等、学習方法について確認する
3	オリエンテーション(3)	図書館、学習支援センター等の学習をサポートする施設について理解する
4	オリエンテーション(4)	社会福祉学科の専門分野について理解し、担当教員との懇談を行う
5	大学の理解(1)	1. 兵庫大学の施設について理解する 2. バリアフリーの基礎について理解し、学内バリアフリー調査を計画する
6	大学の理解(2)	調査計画に従いグループ毎に学内バリアフリー調査を実施する
7	大学の理解(3)	1. ポスターセッションの技法について理解する 2. グループ毎に学内バリアフリーマップを作成する
8	大学の理解(4) ビブリオバトル(1)	1. 学内バリアフリーマップのプレゼンテーション・評価を行う 2. ビブリオバトルの意義・課題・方法について説明を行う
9	作文技法とレポートの作成(1)	1. 作文技法の基礎について理解する 2. 短いレポートの作成を行い、理解度について確認する
10	作文技法とレポートの作成(2)	1. 報告書の書き方について理解する 2. 模擬事例を基にした実習報告書の作成を行う。
11	作文技法とレポートの作成(3)	(レポート作成テスト)与えられた課題と情報に基づき、授業時間内にレポートを完成させる
12	ビブリオバトル(2)	各グループ毎にビブリオバトルを行い、発表に対するディスカッション・評価を行う
13	ビブリオバトル(3)	全体でのビブリオバトルを実施し、発表に対するディスカッション・評価を行う
14	夏期ボランティアの準備とI期のまとめ	1. (小テスト)I期のまとめとして小テストを実施する 2. 夏期ボランティアのガイダンスを行う
15	夏期ボランティア	高齢者施設、知的障害者施設でのボランティア実習を行う(※授業開講日変更予定)

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	基礎ゼミナールⅡ		科目ナンバリング	SFFA11008
担当者氏名	吉原 恵子、牧田 満知子、原 志津			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）			

《授業の概要》

I 期に引き続き、学習スキルの習得を基本とするが、半期を通じて地域コミュニティをテーマとする具体的な課題に取り組み、より実践的な能力を身につける。こうした学習を通して、福祉を学ぶ者に必要な汎用的能力を養う。

《授業の到達目標》

- (1) グループワークによって地域コミュニティの課題に取り組み、理解力、分析力、問題解決能力を身につける
- (2) 基礎的なプレゼンテーション能力を習得する
- (3) ボランティアを通して福祉サービスの利用者について理解する
- (4) 大学生に求められる学習スキルを習得する

《成績評価の方法》

- ・ 授業への参加態度およびグループにおける活動への参加（配点：意欲・関心、協力性30点）
- ・ 課題、提出物（配点：知識とスキルの獲得度70点）
- ・ 課題提出が遅れた場合には、減点対象とする。

《テキスト》

なし

《参考図書》

『スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための25のスキル』吉原恵子・間渕泰尚・富江英俊・小針誠（2011, 実教出版）
 『知へのステップ（改訂版）』学習技術研究会編（2007, くろしお出版）
 『大学生の学び・入門』溝上慎一（2006, 有斐閣アルマ）

《授業時間外学習》

ほぼ毎回課題が出されるので、提出要領にしたがい、指定期日・提出場所を守って提出すること。また、グループ活動については、グループごとの時間管理、役割分担、共同作業について、記録を取り担当教員へ提出すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 夏期ボランティアの反省	1. II期のガイダンスを行う 2. 夏期ボランティア報告書の発表、反省を行う
2	コンピュータを利用した情報処理(1)	インターネットを利用した情報の収集、アプリケーションソフトを用いた文書作成、統計処理、プレゼンテーションといった一連の流れについて理解する
3	コンピュータを利用した情報処理(2)	(情報処理小テスト)情報処理に関する小テスト実施する。授業時間内に、与えられた課題に対する情報の収集、統計処理、レポート作成を行う
4	アンケートの作成の基礎	地域調査を前提としたアンケート作成の基礎について理解する
5	地域の理解(1)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
6	地域の理解(2)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
7	地域の理解(3)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
8	地域の理解(4)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
9	地域の理解(5)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
10	地域の理解(6)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
11	地域の理解(7)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
12	基礎ゼミナール成果発表会	基礎ゼミナールの成果を学外で発表する(※授業開講日変更予定)
13	基礎ゼミナール成果発表会の反省	基礎ゼミナール成果発表会の反省と報告書の作成を行う
14	1年のまとめ	1. (小テスト)II期のまとめとして小テストを実施する 2. 1年間の学習成果について確認し、次年度への対応を検討する
15	秋期/冬期ボランティア	知的障害者通所授産施設でのボランティアを行う(※授業開講日変更予定)

科目名	現代社会と福祉 I	科目ナンバリング	SSPB11009
担当者氏名	牧田 満知子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 		

《授業の概要》

本講義では、社会福祉の理念、理論を中心に、社会福祉の形成過程を学ぶ。さらに社会福祉の制度、構造および機能についての理解を深め、さまざまな社会問題を、資料やデータ等に基づいて考察する力を養う。適宜史料や新聞記事、またVHSやDVDなどの視聴覚教材を用い、受講生が知的好奇心を持って論理的、批判的、かつ総合的な視点から社会問題を分析し、議論し、結論へと導いていくことが出来るよう指導する。

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉の理念、理論を理解し説明できる。
- (2) 福祉政策、法体系、およびその制度の運用を理解し説明できる。
- (3) 社会福祉問題を総合的視点に立って論理的に分析し、批判的に思考し、自分なりの解決策を提示することができる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果 (20%)
- (2) レポート課題等の提出物 (30%)
- (3) 定期試験 (50%)

《テキスト》

『現代社会と福祉』新・社会福祉士養成講座（4）、中央法規出版

《参考図書》

『福祉小六法』ミネルヴァ書房編

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。
- (2) 復習：自ら授業内容の再確認を行うこと。理解が十分でない項目などに関しては、積極的に担当者に質問し、毎回の授業を確実なものにしていく努力が望まれる。授業では適宜、観連図書などの紹介も行う。

《備考》

毎日、新聞の社会欄に目を通すこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	1年の講義の全体の紹介、講義計画、受講方法（予習・復習、H.Wなど）、社会福祉に関わる基本文献の紹介などを行う。
2	社会福祉の概念 (1)	社会福祉を学ぶことの意義、概要を理解する。
3	社会福祉の概念 (2)	社会福祉政策のシステム、構造を理解する。
4	社会福祉の理論 (1)	社会福祉の基礎理論を理解する。
5	社会福祉の理論 (2)	日本の社会福祉の理念（孝橋、岡本）思想家（石井、片山ら）の社会福祉思想を理解する。
6	社会福祉の理念 (1)	生存権、Q.O.Lなどの基本的人権に関わる社会福祉理念を学ぶ。
7	社会福祉の理念 (2)	ソーシャル・インクルージョン、普遍主義と選別主義など、現代社会における福祉理念を学ぶ。
8	日本の社会福祉の歴史 (1)	福祉概念の発祥と近代へと続く展開過程を把握し、日本の社会福祉の構造を理解する。
9	日本の社会福祉の歴史 (2)	現代の社会福祉のさまざまな政策が生み出される背景としての歴史を把握する。
10	諸外国の社会福祉の歴史	英国の社会福祉の歴史を把握し、貧困救済と防貧の考え方の展開過程を理解する。
11	社会福祉の思想と哲学 (1)	市場の論理と倫理、市場的分配の倫理、市場の失敗等について事例をもとに考察し理解を深める。
12	社会福祉の思想と哲学 (2)	J. ロールズ（ベーシック・インカム論）、A. セン（潜在能力理論）について事例をもとに考察し理解を深める。
13	社会福祉の法と制度 (1)	社会福祉の法制度に理解する。社会福祉六法、社会福祉法について理解する。
14	社会福祉の法と制度 (2)	社会福祉に関連する法について理解する。
15	I期のまとめ	I期のまとめ。質疑応答によって理解を確実なものとする。

科目名	現代社会と福祉Ⅱ		科目ナンバリング	SSPB11010	
担当者氏名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 			

《授業の概要》

本講義では、社会福祉の理念、理論を中心に、社会福祉の形成過程を学ぶ。さらに社会福祉の制度、構造および機能についての理解を深め、さまざまな社会問題を、資料やデータ等に基づいて考察する力を養う。適宜史料や新聞記事、またVHSやDVDなどの視聴覚教材を用い、受講生が知的好奇心を持って論理的、批判的、かつ総合的な視点から社会問題を分析し、議論し、結論へと導いていくことが出来るよう指導する。

《テキスト》

『現代社会と福祉』新・社会福祉士養成講座（4）、中央法規出版

《参考図書》

『福祉小六法』ミネルヴァ書房編

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉の理念、理論、歴史を理解し、説明できる。
- (2) 社会福祉政策、法体系、福祉制度、福祉サービスを理解し、その連携および運用について説明できる。
- (3) 社会福祉問題を総合的視点に立って論理的に分析し、批判的に思考し、自ら解決策を提示する事ができる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。
- (2) 復習：自ら授業内容の再確認を行うこと。理解が十分でない項目等に関しての積極的な質問は歓迎する。研究室で個別に対応する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果（20%）
- (2) レポート課題等の提出物（30%）
- (3) 定期試験（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ニーズと資源（1）	福祉におけるニーズを学ぶ。ブラッドショー、三浦らのニーズ論を、事例問題を読み解きながら理解を深める。
2	ニーズと資源（2）	さまざまな社会資源と、その連携、運用について理解する。
3	福祉政策と社会問題（1）	少子高齢社会の現状をデータ、統計等で把握し、過疎、限界集落の問題などについて学び、理解を深める。
4	福祉政策と社会問題（2）	生活保護の問題を扱う。資料などを手掛かりに保護行政についての理解を深める。適宜VHSやDVDで現状理解の補足をする。
5	福祉政策と社会問題（3）	外部講師を招き、あいりん地区の歴史、西成特区の課題、ホームレス問題などについて、現状をお話しいただく。受講生とともに議論を深め、解決策を模索する。
6	福祉政策と社会問題（4）	児童養護施設、児童手当などの子どもの育成に関わる諸問題を考える。適宜VHSやDVDで現状理解の補足をする。
7	福祉政策と社会問題（5）	障害者虐待防止法を中心に、障害者の地域での受け入れ、就労支援について理解を深める。適宜VHSやDVDで現状理解の補足をする。
8	福祉政策の論点（1）	効率性、公平性、社会正義について事例問題を読み説きながら理解を深める。
9	福祉政策の論点（2）	福祉に関わる「ジェンダー・バイアス」の問題を、事例問題を読み説きながら理解を深める。
10	福祉政策の論点（3）	社会的排除、社会的包含について考察を深める。適宜VHSやDVDで現状理解の補足をする。
11	国際社会と福祉問題（1）	ユニセフ、世界銀行、JICAなどの活動を通して、開発途上国における福祉問題を理解する。適宜VHSやDVDで現状理解の補足をする。
12	国際社会と福祉問題（2）	移動する介護労働力（外国人看護師・介護福祉士）の問題を理解し、日本が直面する課題を議論する。
13	福祉供給と経済（1）	雇用と格差社会の問題について理解を深める。適宜VHSやDVDで現状理解の補足をする。
14	福祉供給と経済（2）	近代経済学（ケインズ）の視点から、福祉の財政問題について考察する。内部講師を招き、基本的な近代経済学理論を教授していただき、理解を深める。
15	Ⅱ期まとめ	Ⅱ期のまとめ。質疑応答によって、理解をより確実なものにする。

科目名	社会調査の基礎		科目ナンバリング	SSWB21011	
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）				

《授業の概要》

社会調査の意義と歴史を学びます。量的な調査方法ではアンケート調査の一連の手続き、そしてデータを整理しそこから社会的事象を見出すための統計的な知識を身につけます。質的な調査方法では、観察、インタビューの方法、その分析の方法を学びます。個人情報保護など、社会調査を行う上での注意事項についても理解します。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規

《参考図書》

授業内で指示します。

《授業の到達目標》

アンケート、取材、観察などソーシャルワークに必要な社会調査の手法を身に付けることができます。公表された統計表、アンケート調査の結果、また集めたデータを整理して示し、社会事象を読み取るために統計に関する基礎的な知識を身につけます。これらを通し、地域社会での社会的弱者のおかれた総合的な状況を理解することができます。

《授業時間外学習》

事前にテキストの指示する部分を読んでおいてください。宿題を課すことがありますので、それを行ってください。授業の実施に必要です。

《成績評価の方法》

定期試験により評価を行います（80%）。このほか授業態度も評価に含めます（20%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス／社会科学と社会調査	社会福祉分野で社会調査が必要な背景や社会科学と社会調査、社会福祉の関係を学びます。
2	社会調査の歴史①	イギリスのブースの貧困調査など社会調査の歴史とその役割を振り返り社会福祉での位置づけを理解します。
3	社会調査の歴史②	シカゴ学派による社会調査やフィッシャーによる推計学の導入、優生学につながる悲劇など、社会調査を取り巻く近代の歴史を理解します。
4	統計法と統計制度	国家と統計の関係から、民主的な公的統計のあり方を学びます。日本の統計制度を統計法をもとに解説をし、社会福祉に必要な統計について学びます。
5	量的調査と質的調査	公的統計調査やアンケート調査など量的調査と観察など質的調査の違い、また横断的調査、縦断的調査など調査の考え方の基本を学びます。
6	母集団と標本集団	アンケート調査に必要な集団の考え方を理解し、母集団から標本集団を抽出する方法を学びます。
7	アンケート調査の方法①	調査の設計と調査目的の明確化、正確な調査を行うためのワーディングなどを学び、アンケート調査を作成するための基礎的な内容を理解します。
8	アンケート調査の方法②	調査票の配布回収方法など、実際にアンケート調査を行う場合に注意すべき点などについて把握します。
9	量的調査のデータ解析①	尺度水準などデータ分析の基本と1変量、2変量、多変量での分析方法の違いを踏まえ、1変量の場合の記述統計、単純集計などの分析手法を学びます。
10	量的調査のデータ解析②	引き続き、1変量での分析方法を学ぶとともに、2変量での分析方法である、回帰分析、相関分析について学びます。
11	量的調査のデータ解析③	重回帰分析など、多変量解析の解説を行うほか、仮説検定の基本を学び、その概念を理解します。
12	インタビューの手法	構造化インタビュー、非構造化インタビューについて学びます。インタビューの記述方法について学びます。
13	観察の方法／質的調査のデータ解析①	参与観察、非参与観察の特徴と違いを理解します。質的データ調査の分析方法として、グランデットセオリーの考え方を学びます。
14	質的調査のデータ解析②	引き続き、グランデットセオリーの考え方を学び、またKJ法などについても学びます。
15	個人情報保護と社会調査の結果の利用	個人情報保護の重要性を理解します。調査の実施や公表に関する倫理について学びます。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助実習指導 I		科目ナンバリング	SSWB21012
担当者氏名	田端 和彦、稲富 恭			
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				1年・通年(I期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度 (知的好奇心) ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる (論理的思考力、情報リテラシー) ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる (自己管理力) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる (知識・技能の統合) 			

《授業の概要》

実習先となる、高齢者施設、障害者支援施設、児童養護施設、医療機関、社会福祉協議会等地域福祉関連施設における利用者やそこの支援内容、さらに社会福祉士の役割をビデオ教材なども使いながら紹介するとともに、実際の施設を見学します。また社会福祉士に対する取材を行って、そのやりがいなど専門職の思いや実態を聞き取ります。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会 (監修)、長谷川匠俊、上野谷加代子、白澤 政和他編「社会福祉士相談援助実習 (第2版)」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業の到達目標》

実習を行う分野に関わる施設について、それぞれの施設等での利用者や職員体制、提供される具体的なサービス内容・支援体制、さらには地域との関係などを理解するとともに、特にソーシャルワークの専門職である社会福祉士の役割を理解します。

《授業時間外学習》

授業の中でレポート課題を課します。

《成績評価の方法》

授業を受ける態度、グループワークでの発言等の状況、授業内で課すレポート、及び授業内で課す理解度テスト結果の総合点で判断をします。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス／相談援助実習 I の位置づけ	相談援助実習全体における相談援助実習指導 I の位置づけと目的を理解します。
2	スーパービジョンと指導について	相談援助実習におけるスーパービジョンの重要性を学び、実習生、実習指導者の関係、実習先と大学との関係等について説明を受けます。
3	ソーシャルワーカーとは何か①	グローバルな観点からのソーシャルワークの概念を踏まえ、専門職であるソーシャルワーカーの役割を学びます。
4	ソーシャルワーカーとは何か②	専門職との観点から、ソーシャルワーカーの日本での資格である社会福祉士の役割と課題を学び、ソーシャルワーカーとはどのような存在であるかを理解します。
5	社会福祉士の働く職場とは (高齢者分野①)	高齢化の現状を踏まえ、実際の高齢者施設で働く社会福祉士の姿を通し、レジデントとフィールドでのソーシャルワークのあり方などを学びます。
6	社会福祉士の働く職場とは (高齢者分野②)	高齢者への支援とレジデントとフィールドでのソーシャルワークのあり方などを学びます。
7	社会福祉士の働く職場とは (障害者分野)	障害者福祉を巡る課題を踏まえ、障害者を支援する施設で働く社会福祉士の姿を通し、地域での生活を可能にするためのソーシャルワークのあり方を学びます。
8	社会福祉士の働く職場とは (児童分野)	児童相談所や児童養護施設など児童を巡る社会福祉の役割を踏まえ、児童の相談に関わる社会福祉士の姿を通し、児童を支援するソーシャルワークのあり方を学びます。
9	社会福祉士の働く職場とは (地域分野)	社会福祉協議会や福祉事務所など地域福祉に関わる現状、支援を踏まえ、関わる社会福祉士の姿を通し地域で広く相談援助を行うソーシャルワークのあり方を学びます。
10	社会福祉士の働く職場とは (医療分野)	医療機関の現状地域との関係、チームの重要性などを踏まえ、社会福祉士の活動する姿を通し医療ソーシャルワークのあり方を学びます。
11	社会福祉士の働く現場の見学 (事前学習)	社会福祉士の働く現場を見学し、社会福祉士に取材を行うための事前学習としてグループワークなどで考えます。
12	社会福祉士の働く現場の見学①	社会福祉士の働く現場を訪問し、見学をします。
13	社会福祉士の働く現場の見学②	引き続き、社会福祉士の働く現場を訪問し、見学をします。
14	見学・取材のまとめ①	社会福祉士の働く現場と取材の結果について、事後学習としてグループワークなどで考えます。
15	見学・取材のまとめ②	引き続き、社会福祉士の働く現場と取材の結果について、事後学習としてグループワークなどで考え、報告をします。

科目名	相談援助実習指導 I	科目ナンバリング	SSWB21012
担当者氏名	田端 和彦、稲富 恭		
授業方法	実習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度 (知的好奇心) ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる (論理的思考力、情報リテラシー) ◎ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる (自己管理能力) 		

《授業の概要》

利用者の相談援助には、まず利用者を知ることが重要になります。利用者理解のためには、例えばコミュニケーションの取り方だけではなく、介護などを通して利用者と接する機会があるため、その技術を学ぶ必要があります。また後半では基礎相談援助実習のための準備として実習報告会への参加による実習先の学習やソーシャルワーカーとしての心構えについての学習を行います。

《授業の到達目標》

利用者と接し、コミュニケーションを取ることができるような基礎的な技術や知識を身につけます。またグループワークなどを通して、今後の実習の際に必要な実習計画の立案や報告書の作成に必要な基礎的な知識や技術を身につけることができます。

《成績評価の方法》

授業を受ける態度、グループワークでの発言等の状況、授業内で課すレポート、及び授業内で課す理解度テスト結果の総合点で判断をします。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会 (監修)、長谷川匠俊、上野谷加代子、白澤 政和他編「社会福祉士相談援助実習 (第2版)」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業時間外学習》

授業の中でレポート課題を課します。

《備考》

平成28年度の実習報告会の日程のため授業計画を変更する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助実習指導 I の位置づけ、目的、課題を学びます。I 期の振り返りを行い、その定着を図ります。
2	コミュニケーションの方法①	職員や利用者など、多くの方々に対し挨拶や自己紹介などを行い、また相手からの働きかけへの適切な対応、不特定多数の方との関係づくりに必要な方法について学びます。
3	コミュニケーションの方法②	学生による互いの演習を行い、それらを通して言語、非言語でのコミュニケーションの実際について学びます。
4	介護の現場に必要な基礎技術①	介護の現場で必要となる基礎的な技術として食事に必要な知識や食事介助の方法について学びます。
5	介護の現場に必要な基礎技術②	引き続き、介護の現場で必要となる基礎的な技術として、車いすによる移動やベッドへの移乗の方法などについて学びます。
6	介護の現場に必要な基礎技術③	引き続き、介護の現場で必要となる基礎的な技術として、入浴などに必要な機材やその設置などについて学びます。
7	利用者の理解/社会福祉施設と地域の理解	社会福祉施設の利用者について、統計や書籍等を参考にしながら理解します。社会福祉施設と地域との関係について、事例をもとにグループワークなどで考えます。
8	実習日誌の作成についての基本	実習日誌の考え方やその作成のために、観察内容を日誌、記録にまとめるための方法を学びます。
9	実習計画書の作成方法	PDCAサイクルを基本として、計画とはどのようなものであるか、実習における計画の役割について学びます。
10	実習先を学ぶ①	相談援助実習報告会に参加し、どのような実習先があるのか、また実習先でどのような実習が行われるかを学びます。
11	実習先を学ぶ②	相談援助実習報告会に参加し、どのような実習先があるのか、また実習先でどのような実習が行われるかを学びます。
12	相談援助基礎実習に向けての説明	2年次に行う相談援助基礎実習に向けて、その内容、実習先の選択についての説明を聞きます。
13	相談援助基礎実習のための準備①	相談援助基礎実習に備え、ソーシャルワークに必要なことやソーシャルワーカーとしての心構えについて考えます。
14	相談援助基礎実習のための準備②	相談援助基礎実習先を踏まえ、その特徴や実習の内容を踏まえて、実習先に関連する法制度の内容などを理解します。
15	全体総括	利用者理解、施設の理解、実習に必要な知識や技術等の整理を行います。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	福祉住環境論		科目ナンバリング	SF21001	
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 				

《授業の概要》

高齢者、障害者が地域社会の中で普通の生活を送るためには、福祉の視点にたった住環境整備を欠かすことが出来ない。本講義では、(1)住環境整備の背景となる社会福祉の現状について概観するとともに、(2)住宅改修、バリアフリー、ユニバーサルデザインを中心に福祉住環境整備手法について学ぶ。

《テキスト》

「福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 改訂4版」東京商工会議所, 2016

《参考図書》

「福祉住環境コーディネーター検定試験 3級過去問題集 2016年版」HIPS合格対策プロジェクト, 2016

《授業の到達目標》

- 福祉住環境コーディネーター3級に相当する能力を身につける。
- 生活環境の不適合に対して、物理的な問題解決手段を提案する事ができる能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
シラバスを参考に、テキストの該当箇所に目を通し、疑問点を明確にしておく。
- ・復習の方法
テキストの必要箇所を暗記する。配布プリントの問題を復習し、次回の小テストの準備を行う。

《成績評価の方法》

- ・授業中に毎回実施する小テスト(100%)によって評価する。

《備考》

原則として「福祉住環境コーディネーター検定試験3級」の受験を目指す学生を対象とする。
試験日程に合わせて、開講日を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	少子高齢社会と福祉住環境整備	少子高齢社会の現状と今後のあり方について理解する
2	日本の住環境と福祉住環境整備	日本の住空間の特性と福祉住環境整備の必要性について理解する
3	福祉住環境と在宅ケア	介護保険制度と障害者総合支援法を中心に在宅生活の支援について理解する
4	高齢者の健康と生活	老化の特性とヘルスプロモーションについて理解する
5	障害者の自立と生活	障害の種類と障害者の社会参加状況について理解する
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリー、ユニバーサルデザインの歴史、概念について理解し、具体的なデザイン手法について理解する
7	福祉用具の分類と活用	共用品、福祉用具の概念、分類、役割について理解する
8	居住環境整備の技術(1)	居住環境整備に必要な空間設計について理解する
9	居住環境整備の技術(2)	居住環境整備に必要なデザイン、設備計画、避難防災計画について理解する
10	生活行為と空間整備	移動、入浴、排泄等の生活行為に必要な空間整備方法について理解する
11	ライフスタイルの多様化と住まい	戦後の家族形態の変化とそれに伴う生活形態について理解する
12	安心できる住生活	高齢者居住法、住宅セーフティネット法等の居住安定政策について理解する
13	安心して暮らせるまちづくり	福祉のまちづくり条例等、地域における福祉住環境整備について理解する
14	授業の補足と重要箇所の復習	授業内容の重要ポイントについて補足し、「福祉住環境コーディネーター検定試験」の準備を行う。
15	授業のまとめ	授業のまとめと小テストの解説

科目名	レクリエーションワーク		科目ナンバリング	SFFD22028
担当者氏名	原 志津、田島 栄文			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）			

《授業の概要》

子どもから高齢者までの各世代にわたる心身の健康、及びレクリエーション活動の普及・推進を目指した「レクリエーション・インストラクター」資格の学習内容に基づき、レクリエーションの基礎理論を展開する。

《テキスト》

適宜提示する。

《参考図書》

「レクリエーション支援の基礎－楽しさ・心地よさを活かす理論と技術－」（日本レクリエーション協会・2007）「リハビリテーションとレクリエーション援助」（嵯峨野書院・1998）「楽しいアイスブレイキングゲーム集」（日本レクリエーション協会・2002）

《授業の到達目標》

1. 余暇とレクリエーションの社会的意義が理解できる。
2. レクリエーション支援の体系及び支援者の役割が理解できる。
3. 楽しさを基本としたレクリエーション事業計画の流れが理解でき、立案できる。

《授業時間外学習》

授業後に配布プリントを確認・整理しながら、マイノートをまとめ、振り返りカードを貼り付けるようにしてください。

《成績評価の方法》

授業参加点（出席状況・受講態度20）＋毎回の振り返り提出点30＋実技指導評価点20（企画書と指導）＋最終レポート提出点30

《備考》

実技指導者にふさわしい服装・靴で参加すること。遅刻・見学は3回で欠席1回に該当します。授業中に資料を配布するので、なくさずにファイルすること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	レクリエーション基礎理論①	レクリエーションの意義1
2	レクリエーション基礎理論②	レクリエーションの意義2
3	レクリエーション基礎理論③	レクリエーション運動を支える制度
4	レクリエーション基礎理論④	レクリエーション・インストラクターの役割
5	レクリエーション基礎理論⑤	まとめ
6	レクリエーション支援論①	ライフスタイルとレクリエーション
7	レクリエーション支援論②	少子高齢社会の課題とレクリエーション
8	レクリエーション支援論③	地域とレクリエーション
9	レクリエーション支援論④	まとめ
10	レクリエーション事業論①	レクリエーション事業とは
11	レクリエーション事業論②	事業計画Ⅰ
12	レクリエーション事業論③	事業計画Ⅱ
13	レクリエーション事業論④	安全管理
14	レクリエーション事業論⑤	まとめ
15	福祉レクリエーション支援専門職の確立に向けて	福祉レクリエーション支援専門職の確立に向けて

科目名	児童・高齢者・障害者の心理	科目ナンバリング	SFFD21013
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 		

《授業の概要》

この授業では「生涯発達心理学」で学んだ知識を基盤にして、将来社会福祉の現場で、関わっていく人たち（児童・高齢者・障害者）の「こころ」を理解するために知っておくべき心理学の知識のエッセンスを学ぶ。

《テキスト》

必要な資料は毎回配布する。

《参考図書》

授業時間内に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

支援に必要な児童・高齢者・障害者を理解するために、必要な知識を学び、関心をもち、当事者の話し・その家族の話しに耳を傾けること。共感しながら理解し、支援のためのスキルを自分なりに洗練していけるよう学んでいく。

《授業時間外学習》

普段から様々な人と出会って、積極的に関わっていく姿勢を持つておくこと。

《成績評価の方法》

授業態度 30%
ミニレポート 20%
授業最後のまとめ 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	この授業の進め方について紹介する
2	支援に必要な高齢者との関わり	高齢者に関して、知っている事と知らないことを知る・知らないことを理解していくために必要な知識とは何か。
3	高齢者の健康度と要介護度について	高齢化の社会の実態と高齢者の支援
4	高齢者の健康度	これまでの高齢者と、これからの高齢者の違い
5	高齢者支援のポイント	高齢者の「学習性無力感」とやる気を引き出す関わりについて
6	障害とその心理的影響①	障害者に関する法律の変遷・障害の及ぼす影響と適応・不適応
7	障害とその心理的影響②	目にみえる障害と見えない障害を知る。障害受容について理解する。
8	精神障害者の理解①	精神科病院での支援者の働きかけ
9	精神障害者の理解②	精神障害者の生活を地域で支援するという事について
10	知的障害者の理解①	8歳以降の知的能力の違いで、周りの世界がどのように見えてくるか
11	知的障害者の理解②	知的障害者にとっての社会性について
12	支援に必要な児童への対応	児童の事例について考える
13	支援に必要な高齢者の対応	高齢者の事例について考える
14	支援に必要な障害者の対応	障害者の事例について考える
15	児童・高齢者・障害者の心理	様々な障害をもつ方たちと共に生きていくための視点を考える・全体のまとめを行う

《教職に関する科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	STAL41001
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の「教師の仕事」を、授業、公務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉えるとともに、法的な位置づけや立場を理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《授業の到達目標》

- 教員の社会的役割とその歴史的変遷を理解している。
- 教員養成と教員免許制度について理解している。
- 教員の任免と服務について理解している。
- 教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
- 教員に求められる資質能力と研修について理解している。
- 自分なりの教職観を持ち、自身の課題を省察することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
- ②提出物 30%
- ③定期試験 50%（持ち込み不可）

《テキスト》

東京都教職員研修センター（監修）『教職員ハンドブック 第3次改訂版』 都政新報社、2012

《参考図書》

石村卓也『教職論 これから求められる教員の資質能力』昭和堂、2008年。
『新任教師のしごと 中学校・高校版』小学館、2007年。

《授業時間外学習》

毎回、授業の内容に関連したミニレポートを作成し提出する。配布された資料をあらかじめ読んでおく。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教職とは何か、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。
2	さまざまな教職観とその歴史的変遷	・教職観の歴史的変遷をたどりながら、自分自身の教職観、教員像を獲得する。
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。 ・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。
5	教員の職務①：教員の種類と職務、校務分掌	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力について理解する。
6	教員の職務②：学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。
7	教員の職務③：保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいか考察する。
8	教員の職務④：アカウントビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。 ・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。
9	教員の人事管理①：服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。
10	教員の人事管理②：任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。
11	教員の人事管理③：教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取り組みを行う必要があるかを考察する。
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。
15	学習のまとめと振り返り	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	STAL41002
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育をさまざまな視点から検討し、教育と社会との関連や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《テキスト》

プリント（資料）を適宜配布

《参考図書》

中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社、2010年。
 広岡義之（編著）『新しい教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。

《授業の到達目標》

- 教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
- 主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のありかたと関連づけることができる。
- 児童の権利と福祉について理解している。
- 生涯学習の理念について理解している。

《授業時間外学習》

参考図書・資料の関連する部分を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）30%
- ②課題の提出と完成度 30%
- ③授業中のミニテスト 40%

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育とは何か、人間の特性と教育
2	教育の概念と本質	・教育の概念と本質 ・教育の必要性と可能性・限界
3	子どもの発達と教育	・発達とは何か ・発達における教育の役割
4	教育の目的、形態と機能	・教育の目的、形態と機能 ・教育における教師の役割
5	主な西洋教育思想とその系譜①	・子ども観の変遷 ・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容
6	主な西洋教育思想とその系譜②	・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容 ・教育思想、教育哲学が現代の教育に与えている影響
7	公教育制度の成立と発展①	・学校の起源と歴史 ・近代公教育の誕生
8	公教育制度の成立と発展②	・日本における明治期以前の教育 ・日本における近代学校制度の成立と発展
9	教育の内容と方法	・教授と学習の理論 ・さまざまな教育方法
10	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦前まで）
11	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦後）
12	教育における「ケア」	・「ケア」の定義、「ケア」の要素 ・教育における「ケア」、教育における公正と「ケア」
13	児童の福祉と保護	・児童の権利と福祉 ・児童虐待の防止と早期発見、早期対応
14	生涯学習	・生涯学習社会の成立とその背景 ・生涯学習の重要性、自分のライフコースのデザイン
15	まとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による、学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	STAL42003
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業の到達目標》

○教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。○教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。○教育行政の仕組みや学校制度について理解している。○学校運営について理解している。○今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）20%
- ②課題の提出と完成度 20%
- ③定期試験 60%（持ち込み不可）

《テキスト》

授業中に指示します。

《参考図書》

- 1) 『解説教育六法 2016年度版』三省堂。
- 2) 坂田 仰、黒川 雅子、河内 祥子、山田 知代『図解・表解教育法規-“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所、2014年。
- 3) 高見茂・宮村裕子・開沼太郎（編）『教育法規スタートアップ 教育行政・政策入門 ver.3』昭和堂、2015年。

《授業時間外学習》

授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習すること。授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意したりすること。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育行政と教育制度	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育行政の基本原理
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系 ・教育制度の中心的な法規とその内容
3	憲法教育基本法制：憲法、教育基本法①	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤 ・教育基本法の性質
4	憲法教育基本法制：教育基本法②	・教育基本法改正のポイント ・教育基本法の意義と内容
5	学校制度①：学校に関する法規	・法規上の学校の定義 ・日本と諸外国の学校体系の特徴
6	学校制度②：学校の設置と管理	・学校とその公共性 ・学校の設置と管理に関する原則
7	教育行政の仕組み①：文部科学省	・文部科学省と地方の教育委員会の関係と役割分担 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響
8	教育行政の仕組み②：教育委員会制度	・教育委員会制度の歴史 ・教育委員会制度の概要
9	教育を受ける権利の保障①：義務教育1	・教育を受ける権利、教育を受けさせる義務と義務教育制度 ・義務教育の意義と義務の内容
10	教育を受ける権利の保障②：義務教育2	・教育を受ける権利を保障するための制度 ・就学援助、教育扶助の概要
11	教育を受ける権利の保障③：特別支援教育1	・特別支援教育の理念および特殊教育との違い ・特殊教育から特別支援教育に移行した背景
12	教育を受ける権利の保障④：特別支援教育2	・特別支援教育に関する諸制度
13	学校運営①：開かれた学校	・開かれた学校の意義 ・地域との連携とコミュニティ・スクール制度
14	学校運営②：アカウンタビリティと学校評価	・学校アカウンタビリティとマネジメント・サイクル ・学校評価の意義と評価の形態
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（含カウンセリング）	科目ナンバリング	STAL41008
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐめる問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろう。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%
 授業内容の理解 50%

《テキスト》

指定しない。必要な資料は毎回配布する。

《参考図書》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとって読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日まで提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	「人の話しをきく」ということについて考える
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライアント中心療法について知る
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）を行う
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	心理テストを体験する
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる症状について学ぶ
8	精神的な問題の分類と概説	精神的な問題の全体像を把握し、病態水準や自我の強さについて学ぶ
9	こころの発達理論	思春期以降の生徒のこころの問題を理解するために、関係性について学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返り、今後活かすべきことは何かを考える

平成 27（2015）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成27年度（2015年度）入学者対象

()は兼任、[]は兼任講師

業 科 区 分	授 業 科 目 の 名 称	ナンバリング	授 業 方 法	単位数		社 会 福 祉 士	P S W	高 等 学 校 教 諭 福 祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)				平成28年度の 担 当 者	ペー ジ				
				必修	選択				1年		2年				3年		4年	
									I	II	I	II			I	II	I	II
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能及び疾病	SSPA11001	講義	2		○	◆		2									
	心理学理論と心理的支援	SSPA11002	講義	2		○	◆		2									
	社会理論と社会システム	SSPA11003	講義	2		○	◆		2									
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	SSPA12001	講義	2		○	◇			2				竹内 一夫	129			
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	SSPA12002	講義	2		○	◇			2				竹内 一夫	130			
	介護概論	STTA22003	講義	2				△		2				小倉 毅	131			
	法学	SFFA21004	講義	2					2									
	行政法	SFFA21005	講義	2					2									
	生涯発達心理学	SFFA21006	講義	2					2									
	こころの基盤の理解	SFFA22005	講義	2						2				(北島 律之)	132			
	コミュニケーション論	SFFA22006	講義	2						2				[柏木 登起]	133			
	社会心理学	SFFA22007	講義	2						2				(北島 律之)	134			
	態度の心理学	SFFA22008	講義	2						2				(北島 律之)	135			
	基礎ゼミナールⅠ	SFFA11007	演習	4					4									
	基礎ゼミナールⅡ	SFFA11008	演習	2					2									
	専門プレゼミナールⅠ	SFFA12009	演習	4						4				小倉・小林茂・(北島)・(稲富)	136			
専門プレゼミナールⅡ	SFFA12010	演習	2						2				小倉・小林茂・(北島)・(稲富)	137				
教 育 援 助 共 通 目 的 科 目	現代社会と福祉Ⅰ	SSPB11009	講義	2		○	◇	△	2									
	現代社会と福祉Ⅱ	SSPB11010	講義	2		○	◇	△	2									
	社会保障論Ⅰ	SSPB12011	講義	2		○	◇			2				(河野 真)	138			
	社会保障論Ⅱ	SSPB12012	講義	2		○	◇			2				(河野 真)	139			
	社会調査の基礎	SSWB21011	講義	2		○			2									
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	SSWB22013	講義	2		○		△		2				牧田 満知子	140			
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	SSWB22014	講義	2		○		△		2				牧田 満知子	141			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	SSPB22015	講義	2		○	◇	△		2				小倉 毅	142			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	SSWB22016	講義	2		○		△		2				小倉 毅	143			
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	SSPB12017	講義	2		○	◇			2				田端 和彦	144			
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	SSPB13002	講義	2		○	◇				2							
	保健医療サービス	SSPB23003	講義	2		○	◇			2				和田 光徳	145			
	医療ソーシャルワーク論	SFFB23011	講義	2							2							
	医療ソーシャルワーク演習	SFFB23012	演習									4						
	低所得者に対する支援と生活保護制度	SSPB22018	講義	2		○	◇			2				牧田 満知子	146			
	権利擁護と成年後見制度	SSPB22019	講義	2		●	◇			2				[関川 雅世]	147			
福祉行財政と福祉計画	SSPB23004	講義	2		○	◇					2							
福祉行財政と福祉計画 (応用)	SFFB24002	講義	2								2							
相談援助の理論と方法Ⅰ	SSPB12020	講義	4		○	◇	△			4			竹内 一夫	148				
相談援助の理論と方法Ⅱ	SSPB13005	講義	4		○	◇	△			4								
相談援助演習ⅠA	SSPB12021	演習	2		○	◇	△			2			和田 光徳	149				
相談援助演習ⅠB	SSPB23006	演習	4		○	◇					4							
相談援助演習Ⅱ	SSPB23007	演習	4		○	◇	△				4							
相談援助演習 (統合)	SFFB24003	演習	2									2						
相談援助実習指導Ⅰ	SSWB21012	実習	1		○		△		2				田端 和彦・(稲富 恭)	150				
相談援助実習指導Ⅱ	SSWB22022	実習	1		○		△			2			小倉・吉原・(稲富)	151~152				
相談援助実習指導Ⅲ	SSWB23008	実習	1		○		△				2							
相談援助基礎実習	SFFB22013	実習	2						2				稲富・吉原・原・小倉	153~154				
相談援助実習	SSWB23009	実習	4		○		△				12							
専門ゼミナールⅠ	SFFB13010	演習	2								2							
専門ゼミナールⅡ	SFFB13011	演習	2								2							
卒業演習	SFFB14004	演習	4									4						

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成27年度（2015年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	P S W	高等 学校 教諭 福祉	学年配当（数字は週当たり授業時間）				平成28年度の 担当者	ページ				
				必修	選択				1年		2年				3年		4年	
									I	II	I	II			I	II	I	II
専 門 基 盤 教 育 目 的	就労支援サービス	SSWC23012	講義	2		●							2					
	更生保護制度	SSWC24005	講義	1		●								1				
	福祉サービスの組織と経営	SSWC24006	講義	2		○								2				
	福祉サービスの組織と経営（応用）	SFFC24007	講義	2										2				
	心理検査法	SFFC23013	講義	2										2				
	臨床心理学	SFFC23014	講義	2										2				
	統計学の基礎	SFPC22023	講義	2							2				(北島 律之)			
	加齢及び障害に関する理解	STTC23015	講義	2				△						2				
	人体の構造及び日常生活行動に関する理解	STTC23016	講義	2				△						2				
	福祉住環境論	SFPC21001	講義	2						2								
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	SPSC22024	講義	2				◇			2				[真野 元四郎]			
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	SPSC22025	講義	2				◇			2				[真野 元四郎]			
	精神障害者の生活支援システム	SPSC23017	講義	2				◇				2						
	精神疾患とその治療Ⅰ	SPSC22026	講義	2				◇			2				(西山 忠博)			
	精神疾患とその治療Ⅱ	SPSC22027	講義	2				◇			2				(西山 忠博)			
	精神保健の課題と支援Ⅰ	SPSC23018	講義	2				◇				2						
	精神保健の課題と支援Ⅱ	SPSC23019	講義	2				◇					2					
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	SPSC22028	講義	2				◇			2				[香木 明美]			
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠA	SPSC23020	講義	2				◇				2						
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠB	SPSC23021	講義	2				◇					2					
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡA	SPSC23022	講義	2				◇				2							
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB	SPSC23023	講義	2				◇					2						
精神保健福祉援助演習(専門) A	SPSC23024	演習	2				◇						2					
精神保健福祉援助演習(専門) B	SPSC23025	演習	2				◇						2					
精神保健福祉援助実習指導	SPSC23026	実習	3				◇						6					
精神保健福祉援助実習	SPSC24009	実習	4				◇						12					
専 門 発 展 目 的	レクリエーションワーク	SFFD22028	講義	2						2								
	福祉レクリエーションⅠ	SFFD22029	講義	2							2				[マーレー寛子]			
	福祉レクリエーションⅡ	SFFD23027	講義	2								2						
	福祉レクリエーション演習Ⅰ	SFFD22030	演習	2							2				原 志津・[田島 栄文]			
	福祉レクリエーション演習Ⅱ	SFFD23028	演習	2								2						
	生活支援技術	SFFD22031	演習	2							△			2	小倉 毅			
	病気の理解	SFFD23029	講義	2								2			和田 光徳			
	ケアマネジメント論	SFFD23001	講義	2								2			竹内 一夫			
	在宅ケア論	SFFD23032	講義	2									2					
	児童・高齢者・障害者の心理	SFFD21013	講義	2							2							
	教育心理学	STTD22032	講義	2							△		2		(大平 曜子)			
	国際福祉論	SFFD22033	講義	2								2			(河野 真)			
インターンシップ	SFFD24010	実習	4										12					
社会福祉特別講義Ⅰ	SFFD20001	講義	2							②	②	②	②	不開講				
社会福祉特別講義Ⅱ	SFFD20002	講義	2							②	②	②	②	不開講				

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士(PSW)国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成27年度（2015年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		社会 福祉士	P S W	高等 学校 教諭 福祉	学年配当（数字は週当り授業時間）								担当者 平成28年度の 担当者	ページ		
				必修	選択				1年		2年		3年		4年					
									I	II	I	II	I	II	I	II				
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	STAL41001	講義		2			△	2											
	教育原理	STAL41002	講義		2			△	2											
	教育制度論	STAL42003	講義		2			△		2										
	教育課程論	STAL42004	講義		2			△			2								(古田 薫)・[廣岡 義之]	168
	福祉科教育法	STSW43001	講義		4			△				4								
	特別活動論	STAL42005	講義		2			△			2								[砂子 滋美]	169
	教育方法・技術論	STAL42006	講義		2			△			2								[吉永 潤]	170
	生徒指導論	STAL42007	講義		2			△			2								[新井野 久男]	171
	進路指導論	STAL42009	講義		2			△				2								
	教育相談（含カウンセリング）	STAL41008	講義		2			△		2										
	事前・事後指導	STSW43002	演習		1			△					1							
	高等学校教育実習	STSW44003	実習		2			△							4					
教職実践演習（高）	STSW44004	演習		2			△								2					

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士（PSW）国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士（PSW）国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、
日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、
指定の科目を履修すること。

授業 科目の 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		社会 福祉士	P S W	高等 学校 教諭 福祉	学年配当（数字は週当り授業時間）								平成28年度の 担当者	ページ	
				必修	選択				1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
課 程 外 科 目	ケアマネジメント論Ⅱ	SFFD23002	講義		2						2								竹内 一夫
	福祉レクリエーション演習Ⅰ（発展）	SFFD22032	演習		2						2								原 志津・[田島 栄文]

※課程外科目を修得しても卒業要件には含まれない。

科目名	相談援助の基盤と専門職 I		科目ナンバリング	SSPA12001	
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 				

《授業の概要》

社会福祉の実践方法であるソーシャルワーク実践に不可欠な価値、態度、基本理念を理解することが本講義の目的である。I期では、ソーシャルワーク援助の原点、現在までの発展過程を学び、そこから相談援助に不可欠な専門職としての価値、実践原理、利用者の人権擁護について、教科書に基づき学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 第3版 新社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2015

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7「相談援助の理論と方法I」 新社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法II」中央法規出版、2009

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論が理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉に関わる専門職	社会福祉士、精神保健福祉士の法律における位置づけと専門性を検討するが、同時に現代社会における期待と養成における問題点について検討する。
2	現代社会で生きるということ	現代社会での生活にみられる問題点と病理を検討する。また、地域社会の教育力、介護力、保育力の現状を検討し、福祉社会への移行のための課題について検討を加える。
3	ソーシャルワークとはなに？	現代社会におけるソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの諸定義について検討する。
4	ソーシャルワークを構成する要素とは	ソーシャルワーク援助を構成する、クライアント、ワーカー、ターゲット、アクションの各システムと、援助者の価値、態度について検討する。
5	ソーシャルワークの歴史 ① 前史	社会福祉確立までの歴史、特に相互扶助から慈善・博愛事業を中心に検討を加える。
6	ソーシャルワークの歴史 ② 基礎の確立	専門的援助技術の確立への取り組みの中で、特にCOS運動が、近代ソーシャルワーク援助に貢献した個別記録と教育について検討する。
7	ソーシャルワークの歴史 ③ 援助技術の確立	診断主義モデル、機能主義モデル、問題解決モデル、心理社会モデル、生態学モデル、生活モデルなど、現在に至るまでの各モデルの特徴を検討する。
8	ソーシャルワークの歴史 ④ 統合モデルの検討	利用者援助における複数の援助技術の必要性を検討するとともに、サービスを統合するケアマネジメントにも言及する。
9	ソーシャルワークの歴史 ⑤ グループの援助	グループを対象とし、グループメンバーの相互作用を活用した援助の歴史とグループワークの援助モデルについて言及する。
10	ソーシャルワークの援助 ⑥ 地域援助	コミュニティデベロプメントから、コミュニティーオーガニゼーション、そしてコミュニティワークへの変遷について検討する。
11	ソーシャルワーク実践と価値	ウェルフェアから、ウェルビーイングへと社会福祉の援助目標が変化したなかで、社会福祉に携わるソーシャルワーカーの価値はどのような変化したのかを検討する。
12	ソーシャルワーク実践と権利擁護	権利擁護とは、なぜ今権利擁護が必要とされるのか、我々専門職の目指す方向はどこかを検討する。エンパワメントの必要性についても検討する
13	ノーマライゼーションとは①ミクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションとは、その目的と、その援助方法とはについて検討する。まず個人のレベルを扱う。
14	ノーマライゼーションとは②メゾレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションであるが、ここでは地域社会でのノーマライゼーションの展開を扱う
15	ノーマライゼーションとは③マクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つは、ノーマライゼーションであるが、ここでは法律、社会制度でのノーマライゼーションの展開を扱う。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ		科目ナンバリング	SSPA12002	
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 			

《授業の概要》

ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱでは、相談援助の具体的な方法、それに当たる専門職の力量、相談援助を有効化していくために解決していかなければならない問題点について、講義をベースに学びを進めていく。各自が問題意識を持てるように、課題を与え、研究を進めていくことも、プログラムの中に入れていき、実践現場で生きる学びになるように学びを進めていく。

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論とが理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総計で評価点が算出される。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の理念：自己決定	自己決定は相談援助の中心概念ではあるが、危機的状況では、一時自己決定権を預かることも支援の一つとなる。ここでは状況に合わせた自己決定権の行使について考える。
2	相談援助の理念：自立支援	ソーシャルワーク援助の最終目標は自立支援にあるが、障害状況によっては、依存的、立も考慮に入れた支援が必要である。自立の在り方についても検討する。
3	相談援助の理念：エンパワメントとストレングス	利用者の能力、保持力をうまく引き出し、課題解決に取り組めるように支援することで、利用者はパワレス状況から抜け出し、エンパワメントされることを確認する。
4	ノーマライゼーション：地域生活という視座	ソーシャルワーク援助の目的と過程はノーマライゼーションの実現への取り組み過程ともいえる。地域でのありきたりの生活の実現とはについて検討する。
5	ノーマライゼーション：社会的包括	人がいかなる状況にあろうとも、社会参加が確保され、社会の一員としての権利と義務を果たせる状況づくりが社会福祉の目的であることを学ぶ。
6	専門職の倫理	専門職はその技術、知識、そしてそれらを人々の福利のためだけに使うことが求められるが、それを維持、向上させるための仕組みが倫理であることを学ぶ。
7	専門職の社会的責任と倫理綱領	社会的責任として、専門職の倫理を遵守するために、専門職団体などがどのように対応するかを社会に向けて公表したものが、倫理綱領であることを学ぶ。
8	専門職制をめぐる倫理的ジレンマ	我々は、複数の役割を持って社会生活を送っていくが、時に目指すところが矛盾し倫理的な葛藤を専門職の内部に生み出す。これへの対応を検討する。
9	総合的、包括的な相談援助	福祉は今、重複し、重層した問題を抱える利用者への支援で、ニーズを総合的、包括的にとらえることが求められる。そこでの留意点について検討する。
10	地域を基盤としたソーシャルワーク	施設から在宅へと福祉は大きくシフトした。地域を基盤にノーマライゼーションの実践がどのように進められるべきか検討する。
11	総合的な相談援助を支える理論	従来の援助技術では、重複し重層した利用者のニーズに対応できない。ここではシステム理論を用いた生活モデルを基盤にした、支援の在り方を検討する。
12	相談援助に関わる専門職とは	総合相談を担当できる専門職は、どのような専門基盤を必要とするのであろうか。ここでは求められる専門性とその資格について検討する。
13	総合相談援助における専門的機能	現在の相談援助専門職は、多くの求められるスキルを身に付け、多専門職との連携で仕事ができることを求められる。ここでのスキルとは、技術とはを検討する。
14	社会の変化とニーズの変化	複雑化とともに、少子超高齢化に歯止めがかからない社会。このような状況の中で利用者のニーズも大きく変化してきている。その変化と看られる問題点について学習する。
15	他職種との連携	今地域で他職種と連携をし、支援をしていくためには、どのような知識、技術、技能が求められるのか、またその留意点についても検討する。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2009

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7「相談援助の理論と方法Ⅰ」新社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版、2009

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての、覚を持って授業に臨むこと。

科目名	介護概論	科目ナンバリング	STTA22003
担当者氏名	小倉 毅		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 		

《授業の概要》

介護の理念や対象およびその理念、基本施設について学ぶ。さらに障がい等の状況等に応じた介護過程における生活支援技法や介護予防の基本的な考え方を学ぶ。

対象者が自己決定や自己選択し、主体的に暮らすこと、生活の質を高めるための介護の本質を理解し、よりよい支援につなげる知識と生活支援技術の習得に向け段階的に学習する。

《テキスト》

社会福祉学双書 15 介護概論
社会福祉学習双書編集委員会編 全国社会福祉協議会

《参考図書》

①ケアの本質-生きることの意味- ミルトン・メイワ ゆみる出版
②人間科学的生活支援論 黒澤貞夫 ミネルヴァ書房

《授業の到達目標》

社会福祉専門職として必要な介護の歴史、機能、原則、援助の方法などについて理解する。また、介護の理念および介護福祉実践のあり方を理解するとともに、ソーシャルワーク実践に必要な専門知識と支援の方法を習得する。

《授業時間外学習》

家族や近隣者の高齢者とかかわり、ボランティアに積極的に参加し、対象者への理解を深めていきましょう。
またレポートでは、近年の介護における社会的問題や事件等から介護に求められる政策・社会的課題などについても考える機会にしてほしい。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への積極的参加度 (15点)
- (2) レポート課題 (15点)
- (3) 小テスト (20点)
- (4) 定期試験 (50点)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 人間と生活	人々の生活とは何かを理解し、家庭機能変化、高齢者や障がい者の実態と権利、ライフサイクルにおける人間関係の変化や自律・自立について考える。
2	法律の変遷から介護を考える	社会福祉士及び介護福祉士法、専門職による介護の展開及び介護職に求められる医療行為について学ぶ。
3	介護の目的	介護の原則と介護職員の倫理、自立に向けた介護、尊厳を支える介護、介護提供の場、介護の対象について学ぶ。
4	援助関係	介護における援助関係の基本①援助関係の理解②利用者の理解について学ぶ。
5	介護関係維持のための技法	①観察②コミュニケーション③記録と情報の共有④他職種との連携について学ぶ。
6	介護過程 (1)	介護過程の意義①在宅生活を支援する方法②家族への援助について学ぶ。
7	介護過程 (2)	介護過程の実際①介護過程とチームアプローチについて学ぶ。
8	生活支援技術の基本 (1)	①利用者の自立支援と介護、②住生活環境の整備と介護、③食事の介護、④排泄の介護、⑤入浴の介護について学ぶ。
9	生活支援技術の基本 (2)	①衣服の着脱の介護、②清潔の介護、③体位変換・移動の介護、④社会生活を維持するための支援、⑤健康な生活習慣づくりへの支援について学ぶ。
10	生活支援技術の基本 (3)	①緊急・事故時の対応、②介護家族への支援、③福祉用具の活用、④終末期の支援について学ぶ。
11	障害別生活支援 (1)	視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害(盲ろう)の理解と生活支援について学ぶ。
12	障害別生活支援 (2)	運動機能障害、重症心身障害の理解と生活支援について学ぶ。
13	障害別生活支援 (3)	内部障害の理解と生活支援について学ぶ。
14	障害別生活支援 (4)	知的障害、高次機能障害、精神障害の理解と生活支援について学ぶ。
15	障害別生活支援 (5) まとめ	認知症(若年性認知症を含む)の理解と生活支援について学ぶ。

科目名	こころの基盤の理解	科目ナンバリング	SFFA22005
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心を持ち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力）		

《授業の概要》

こころは脳などの神経系と無関係であるはずはありません。また、こころは決してつかみどころがない曖昧なものでもありません。本講義では、知覚心理学、認知心理学、神経心理学の内容を中心に、こころがどのような基盤から成り立っているのかを学びます。

《授業の到達目標》

- 知覚、認知、神経に関する心理学の基本事項について説明できる。
- 簡単な実験や質問紙調査を行うことができる。
- 心理的または社会的事象のいくつかについて、心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ペーパーテスト70%
- レポート・小テストなど20%
- 受講態度10%

《テキスト》

プリントを配布

《参考図書》

- 「視覚心理学への招待 見えの世界へのアプローチ」 大山正著 サイエンス社
- 「グラフィック 認知心理学」 森敏昭・井上毅・松井孝雄サイエンス社
- 「朝倉心理学講座4 脳神経心理学」 利島保[編] 朝倉書店

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 特に予習は必要としない。
- ・復習の方法 復習には力を入れてください。授業中に整理するプリントの内容を中心に復習してください。まず、各用語の意味を理解し覚えてください。次に、図や表、様々なデータを参照しつつ、実験やモデルが示すことを理解するように努めてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	こころの基盤とは？	ガイダンス
2	眼からの情報は脳へどう伝わるか(視覚の基礎)	網膜の役割、光信号から電気信号への変換
3	眼からの情報は脳へどう伝わるか(脳への伝達)	網膜から大脳への情報の伝達
4	感覚の黄金法則(感覚についての3つの法則)	ウェーバーの法則、フェヒナーの法則、スティーブンスのべき法則
5	実験	触二点閾についての実験
6	おかしいのは世界か？自分か？(体制化と錯視)	錯視のデモやその見えの仕組み、いくつかの対象がまとまって見える性質
7	実験	ミュラーリヤー錯視についての実験
8	わたしたちの世界(三次元知覚)	三次元に世界を知覚するために必要な要素、大きさの恒常性
9	見えていても見えていない(注意)	網膜に投影されることと「見える」こととの違い。注意の空間的および時間的性質 脳の損傷と注意の障害
10	自分が自分であるために(記憶)	記憶の分類、短期記憶から長期記憶へのシフト
11	自分が自分であるために(記憶)	ワーキングメモリ スパンテストの体験 脳と記憶
12	いつも言葉で考える(言語)	言葉と脳、文の理解にかかわる処理
13	人に会うとはじめに見るところ(顔の認知)	顔を認識する能力、人種と顔、感情と顔
14	一難去ってまた一難(問題解決)	洞察と情報処理による問題解決
15	これまで何を学んだか(まとめ)	こころの基盤としての知覚、認知、神経

科目名	コミュニケーション論		科目ナンバリング	SFFA22006	
担当者氏名	柏木 登起				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）				

《授業の概要》

福祉分野に携わる上で、他者との円滑なコミュニケーションスキルは不可欠です。前半はコミュニケーションとは何か、福祉分野におけるコミュニケーションについて理論を学ぶと同時に、実践を通じて、具体的なコミュニケーションスキルを高めます。後半は、福祉レクリエーション支援を行うための介入技術を、グループ演習やロールプレイといった実践を通じて、習得します。

《授業の到達目標》

1. コミュニケーションの基本的な心構えを理解する。
2. 福祉分野におけるコミュニケーションの特徴を理解する。
3. 円滑なコミュニケーション行うスキルを身につける。
4. 福祉分野における集団行動やチームワークについて理解する。
5. 福祉分野におけるレクリエーションスキルを身につける。

《成績評価の方法》

定期試験（50%）
 授業時の課題・実践による評価（50%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義内容と授業の運営方法について知る
2	コミュニケーションとは何か①	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション①について学ぶ キーワード：情報伝達／意思表示
3	コミュニケーションとは何か②	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション②について学ぶ キーワード：受容／共感／協調／対人援助／相談援助
4	福祉分野におけるコミュニケーションの特徴	福祉分野におけるコミュニケーションとは何かを考える キーワード：子ども／高齢者／視覚障害／聴覚障害者
5	コミュニケーションスキルを高める①	信頼関係構築のためのコミュニケーションスキルを高める キーワード：自己開示／ラポール
6	コミュニケーションスキルを高める②	「傾聴」「承認」「質問」スキルを高める キーワード：傾聴／同調／復唱／オープンクエスチョン／クローズドクエスチョン
7	福祉レクリエーションとは何か	福祉分野におけるレクリエーションの重要性について考える キーワード：アイスブレイク／アクティビティ／グループワーク
8	福祉レクリエーションの計画	福祉レクリエーションのプログラムの立て方を学ぶ キーワード：プログラムデザイン
9	福祉レクリエーション計画策定の実践	福祉レクリエーションのプログラムを立てる
10	福祉レクリエーションの実践①	福祉レクリエーションを実践する①
11	福祉レクリエーションの実践②	福祉レクリエーションを実践する②
12	福祉レクリエーションの実践③	福祉レクリエーションを実践する③
13	福祉レクリエーションの応用	対象者と現場に合わせたレクリエーションのアレンジについて学ぶ
14	福祉分野におけるチームワークとは	福祉分野におけるチームワークを考える キーワード：チームビルディング／情報共有
15	まとめ	コミュニケーション論のまとめ（これまで学んできたことを振り返る）

《テキスト》

指定しません。適時資料を配布します。

《参考図書》

『楽しさの追求を支えるための介入技術』公益財団法人日本レクリエーション協会、2013他。

《授業時間外学習》

必要の際、適時説明します。

《備考》

授業のテーマ上、他者とコミュニケーションを積極的に取ることを求めます。以下の授業計画は、習熟度に合わせて順序を入れ替えるなど変更となる場合があります。

科目名	社会心理学	科目ナンバリング	SFFA22007
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つようとする態度（社会的責任） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）		

《授業の概要》

社会心理学は、家族などとの身近な社会、学校などの日常的活動の舞台となる社会、国際舞台のような規模が大きな社会について、それらをどのように心に映し出し、それらにどのように働きかけるかを解き明かそうとしています。本講義では、社会心理学の知見を体系的に学習し、人と人が出会うところに生まれるいろいろな問題に対し深く洞察できる力を養います。

《テキスト》

「いちばんはじめに読む心理学の本2 社会心理学 社会で生きる人のいとなみを探る」 遠藤由美編著 ミネルヴァ書房

《参考図書》

「図説心理学入門第2版」 齊藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《授業の到達目標》

- 「社会心理学」の心理学における位置づけを説明できる。
- 自己、他者とのつながり、自他間の影響過程といった主要内容について、理解し説明できる。
- 心理的または社会的事象のいくつかについて、社会心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。こういったテーマを学ぶか、意識することが大切です。
- ・復習の方法 授業中に整理するプリントを中心に復習してください。また、テーマの目的に関係した課題を出しますのでレポートを作成してください。レポートは添削後、返却します。

《成績評価の方法》

- ペーパーテスト 60%
- レポート・小テストなど 20%
- 受講態度 20%

《備考》

○本科目は、教養科目「心理学」を修得後に受講することを奨めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス コミュニケーションのかたち	授業計画の説明、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
2	社会的動物としての人間	他者の心の理解、心の理論
3	社会的動物としての人間 2	集団での協力関係、互惠性
4	感情 1	ラザルスの感情生起の理論
5	感情 2	基本的感情と社会的感情の役割、幸福とはどういうことか？
6	人を傷つける心	他者への攻撃、攻撃行動の合理化、攻撃行動の生起を説明する理論
7	人を助ける心	他者への援助、援助における思考、援助を妨げる原因、援助行動の生起を説明する理論
8	集団 1	集団とは何か？ 実在集団の葛藤理論
9	集団 2	社会的アイデンティティ理論、集団協力ヒューリスティック、社会的ジレンマ
10	関係性 1	関係性はいかに重要か？ 関係のはじまり、親しい関係の維持・終焉
11	関係性 2	恋愛・結婚、関係性に対する質問紙調査
12	社会的自己 1	自己とは何か？ 個人的自己概念と公的自己概念、作動的自己概念
13	社会的自己 2	社会的比較、自己評価維持モデル、自己評価に関する動機
14	パーソナルスペース	パーソナルスペースに関する実験の体験
15	これまで何を学んだか	まとめ

科目名	態度の心理学		科目ナンバリング	SFFA22008
担当者氏名	北島 律之			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

社会心理学で学んだ自己と他者の関係についての基礎的な内容をもとに、「態度」を軸としながら発展的に学びを深める。社会の中で影響がどのように伝わるか、どのようなときに自分の態度が変化するか、社会的な判断はいかに形成されるかなど、心理学の実践的な役割について考えていく。

《テキスト》

「いちばんはじめに読む心理学の本2 社会心理学 社会で生きる人のいとなみを探る」 遠藤由美編著 ミネルヴァ書房
 ＊社会心理学で使用するテキストと同一

《参考図書》

「図説心理学入門第2版」 斎藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《授業の到達目標》

- 社会的影響や態度といった内容を心理学的な点から説明することができる。
- 心理的または社会的事象のいくつかについて、社会心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。どういったテーマを学ぶか、意識することが大切です。
- ・復習の方法 授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《成績評価の方法》

- ペーパーテスト60%
- レポート・小テストなど30%
- 受講態度10%

《備考》

本科目は、「社会心理学」を修得後に受講するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的影響 1	他者は人にどのような影響を及ぼすか？ 多数派の影響と少数派の影響
2	社会的影響 2	権威に服従する、権威に抵抗する さまざまな技法を用いて他者に影響を及ぼす
3	態度・説得 1	態度とは何か？ 態度はどのようなときに変わるのか？
4	態度・説得 2	人はどのようにして説得されるのか？ マス・メディアはどのように人を動かすか？
5	質問紙調査	態度にかかわる質問紙調査
6	文化と心 1	文化はどのように人をつくるか？ 文化と心の関係にまつわる理論と方法
7	文化と心 2	文化と心の関係を表す実証研究 人はどのように文化をつくるか？
8	原因帰属と社会的推論・判断 1	原因帰属の理論 原因帰属に伴うエラーとバイアス
9	原因帰属と社会的推論・判断 2	錯誤帰属 ヒューリスティック
10	ステレオタイプ・差別 1	ステレオタイプ、偏見、差別とは？ どのようなステレオタイプがあるか？
11	ステレオタイプ・差別 2	人は集団をどのようにとらえるか？ ステレオタイプはどのように処理されるか？
12	実験	IATによる潜在的なステレオタイプについての実験
13	公正・公平 1	公正とは何か
14	公正・公平 2	不公正にどう反応するか？ なぜ公正にこだわるのか？
15	これまで何を学んだか	まとめと展望

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	専門プレゼミナール I		科目ナンバリング	SFFA12009
担当者氏名	小倉 毅、小林 茂、北島 律之、稲富 恭			
授業方法	演習	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） 			

《授業の概要》

1年次の演習などを通して学んだ人間関係を構築するスキルに基づきながら、見学、体験、ボランティアなどを行うことで、専門的な力を活用するための基盤を身につける。児童や障害者を対象としながら、援助に対する取り組み方や、支援にかかわる様々な方法について体験的にまなぶ。

《テキスト》

その都度、プリントを配布する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

- (1) 相談援助の対象となる人々について体験的に理解する。
- (2) 援助の取り組み方、支援にかかわる方法について自分たちで検討し、実践することができる。

《授業時間外学習》

児童や障害者との交流や施設見学のための準備を行う。

《成績評価の方法》

主体的な授業への参加姿勢、レポートの提出、プレゼンテーションの様子、グループでの協働的な取り組み姿勢などを総合的に評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス、地域調査のまとめ	授業ガイダンス。基礎ゼミナールⅡで実施した地域調査の内容をふり返り、発表の準備を行う。作業を通じて発表資料、読み原稿の作成について理解する。（グループワーク）
2	地域調査の発表	基礎ゼミナールⅡで実施した地域調査のプレゼンテーションを実施する。質疑応答、相互評価を通じてプレゼンテーション技術について理解する。（グループワーク）
3	児童養護施設をまなぶ	児童養護施設について映像から学ぶ。気づいたこと、考えたことを文章にする。文章の書き方についても指導する。
4	養護学校をまなぶ 1	養護学校について勉強する<外部講師>
5	養護学校をまなぶ 2	養護学校を知るための課題にチャレンジ
6	養護学校をまなぶ 3	養護学校見学
7	身体障害者の暮らしをまなぶ	福祉のまちづくり研究所見学
8	不登校についてまなぶ	不登校について勉強する<外部講師>
9	障害児・障害者についてまなぶ 1	障害児・障害者をもつ保護者の話から学ぶ<外部講師>
10	障害児・障害者についてまなぶ 2	障害児・障害者の親の会との交流会準備
11	障害児・障害者についてまなぶ 3	障害児・障害者の親の会との交流会準備
12	障害児・障害者についてまなぶ 4	障害児・障害者の親の会との交流会の実施
13	障害児・障害者についてまなぶ 5	障害児・障害者の親の会との交流会の振り返り
14	調査により福祉をまなぶために 1	これまでの体験的まなびを参考にしながら、専門プレゼミナールⅡで行う福祉にかかわる調査の準備を行う。気になった事柄の抽出など。
15	調査により福祉をまなぶために 2	これまでの体験的まなびを参考にしながら、専門プレゼミナールⅡで行う福祉にかかわる調査の準備を行う。考えられるテーマはどのようなものがあるか。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	専門プレゼミナールⅡ		科目ナンバリング	SFFA12010
担当者氏名	小倉 毅、小林 茂、北島 律之、稲富 恭			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

専門プレゼミナールⅠを通じて得た体験的な知識に基づきながら、利用者理解を目的とした調査を行う。自分たちで内容を検討した上でデータを取得し、プレゼンテーションのための分析まで行う。

《テキスト》

その都度、プリントを配布する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

- (1) 調査について基本を理解し、自ら実行することができる。
- (2) 福祉の利用者の視点に立ち、課題を見つけることができる。

《授業時間外学習》

授業の進行に合わせて、必要な調査準備を行う。

《成績評価の方法》

主体的な授業への参加姿勢、レポートの提出、プレゼンテーションの内容、グループでの協働的な取り組み姿勢などを総合的に評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	Ⅱ期の勉強の進め方 時間割の確認 専門プレゼミナールⅠの振り返り
2	調査内容の検討1	調査内容を決めるために、グループごとにわかれて意見を出し合う。
3	調査内容の検討2	出された意見をもとに、いくつかの内容に絞り、それぞれの成果や課題について検討する。
4	調査内容の検討3	これまでの議論をもとに、調査内容を決定する。
5	調査の準備1	調査目的に従い、どのような手法を用いるか、そのために準備するものは何か検討する。
6	調査の準備2	調査のための準備を行う。アンケートやインタビュー内容の決定、具体的な調査対象の選定
7	調査の準備3	グループ間で調査の内容などを共有し、課題を発見する。
8	調査の準備4	前回に見つかった課題の対応を中心に、調査のための準備を完了させる。
9	調査の実施1	グループごとに調査を実施する。
10	調査の実施2	グループごとに調査を実施する。
11	調査の実施3	グループごとに調査を実施する。
12	調査結果の分析とまとめ1	得られたデータの入力と整理
13	調査結果の分析とまとめ2	整理されたデータから分析
14	調査結果の分析とまとめ3	プレゼンテーションの準備
15	プレゼンテーション	グループごとに調査の内容と結果について説明する。

科目名	社会保障論 I		科目ナンバリング	SSPB12011	
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力） 				

《授業の概要》

社会保障の概念や対象，理念等について，その発達過程も含めて解説し，制度の体系と概要について理解する。本講義では，社会保障を構成する医療保障制度，介護保険制度および社会福祉制度を中心に教授する。

《テキスト》

『社会保障(新・社会福祉士養成講座12)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版，及び授業中に配布するプリント。

《参考図書》

《授業の到達目標》

社会保障の役割や理念，機能について理解する。社会保障の構造を把握し，制度の体系について理解する。社会保障の財源と費用を学び，社会保障財政のトレンドについて理解する。社会保障制度を構成する医療保障制度や介護保険制度，社会福祉制度の内容，現状，将来展望について説明できる。

《授業時間外学習》

講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。限られた講義時間で，幅広い知識を身につけなければならないため，予習・復習が単位取得の必須の要件となる。

《成績評価の方法》

定期試験80%，授業への参加とその成果20%。

《備考》

本教科は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に対応する科目であり，受験対策を意識した講義を実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会の変化と社会保障	オリエンテーション(講義の課題と対象)
2	社会保障の定義	社会保障の内容による定義と制度による定義
3	社会保障の構造	社会保障の目的と機能，近年の社会保障改革の動向
4	社会保障の財源と費用	社会保障給付費，社会保障関係費，財源構成 社会保障制度のまとめと国家試験対策
5	医療保障制度 (1)	医療費の動向
6	医療保障制度 (2)	日本における医療供給システムの特徴
7	医療保障制度 (3)	医療保険制度 (1)
8	医療保障制度 (4)	医療保険制度 (2)
9	医療保障制度 (5)	医療制度改革 医療保障のまとめと国家試験対策
10	介護保険制度 (1)	介護保険制度の概要 (1)
11	介護保険制度 (2)	介護保険制度の概要 (2)
12	介護保険制度 (3)	介護保険制度をめぐる近年の動向 介護保険制度のまとめと国家試験対策
13	社会福祉制度 (1)	社会福祉の法制度，動向，社会福祉の実施体制，社会福祉制度形成史
14	社会福祉制度 (2)	社会福祉施策：母子福祉，老人福祉，児童福祉，障害者福祉
15	社会福祉制度 (3)	社会福祉施策：生活保護，社会手当 社会福祉のまとめと国家試験対策

科目名	社会保障論Ⅱ		科目ナンバリング	SSPB12012	
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力） 				

《授業の概要》

本講義では、社会保障を構成する年金保険制度、労働保険制度について教授する。また、少子高齢化や生活の都市化・核家族化、所得格差の拡大、福祉サービス供給や財源調達、管理運営に関する公私関係、現代社会における社会保障制度の諸課題について教授するとともに、社会保障制度の発達過程や諸外国における社会保障制度の概要についても理解を深める。

《テキスト》

『社会保障(新・社会福祉士養成講座12)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版、及び授業中に配布するプリント。

《参考図書》

《授業の到達目標》

年金保険制度、労働保険制度を理解する。社会保障が対応する今日的課題(格差問題、少子化問題、高齢化問題)について、それらの本質や動向について理解する。社会保障の発展プロセスや諸外国の制度に対する学習を通して、社会保障制度の本質や制度形成のメカニズムを理解する。

《授業時間外学習》

講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。限られた講義時間で、幅広い知識を身につけなければならないため、予習・復習が単位取得の必須の要件となる。

《成績評価の方法》

定期試験80%、授業への参加とその成果20%。

《備考》

本教科は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に対応する科目であり、受験対策を意識した講義を実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	年金保険制度 (1)	オリエンテーション：講義の課題と対象 年金保険の概要
2	年金保険制度 (2)	国民年金, 厚生年金, 共済年金 (1)
3	年金保険制度 (3)	国民年金, 厚生年金, 共済年金 (2)
4	年金保険制度 (4)	年金制度改革 年金保険制度のまとめと国家試験対策
5	労働保険制度 (1)	労働者災害補償保険労働保険制度
6	労働保険制度 (2)	雇用保険制度
7	労働保険制度 (3)	労働保険制度のまとめと国家試験対策
8	社会保障が当面する課題 (1)	社会保障の類型
9	社会保障が当面する課題 (2)	格差問題の諸相, 日本及び世界の所得格差の状況, 格差問題の背景と社会保障制度
10	社会保障が当面する課題 (3)	少子高齢化の動向(日本及び先進諸国)と対応策
11	社会保障の歴史的展開 (1)	欧米における社会保障発達史
12	社会保障の歴史的展開 (2)	日本社会保障発達史 (1) 第2次世界大戦終了まで
13	社会保障の歴史的展開 (3)	日本社会保障発達史 (2) 戦後～現代 社会保障発達史のまとめと国家試験対策
14	諸外国における社会保障制度 (1)	諸外国の社会保障制度
15	諸外国における社会保障制度 (2)	諸外国の社会保障制度 まとめと国家試験対策

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 I		科目ナンバリング	SSWB22013	
担当者氏名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） 			

《授業の概要》

本講義では、高齢者（健康な高齢者も含む）に関わる様々な問題を、「高齢者理解」「高齢者に係る法・制度」「介護保険」という3つの方向から考察していく。専門用語が頻出するが、適宜補助プリントやワークシート、DVDやVHSなどの視聴覚教材などで理解を助ける。また、現状に即した事例問題を取り上げ、その分析を通して高齢者支援の理解を深める。

《テキスト》

『高齢者に対する支援と介護保険制度』新・社会福祉士養成講座（13）、中央法規出版

《参考図書》

《授業の到達目標》

- (1) 高齢者の現状を理解し、今後の高齢者政策の目指すべき方向性を正しく把握する。
- (2) 高齢者に係る法・制度を理解し、その運用について正しく理解する。
- (3) 介護保険制度の概要とさまざまな福祉サービスを理解する。

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜、予習課題およびテキスト中の該当箇所を指示する。
- (2) 復習：自ら授業内容の再確認を行う事。理解が十分でない項目などに関しての積極的な質問は歓迎する。研究室で個別に対応する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果（20%）
- (2) レポート課題等の提出物（20%）
- (3) 定期試験（60%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の方法、および高齢者福祉の内容について、概略を把握する。
2	少子高齢社会の特徴	データや表から現在の少子高齢社会の現状を把握する。また地域ごとの高齢者率など、福祉サービスを展開させていく上での基礎的な知識を身につける。
3	高齢者の特性（1）	ライフサイクルにおける高齢期の身体と精神的特性について理解する。
4	高齢者の特性（2）	高齢者の社会的、経済的的特性について理解する。
5	高齢者の生きがいと社会参加	「改正高齢者雇用安定法」の施行による高齢者、高年齢者の社会活動に焦点をあて、高齢期の生きがいについて理解を深める。
6	高齢者福祉の歴史と発展過程（1）	日本の高齢者福祉の展開過程を概観し、「福祉」の考え方の変遷を理解する。
7	高齢者福祉の歴史と発展過程（2）	1990年代以降の高齢者福祉政策に焦点をあて、「高齢者福祉」はどうあるべきなのか考察を深める。
8	諸外国の高齢者福祉の歴史と発展過程	諸外国の高齢者福祉の発展過程について学ぶ。
9	高齢者福祉に係る法と制度（1）	老人福祉法および同法が規定するさまざまな福祉サービスについて理解を深める。
10	高齢者福祉に係る法と制度（2）	高齢者虐待防止法について理解し、事例問題を議論しながら考察を深める。
11	高齢者福祉に係る法と制度（3）	権利擁護と成年後見制度について概要を理解し、事例問題を議論しながら考察を深める。
12	介護の現状と家族支援（1）	「介護保険制度」成立の背景に照準をあて、シャドウ・ワークの事例問題を読み解く中で考察を深める。
13	介護の現状と家族支援（2）	介護に係る専門職の職域と専門職としての特質について学ぶ。また外部および内部の講師による現場からの体験談を聞き、理解を深める。
14	介護の現状と家族支援（3）	認知症、尊厳死、終末期ケアの理念と方法について理解を深める。
15	I期のまとめ	I期のまとめを行う。質疑応答によってこれまでの理解をより確実なものとする。

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ		科目ナンバリング	SSWB22014	
担当者氏名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） 				

《授業の概要》

本講義では、高齢者（健康な高齢者も含む）に関わる様々な問題を、「高齢者理解」「高齢者に係る法・制度」「介護保険」という3つの方向から考察していく。専門用語が頻出するが、適宜補助プリントやワークシート、DVDやVHSなどの視聴覚教材などで理解を助ける。また、現状に即した事例問題を取り上げ、その分析を通して高齢者支援の理解を深める。

《テキスト》

『高齢者に対する支援と介護保険制度』新・社会福祉士養成講座（13）、中央法規出版

《参考図書》

《授業の到達目標》

- (1) 高齢者の現状を理解し、今後の高齢者政策の目指すべき方向性を正しく把握する。
- (2) 高齢者に係る法・制度を理解し、その運用について正しく理解する。
- (3) 介護保険制度の概要とさまざまな福祉サービスを理解する。

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜、予習課題およびテキスト中の該当箇所を指示する。
- (2) 復習：自ら授業内容の再確認を行う事。理解が十分でない項目などに関しての積極的な質問は歓迎する。研究室で個別に対応する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果（20%）
- (2) レポート課題等の提出物（20%）
- (3) 定期試験（60%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	介護保険制度（1）	介護の理念、概念、技法について基本的な理解を深める
2	介護保険制度（2）	介護保険制度の概要と介護保険制度の課題について把握する。
3	介護保険制度（3）	介護保険制度における予防概念に焦点をあてる。地域包括支援センターの内容を把握し、地域において介護予防に取り組む現状を理解する。
4	介護保険法におけるサービスと実際（1）	介護保険法における施設介護を学ぶ。3施設の概要を把握し、課題点等を理解する。
5	介護保険法におけるサービスと実際（2）	介護保険法における居宅介護を学ぶ。さまざまなサービスについて概要を把握し、課題点を理解する。
6	介護保険法におけるサービスと実際（3）	介護保険法における地域密着型福祉サービスを学ぶ。さまざまなサービスについて概要を把握し、課題点を理解する。
7	介護に係る関連機関の役割	行政機関、社会福祉協議会、医療機関の役割と実際の関わりについて把握し、地域におけるNPO活動などの働きを理解する。
8	介護保険法における相談援助の方法（1）	ケアマネジメントの基本的な方法について学び、事例問題を解きながらプロセスを確認する。
9	介護保険法における相談援助の方法（2）	ケアマネジメントの手法を応用し、個別援助、地域における援助についても事例問題を読み説く作業を行い、理解を確実にする。
10	高齢者の居住環境と福祉用具	高齢者の生活相談援助において不可欠な社会環境としての福祉用具、および生活全般に関わる環境の構築について理解を深める。
11	事例問題研究演習（1）	介護予防の事例問題（要支援1）を分析する。地域包括支援センターとの連携を考えながら、「生活の質」の維持について考察を深める。
12	事例問題研究演習（2）	要介護3の事例問題を考える。居宅介護がどのように可能なのか、さまざまな福祉サービスを試みながら、ケアプランを計画していくプロセスを楽しむ。
13	事例問題研究演習（3）	中度の認知症介護の事例を取り上げる。グループホーム、小規模多機能型施設に焦点をあてて考察を深める。
14	事例問題研究演習（4）	終末期ケアを取り上げる。在宅で最期を過ごす末期がん患者の事例をとりあげ、医療と福祉の連携ネットワークについて理解を深める。
15	Ⅱ期まとめ	Ⅱ期の総まとめをする。質疑応答によってこれまでの理解をより確実なものとする。

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度		科目ナンバリング	SSPB22015	
担当者氏名	小倉 毅				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

社会福祉基礎構造改革以降、障害者を取り巻く環境はめまぐるしく変化している。このような社会状況の中で、利用者や家族のニーズに対して、冷静かつ客観的に物事を判断し、多様な専門的機能を活用しながら、アドボカシー機能をはたせる専門職が求められる。本講義では、「障害者の生活実態」、「法制度の発展過程」、「相談援助活動に必要な諸制度」の理解し、それらを活用できる専門知識を身につける。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座〈14〉障害者に対する支援と障害者自立支援制度 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 福祉小六法 みらい

《参考図書》

《授業の到達目標》

- (1) 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要について理解する。
- (2) 障害者福祉制度の発展過程について理解する。
- (3) 相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。

《授業時間外学習》

授業の中で、随時課題を出します。その都度指定された期日までに提出すること。

《成績評価の方法》

- 授業態度 (20%)
 レポート課題 (30%)
 定期試験 (50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要の実態を理解する。
2	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢	障害者の地域移行や就労の実態を理解する。
3	障害者福祉制度の発展過程①	人権思想とノーマライゼーションについて理解する。
4	障害者福祉制度の発展過程②	日本の障害者福祉の歴史を理解する。
5	障害者の生活のニーズ	障害者の生活実態と内面（心）の理解、さらに生活ニーズを理解する。
6	障害者の法体系と実施機関	障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法を理解する。
7	障害者総合支援法の概要	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）の目的、障害支援区分、判定の仕組みとプロセスと財源を理解する。
8	障害者総合支援法の概要	障害福祉サービスの種類、障害者支援施設の種類、補装具・住宅改修の種類、自立支援医療、地域生活支援事業、苦情解決、審査請求などを理解する。
9	障害者総合支援法における組織と団体の役割	国の役割、市町村の役割、都道府県の役割、指定サービス事業者の役割、国民健康保険団体連合会の役割、労働関係機関の役割、教育機関の役割を理解する。
10	相談支援事業所の役割と実際と最近の動向	相談支援事業所の組織体系と活動の実際を学び、障害者総合支援法の最近の動向を理解する。
11	障害者の生活保障	所得保障と各種手当、障害者の雇用の促進等に関する法律について理解する。
12	障害者の社会参加	障害者の社会参加の現状と取り組みと、社会参加を拒む要因と克服課題について学ぶ。
13	障害者ケアマネジメント	障害者ケアマネジメントの理念を理解し、身体障害者、知的障害者、精神障害者の障害特性と生活ニーズを理解し、障害別ケアマネジメントの特色を学ぶ。
14	権利擁護にかかわるシステム	苦情解決制度、障害者虐待防止法、日常生活自立支援事業と成年後見制度を理解する。
15	障害者ソーシャルワークの実際	身体障害者、知的障害者の地域生活支援の実際を学ぶ。

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度		科目ナンバリング	SSWB22016	
担当者氏名	小倉 毅				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

少子・高齢化が進むなか、子どもや子育て家庭がおかれている状況も複雑化しており、さまざまな視点から支援していかなければならない。そこで、児童福祉を実践するために必要な児童福祉理念や意義、法体系を理解するとともに、母子保健、障がい、子育て支援、ひとり親家庭、社会的養護、非行、情緒障がい、児童虐待、家庭内暴力などの分野別の現状と施策を把握し、それぞれの課題を考察していく。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 中央法規出版

《参考図書》

第3版 児童家庭福祉 小倉毅・松井圭三 編 大学教育出版

《授業の到達目標》

- ・児童・家庭福祉の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際を理解する。
- ・児童の定義と権利、児童福祉法など各法制度を理解する。
- ・現代の児童・家庭福祉について論じることができる。

《授業時間外学習》

児童・家庭に関する問題に興味をもってボランティア等に参加し、現代社会におかれている当事者の想いや諸問題を理解してほしい。

《成績評価の方法》

- (1) 定期試験50%
- (2) レポート・小テストなど20%
- (3) 実技への参加態度30%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会と児童・家庭の問題	現代社会が生み出す子育て・子育ての実情と近年の子育て・子育て支援の仕組みを把握する。
2	児童・家庭福祉の理念	児童・家庭福祉は、保護者による私的責任（自助）を核にして、社会的責任（共助）、公的責任（公助）が関与することによって成立していることを理解する。
3	児童の権利保障、児童・家庭福祉の歩み	児童を権利主体として認め、その福祉を実現するようになった経過を、日本および英米の制度の展開及び具体的な活動の歩みを通して理解する。
4	児童・家庭福祉の法制度	児童福祉法をはじめとして、児童福祉六法及び児童虐待の防止等に関する法律など、児童・家庭福祉に関係する法律を理解し、児童福祉制度の概要を把握する。
5	児童・家庭福祉の行政機関と施設	児童・家庭福祉サービスの体系、行政機関・児童福祉施設等の実施体制、サービスの利用方式を理解するとともに、サービスが計画的に推進されていることを把握する。
6	児童・家庭福祉の専門職	児童と家庭福祉に関係する行政機関と施設の専門職について理解する。
7	分野別課題と施策 ①母子保健	母子保健の歩みと現状を踏まえながら、母子保健の制度・施策を理解し、その課題を考える。
8	②障がい・難病のある児童と家族	障がいや難病のある児童と家族の実情を踏まえながら、児童や家族のライフコースの視点に立ち支援の制度・施策を理解し、その課題を考える。
9	③保育・子育て支援	少子化の進行、家庭や地域の養育機能の変化を踏まえながら、保育・子育て支援の取り組みを理解し、その課題を考える。
10	④ひとり親家庭	ひとり親家庭の現状を踏まえながら、ひとり親家庭の福祉施策の概要を理解し、その課題を考える。
11	⑤児童の社会的養護	児童の社会的養護への取り組み方の変遷を踏まえながら、家庭支援型・家庭補完型・家庭代替型社会的養護の仕組みを理解し、その課題を考える。
12	⑥非行児童・情緒障がい児	非行児童と情緒障がい児の動向を踏まえながら、非行児童と情緒障がい児とその家族への支援に関する施策を理解し、その課題を考える。
13	⑦児童虐待	児童虐待の実態を踏まえながら、児童を虐待から保護する仕組みを理解し、その課題を考える。
14	⑧ドメスティック・バイオレンス	婦人保護から女性福祉への変遷を踏まえながら、家庭内暴力における児童・家庭に関する女性を支援するための制度・施策を理解し、その課題を考える。
15	児童・家庭への相談援助活動	児童・家庭福祉の理念および制度を踏まえながら、児童・家庭福祉分野における相談援助活動の留意点を理解する。

科目名	地域福祉の理論と方法 I		科目ナンバリング	SSPB12017	
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）				

《授業の概要》

社会福祉法を踏まえ、福祉社会の必要性がいわれる現代において地域福祉が必要となっている背景とその基本を学ぶとともに、地域福祉を担う主体となる住民や社会福祉法人などの組織の詳細について学習をします。そしてそれらの協働に基づくコミュニティソーシャルワークの歴史や理論、そして実践について学びます。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法（第3版）』中央法規

《参考図書》

「地域福祉の原理と方法（第2版）」学文社

《授業の到達目標》

地域福祉を規定する社会福祉法の理解を深め、福祉社会の中で地域の重要性和地域福祉の意義、そして担う主体の組織、役割、地域福祉に係る制度についての知識を獲得します。それらを踏まえ、コミュニティソーシャルワークの実践に役立てるようになります。

《授業時間外学習》

事前学習としては、テキストにより次回の授業に関連し調べておくことを指示します。事後学習としては授業で宿題を課すことがありますので、レポートとして提出してください。

《成績評価の方法》

定期試験で70%を評価します。授業態度として、レポート課題の提出状況などを評価します（30%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス／地域福祉の発展	授業の概要の説明を行います。福祉国家の変容を踏まえ、地域福祉がなぜ必要とされるようになってきたのか、その概略について学びます。
2	地域福祉の主体と行政	地域福祉を担い手との観点から、社会福祉法などをもとにしながら行政の役割、住民の役割、そしてその協働について学びます。
3	課題を解決するための地域福祉の主体	例えば、生活困窮者の問題など地域で解決可能な課題について、具体的にどのように解決すればよいのかなどを共に考えましょう。
4	地域の捉え方	地域の捉え方について、コミュニティとアソシエーションの関係、またそれぞれで活動する組織などについて学びます。
5	地域福祉の理論とその発展①	日本での地域福祉の黎明期である1960年代を振り返り、岡村重夫による地域福祉論の確立、三浦文夫らのニーズ論など機能主義的側面からの理論について解説をします。
6	地域福祉の理論とその発展②	右田紀久恵の自治型地域福祉論における公と民との関わりなど、構造主義的側面からの理論を中心に解説をします。
7	地域福祉と福祉教育	福祉教育に求められる内容や地域において必要とされる理由について学びます。スクールソーシャルワーカーについても触れる予定です。
8	社会福祉協議会の役割とその歴史	社会福祉法に明記され、地域福祉の中核となる組織、それが社会福祉協議会です。その役割、歴史的な経緯を学びます。
9	社会福祉協議会と権利擁護の関係	社会福祉協議会は、地域福祉の推進とともに地域住民の権利擁護に関わります。具体的な事業とともに地域におけるアドボカシーの考え方を学びます。
10	民生委員・児童委員・保護司	歴史的な背景をもった独自の、そしてボランティアでの地域福祉の担い手について、役割等を解説すると共に、どのように連携をするべきかを学びます。
11	NPOや社会的企業、社会福祉法人	福祉の多元化に関わるベストフの三角形をベースに、社会的企業や社会福祉法人を位置づけ、それらの現状と課題を理解します。
12	コミュニティソーシャルワークの系譜	コミュニティソーシャルワークとコミュニティワークの違いなどコミュニティソーシャルワークが必要となる背景を含めて学びます。
13	コミュニティオーガニゼーション	ロスやロスマンなどの考えを中心として、アメリカで発展したコミュニティオーガニゼーションの理論を解説します。
14	コミュニティソーシャルワーカーの役割①	コミュニティソーシャルワークの実践事例を踏まえながら、専門職による解決までのアプローチや取り組みを学びます。
15	コミュニティソーシャルワーカーの役割②	引き続き、コミュニティソーシャルワークの実践事例を踏まえながら、専門職による解決までのアプローチや取り組みを学びます。

科目名	保健医療サービス		科目ナンバリング	SSPB23003	
担当者氏名	和田 光徳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 			

《授業の概要》

現在の保健医療サービスは、医療機関を役割分担しつないでいく「地域医療連携体制」と介護保険法など介護システムと連動・協働する地域包括ケアシステムの構築が求められている。本講義では、社会福祉専門職の基礎知識として、保健医療サービスの構造、制度概要を学び、多機関・多職種協働といわれる支援体制に、ソーシャルワーカーが関わる意義を概説する。

《授業の到達目標》

保健医療サービスの利用者である患者および家族の生活問題を学ぶ。また、サービス提供制度及び担い手たちの特性を理解し、利用者（患者・家族）を中心とした連携のあり方を考えることができるようになる。

《成績評価の方法》

- 下記により総合的に評価する□
- (1) 授業への出席と討議や質問等による参加状況□
 - (2) 授業での小テスト内容□
 - (3) 期末試験（持ち込み不可）

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座『保健医療サービス』 中央法規出版

《参考図書》

新・医療福祉学概論 佐藤俊一・竹内一夫・村上須賀子編著
川島書店 2010
医療福祉総合ガイドブック 2015年度版 NPO法人日本医療
ソーシャルワーク研究会編集 2015

《授業時間外学習》

テキストを中心に授業を進めます。予習復習をしっかりと行うことが必要です。

《備考》

講義内容を深める質問、意見を歓迎します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保健医療サービスの構成要素	保健医療サービスとは：ヘルスケアを理解する、また保健医療サービスのひと・もの・かね・情報という構成要素を理解する（第1章 第1節）
2	戦後の保健医療サービスの整備・拡充の推移	戦後日本における保健医療サービスの体制づくりの変遷を理解する（第1章 第2節・第3節・第4節）
3	保健医療サービスを提供する施設とシステム①	第2章 第1節 第2節 医療法に規定される理念や施設の種類と概要を理解する
4	保健医療サービスを提供する施設とシステム②	診療報酬上における医療施設の機能・類型、介護保険法における施設等の機能・類型を理解する（第2章 第3節・第4節）
5	地域包括ケアシステムについて	地域包括ケアシステムとは何か、その構成要素と体制づくり、課題について学習する（第2章 第5節）
6	医療ソーシャルワーカーの役割	医療ソーシャルワーカーの歴史的展開と業務の枠組みを理解する（第3章 第1節）
7	医療ソーシャルワーカーの実践業務①	医療ソーシャルワーカーの実践業務の内容（ミクロのソーシャルワーク）を理解する（第3章 第2節）
8	医療ソーシャルワーカーの実践業務②	医療ソーシャルワーカーのミクロからメゾへのソーシャルワーク実践を理解する（第3章 第3節）
9	保健医療サービス専門職の役割（病院内チーム）	保健医療サービス専門職の概観・チームの形態等チームアプローチについて学ぶ（第4章 第1節、第6章 第1節）
10	保健医療サービス専門職の役割（地域のチーム）	保健医療サービス専門職の概観・多機関・多職種協働のチーム、クリティカルパスなどチームの運営方式について学ぶ（第6章 第3節）
11	患者の権利と専門職の倫理	保健医療サービス専門職の基本姿勢・患者の権利と専門職の倫理、インフォームド・コンセントについて理解する（第4章 第2節）
12	専門職の視点と共有	保健医療サービス専門職の視点と役割、ソーシャルワーカーの視点とそれらが協働する「カンファレンス」の機能について理解する（第4章 第3節）
13	保健医療サービスと給付の仕組み①	医療保険制度および公費負担医療制度における診療報酬制度の概要を知る（第5章 第1節・第3節）
14	保健医療サービスと給付の仕組み②	介護保険制度における介護報酬の概要を知る（第5章 第2節）
15	地域の社会資源との連携づくり	地域の保健医療ネットワーク構築のためのソーシャルワーク実践と連携方法、地域の連携団体を知る（第3章 第4節、第6章 第2節、第7章 第1節・第2節）

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度		科目ナンバリング	SSPB22018	
担当者氏名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） <input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

本講義では、貧困に関する先行研究、および英国、日本の公的扶助の歴史的形成過程と発展を概観し、わが国における低所得者の生活実態を理解する。また、わが国の生活保護制度制度の実施体制などの理解を通して、ソーシャルワーカー（SW）の役割、関係諸機関とのネットワークの構築等を学ぶ。これと並行して、被保護者への具体的な援助計画を立て、自立支援や住宅政策などの取り組みについて理解を深める。

《テキスト》

「低所得者に対する支援と生活保護制度」新・社会福祉士養成講座16/ 中央法規出版

《参考図書》

《授業の到達目標》

- 本講義では以下の達成目標を設定する。
1. 社会福祉政策における公的扶助の役割を理解する。
 2. 貧困をめぐる課題とその背景を考え、適切な支援計画を思考する。
 3. 生活保護に関する事例をもとに、生活保護の制度を利用した援助方法を立てる。
 4. 低所得者の就労支援の援助計画を立て課題点を分析する。

《授業時間外学習》

毎日、その日の新聞に目を通し、問題意識を持って授業に臨んでほしい。

《成績評価の方法》

1. 授業内討論等への参加とその成果（20%）
2. レポート課題等の提出物（30%）
3. 定期試験（50%）

《備考》

演習・ロールプレイを多用するので出席は必須

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講義を学ぶに際しての受講上の留意点、成績評価、出欠について周知する。また、基本的な出発点としての憲法第25条の理解を深める。
2	公的扶助制度の歴史	近代以降の日本の貧困政策、選別的救済の歴史を概観し、戦後の生活保護制度の制定から今日までの社会福祉政策を跡付ける。
3	英国の貧困政策の歴史	エリザベス救貧法を起点に、被救済者に対する差別的な扱いからナショナルミニマムへと展開する英国の社会福祉政策理念を概観する。
4	貧困と相対的はく奪	ティトマスの相対的はく奪の理論を学び、絶対的貧困と相対的貧困の概念について理解を深める。参考として開発途上国のVTRを用いる。
5	低所得者層の生活実態と貧困	事例問題を議論し、時系列に沿って検討していきながら、低所得者問題の理解を深める。
6	生活保護の実施体制	生活保護の実施体制について理解する。
7	生活保護の原理・原則	生活保護の原理・原則について理解する。
8	生活保護基準と要否判定	生活保護基準と要否判定について理解する。現場のソーシャルワーカーによる講義を予定している。
9	生活保護の動向と財源	生活保護の動向と財源について理解する。現場のソーシャルワーカーによる講義を予定している。
10	自立支援プログラムによる相談援助	自立支援プログラムの実施におけるソーシャルワーカーの相談援助の方法を学ぶ。ロールプレイによって理解を深める。
11	ホームレスの生活と相談援助	ホームレスの人々の生活支援の方法を学ぶ。住宅政策についても理解を深める。
12	低所得者への社会福祉サービス	低所得者への福祉サービスの種類、およびその支援の方法を学ぶ。事例をもとに検討を重ね理解を深める。
13	低所得者への就労支援サービス	低所得者への就労支援サービス、およびその支援の方法を学ぶ。事例をもとに検討を重ね理解を深める。
14	ソーシャルワークの視点から貧困を考える	生活困窮者支援におけるソーシャルワーカーの相談援助の方法を学ぶ。ロールプレイによって理解を深める。
15	まとめ	講義での重要項目について再度復習し、目標達成ができた事を確認する。

科目名	権利擁護と成年後見制度		科目ナンバリング	SSPB22019	
担当者氏名	関川 雅世				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）			

《授業の概要》

「権利擁護と成年後見制度」では日本国憲法、行政法、民法等の理解は必須であるが、対象者は権利擁護を必要とする社会福祉の対象者である事から、授業では法学の未履修者も受け入れ、関連する法の解説から始める。法や社会福祉の専門職が、後見制度等の対象者の日常生活や人権をどのように護ればよいのかを、さまざまな社会資源の連携と権利擁護の観点から考察し、その運用について理解を深める。

《授業の到達目標》

- (1) 日本国憲法・行政法・民法を理解し、その運用について正しく把握する。
- (2) 権利擁護・成年後見制度の仕組みと関係諸機関について理解する。
- (3) 権利擁護・成年後見制度を必要とする人々の現状を理解し、専門職連携についてその実際を学ぶ。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果 (20%)
- (2) レポート課題等の提出物 (30%)
- (3) 定期試験 (50%)

《テキスト》

『新・社会福祉士養成講座 19 権利擁護と成年後見制度』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社

《参考図書》

授業中、適宜指示する。

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。
- (2) 復習：自ら授業内容の再確認を行うこと。理解が十分でない項目などに関しては、積極的に担当者に質問し、毎回の授業を確実なものにしていく努力が望まれる。授業では適宜、関連図書などの紹介も行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の方法、および授業の概略をつかむ。
2	日本国憲法・行政法の理解	日本国憲法の理念、および人権思想について学ぶ。成年後見制度と関連する行政法を理解する。
3	民法（親族・相続/ 物件）の理解	民法の基礎的な理解を深める。親族・相続・契約・物件についての知識を確実なものとする。
4	成年後見制度の概要（後見/ 保佐/ 補助人）	法定後見の基本、および後見人・保佐人・補助人の役割と権利・義務を理解する。
5	成年後見制度と関係機関の理解	家庭裁判所、法務局（後見登録）の活動内容を把握する。弁護士・司法書士の役割、権限等を理解する。
6	任意後見制度の理解と法定後見制度との関連	任意後見制度の基本を学び、法定後見制度との関連を理解する。
7	消費生活センター等の仕組み	相談支援機関とその役割について学ぶ。
8	日常生活自立支援事業の概要	日常生活自立支援事業の概要、および社会福祉協議会の役割について学ぶ。
9	知的・身体障害者の権利擁護問題	知的障害者・身体障害者の日常生活の支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
10	精神障害者の権利擁護問題	精神障害者の日常生活の支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
11	認知症高齢者の権利擁護問題	認知症高齢者の日常生活の支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
12	専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）連携	各専門職による支援と連携について学ぶ。
13	成年後見制度の申立	相談受付から申立て支援、連携する機関等について理解を深める。
14	成年後見制度利用支援事業	成年後見制度利用支援事業の実際と課題について理解を深める。
15	I期まとめ	補充説明とI期の総まとめ。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助の理論と方法 I		科目ナンバリング	SSPB12020	
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）				

《授業の概要》

対人援助の在り方について、面接の進め方、専門職としての価値、態度の再確認と、それを実践に移していける援助技術の展開の仕方について、講義と事例から学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編「相談援助の理論と方法 I 第3版」 中央法規 2015

《参考図書》

- ・H.M. パートレット著 小松源助訳「社会福祉実践の共通基盤」ミネルヴァ書房 2009
- ・Germain, C著 小島蓉子訳「エコロジカル・ソーシャルワーク」学苑社 1992年
- ・社会福祉小6法 中央法規 2016

《授業の到達目標》

実習に赴いたときに、利用者の問題や、課題を利用者や家族との話しの中から、また記録の中からまとめだすことができ、具体的な支援計画の作成の手順とが理解できる。また、利用者との話をどのように展開していくかの流れを形成していくことができるようになる。

《授業時間外学習》

新聞をはじめとするメディアの報道に目を通すことと、人についての発達段階と、その各段階で遭遇する解決課題について、各自の知識として整理しておくこと。授業はシラバスに添って進められます。教科書の該当箇所を、各自でしっかりと事前学習をしてください。

《成績評価の方法》

評価は、授業態度30% 課題達成20% 終了時テスト50%として行う。この基準で出した評価点（100点満点）を、各自の評価とする。

《備考》

遅刻は一切認めない。定時に始まり、定時に終わる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助とは	相談援助とは、その援助技術であるソーシャルワークとは、どのように考えるべきものであるのか、また相談援助にあたる専門職の役割とはについて検討する。
2	ソーシャルワークの構成要素とその機能を考える	人と環境との関連性を検討するとともに、個人、家族、小集団、地域等がそれぞれに、総合的な観点から、評価し、優れたところも保持した存在であることを、検討する。
3	人と環境との交互作用とは	システム理論をもとに、人と環境の関わり、人と人の関わりを検討するとともに、システム理論をソーシャルワークが取り入れる意味について検討する。
4	援助関係の形成と援助関係のもたらすもの	援助関係とはどのような状況をいうのか、また、援助関係を形成していくにはどのような事柄に留意していくべきなのかを検討する。
5	援助者の機能と役割、また援助者に求められるもの	援助関係で援助者が果たすべき役割はどのようなものであり、援助関係の質を高めるためには、援助者としてどのような取り組みが求められるのかを検討する。
6	対象による援助関係の特徴	援助の対象、利用者の状態、おかれている環境によって、形成されるべき援助関係についての配慮が求められるが、それぞれでどのような配慮を必要とするのかを検討する。
7	相談援助での一般的な留意点	ソーシャルワーク援助のすべてのプロセスを通して、援助者はどのようなことに留意し、支援を進め、形作っていくのかについて述べる。
8	インテーク面接の役割と留意点	ソーシャルワーク援助でのインテーク面接の位置づけと、インテークワーカーの役割、クライアントのモチベーションと面接の進め方について検討する。
9	問題とは、ニーズとは、事実とは	利用者の抱える困りごとを聴きとるためには、どのような配慮と、援助者の視点が求められるのか、真実に迫る面接を構成する要件とはについて検討する。
10	アセスメントの精度を高める情報収集と分析	アセスメントの精度が支援の効果を左右する。利用者の全方位的なアセスメントが総てを決することを意識したうえで、アセスメントの在り方を検討する。
11	解決課題設定と支援計画の作成	解決課題（ニーズ）の確定と、効率的な解決手順の設定を目指した利用者との共同作業の内容が、支援計画の質の高さに大きく影響することを確認する。
12	支援計画の実施とモニタリング	周到な準備の上で実施される支援計画に基づいたサービス提供が、予定通りの効果を上げているのかの確認と、それによる利用者の変化についての確認の仕方を学ぶ。
13	モニタリングと支援計画の変更	モニタリング結果を参考に、予定通りの効果が発揮できていない原因の把握と、効果的なサービス提供がなされるためのサービスの変更や支援計画の修正について学ぶ。
14	支援の終了とアフターケア	支援の終了は環境の変化を生み出し、利用者の新しいストレスとなりうる。新しい適応課題の出現の有無を確認するとともに、精神面のサポートを行うことの重要性を学ぶ。
15	効果的な面接の進め方	14回の授業を総括し、効果的な面接の進め方を確認し、より学びを実践に近づけるものとする。

科目名	相談援助演習 I A		科目ナンバリング	SSPB12021	
担当者氏名	和田 光徳、小林 茂				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）				

《授業の概要》

社会福祉専門職としての価値、倫理を演習を通じて理解を深め、具体的に専門職の「態度」として表現ができるように、基礎的技能を習得する。そのために、自己理解や他者とのかわり、基本的な面接技法を学ぶ。

《テキスト》

「社会福祉士相談援助演習 第2版」日本社会福祉士養成校協会監修 中央法規

《参考図書》

「マイクロカウンセリング」 アイヴィ著 川島書店 1985年

《授業の到達目標》

- ・ソーシャルワークの価値、倫理を理解する。
- ・自己と他者の「違い」を理解し、「相手を尊重する」態度を身につける。
- ・ラポール形成の基礎となる傾聴のスキルを身につける。

《授業時間外学習》

演習は、並行して学習している科目群の知識を総合的に活用する授業です。関連科目の教科書についても予習・復習することが必要です。

《成績評価の方法》

- 下記により総合的に評価する□
- (1) 授業への出席と討議や質問等による参加状況□
 - (2) 授業後の振り返りレポート□
 - (3) 課題レポート

《備考》

演習は自らが体験し、学びを深める授業です。したがって、出席し授業に積極的に参加・協力することが、通常講義より大きな評価基準となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	演習の意義、方法について説明し、授業への参加意思を明確にする。
2	対人援助の基礎	【演習＋講義】自己理解について学ぶ。
3	対人援助の基礎	【演習＋講義】自己理解を深める。
4	対人援助の基礎	【演習＋講義】人間理解（精神分析的理解、交流分析の自我状態、エゴグラム）
5	対人援助の基礎	【演習＋講義】他者理解・自己覚知について学ぶ。
6	ソーシャルワークの価値	【講義＋事例によるグループ討議】ソーシャルワークの普遍的価値、IFSW定義にみるソーシャルワークの使命、倫理綱領について学ぶ。
7	専門職としての価値、倫理と自己覚知	【事例によるグループ討議】個人の価値観と専門職としての価値をビネットを通じて学ぶ。
8	コミュニケーションの基礎	【演習＋講義】言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを理解し、非言語的コミュニケーションの相互影響関係を学ぶ。
9	基礎的な面接技法	【演習】傾聴について（日常会話上の“よく聞く”と傾聴・「関与しながらの観察」の違いを、ロールプレイを通じて学ぶ）
10	基礎的な面接技法	【演習】簡単な自己のライフストーリーを作成し、自己理解を深めるとともに、それを題材に傾聴（ロールプレイ）の演習を行う。
11	基礎的な面接技法	【演習】効果的な傾聴とは（コミュニケーションラボの使用、ロールプレイにより、自己の傾聴を客観的に評価する）
12	利用者理解の技術	【講義＋演習】自己のエコマップ&ジェノグラムを作成する
13	利用者理解の技術	【講義＋演習】記録の仕方を学ぶ（グループワーク）
14	ソーシャルワーク固有の視点	マイクロ・メゾ・マクロを貫く視点について事例を通じて理解する。（グループワーク）
15	専門職に向けての自己評価	課題レポートによる授業内発表

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助実習指導 I		科目ナンバリング	SSWB21012
担当者氏名	田端 和彦、稲富 恭			
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） 			

《授業の概要》

利用者の相談援助には、まず利用者を知ることが重要になります。利用者理解のためには、例えばコミュニケーションの取り方や介護などを通して利用者と接する機会があるため、その技術を学ぶ必要があります。そこで実習の基礎となるこの授業では、これらの基礎を学びます。また後半では今後の実習に向けての実習計画書や日誌の作成について学びます。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会（監修）、長谷川匠俊、上野谷加代子、白澤 政和他編「社会福祉士相談援助実習（第2版）」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業の到達目標》

利用者と接し、コミュニケーションを取ることができるような基礎的な技術や知識を身につけます。またグループワークなどを通して、今後の実習の際に必要な実習計画の立案や報告書の作成に必要な基礎的な知識や技術を身につけることができます。

《授業時間外学習》

授業の中でレポート課題を課します。

《成績評価の方法》

授業を受ける態度、グループワークでの発言等の状況、授業内で課すレポート、及び授業内で課す理解度テスト結果の総合点で判断をします。

《備考》

相談援助実習指導Ⅱと並行して行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助実習指導Ⅰの位置づけ、目的、課題を学びます。相談援助実習指導Ⅰの前半部分の振り返りを行い、その定着を図ります。
2	コミュニケーションの方法①	職員や利用者など、多くの方々に対し挨拶や自己紹介などを行い、また相手からの働きかけへの適切な対応を学びます。
3	コミュニケーションの方法②	円滑な人間関係とはどのようなことか、特に、不特定多数の方との関係づくりに必要な方法について学びます。
4	コミュニケーションの方法③	学生による互いの演習を行い、それらを通して言語、非言語でのコミュニケーションの実際について学びます。
5	利用者の理解	社会福祉施設の利用者について、統計や書籍等を参考にしながら学ぶとともに、グループワークなどで考えます。
6	社会福祉施設と地域	社会福祉施設と地域との関係やソーシャルワーカーの役割について、事例をもとにグループワークなどで考えます。
7	介護の現場に必要な基礎技術①	介護の現場で必要となる基礎的な技術として食事に必要な知識や食事介助の方法について学びます。
8	介護の現場に必要な基礎技術②	引き続き、介護の現場で必要となる基礎的な技術として、車いすによる移動やベッドへの移乗の方法などについて学びます。
9	介護の現場に必要な基礎技術③	引き続き、介護の現場で必要となる基礎的な技術として、入浴などに必要な機材やその設置などについて学びます。
10	現場の観察と報告の作成①	観察をした内容を報告や日誌、記録にまとめるための技術や方法を学びます。
11	現場の観察と報告の作成②	引き続き、観察をした内容を報告や日誌、記録にまとめるための技術や方法を学びます。グループで評価をします。
12	実習計画書の作成方法	PDCAサイクルを基本として、計画とはどのようなものであるか、実習における計画の役割について学びます。
13	相談援助基礎実習に向けての準備①	相談援助基礎実習先を踏まえて、実習先の事業、利用者、支援の内容やその法制度的な背景などを調べたり、学んだりします。
14	相談援助基礎実習に向けての準備②	引き続き、相談援助基礎実習先を踏まえて、実習先の事業、利用者、支援の内容やその法制度的な背景などを調べたり、学んだりします。
15	全体総括	利用者理解、施設の理解、実習に必要な知識や技術等の整理を行います。

科目名	相談援助実習指導Ⅱ		科目ナンバリング	SSWB22022
担当者氏名	小倉 毅、吉原 恵子、稲富 恭、小林 茂			
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期 2年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） 			

《授業の概要》

【教育目標】

社会福祉教育は実践的な学問であり、福祉の現場から切り離された福祉の学習・研究は考えられません。福祉のサービスを利用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設・従事者の実際の実践活動を学ぶ実習教育を、理論的な学習と並ぶ車の両輪として位置づけます。

《授業の到達目標》

相談援助実習のための事前～事後学習指導。実習が実りあるものとなるよう、実習先に応じた事前学習、実習中の不安や悩みへの対応、実習後の課題整理・レポート作成、同種の実習先で体験した学生による相互討議など、個別指導とグループ指導によって実習に向け学習を進めます。

《成績評価の方法》

実習計画書づくり、レポート(50%)、出席授業姿勢(50%)
ソーシャルワーカーとしての資質も問うので授業態度や意欲も成績評価の対象とします。

《テキスト》

〔編集〕白澤正和・米本秀仁〔監修〕社団法人日本社会福祉士養成協会『社会福祉士相談援助実習』中央法規, 2009, ISBN978-4-8058-3125-0c3036

《参考図書》

ソーシャルワークとグローバリゼーション 仲村優一 編集
日本ソーシャルワーカー協会国際委員会 2003年8月 相川書房
新・社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職』2010年1月 中央法規出版

《授業時間外学習》

社会福祉施設・機関で5日間実習します。実際の福祉現場の業務や援助実践を体験し、就労姿勢を学びます。さらに、対象となる問題の捉え方、援助実践の方法・技術、さまざまな制度に関する体系的知識や施設分析を学習します。なお、利用者への理解を深めるとともに、自分の性格やソーシャルワークになるために求められる資質を培うために、自己覚知します。

《備考》

実践としての社会福祉を重視し、実習指導を充実させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	social work ガイダンス 全体オリエンテーション	ソーシャルワーカーの姿勢・専門的責務について学び、さらに実習内容について理解する（事前訪問、実習先見学、事務手続きについて）
2	実習前の事前確認事項を整理しよう①	現在感じている不安や、施設・学校に確認したいことを書きだし、事前に確認すべき事項を整理する。
3	実習前の事前確認事項を整理しよう②	実習機関先の情報や知識を獲得後、どのような課題をもって取り組むのかを明確（課題、学習内容、問題意識を明らかにする）にする。
4	実習施設を取り巻く環境を整理する	実習先の運営主体、設立、運営の理念・方針、事業内容、地域の特性など、実習先を取り巻く環境を整理する。
5	実習施設の特徴を整理する	実習先の種別、法的基盤、沿革と社会的背景を理解し、法律で規定された実習施設の目的や支援内容、職員配置や支援プログラムなどを整理する。
6	実習計画書を作成しよう①	ソーシャルワーカーに関心をもったきっかけ、将来どのような支援を提供したいかを明確にするとともに、実習中に行う具体的な達成課題を設定する。
7	実習計画書を作成しよう②	ソーシャルワーカーに関心をもったきっかけ、実習中に行う具体的な達成課題を設定し、実習テーマを考える。
8	実習計画書を作成しよう③	実習計画書と実習プログラムを照らし合わせ、実習計画書を完成させる。
9	実習日誌を作成しよう①	実習日誌は、実習指導者からフィードバックしてもらえる大切な記録である。ここでは、実習日誌を書く目的や記録上の留意点について理解する。
10	実習日誌を作成しよう②	実習日誌は、実習指導者からフィードバックしてもらえる大切な記録である。ここでは実習場面を想定し、エピソードから実習を振り返り方法を学ぶ。
11	実習日誌を作成しよう③	実習場面を想定し、地域の社会や制度・施策との関係に触れながらマイクロレベル（個別ケース）からメゾレベルやマクロレベルに対する実習記録を作成する。
12	事前訪問方法及び一般的なマナーを理解する。	事前訪問のために事前予約方法、実習生に求められる挨拶、電話のかけ方、服装、身だしなみ等について理解する。
13	直前学習（事務手続き等を理解する）	実習ノートの配布・必要な検査や事務手続き等について確認する。（緊急時の連絡方法、その他連絡事項を確認）
14	直前学習（お礼状の書き方等）	実習後は、実習先に感謝の気持ちを伝えるお礼状の書き方について学ぶ。
15	直前学習（分野別指導）	実習中の留意点の確認・実習出勤簿の取扱い・実習記録の取扱い・健康管理・帰校日について・実習巡回指導について・実習後に行う手続き等について確認する。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助実習指導Ⅱ		科目ナンバリング	SSWB22022	
担当者氏名	小倉 毅、吉原 恵子、稲富 恭				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力) ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力) ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー) 				

《授業の概要》

【教育目標】

社会福祉教育は実践的な学問であり、福祉の現場から切り離された福祉の学習・研究は考えられません。福祉のサービスを利用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設・従事者の実際の実践活動を学ぶ実習教育を、理論的な学習と並ぶ車の両輪として位置づけます。

《テキスト》

〔編集〕白澤正和・米本秀仁〔監修〕社団法人日本社会福祉士養成協会『社会福祉士相談援助実習』中央法規, 2009
ISBN978 - 4-8058-3125-0c3036

《参考図書》

新・社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職』中央法規出版

《授業の到達目標》

社会福祉施設・機関で5日間実習します。実際の福祉現場の業務や援助実践を体験し、就労姿勢を学びます。さらに、なお利用者への理解を深めるとともに、自分の性格やソーシャルワーカーになるために求められる資質を培うために、自己覚知します。実習後の課題整理・レポート作成、同種の実習先で体験した学生による相互討議など、個別指導とグループ指導によって「他者からの気づき」から学習を深めます。

《授業時間外学習》

対象となる問題の捉え方・援助実践の方法・技術、さまざまな制度に関する体系的知識や施設分析を教科書等で振り返り、体験をソーシャルワーカーの力量として培っていきましょう。

《成績評価の方法》

実習計画書づくり、レポート(50%)、出席授業姿勢(50%)
ソーシャルワーカーとしての資質も問うので授業態度や意欲も成績評価の対象とします。

《備考》

実践としての社会福祉を重視し、実習指導を充実させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	social work ガイダンス 全体オリエンテーション	基礎実習で学んだ「利用者からの学び」「ソーシャルワーカーの専門性」「実習施設と社会資源の関係」を理解するために、5日間の実習内容と感想をまとめる。
2	実習振り返りにおけるグループ学習①	実習先で体験したことを報告し実習内容の共有する。また施設種別や実習目標の異なる学生の「実習経験」を整理するため、KJ法を用いて学生の現状と課題を明らかにする。
3	実習振り返り(グループ学習②)	実習先で体験したことを報告し実習内容の共有する。また施設種別や実習目標の異なる学生の「実習経験」を整理するため、KJ法を用いて学生の現状と課題を明らかにする。
4	実習の振り返り(グループ学習③)	ソーシャルワークは、日々の実践において価値・倫理的ジレンマを感じることもある。実践におけるジレンマの種類別に整理する。
5	実習振り返り(グループ学習④)	ソーシャルワークは、日々の実践において価値・倫理的ジレンマを感じることもある。実践におけるジレンマの種類別に整理する。
6	実習課題の整理①	実習日誌をもとに、実習先で行われているコミュニケーション等の直接的な援助や利用者理解における課題について整理する。
7	実習課題の整理②	実習日誌をもとに、実習先で行われているコミュニケーション等の直接的な援助や利用者理解における課題について整理する。
8	実習課題の整理③	実習日誌をもとに、実習先で行われているソーシャルワークとその関連業務や場面における課題について整理する。
9	実習課題の整理④	実習日誌をもとに、実習先で行われているソーシャルワークとその関連業務や場面における課題について整理する。
10	実習報告書の作成①	実習の振り返り(グループ学習)と、実習課題の整理したものを用いて、実習報告書を作成する。
11	実習報告書の作成②	実習の振り返り(グループ学習)と、実習課題の整理したものを用いて、実習報告書を作成する。
12	実習報告会資料の作成	実習報告書をもとに、実習報告書を作成する。
13	実習報告会	実習報告会の開催
14	実習報告会の振り返り	実習報告会振り返り
15	総まとめ	基礎実習の総まとめ

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助基礎実習		科目ナンバリング	SFFB22013	
担当者氏名	稲富 恭、吉原 恵子、原 志津、小倉 毅				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）				

《授業の概要》

社会福祉教育は、実践的な学問である。福祉のサービスを使用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設において、5日間実習を行うことで、支援者の実践を学び、ソーシャルワーカーとしての自らの力量を培う第一歩としてほしい。

《授業の到達目標》

5日間の基礎実習を通して、現場の施設機能や施設職員・ソーシャルワーカーと利用者への実際の関わりを学び、利用者にとって必要な支援とは何かを学んで欲しい。そのために実習生としての自分ができる支援について考え、工夫して実践できるよう、実習前の学びを深めてほしい。

《成績評価の方法》

実習日誌の記録・実習巡回者の評価（40%）・実習先の評価（60%）により評価する。

《テキスト》

社会福祉相談援助実習 監修 社団法人日本社会福祉士養成校協会 編集 白澤政和ほかISBN978-4-8058-3125-0C3036

《参考図書》

よくわかる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル1「楽しさの追求を支える理論と支援の方法」、マニュアル2「楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施」、マニュアル3「楽しさの追求を支えるための介入技術」公益財団法人日本レクリエーション協会

《授業時間外学習》

上記の参考図書をよく読み福祉レクリエーション関連の授業で学んだことを5日間のこの実習に活かせるように、実習先の利用者にあったレクリエーション企画を考えておくこと。

《備考》

実践としての社会福祉を重視し実習を充実させる。本学科の実習ガイドラインを熟読すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
2	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
3	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
4	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
5	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
6	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
7	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
8	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
9	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
10	現場実習・福祉レクリエーションの実践	上記目標に、利用対象者に合わせた福祉レクリエーション・ワークの実践計画の作成・実践企画・調整を加える。
11	現場実習・福祉レクリエーションの実践	上記目標に、利用対象者に合わせた福祉レクリエーション・ワークの実践計画の作成・実践企画・調整を加える。
12	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
13	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
14	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
15	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助基礎実習		科目ナンバリング	SFFB22013
担当者氏名	稲富 恭、吉原 恵子、原 志津、小倉 毅			
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

社会福祉教育は、実践的な学問である。福祉のサービスを使用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設において、5日間実習を行うことで、支援者の実践を学び、ソーシャルワーカーとしての自らの力量を培う第一歩としてほしい

《テキスト》

社会福祉相談援助実習 監修 社団法人日本社会福祉士養成校協会 編集 白澤政和ほかISBN978-4-8058-3125-0C3036

《参考図書》

よくわかる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル1 「楽しさの追求を支える理論と支援の方法」、マニュアル2 「楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施」、マニュアル3 「楽しさの追求を支えるための介入技術」 公益財団法人日本レクリエーション協会

《授業の到達目標》

5日間の基礎実習を通して、現場の施設機能や施設職員・ソーシャルワーカーと利用者への実際の関わりを学び、利用者にとって必要な支援とは何かを学んで欲しい。そのために実習生としての自分ができる支援について考え、工夫して実践した結果をふり返り、次の実習につなげていってほしい。

《授業時間外学習》

上記の参考図書をよく読み福祉レクリエーション関連の授業で学んだことを5日間のこの実習に活かせるように、実習先の利用者にあったレクリエーション企画を考えておくこと。

《成績評価の方法》

実習日誌の記録・実習巡回教員の評価 40% 実習先の評価 60% により評価する

《備考》

実践としての社会福祉を重視し実習を充実させる。本学科の実習ガイドラインを熟読すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
2	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
3	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
4	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
5	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
6	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
7	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
8	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
9	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
10	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
11	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
12	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
13	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
14	現場実習・福祉レクリエーションワークの実践	福祉レクリエーション・ワーク実践記録を作成し、評価を受ける。
15	現場実習・福祉レクリエーションワークの実践	福祉レクリエーション・ワーク実践記録を作成し、評価を受ける。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	統計学の基礎		科目ナンバリング	SF22023	
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） <input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） <input checked="" type="radio"/> 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）			

《授業の概要》

さまざまな調査や実験において数値を扱うこととなります。その数値から何か結論を導き出すには、統計的な知識が必要となることが少なくありません。本講義では、具体的な問題についてソフトを利用した統計解析を行いながら、自らがデータを分析できるようになることを目指します。

《テキスト》

『使える統計－Excelで学ぶ実践心理統計－』 櫻井広幸・神宮英夫 著 ナカニシヤ出版

《参考図書》

《授業の到達目標》

○ExcelやJavaScript-STARで基本的な統計手法を実際に行うことができる。
 ○統計についての基本的な考え方を理解し、データに対する適切な処理法を指摘することができる。

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。どういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。
 ・復習の方法：もう一度テキストに目を通すとともに、授業で扱ったExcelなどの操作を確認しながら、統計手法の内容を確認してください。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 60%
 レポート・小テストなど 20%
 受講態度 20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	統計の役割
2	尺度	尺度の種類、度数分布とヒストグラム
3	記述統計（1）	代表値
4	記述統計（2）	標準偏差、分散
5	正規分布	正規分布の意味、正規分布の形の特徴
6	母集団と標本	サンプルの平均についての平均と標準偏差
7	推測統計と仮説検定（1）	信頼区間
8	推測統計と仮説検定（2）	対応のある t 検定、対応のない t 検定
9	分散分析（1）	対応のある分散分析、対応のない分散分析
10	分散分析（2）	分散分析の下位検定：多重比較
11	相関と回帰（1）	相関係数
12	相関と回帰（2）	回帰分析
13	ノンパラメトリック検定法（1）	順位相関係数
14	ノンパラメトリック検定法（2）	χ^2 検定
15	これまで何を学んだか	まとめ

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービス I		科目ナンバリング	SPSC22024	
担当者氏名	真野 元四郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

精神障害者の疾病・障害を学び、精神保健福祉士としての役割と精神障害者の特性への理解を深める。教科書や視聴覚教材を用いて授業を行う。グループワークを行い、障害者の理解や事例の研究を行い、精神保健福祉施策の現状と課題を学習する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 第6巻 精神保健福祉に関する制度とサービス 第3版 編集：日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規ISBN978-4-8058-3948-5

《参考図書》

第4版これからの精神保健福祉 精神保健福祉士ガイドブック 編集：柏木昭・荒田寛・佐々木敏明 へるす出版社ISBN978-4-89269-620-6

《授業の到達目標》

・障害者福祉における精神障害者福祉の位置付けを説明できるようになる。
 ・理念や施策および実践課題を把握し、現状と課題を説明できるようになる。
 ・精神障害者の人権を擁護し、精神保健福祉士の役割として期待される社会復帰に向けた援助方法や生活支援に関わる他機関多職種との連携、福祉施策とその実践のあり方を学び、実践に繋がる技術を習得することを目指す。

《授業時間外学習》

精神保健福祉分野における援助者を目指す上で、その姿勢や価値観の基盤となる科目である。そのため、時間外には、近隣の施設や精神科病院におけるシンポジウムやボランティア活動など能動的に取り組んでほしい。

《成績評価の方法》

授業への積極的参加態度（15%）、レポート課題（15%）、授業内課題（20%）、試験（50%）などから総合的に評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 人権とは	障害者の人権を擁護する立場からの専門職としての役割について偏見と差別の視点から考える。
2	精神医学の歴史と福祉の理念（世界）①	精神医学の歴史と障害者への排除の歴史を押さえ、世界の障害者福祉の持つ基本的な性格を理解する。
3	歴史と障害者福祉の理念（日本）②	精神医学の歴史と障害者への排除の歴史を押さえ、我が国の障害者福祉の持つ基本的な性格を理解する。
4	障害および障害者	障害の概念をWHOが新たに示した国際生活機能分類の視点から学習し、その上で障害者福祉法にみる障害の規定を習得する。
5	障害者福祉の基本施策	国および地方公共団体の責務や国民の責務も明らかにし、自立への努力の必要性などを定めた障害者基本法を中心に学習する。
6	精神障害者の生理と病理	精神障害者の脳機能の生理と病理について当事者の視点から振り返る。
7	精神障害者の主体性の尊重	個人の主体性と創造的な生き方とは何かを学習する。自分らしく生きることについて学習する。生と死、自殺防止法など。
8	精神保健福祉士法の意義と内容	精神障害者を側面から援助する専門職者としての精神保健福祉士法の意義と内容について学習する。（Y問題についてのレポートを課す。）
9	精神保健福祉領域の関連法	精神障害者への対策は、保健・医療・福祉・教育など関連施策による援助で構成される。これらの関連法規について学ぶ。
10	障害者福祉施策の概要①	障害者総合支援法と、その施策の概要を問題点と課題の観点から学習する。
11	障害者福祉施策の概要②	障害者総合支援法と精神保健福祉法の内容面から学習する。
12	障害者福祉施策の概要③	障害者虐待防止法を精神保健福祉の視点から学習する。
13	相談援助活動の方法	相談援助活動を行う際の基本や医療機関における相談援助活動を学ぶ。社会生活を支える施設や地域社会における相談援助活動を学習する。
14	相談援助活動の事例	成長・変化する援助関係を、統合失調症の方との援助関係の展開事例を通して学習する。
15	前期の総括	精神保健福祉施策の現状と課題の総括。

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ		科目ナンバリング	SPSC22025	
担当者氏名	真野 元四郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

前期同様、精神障害者の疾病・障害を学び、精神保健福祉士としての役割と精神障害者の特性への理解を深める。教科書や視聴覚教材を用いて授業を行う。グループワークを行い、障害者の理解や事例の研究を行い、精神保健福祉施策の現状と課題を学習する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 第6巻 精神保健福祉に関する制度とサービス 第3版 編集：日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規ISBN978-4-8058-3948-5

《参考図書》

第4版 これからの精神保健福祉精神保健福祉士ガイドブック 編集：柏木昭・荒田寛・佐々木敏明 へるす出版社ISBN978-4-89269-620-6

《授業の到達目標》

・障害者福祉における精神障害者福祉の位置付けを説明できるようになる。
 ・理念や施策および実践課題を把握し、現状と課題を説明できるようになる。
 ・精神障害者の人権を擁護し、精神保健福祉士の役割として期待される社会復帰に向けた援助方法や生活支援に関わる他機関多職種との連携、福祉施策とその実践のあり方を学び、実践に繋がる技術を習得することを目指す。

《授業時間外学習》

精神保健福祉分野における援助者を目指す上で、その姿勢や価値観の基盤となる科目である。そのため、時間外には、近隣の施設や精神科病院におけるシンポジウムやボランティア活動など能動的に取り組んでほしい。

《成績評価の方法》

授業への積極的参加態度（15%）、レポート課題（15%）、授業内課題（20%）、試験（50%）などから総合的に評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	後期の流れの確認。
2	医療保険制度	精神保健福祉分野の制度的社会資源としては、その中心をなす医療保険制度を、現物給付面と現金給付面から取り上げる。
3	精神保健福祉に係る公費負担制度	公費負担制度は公が租税を財源とし、保健・医療・福祉等にかかる費用の一部または全部を保障する制度である。障害者総合支援法の面から概観する。
4	精神障害者の所得保障・経済的負担の軽減	所得保障は、社会保険、公的扶助、各種手当の3つの制度から成る。精神障害者の障害者認定の現状、雇用・就労および所得保障の現状を学ぶ。
5	精神保健福祉施策の課題	精神障害者保健福祉手帳制度の概要と課題を中心に、今後の精神障害者福祉施策に求められる視点を概観する。
6	精神保健福祉に関する行政組織と民間組織	都道府県・政令指定都市(精神保健福祉センター・保健所を含む)における精神保健福祉と市町村、民間団体における精神保健福祉を学習する。
7	精神保健福祉における専門職との連携	精神障害者は疾病と障害を併せ持つため、治療等のために複数の専門職間の連携が必要となる。その各々の役割と、あり方を学習する。
8	更生保護制度とその担い手	更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係と現状
9	心神喪失等医療観察法の概要	心神喪失者等医療観察法と精神保健福祉士の役割について学ぶ。
10	社会調査の意義と目的、方法①	社会資源の調整・開発に関わる社会調査の意義を考える。
11	社会調査の意義と目的、方法②	量的調査の方法と活用。
12	社会調査の意義と目的、方法③	質的調査の方法と活用。
13	社会調査の意義と目的、方法④	量的調査の演習。
14	社会調査の意義と目的、方法⑤	質的調査の演習。
15	総括	精神保健福祉施策の現状と課題の総括。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神疾患とその治療 I		科目ナンバリング	SPSC22026	
担当者氏名	西山 忠博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる (知識・技能の統合)				

《授業の概要》

I 期、II 期を通して精神疾患の病態と治療法、医療機関や地域でどのような支援が行われているのかについて理解を深める。I 期は主に精神疾患の捉え方と病態の基本的な知識、病気が生活に与える影響についての講義を行う。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 1 『精神疾患とその治療』精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2012

《参考図書》

必要に応じて文献、資料を印刷して配布する。

《授業の到達目標》

主な精神疾患の病態についての基本的な知識が得られる。精神疾患の症状と生活への影響について理解できる。

《授業時間外学習》

毎回、授業の内容を復習しておくこと。必要に応じてレポートを課す。

《成績評価の方法》

定期試験 (60%)、レポート等の課題 (30%)、授業への参加態度 (10%)

《備考》

授業には積極的に参加し、発言すること。課題は指定された期日までに提出すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション、こころを病む人の経験世界	精神疾患の当事者はどのような体験をしているのか？またそれに対してどのような支援が必要なのかを考え、精神疾患とその治療、支援の概要を理解する。
2	精神医療の歴史と現状	精神医療の歴史を通して、当事者がおかれてきた状況と現状、今後の課題について考える。
3	精神疾患の症状	精神疾患に伴う主な症状と生活への影響について理解する。
4	精神現象の生物学的基礎	精神疾患を理解するために必要な脳・神経系の構造と働きについての基本的な知識が得られ、脳と精神現象との関係を理解する。
5	こころの理解	精神分析の立場からこころをどう捉えるのかを知り、それが精神疾患の理解にどのように役立つのかを理解する。
6	統合失調症	統合失調症の病態、患者像について理解する。
7	統合失調症の事例検討	投稿失調症患者の事例を通して、当事者の体験と生活への影響について理解を深める。
8	気分障害	双極性障害、うつ病を中心として気分障害の病態と患者像について理解する。
9	気分障害の事例検討	気分障害の患者の事例を通して、当事者の体験と生活への影響について理解を深める。
10	神経症性障害、ストレス関連障害等	神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害の病態を理解する。パニック障害、適応障害、PTSDなどについても理解を深める。
11	パーソナリティ障害	様々なパーソナリティ障害の症状を知り、当事者の生活への影響について理解する。
12	精神遅滞、心理発達の障害など	発達の障害、小児期および青年期に発症する行動、情緒の障害について理解を深める。
13	アルコール依存、薬物依存	アルコール依存症、薬物依存症を中心とした精神作用物質使用による精神及び行動の障害を理解する。
14	認知症	アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症を中心とした器質性精神障害について理解を深める。
15	精神疾患についてのまとめ	精神疾患の病態についてのまとめを行い、「精神疾患とその治療II」につなげる。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神疾患とその治療Ⅱ		科目ナンバリング	SPSC22027	
担当者氏名	西山 忠博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

I期、Ⅱ期を通して精神疾患の病態と治療法、医療機関や地域でどのような支援が行われているのかについて理解を深める。Ⅱ期は「精神疾患とその治療Ⅰ」の内容を受け、精神疾患の診断と治療法についての基本的な知識を得るとともに、当事者に対しての医療機関や地域における支援のあり方について講義する。

《授業の到達目標》

精神疾患の診断と治療についての基本的な知識が得られる。当事者が疾患とともに生活して行くための支援のあり方について理解できる。

《成績評価の方法》

定期試験（60％）、レポート等の課題（30％）、授業への参加態度（10％）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション、支援と多職種連携	精神疾患の当事者に対して支援が行われ、それにはどのような職種が関わり連携しているのか、その概要を理解する。
2	精神疾患の診断と治療	精神疾患の分類と診断方法、検査等についての基本的な知識を得る。また医療機関等でどのような治療がなされているのか、その概要を理解する。
3	精神科医療機関での入院治療	精神科医療機関での入院治療について、当事者がたどるプロセスを理解する。また精神科病院の機能についても理解を深める。
4	精神科における人権擁護	精神科の入院形態について理解するとともに、行動制限や隔離・拘束等精神科特有の治療と法的根拠、人権擁護との関連性について理解する
5	薬物療法の基本知識	抗精神薬についての基本的知識を得るとともに、当事者にとっての服薬継続の意味について考える。
6	薬物療法の継続	薬物療養中断患者の事例をもとに、治療継続の困難さを当事者の立場から考え、理解を深める。
7	身体療法と精神療法	精神療法と身体療法についての基本的な知識を得る。
8	精神科リハビリテーション	精神科リハビリテーションについての基本知識を得る。またSST、作業療法等、リハビリテーションの実例も紹介する。
9	SST演習	課題を決めてSSTを行い、精神科リハビリテーションについての理解を深める。
10	退院支援	医療機関で行われている退院支援について理解する。また長期入院から地域生活への移行等、現代の精神科医療の傾向とその課題についても理解を深める。
11	地域生活の支援1	デイケア、デイナイトケア、就労支援等、当事者が地域生活を継続できるための社会資源について理解する。
12	地域生活の支援2	外来診療、訪問看護等、地域での生活を継続するための医療的支援について理解する
13	治療導入への支援・再発防止への支援	医療機関や福祉と学校との連携、産業保健など、早期治療に結びつけるための支援や心理教育等、再発防止のための支援について理解する。
14	医療観察法対象者の支援	医療観察法対象者の支援と意義について講義し、理解を深める。
15	精神科の治療と支援のまとめ	Ⅱ期のまとめを行う。また近年の精神科医療の動向と課題についても理解を深める。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座1『精神疾患とその治療』，精神保健福祉士養成校協会編集，中央法規出版，2012

《参考図書》

必要に応じて文献、資料を印刷して配布する。

《授業時間外学習》

毎回、授業の内容を復習しておくこと。必要に応じてレポートを課す。

《備考》

授業には積極的に参加し、発言すること。課題は指定された期日までに提出すること。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）		科目ナンバリング	SPSC22028
担当者氏名	香木 明美			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

- ①精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方
 - ②相談援助に係る専門職の概念と範囲
 - ③精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容
- 上記3点について、講義を通して学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座3 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）第2版』日本精神保健福祉士養成校協会編
中央法規 2015年

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する
- ②精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する
- ③精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する
- ④上記①②③について説明し自分の意見が言えるようになる。

《授業時間外学習》

各回の講義の前にテキストの該当箇所を目を通し、予習しておくこと。

《成績評価の方法》

- 授業への参加意欲、態度 20%
- レポート等の提出 20%
- 定期試験 60%

《備考》

- ①ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。
- ②講義中に積極的に質問、意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健福祉分野における相談援助の体系①	精神保健分野における相談援助活動の対象
2	精神保健福祉分野における相談援助の体系②	精神保健分野における相談援助活動の目的と意義
3	精神保健福祉分野における相談援助の体系③	精神保健分野における援助活動の現状と今後の展開
4	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲①	相談援助にかかわる専門職とは
5	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲②	専門職としての精神保健福祉士
6	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲③	精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念
7	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲④	精神科医療機関における専門職①
8	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲⑤	精神科医療機関における専門職②
9	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲⑥	行政機関における専門職
10	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲⑦	障害福祉サービス事業所における専門職
11	総合的・包括的な援助と多職種連携①	総合的・包括的な援助を支える理論
12	総合的・包括的な援助と多職種連携②	総合的・包括的な援助の機能と概要
13	総合的・包括的な援助と多職種連携③	多職種連携（チームアプローチ）の意義と概要
14	総合的・包括的な援助と多職種連携④	他職種連携における精神保健福祉士の役割
15	まとめ	本講義で学んだことに関するふりかえり

科目名	福祉レクリエーションⅠ	科目ナンバリング	SFFD22029
担当者氏名	マーレー 寛子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）		

《授業の概要》

レクリエーションが単なる時間つぶしではなく、人間が人間らしく生きるために必要不可欠であり権利であるという視点から、「楽しむ」ことの重要性について学ぶ。また、その関連理論について学ぶ。

《テキスト》

「よく分かる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル 1」日本レクリエーション協会編、2013

《参考図書》

「フロー・楽しみの現象学」M. チクセントミハイ

《授業の到達目標》

福祉レクリエーション支援の土台となる楽しさの経験について理論的に理解することができる。また、実際の福祉レクリエーション支援を理論に基づいて実施するための諸理論を学び具体的な支援と結びつけることができる。

《授業時間外学習》

課題レポート：授業内で示される課題についてリサーチし、レポートをまとめる

《成績評価の方法》

課題レポート(期日厳守) 50% 振
 振り返りテスト(コースの最終日に行く。持ち込み不可) 5
 0%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	レクリエーションの意義①	レクリエーションの意義その背景を理解する
2	レクリエーションの意義②	楽しさの追及についての理解を深める
3	レクリエーションの意義③	福祉レクリエーション支援と楽しさの経験について理解する
4	レクリエーションの意義④	レジャーとレクリエーションの意味について説明することができる
5	レクリエーション支援①	内発的動機付けとレクリエーション支援の関係について理解できる
6	レクリエーション支援②	レクリエーション支援の中での自己決定の意義と役割を説明することができる
7	レクリエーション支援③	レクリエーション支援とフロー理論について理解できる
8	レクリエーション支援と理論①	楽しさの経験とその諸理論について説明することができる
9	レクリエーション支援と理論②	グループワークの諸理論とレクリエーション支援との関係を理解する
10	レクリエーション支援と理論③	グループダイナミクスとレクリエーション支援について説明できる
11	リーダーシップ論	リーダーシップ論について説明できる
12	セラピューティックレクリエーションとは	セラピューティックレクリエーションについての理解を深める
13	行動変容と自己効力感	行動変容と自己効力感の関係を理解する
14	福祉レクリエーションワーカーの役割と資質	福祉レクリエーションワーカーの役割と資質について説明できる
15	まとめ	これまでの学習内容を振り返り、学んだ内容を説明することができる

科目名	福祉レクリエーション演習 I		科目ナンバリング	SFFD22030	
担当者氏名	原 志津、田島 栄文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）				

《授業の概要》

前半は、福祉現場におけるレクリエーションの意義や社会福祉支援者に必要なレクリエーション活動支援技術を理解し、レクリエーション活動支援計画の作成能力や実践技術を習得向上する。対人関係の基本から学び、集団型レクリエーション活動支援の体験や演習を展開していく。Ⅱ期には福祉レクリエーション演習Ⅰ（発展）としてさまざまなレクリエーション活動の素材に内在する楽しさや喜びを体験理解する。

《授業の到達目標》

1. 福祉現場におけるレクリエーションの意義を理解する。
2. 支援者に必要なレクリエーション活動支援技術を理解する。
3. レクリエーション活動支援計画の作成ができるようになる。
4. 集団型レクリエーション活動支援の体験や演習を行う。

《テキスト》

よくわかる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル 楽しさの追求を支えるための介入技術 見通しと根拠をもって個人やグループを支える方法 日本レクリエーション協会1700円

《参考図書》

「レクリエーション支援の基礎—楽しさ・心地よさを生かす理論と技術—」日本レクリエーション協会2007
 「リハビリテーションとレクリエーション援助」（嵯峨野書院1998）
 「楽しいアイスブレイキングゲーム集」（日本レクリエーション協会2002）

《授業時間外学習》

授業後に配布プリントを確認・整理しながらマイノートをまとめ、振り返りカードを貼り付けるようにしてください。

《成績評価の方法》

授業参加点（出席状況・受講態度20）＋ 毎回の振り返り提出点30＋実技指導評価点20（企画書と指導）＋最終レポート提出点30

《備考》

レクリエーション実践がしやすいような服装で授業に臨んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	I. コミュニケーションワーク①	ホスピタリティーとは
2	コミュニケーション・ワーク②	ホスピタリティーの示し方
3	コミュニケーション・ワーク③	アイスブレイキングとは
4	コミュニケーションワーク④	アイスブレイキングの方法
5	Ⅱ. 目的に合わせたレクリエーションワーク①	目的に沿ったアクティビティーの選択
6	Ⅱ. 目的に合わせたレクリエーションワーク②	アクティビティーの選択方法
7	Ⅱ. 目的に合わせたレクリエーションワーク③	相互作用の活用方法 1
8	Ⅱ. 目的に合わせたレクリエーションワーク④	相互作用の活用方法 2
9	Ⅱ. 目的に合わせたレクリエーションワーク⑤	支援実習 1
10	Ⅱ. 目的に合わせたレクリエーションワーク⑥	支援実習 2
11	Ⅲ対象にあわせたレクリエーション・ワーク①	対象にあわせたレクリエーション・ワークの実践演習①
12	Ⅲ対象にあわせたレクリエーション・ワーク②	対象にあわせたレクリエーション・ワークの実践演習②
13	Ⅲ対象にあわせたレクリエーション・ワーク③	対象にあわせたレクリエーション・ワークの実践演習③
14	Ⅲ対象にあわせたレクリエーション・ワーク④	対象にあわせたレクリエーション・ワークの実践演習④
15	Ⅲ対象にあわせたレクリエーション・ワーク⑤	対象にあわせたレクリエーション・ワークの実践演習⑤

科目名	生活支援技術		科目ナンバリング	SFFD22031
担当者氏名	小倉 毅			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 			

《授業の概要》

生活支援技術は、介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていくことを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることが重要である。そこで利用者個人の尊厳を保持しながら、日常生活を営む上で無意識に行う「移動すること、食事をする、身支度をする」といった一連の活動について理解するとともに、その人にあった生活支援方法について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ① 個別性に応じたベッドメイキングができる。
- ② 身支度についての意義と目的を理解し、利用者に応じた着脱支援ができる。
- ③ 移動、食事の介護の意義と目的を理解し、利用者の状況に応じた支援ができる。
- ④ 入浴や排せつの意義と目的を理解し、利用者に応じた支援ができる。

《成績評価の方法》

- (1) 定期試験50%
- (2) レポート・小テストなど20%
- (3) 実技への参加態度30%

《テキスト》

生活支援技術Ⅱ
介護福祉士養成テキスト 中央法規出版

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- 1) 予習：予習課題については授業時に指示します。
- 2) 復習：授業内容を再度確認すること。理解が十分でない場合は、積極的に質問して下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	環境を整える生活支援技術	個別に応じたベッドメイキングを学ぶ。
2	身じたくの生活支援技術①	整容の生活支援技術におけるアセスメントを理解し、洗面支援、爪の手入れ、皮膚の清潔などを学ぶ。
3	身じたくの生活支援技術②	口腔ケアの目的と効果を理解し、口腔ケアの方法について学ぶ。
4	身じたくの生活支援技術③	衣服の種類と選択に必要な視点を理解し、衣服の着脱方法を学ぶ。
5	移動の生活支援技術①	自立生活を支える移動・移乗の生活支援技術と、アセスメントに必要な状態像を理解する。
6	移動の生活支援技術②	移動・移乗の基本的理解を行う。①ボディメカニクス、②体位交換
7	移動の生活支援技術③	移動・移乗の基本的理解を行う。①ベッド上の移動介助
8	移動の生活支援技術④	移動・移乗の基本的理解を行う。①ベッドから車いすへの移乗介助
9	移動の生活支援技術⑤	移動・移乗の基本的理解を行う。①車いす介助について（室内移動・屋外移動）
10	移動の生活支援技術⑥	移動・移乗の基本的理解を行う。①歩行介助 ②杖歩行と道具・用具の種類について
11	食事の生活支援技術①	食事介助におけるアセスメントを理解し、生活支援技術の実際を学ぶ。
12	入浴・清潔保持の生活支援技術①	入浴・清潔保持の生活支援技術におけるアセスメントを理解し、事故予防について学ぶ。
13	入浴・清潔保持の生活支援技術②	個別性（自立・一部介助・全介助）に応じた入浴支援技術と部分浴について学ぶ。
14	排せつの生活支援技術①	排せつの生活支援技術におけるアセスメントを理解し、支援方法を学ぶ。①車いす生活者の生活支援技術を学ぶ。②ポータブルトイレ介助
15	排せつの生活支援技術② まとめ	排せつの生活支援技術を学ぶ。①ベッド上における排せつ介助 これまで学んだ生活支援技術を用いて、総合的に生活支援技術を活用する。

科目名	病気の理解		科目ナンバリング	SFFD23029
担当者氏名	和田 光徳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 			

《授業の概要》

ソーシャルワークは「全人的理解：Bio・psycho・social・cultural」としながら、「Bio」については、理解が置き去りにされてきたという指摘がある。人間である以上生物学的理解は不可欠であり、現在の多職種協働の支援システムとしても必須の共通知識といえる。本講義は単に医学的知識の習得だけを目的とするのではなく、ソーシャルワークの視点から「病気」を全人的に理解するところに立つことを目的とする。

《授業の到達目標》

1. 全人的理解の視点を習得する。
2. 健康・不健康と社会的要因の関連を理解する。
3. 人体の構造・機能の変調を症状として説明できる。
4. 症状をソーシャルワーク・アセスメントとして活用できる。

《成績評価の方法》

下記により総合的に評価する□

- (1) 授業への出席と討議や質問等による参加状況
- (2) 授業内で担当課題の発表内容（30分程度、パワーポイント使用）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	疾患理解とソーシャルワーク（疾患と病気）	疾患と病気の概念の違いから、疾患から派生する個人及び社会での意味、さらに実存的課題にまで影響が及ぶ「病気」を、ソーシャルワークの視点から理解する。
2	関連領域の理論（社会的要因と健康）	応用医学のひとつである社会医学や、疾病予防・健康の維持増進に関わる公衆衛生の概要から、社会的要因と健康との関係について理解を深める。
3	関連領域の理論（こころの健康）	自殺者数の多いわが国では、こころの健康は大きな課題である。精神医学・心身医学の知見から、ソーシャルワーカーが「こころ」を理解するために必要な枠組みを学ぶ。
4	関連領域の理論（リハビリテーションと人権）	リハビリテーションには語源的に「復権」という意味もある。ソーシャルワーカーにとって有用な概念であるリハビリテーションと障害の概念について理解する。
5	各種検査と理解	現代の医学的治療は最新の検査機器とその検査内容の結果によって、診断・治療が進められる。全人的理解のためにソーシャルワーカーにとって不可欠な知識を習得する。
6	身体アセスメント①	学内講師による講義
7	身体アセスメント②	メディカル・シミュレーションセンターを活用した身体アセスメントの実際
8	循環器疾患・心臓血管外科領域	高い死因順位である循環器疾患の代表的なものについて、学生自らが学習・発表する。疾患と症状、障害の状態から、治療過程に応じた生活課題、生態学的理解につなげる。
9	消化器内科・外科領域	代表的な消化器系疾患について、学生自らが学習・発表する。人工肛門や肝臓機能障害等、症状・障害の状態と、ケアの内容や生活のしづらさ、制度・サービスを理解する。
10	代謝内分泌内科・血液内科領域	糖尿病と合併症、血液内科疾患の代表的なものを、学生自らが学習・発表する。長期治療、ケアの内容、経済的負担などの生活問題、薬価による転院困難な状況を理解する。
11	泌尿器科・腎臓内科領域	世界に類を見ない患者数である人工透析（慢性腎不全）について、学生自らが学習・発表する。症状、障害と生活課題、移植医療、脳死など関連する社会問題も考察する。
12	脳神経外科・神経内科領域	脳血管疾患、神経難病を代表する疾患について、学生自らが学習し発表する。意識障害の基準、症状、合併症に対する治療、各種障害と生活課題について理解する。
13	呼吸器内科・外科領域	肺がん、肺炎腫、嚥下性肺炎など、現代の特徴的な疾患について学生自らが学習し発表する。呼吸器機能の理解と症状発現の機序、各種治療法と生活課題を理解する。
14	乳腺外科・婦人科系領域	乳がん、婦人科系疾患の代表的なものを、学生自らが学習し発表する。治療副作用、ボディイメージ、リンパ浮腫など、治療、後遺症と生活のしづらさの理解を深める。
15	整形外科・形成外科領域・まとめ	社会的状況や患者のQOLに関連する整形外科、形成外科領域のアプローチについて知る。

《テキスト》

授業内容に即したプリントを配布します。

《参考図書》

新・社会福祉士養成講座「人体の構造と機能及び疾病」 中央法規 2015

《授業時間外学習》

臓器の構造と働きを理解し、その変調である「症状」がなぜ表れるのかの生理学的理解を求めます。さらにその症状や障害が、その人の生活にどのように影響を及ぼすのかといった生態学的理解に広げます。したがって、解剖学・生理学など自己学習に努めるとともに、ソーシャルワーク理論についても並行して学習を深めてください。

《備考》

科目名	ケアマネジメント論		科目ナンバリング	SFFD23001
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 			

《授業の概要》

ケアマネジメントは高齢者支援だけでなく、障害者支援についても有効な支援技術である。この講義ではケアマネジメントについての基礎理論と、支援計画作成に至るまでの各プロセスと、支援者の持つべき基礎知識と専門職としての視点について検討を加える。

《テキスト》

5訂 介護支援専門員実務研修テキスト 介護支援専門員実務研修テキスト作成委員会編 長寿社会開発センター 2012

《参考図書》

ケアマネジメントの進め方 渡部律子編著 兵庫県介護支援専門員協会編 2015

《授業の到達目標》

ケアマネジメントの支援プロセスがわかり、インテーク、アセスメントに基づく、解決課題の抽出と、支援方法の組み立てについて理解できるようになる。

《授業時間外学習》

高齢者サービス、障害者サービス、また、難病患者等への支援などについて、常に敏感に情報を集め、それについての検討を行う姿勢を持ち続けてほしい。専門雑誌等にも目を注ぐこと。

《成績評価の方法》

この授業の評価は、以下に示す評価項目と、比率により、評価がなされる。その項目と比率は次の通り。出席態度30%、課題評価20%、定期試験50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ケアマネジメントの目指すところを理解する	ケアマネジメント開発に至る経緯と、これまでの支援技術との差異について学ぶ。
2	介護保険制度とケアマネジメント	我が国で介護保険制度にケアマネジメントの手法が組み入れられた目的、また実施上で生じた問題点について検討する
3	ケアマネジャーの機能と役割	対人援助専門職としての支援技術に加え、ケアマネジャーは利用者との間で、どのような機能を求められ、どのような立ち位置が必要とされるのかを検討する
4	ケアマネジメントの過程 インテーク	第一段階の契約に至るインテークでの留意点、また、利用者理解のための情報収集の視点について、事例を活用しながら検討する
5	ケアマネジメントの過程 アセスメント	利用者のおかれた環境、利用者自身についてのポジティブアセスメントとネガティブアセスメントの重要性について検討する
6	ケアマネジメントの過程 追加情報の収集と分析	アセスメントの深化のためにどのような追加情報を求めるのか、情報と情報の関連性を見出すためにはどのように対話を展開するべきかなど、情報収集のスキルを検討する
7	ケアマネジメントの過程 解決課題の抽出	最も効果的で、最も効率的な支援のためには、解決課題が適切に抽出されることが不可避の要件である。アセスメントの結果を生かす課題抽出を検討する。
8	ケアマネジメントの過程 支援計画の検討	支援方法は何通りもあることを事例を使って追体験してもらい、何を要因に支援計画を決定すべきかを検討する
9	ケアマネジメントの過程 支援方法の決定	支援計画を基にして、いかに効率的・効果的な支援方法（具体的なサービスの導入）を組み立てつかについて検討する
10	ケアマネジメントの過程 支援の実施	対人援助の支援の実施での、支援者の留意点。特に利用者の心理的、身体的負担に関する、留意の必要性について検討する
11	ケアマネジメントの過程 効果のモニタリング	支援はいかなるものでも、必ず効果と、介入による反作用とを生じる。モニタリングでは、どのような変化も的確にとらえる視点を検討する
12	ケアマネジメントの過程 支援方法の修正	より効果的な変化を生み出すための修正が常に求められている。モニタリングの結果を参考に何を残し何を加えるべきかの視点を持つことの重要性について検討する
13	事例検討による支援過程の確認 介護予防	介護予防の事例ではどのような視点で、自立支援に向けてのプログラムを組むべきか、どのように利用者を動機付けるかを検討する
14	事例検討による支援過程の確認 要介護	過不足のない支援の在り方とはどのようなものか、事例を使いながら、サービスの量による利用者の生活状況をシミュレートし、適切な支援とはを考える
15	ケアマネジメントでの留意点のまとめ	ケアマネジメントは単にサービスと利用者を結び付ける道具ではなく、自立支援に向けての働きかけであることを確認し、ケアマネジャーの姿勢を考える

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	STTD22032
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）		

《授業の概要》

教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、教育における心理学的領域の理解をめざすとともに人間科学的な視点を養う。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得とそれぞれの専門領域の教育に応用する方法を学習する。

《授業の到達目標》

○教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。○自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめることができる。○教育効果の検証（評価）ができる。○教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。○障害をもつ子どもの学習や発達を理解し、「学び」について考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30%）、定期試験（70%）

《テキスト》

テキストは使用しない。
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通し、期限内に作成して提出する。

《備考》

目的意識を持ち主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、参加状況を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達
5	発達の基礎理論（3）	発達課題
6	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
7	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
8	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
9	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
10	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
11	教育評価（2）	測定と評価の実際
12	教授過程	学習指導法、授業の最適化
13	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
14	不適応行動 「障害」の理解	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害 障害をもつ子どもの教育、学習（学び）の課程
15	教育における心理学の働き、まとめ	教育相談、集団の機能と構造、人間関係 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

科目名	国際福祉論		科目ナンバリング	SFFD22033
担当者氏名	河野 真			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）			

《授業の概要》

福祉国家政策は国民生活の安定と向上を目指し、新たな社会問題の出現とともに守備範囲を拡大させてきた。本講義では、社会福祉や社会保障制度の仕組みや政策を比較することの意義やその手法について学ぶ。その上で福祉国家の類型を代表する諸外国と日本の制度や社会状況を比較し、共通点や相違点、制度発展の社会・経済・歴史的背景について学ぶ。

《テキスト》

市販の教科書は使用しない。プリントを配布する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

福祉国家政策を比較する視点、分類基準について理解する。福祉国家類型を代表する諸外国や急速に福祉国家化が進む東アジアの精度の特質や発展過程を理解する。諸外国との比較を通じて、日本の福祉国家制度の水準や特質、制度形成の背景についてより深く理解することができるようになる。

《授業時間外学習》

授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。授業で扱うトピックスの基礎的な情報や動向については、新聞や書籍、ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し、疑問や関心を持った上で受講することが望ましい。

《成績評価の方法》

定期試験70%、授業への参加とその成果30%

《備考》

今日日本では経済的繁栄を優先する政策運営には見直しが迫られており、福祉国家のあり方にも大きな変化が進行しつつある。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉国家の国際比較 (1)	福祉国家・社会政策・社会保障の定義、福祉国家政策の動向
2	福祉国家の国際比較 (2)	福祉国家が直面する現代的課題 (1) 少子高齢化問題 1
3	福祉国家の国際比較 (3)	福祉国家が直面する現代的課題 (2) 少子高齢化問題 2
4	福祉国家の国際比較 (4)	福祉国家が直面する現代的課題 (3) 格差問題
5	福祉国家の国際比較 (5)	生活満足度・社会に対する評価（国際比較）
6	世界の福祉国家と分類基準 (1)	福祉レジーム論
7	世界の福祉国家と分類基準 (2)	日本の福祉レジームの位置づけ
8	世界の福祉国家と分類基準 (3)	Better Life Indexを用いた比較
9	イギリスの福祉国家政策 (1)	古い伝統を有するイギリス福祉国家政策の源流をたどる（歴史的経緯）
10	イギリスの福祉国家政策 (2)	イギリス福祉国家政策の現在を学ぶ
11	スウェーデンの福祉国家政策	高福祉高負担の北欧型福祉国家のあり方をスウェーデンを通じて学ぶ
12	アメリカの福祉国家政策	市場重視型の新自由主義的福祉国家を代表するアメリカの制度について学ぶ
13	ドイツの福祉国家政策	社会保険方式の福祉国家を代表するドイツの制度について学ぶ
14	韓国や台湾の福祉国家政策	近年急速に福祉国家が進む韓国と台湾の制度について学ぶ
15	東アジア諸国の福祉国家政策	韓国や台湾を除く東アジア諸国の状況について学ぶ

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論		科目ナンバリング	STAL42004	
担当者氏名	古田 薫・廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育課程の編成と実施にあたっては、教育課程の構造と基礎的な編成原理、および基準となる学習指導要領の内容と法的性格について理解しておく必要がある。本授業は、これらの理解を深め、教育課程編成における教師の役割の重要性について考察することを目的とする。教育課程の理論的な枠組や主要論点を整理し、教育課程の実際と、新学習指導要領の要点、現代的課題についての理解を深める。

《授業の到達目標》

- 教育課程の構造と基礎的な編成原理について理解している。
- 学習指導要領の内容と法的性格について理解している。
- 学習指導要領の変遷とその背景について理解している。
- 児童生徒の個人差のとらえ方と教育課程編成における個人差の取り扱いについて理解している。
- 学習指導案の書き方を理解し、目的に応じた指導案を作成することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
- ②課題の提出と完成度 30%
- ③定期試験 50%（持ち込み不可）

《テキスト》

広岡義之（編著）『はじめて学ぶ教育課程論（仮題）』ミネルヴァ書房、2016年発行予定
『中学校学習指導要領』文部科学省、2008年

《参考図書》

『高等学校学習指導要領』文部科学省、2008年
田中耕治（編）『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年

《授業時間外学習》

参考資料を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育課程とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育課程とは何か、教育課程の意義と必要性について理解を深める。
2	学校教育の目的・目標と 教育課程	・教育行政における教育課程の位置づけ ・教育課程の法的性格
3	学力観と学習指導要領の 変遷①	・学習指導要領の変遷とその背景
4	学力観と学習指導要領の 変遷②	・学習指導要領の変遷とその背景
5	教育課程の管理と運営	・学校における教育課程の管理・運営の実際
6	カリキュラムの構造と類 型	・カリキュラムの歴史、さまざまなカリキュラムの類型とその特徴
7	教育課程における個人差 の取り扱い	・個人差とは、個に応じた指導とは ・個人差と教育課程
8	教育課程編成の基礎原理	・教育課程編成の基礎原理について理解する。 ・教育内容をいかにしてデザインするかを理解する。
9	学習指導案の書き方	・指導案の構成と作成手順 ・作成上の留意点
10	小学校教育課程の構成	・小学校教育課程における教授内容や課題を具体的に探究する。 ・総合的な学習の時間について教育内容の構成と実施について考察する。
11	中学校教育課程の編成	・中学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
12	高等学校教育課程の編成	・高等学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
13	教科書制度	・教育課程における教科書の位置づけ ・教科書の無償措置および検定制度
14	諸外国の教育課程	・各国の教育課程に関する制度と実情
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論	科目ナンバリング	STAL42005
担当者氏名	砂子 滋美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

学習指導要領の中で特別活動の枠組みと内容を十分に理解すると共に、実践力を養成するために、基礎的・基本的な知識とそれを活用できる力の習得を目的とする。①わが国の特別活動の歴史と変遷について、②特別活動の意義と目的について、③新学習指導要領における特別活動の位置づけについて、④他の教育領域との関わりについて等を中心に授業展開をする。

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、我が国の特別活動の変遷を歴史的に考慮して特別活動が小学校・中学校・高等学校においてどのように営まれているか、などを基本的に理解する。

《成績評価の方法》

到達目標に関わる定期試験(60%)、授業態度(20%)、ミニレポート(20%)により評価する。

《テキスト》

広岡義之編著『新しい特別活動（理論と実践）』ミネルヴァ書房 2015年

《参考図書》

『学習指導要領 小学校 中学校 高等学校』文部科学省 2012年、『教育人間学的視座から見た「特別活動と人間形成」の研究』大学教育出版 2009年、『新しい特別活動論』創言社 2009年

《授業時間外学習》

受講前に、教材の指定された部分をよく読んでおくこと。講義後のノートの整理に十分に時間をかけること。理解が十分でなかった部分は、自分で学習する、それでも理解が十分でないところは、次回の授業にて講師に質問する準備をする。

《備考》

積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	新学習指導要領、テキスト、副教材などの紹介と受講姿勢のあり方の指導と特活全体について概略的な説明をする。この授業で到達すべき目標について考える。
2	特別活動とは何か	特別活動には様々なものがあることを理解し、その目的やねらいについて考える。
3	特別活動と学習指導要領の変遷。特活への期待	戦後における特別活動の実施の経緯と発展を学習指導要領の変遷の中で確かめ、特別活動の本質を探る。特別活動の充実が学校生活の満足度に関係することを理解する。
4	特別活動の目標	学習指導要領の特別活動の目標を、理解する。
5	特別活動と新学習指導要領	特別活動の「意義」を学習指導要領の内容に沿って明確にする。
6	特別活動の内容（学級活動・ホームルーム）	特別活動における学級活動・ホームルームの位置づけと、内容について、その特徴を明確にする。
7	児童会・生徒会活動と学習指導要領	児童会・生徒会活動の内容を解明し、その特徴を特別活動の目標達成に生かすことを理解する。
8	学校行事（儀式的行事）について	儀式的行事の内容と意義を理解し、これらの行事の課題について考える。
9	文化的行事について	文化的行事の内容と特徴を理解し、教科指導と特別活動との関連を明確にする。
10	健康安全・体育的行事について	健康安全・体育的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
11	旅行・集団宿泊的行事について	旅行・集団宿泊的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
12	勤労生産・奉仕的行事について	勤労生産・奉仕的行事の内容と特徴を理解し、これらの行事の課題について考える。
13	特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い	指導計画作成や内容の取り扱いについて理解し、入学式や卒業式などにおける国旗および国歌の取り扱いを明確にする。
14	特別活動学習指導案作成	学級の生徒の実態に合わせて、題材を設定し学習指導案を作成し、本時のねらいを達成する授業展開を考える。
15	講義全体のまとめをする	特別活動はいつの時代にも、学校生活の基礎として重要な役割を果たしていることや特別活動の充実が学校生活の満足度に深く関わっている等を振り返る。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論	科目ナンバリング	STAL42006
担当者氏名	吉永 潤		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教科目標・教科内容の深い理解とそれを踏まえた教材開発の意義、学習者の積極的な学びを引き出す授業技術の重要性、学習者の学びの状況を把握しそれを学習意欲に繋げる評価の重要性、の三点に関する講義の後、優れた授業事例を視聴し、また近年のアクティブ・ラーニング的授業組織の事例を紹介する。最終的には、受講者のグループによるミニ授業の開発と模擬実施を体験し、相互評価を行う。

《テキスト》

吉永潤『社会科は「不確実性」で活性化する—未来を開くコミュニケーション型授業の提案』東信堂、2400円

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

①教科目標、内容の深い理解をもつ意義が理解できる。②どのような教材が学習者の理解と意欲を形成するかが理解できる。③授業技術と評価が学習達成と意欲を左右することが理解できる。④授業事例のどこがどうして優れているのかを説明できる。⑤指導案を作成することができる。⑥的確な授業技術を用いて授業実施することができる。⑦他者の授業を的確に批評し、学び合うことができる。

《授業時間外学習》

ミニ授業開発～実施にあたって、授業時間外のグループワークを必要とする。

《成績評価の方法》

①授業後の小レポート、②ミニ授業実施への参加の度合い、③授業評価ディスカッションへの参加の度合い、④最終レポート。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義の目的と概要	「覚える」学習観、受動的学習観からの脱却の必要を論じる。
2	教科・単元目標と教科内容	社会科を例にとり、学習指導要領の目標記述、教科書記述、当該内容に関する研究書の順で見ることにより、教科・単元目標と内容の理解の深まりや広がりを実感する。
3	教材構成と発問構成	ある単元内容が、学習者の学習内容に変換されていくための教材の機能を学ぶ。同時に、学習にとっての触媒である問いの不可欠性と、優れた発問の要件を学ぶ。
4	学習者とのコミュニケーションとしての学習評価	授業をキャッチボールとすれば、授業実施はボールを投げることであり、評価はボールを受けることである。しかし、生徒は自分でボールを投げ返せるとは限らない。
5	優れた授業事例1	小中学校の授業実施例から、優れた事例、改善を要する事例をビデオ視聴し、授業批評につきディスカッションする。
6	優れた授業事例2	前回の続き。特にディベートやゲームを取り入れた授業事例を検討する。
7	優れた授業事例3	高等学校の授業事例に即して、事例視聴と批評ディスカッションを行う。
8	優れた授業事例4	前回の続き。特に生徒のディスカッションを取り入れた授業事例を検討する。
9	ミニ授業開発1	グループ編成を行い、開発する授業の単元を決定し、対応する学習指導要領と教科書の記述を分析する。
10	ミニ授業開発2	各グループごとに、授業構成のコンセプトをプレゼンテーションし、批評、助言し合う。
11	ミニ授業開発3	グループワーク教科書に加え、独自の教材を作成すると共に、発問を構想する。授業における学習者の思考やコミュニケーションを予想しシミュレーションする。
12	ミニ授業実施1	グループごとにミニ授業を実施し、批評ディスカッションを行う。
13	ミニ授業実施2	前回の続き。
14	ミニ授業実施3	前回の続き。
15	本講義の振り返りと総括	講義内容とミニ授業体験を振り返り、各受講者の学習内容をスピーチする。ディスカッションの後、本講義における重要事項につき、総括を行う。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論	科目ナンバリング	STAL42007
担当者氏名	新井野 久男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関係する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論や考え方、実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%), レポート(40%), その他(提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等)(20%)を基本に総合的に評価する。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。

《参考図書》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒に応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題(1)	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題(2)	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題(3)	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題(4)	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究(1)	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究(2)	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

平成 26（2014）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成26年度（2014年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	P S W	高等 学校 教諭 福祉	学年配当（数字は週当たり授業時間）				平成28年度の 担当者	ページ				
				必修	選択				1年		2年				3年		4年	
									I	II	I	II			I	II	I	II
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能及び疾病	SSPA11001	講義	2		○	◆		2									
	心理学理論と心理的支援	SSPA11002	講義	2		○	◆		2									
	社会理論と社会システム	SSPA11003	講義	2		○	◆		2									
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	SSPA12001	講義	2		○	◇			2								
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	SSPA12002	講義	2		○	◇				2							
	介護概論	STTA22003	講義	2				△		2								
	法学	SFFA21004	講義	2					2									
	行政法	SFFA21005	講義	2					2									
	家族福祉論	SFFA22004	講義	2						2								
	生涯発達心理学	SFFA21006	講義	2					2									
	こころの基盤の理解	SFFA22005	講義	2						2								
	コミュニケーション論	SFFA22006	講義	2						2								
	社会心理学	SFFA22007	講義	2						2								
	態度の心理学	SFFA22008	講義	2						2								
基礎ゼミナールⅠ	SFFA11007	演習	4					4										
基礎ゼミナールⅡ	SFFA11008	演習	2					2										
専門プレゼミナールⅠ	SFFA12009	演習	4						4									
専門プレゼミナールⅡ	SFFA12010	演習	2							2								
教 相 談 育 援 助 科 目	現代社会と福祉Ⅰ	SSPB11009	講義	2		○	◇	△	2									
	現代社会と福祉Ⅱ	SSPB11010	講義	2		○	◇	△	2									
	社会保障論Ⅰ	SSPB12011	講義	2		○	◇			2								
	社会保障論Ⅱ	SSPB12012	講義	2		○	◇				2							
	社会調査の基礎	SSWB21011	講義	2		○			2									
	社会福祉調査	SFFB23001	講義	2							2			田端 和彦	177			
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	SSWB22013	講義	2		○		△		2								
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	SSWB22014	講義	2		○		△			2							
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	SSPB22015	講義	2		○	◇	△		2								
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	SSWB22016	講義	2		○		△		2								
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	SSPB12017	講義	2		○	◇				2							
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	SSPB13002	講義	2		○	◇					2		小林 茂	178			
	保健医療サービス	SSPB23003	講義	2		○	◇				2			和田 光徳	179			
	医療ソーシャルワーク	SFFB24001	講義	2								2						
低所得者に対する支援と生活保護制度	SSPB22018	講義	2		○	◇				2								
権利擁護と成年後見制度	SSPB22019	講義	2		○	◇				2								
福祉行財政と福祉計画	SSPB23004	講義	2		○	◇					2		[西澤 正一]	180				
福祉行財政と福祉計画（応用）	SFFB24002	講義	2								2							
相談援助の理論と方法Ⅰ	SSPB12020	講義	4		○	◇	△			4								
相談援助の理論と方法Ⅱ	SSPB13005	講義	4		○	◇	△				4		[小出 享一]	181				
相談援助演習ⅠA	SSPB12021	演習	2		○	◇	△			2								
相談援助演習ⅠB	SSPB23006	演習	4		○	◇	△				4		和田 光徳	182				
相談援助演習Ⅱ	SSPB23007	演習	4		○	◇	△				4		小倉 毅	183				
相談援助演習（統合）	SFFB24003	演習	2								2							
相談援助実習指導Ⅰ	SSWB21012	実習	1		○		△		2									
相談援助実習指導Ⅱ	SSWB22022	実習	1		○		△			2								
相談援助実習指導Ⅲ	SSWB23008	実習	1		○		△				2		田端・牧田・和田・小倉	184～185				
相談援助実習	SSWB23009	実習	4		○		△				12		田端・牧田・和田・小倉（輪番）	186～187				
専門ゼミナールⅠ	SFFB13010	演習	2							2			※1	188				
専門ゼミナールⅡ	SFFB13011	演習	2								2		※1	189				
卒業演習	SFFB14004	演習	4								4							

※1 和田、小倉、小林茂

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成26年度（2014年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		社会 福祉士	P S W	高等 学校 教諭 福祉	学年配当（数字は週当たり授業時間）				平成28年度の 担当者	ページ				
				必修	選択				1年		2年				3年		4年	
									I	II	I	II			I	II	I	II
専 門 教 育 目 的	就労支援サービス	SSWC23012	講義	2		○						2			[香木 明美]	190		
	更生保護制度	SSWC24005	講義	1		○							1					
	福祉サービスの組織と経営	SSWC24006	講義	2		○								2				
	福祉サービスの組織と経営（応用）	SFFC24007	講義	2										2				
	心理検査法	SFFC23013	講義	2									2			原 志津	191	
	臨床心理学	SFFC23014	講義	2									2			原 志津	192	
	統計学の基礎	SFFC22023	講義	2								2						
	加齢及び障害に関する理解	STTC23015	講義	2				△					2			[奥 典之]	193	
	人体の構造及び日常生活行動に関する理解	STTC23016	講義	2				△					2			(長尾 光城)	194	
	福祉工学	SFFC24008	講義	2										2				
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	SPSC22024	講義	2				◇			2							
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	SPSC22025	講義	2				◇			2							
	精神障害者の生活支援システム	SPSC23017	講義	2				◇			2					[真野 元四郎]	195	
	精神疾患とその治療Ⅰ	SPSC22026	講義	2				◇			2							
	精神疾患とその治療Ⅱ	SPSC22027	講義	2				◇			2							
	精神保健の課題と支援Ⅰ	SPSC23018	講義	2				◇			2					[瀬尾 学]	196	
	精神保健の課題と支援Ⅱ	SPSC23019	講義	2				◇			2					[瀬尾 学]	197	
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	SPSC22028	講義	2				◇			2							
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠA	SPSC23020	講義	2				◇			2					光田 豊茂	198	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠB	SPSC23021	講義	2				◇			2					光田 豊茂	199	
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡA	SPSC23022	講義	2				◇			2					[香木 明美]	200		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB	SPSC23023	講義	2				◇			2					[香木 明美]	201		
精神保健福祉援助演習（専門）A	SPSC23024	演習	2				◇					2						
精神保健福祉援助演習（専門）B	SPSC23025	演習	2				◇					2						
精神保健福祉援助実習指導	SPSC23026	実習	3				◇					6			光田 豊茂	202		
精神保健福祉援助実習	SPSC24009	実習	4				◇					12						
専 門 教 育 目 的	福祉レクリエーションⅠ	SFFD22029	講義	2								2						
	福祉レクリエーションⅡ	SFFD23027	講義	2								2			[マーレー 寛子]	203		
	福祉レクリエーション演習Ⅰ	SFFD22030	演習	2								2						
	福祉レクリエーション演習Ⅱ	SFFD23028	演習	2								2			原 志津	204		
	生活支援技術	SFFD22031	演習	2								2						
	病気の理解	SFFD23029	講義	2								2			和田 光徳	205		
	ケアマネジメントⅠ	SFFD23030	講義	2								2			竹内 一夫	206		
	ケアマネジメントⅡ	SFFD23031	講義	2								2			竹内 一夫	207		
	在宅ケア論	SFFD23032	講義	2								2			小林 茂	208		
	児童・高齢者・障害者の心理	SFFD21013	講義	2						2								
	教育心理学	STTD22032	講義	2					△			2						
	国際福祉論	SFFD22033	講義	2								2						
インターンシップ	SFFD24010	実習	4									12						
社会福祉特別講義Ⅰ	SFFD20001	講義	2						②	②	②	②			不開講			
社会福祉特別講義Ⅱ	SFFD20002	講義	2						②	②	②	②			不開講			

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士（PSW）国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士（PSW）国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成26年度（2014年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭 福祉	学年配当（数字は週当り授業時間）								担当者		ページ	
				必修	選択				1年		2年		3年		4年		平成28年度の担当者			
									I	II	I	II	I	II	I	II				
教職に関する科目	教職概論	STAL41001	講義		2			△	2											
	教育原理	STAL41002	講義		2			△	2											
	教育制度論	STAL42003	講義		2			△		2										
	教育課程論	STAL42004	講義		2			△			2									
	福祉科教育法	STSW43001	講義		4			△				4						牧田 満知子・吉原 恵子	209～210	
	特別活動論	STAL42005	講義		2			△			2									
	教育方法・技術論	STAL42006	講義		2			△			2									
	生徒指導論（進路指導を含む）	STAL42007	講義		2			△		2										
	教育相談（含カウンセリング）	STAL41008	講義		2			△		2										
	事前・事後指導	STSW43002	演習		1			△					1					吉原 恵子	211	
	高等学校教育実習	STSW44003	実習		2			△						4						
教職実践演習（高）	STSW44004	演習		2			△													

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士(PSW)国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を履修すること。

授業科目の区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭 福祉	学年配当（数字は週当り授業時間）								担当者		ページ	
				必修	選択				1年		2年		3年		4年		平成28年度の担当者			
									I	II	I	II	I	II	I	II				
課程外科	相談援助基礎実習	SFFB22013	講義		2						2									
	福祉レクリエーション演習Ⅰ（発展）	SFFD22032	演習		2								2					原 志津・[田島 栄文]		

※課程外科目を修得しても卒業要件には含まれない。

科目名	社会福祉調査	科目ナンバリング	SFFB23001
担当者氏名	田端 和彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ◎ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） 		

《授業の概要》

テーマを決めて社会調査を行います。調査計画の作成とアンケート調査、または聞き取り調査を実施します。アンケート調査の場合は、回収した結果についてパソコンを使って分析をします。聞き取り調査については、その整理の方法を学びます。こうした実践を通し、統計など分析の手順を学びます。分析の結果を踏まえて考察し、報告書（レポート）を作成します。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

慶応義塾大学教養研究センター監修 西山敏樹・常盤拓司・鈴木亮子著『アカデミック・スキルズ 実地調査入門—社会調査の第一歩』慶応義塾大学出版会

《授業の到達目標》

社会調査を企画、実施し、その結果を考察して報告をまとめるという一連の作業について自力でできるようになることが目標です。その過程を通して、統計学的な理解、パソコンへの習熟、報告書を作成することによるプレゼンテーション能力の向上を図ります。

《授業時間外学習》

アンケート調査の実施、聞き取り調査の実施については授業時間外に行う必要があります。

《成績評価の方法》

報告書作成の過程、正課として提出されるレポートの内容で評価をします。

《備考》

受講者の数によりますが、原則としてグループ学習で行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	調査の事例などを通して、社会調査の目的や意味、意義などについて理解をします。関心に合わせてグループに分かれます。
2	調査計画の作成1	グループワークで調査テーマを検討し、調査目標を定め、調査対象や調査項目を考察するなど、調査の進行表を含む調査計画書を作成します。
3	調査計画の作成2	引き続き、グループワークで調査対象や調査項目を考察するなど、調査計画書を作成します。
4	アンケート調査票の作成と調査の実施1	調査計画書を元にして、アンケート票を作成します。調査対象者からアンケート調査対象者をどのように抽出するのかを検討します。
5	アンケート調査票の作成と調査の実施2	引き続き、アンケート票を作成します。アンケート調査対象者に対してアンケートを実施します。
6	アンケート調査の実施	引き続き、アンケート調査を実施します。調査件数は100件以上を目標とします。
7	アンケート調査結果のデータ入力1	単数回答、複数回答の場合、また自由記述欄の入力など、アンケート調査結果のデータ入力方法について理解し、実際に入力します。
8	アンケート調査結果のデータ入力2	入力したデータについて論理チェックを行い、修正などを加えて、データ入力を完了し、データセットを作成します。
9	アンケート調査の分析（1変数の分析）1	1変数の分析として単純集計、統計値の計算、ヒストグラムの作成、複数回答に対する集計を行います。統計値について平均値の差の検定などを行います。
10	アンケート調査の分析（2変数の分析）2	2変数の分析としてクロス集計を行い、分散分析、カイ二乗検定についても理解をします。回帰分析、相関係数を行い、係数、定数に対する検定を理解します。
11	アンケート調査の分析（多変数解析）3	多変数解析（因子分析、判別分析、クラスター分析）を行います。
12	聞き取り調査の実施	調査計画に基づいて調査対象者への聞き取り調査を行います。
13	聞き取り調査の整理	聞き取り調査の結果について、グループワークにより整理を行います。
14	報告書の作成1	グループワークによりアンケート分析や聞き取り調査を整理した結果を考察して報告書を作成します。
15	報告書の作成2	引き続き、考察を踏まえ、グループワークを通して報告書を作成します。

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ	科目ナンバリング	SSPB13002
担当者氏名	小林 茂		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）		

《授業の概要》

地域福祉に係る理論を学びます。その中で地域のニーズを探り、コミュニティで実現することを理解します。ソーシャルアクションや社会的企業、CSRなど地域の資源を活用しより良い社会を実現する能力を育みます。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

新社会福祉士養成講座「地域福祉の理論と方法」中央法規
 「地域福祉の原理と方法（第2版）」学文社

《授業の到達目標》

地域福祉に関する内外の理論について内容や歴史的な意義を理解し説明することができるようになります。また コミュニティの組織化の具体的な手法を獲得し実践の場で応用する能力を獲得します。

《授業時間外学習》

事前学習としては、次回の授業に関連し調べておくことを指示します。事後学習としては授業で宿題を課しますのでレポートとして提出してください。

《成績評価の方法》

定期試験で70%を評価します。授業態度として、レポート課題の提出状況などを評価します（30%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	社会福祉の理論と方法Ⅰの復習とⅡで学ぶ内容を説明します。
2	地域福祉におけるニーズ論1	ブラッドショーのニーズ論に基づき、地域福祉のニーズについて解説します。
3	地域福祉におけるニーズ論2	地域においてニーズをどのように把握するのか、アウトリーチの手法を含め解説します。
4	コミュニティオーガナイゼーション1	ソーシャルワークの役割としてのコミュニティオーガナイゼーションの役割とその重要性、また住民参加の現状について説明します
5	コミュニティオーガナイゼーション2	リンデマン以降の、コミュニティオーガナイゼーションの歴史と定義の変化を説明します。
6	コミュニティオーガナイゼーション3	コミュニティオーガナイゼーションの歴史的な変化とその内容を説明します。アリンスキーやニューステッターの定義の今日的意味を解説します。
7	ソーシャルサポートネットワーク	ソーシャルサポートネットワークの定義を学び、地域福祉における必要性を理解します。
8	ソーシャルキャピタル	パットナムの提唱するソーシャルキャピタルの意義とその背景、さらに計測について解説をします。
9	コミュニティソーシャルワークと住民参加1	これまでのツールを用いてコミュニティでのソーシャルワークの実践を理解します。
10	コミュニティソーシャルワークと住民参加2	これまでのツールを用いてコミュニティでのソーシャルワークの実践を理解します。
11	地域福祉理論1	岡村重夫、右田紀久恵らによる日本の地域福祉の発展に寄与した理論について説明します。
12	地域福祉理論2	引き続き、日本での地域福祉の理論を説明します。
13	地域福祉サービスの評価1	地域福祉サービス評価を必要とする背景を理解します。
14	地域福祉サービスの評価2	具体的にどのようにサービス評価が行われるか、評価手法を解説します。
15	地域福祉と福祉教育	福祉教育の必要性の背景を理解し、その意味や方法を説明します。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	保健医療サービス		科目ナンバリング	SSPB23003	
担当者氏名	和田 光徳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 			

《授業の概要》

現在の保健医療サービスは、医療機関を役割分担しつないでいく「地域医療連携体制」と介護保険法など介護システムと連動・協働する地域包括ケアシステムの構築が求められている。本講義では、社会福祉専門職の基礎知識として、保健医療サービスの構造、制度概要を学び、多機関・多職種協働といわれる支援体制に、ソーシャルワーカーが関わる意義を概説する。

《授業の到達目標》

保健医療サービスの利用者である患者および家族の生活問題を学ぶ。また、サービス提供制度及び担い手たちの特性を理解し、利用者（患者・家族）を中心とした連携のあり方を考えることができるようになる。

《成績評価の方法》

- 下記により総合的に評価する
- (1) 授業への出席と討議や質問等による参加状況
 - (2) 授業での小テスト内容
 - (3) 期末試験（持ち込み不可）

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座『保健医療サービス』 中央法規出版

《参考図書》

新・医療福祉学概論 佐藤俊一・竹内一夫・村上須賀子編著
川島書店 2010
医療福祉総合ガイドブック 2015年度版 NPO法人日本医療
ソーシャルワーク研究会編集 2015

《授業時間外学習》

テキストを中心に授業を進めます。予習復習をしっかりと行うことが必要です。

《備考》

講義内容を深める質問、意見を歓迎します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保健医療サービスの構成要素	保健医療サービスとは：ヘルスケアを理解する、また保健医療サービスのひと・もの・かね・情報という構成要素を理解する（第1章 第1節）
2	戦後の保健医療サービスの整備・拡充の推移	戦後日本における保健医療サービスの体制づくりの変遷を理解する（第1章 第2節・第3節・第4節）
3	保健医療サービスを提供する施設とシステム①	第2章 第1節 第2節 医療法に規定される理念や施設の種類と概要を理解する
4	保健医療サービスを提供する施設とシステム②	診療報酬上における医療施設の機能・類型、介護保険法における施設等の機能・類型を理解する（第2章 第3節・第4節）
5	地域包括ケアシステムについて	地域包括ケアシステムとは何か、その構成要素と体制づくり、課題について学習する（第2章 第5節）
6	医療ソーシャルワーカーの役割	医療ソーシャルワーカーの歴史的展開と業務の枠組みを理解する（第3章 第1節）
7	医療ソーシャルワーカーの実践業務①	医療ソーシャルワーカーの実践業務の内容（ミクロのソーシャルワーク）を理解する（第3章 第2節）
8	医療ソーシャルワーカーの実践業務②	医療ソーシャルワーカーのミクロからメゾへのソーシャルワーク実践を理解する（第3章 第3節）
9	保健医療サービス専門職の役割（病院内チーム）	保健医療サービス専門職の概観・チームの形態等チームアプローチについて学ぶ（第4章 第1節、第6章 第1節）
10	保健医療サービス専門職の役割（地域のチーム）	保健医療サービス専門職の概観・多機関・多職種協働のチーム、クリティカルパスなどチームの運営方式について学ぶ（第6章 第3節）
11	患者の権利と専門職の倫理	保健医療サービス専門職の基本姿勢・患者の権利と専門職の倫理、インフォームド・コンセントについて理解する（第4章 第2節）
12	専門職の視点と共有	保健医療サービス専門職の視点と役割、ソーシャルワーカーの視点とそれらが協働する「カンファレンス」の機能について理解する（第4章 第3節）
13	保健医療サービスと給付の仕組み①	医療保険制度および公費負担医療制度における診療報酬制度の概要を知る（第5章 第1節・第3節）
14	保健医療サービスと給付の仕組み②	介護保険制度における介護報酬の概要を知る（第5章 第2節）
15	地域の社会資源との連携づくり	地域の保健医療ネットワーク構築のためのソーシャルワーク実践と連携方法、地域の連携団体を知る（第3章 第4節、第6章 第2節、第7章 第1節・第2節）

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	福祉行財政と福祉計画		科目ナンバリング	SSPB23004	
担当者氏名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

福祉六法を基盤とする社会福祉も、近年の社会福祉基礎構造改革や三位一体の改革に伴って、また一方では介護保険制度や障害者自立支援法の施行等によって大転換が図られ、今日までの中央集権的な福祉システムから地方分権型へと行財政のあり方も改めて問われる時代となってきた。社会福祉の現状と今後の動向を理解するため、福祉の法制度と行財政の双方から学んでいく。

《授業の到達目標》

① 基本的な福祉政策の形成過程を理解する②これまでの国と地方の役割や福祉サービス供給体制や制度の経緯を知る。③福祉サービスを利用する住民の視点で制度政策を理解する。④高齢者・障害者等が地域で自立して生活できる総合的支援策を組み立てる⑤少子高齢化社会の問題を自分達の課題として考える。以上を通して福祉行財政の全般を理解し自らも福祉計画を作成することができる。

《成績評価の方法》

出席状況(20%) + 学期末試験など(60%) + その他、授業態度など(20%)で総合的に判断

《テキスト》

著書名：編集委員（河幹夫・小林良二・和気康太）書名：新・社会福祉士養成講座第10巻「福祉行財政と福祉計画」第4版発行 出版社：中央法規出版2014年2月 他、随時プリント配布

《参考図書》

書名：「よくわかる社会福祉と法」 出版社・出版年：ミネルヴァ書房2010年10月5日初版第2刷発行(定価¥2600+税)

《授業時間外学習》

・授業の中で適時課題を課すので、随時指示された期日までに提出 ・積極的に自分自身で講義に関する課題を見だし、不明な点は確認のこと

《備考》

※授業内容は講義の進展に応じて多少前後する場合もある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（コース概要）	社会福祉の学習を始めるにあたって、それを取り巻く環境や社会福祉法制の原理と学習について概要説明
2	福祉行財政と福祉計画①（福祉法制度の展開）	日本に於ける社会福祉の起源と戦後の展開、また措置制度から契約制度への転換や、今日の社会福祉基礎構造改革等について学ぶ事ができる。
3	福祉行財政と福祉計画②（福祉計画の概要）	日本に於ける福祉の概念を多面的角度から整理し、半世紀以上にわたる社会福祉の法制度の展開過程を知り、福祉計画が登場した背景を学ぶ事ができる。
4	福祉行政の骨格と社会福祉の法制度	社会福祉援助に取り組む実践の場が、どの様な法制度や福祉行政によって規定されているのかを学べる。
5	福祉行政の組織と社会福祉基礎構造	措置から利用者の自己選択・自己決定に基づく利用制度への転換をもたらした社会福祉基礎構造改革と、社会福祉の基礎構造について学べる。
6	福祉財政	国や地方自治体の社会福祉財政の全体像を整理し、民間社会福祉事業組織の財政についても多面的な角度から理解する事ができる。
7	福祉行政の組織・団体の役割	福祉八法を中心とする公的な組織や団体を知り、その役割や課題について学べる。
8	福祉専門機関と専門職	介護保険制度の創設や要介護認定の方法・サービス利用の手続き等、福祉に携わる職員の専門性を理解し、実践で有効な援助技術について学べる。
9	福祉計画の目的と意義	福祉計画がどのような文脈のなかで行政によって取り組まれているのかを理解し、その目的を踏まえる形で計画策定がなされていることを知る事ができる。
10	福祉計画の基本的視点と過程及び留意点	福祉援助の実施・提供機関において個別援助にかかわる社会福祉士が、地方自治を目指す「福祉計画」にかかわる目的や意義を理解できる。
11	福祉計画におけるニーズ把握と評価	福祉計画作成の際の原点とも言えるニーズ把握の技法や、福祉計画全体のなかで一つの重要な構成要素となる評価についても知る事ができる。
12	福祉計画における住民参加	福祉計画においては、福祉関係者の合意形成を図っていくことが重要であり、福祉計画における住民参加の必要性について学ぶ事ができる。
13	老人福祉計画と介護保険事業計画及び障害者計画	今日まで学んだ福祉計画の理解をもとに、「実践編」として、計画者の立場から福祉計画を一つのシステムとして捉え、特性や方法等、五つの枠組みで研究をする。
14	次世代育成支援計画と地域福祉計画	老人福祉計画や介護保険事業計画と共に、義務づけられている次世代育成支援計画と地域福祉計画を学び、具体的事例を読み解きながら実践に活かす事ができる。
15	まとめ	社会福祉行財政の全般的理解の確認と共に、学生自らが主体的に問題を見だし、多様な福祉サービスのなかで自己が何をなすべきかを考えられる。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ		科目ナンバリング	SSPB13005	
担当者氏名	小出 享一				
授業方法	講義	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 				

《授業の概要》

相談援助の過程とそれに係る知識や技術について理解し、事例分析の意義や方法、相談援助の実際について学ぶ。授業ではテキストのほか、新聞記事、DVDなども活用する。また相談援助に実際に関わっているソーシャルワーカーにゲストスピーカーで来てもらい、話しをしてもらう予定である。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座8『相談援助の理論と方法Ⅱ』（中央法規出版）

《参考図書》

参考図書は授業時にその都度、紹介したい。

《授業の到達目標》

①相談援助の理論、対象者、実践モデルについて学ぶ。②相談援助の過程とそれに係る知識、技術、相談援助の実際について学ぶ。

《授業時間外学習》

社会福祉は、その時々々の政治、社会、経済のあり方や状況によって、変化し、動く。法律・制度や福祉サービスはその影響を受けることが多い。新聞や雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を活用して、社会の動向などに注目しておいてほしい。

《成績評価の方法》

筆記試験、出席によって評価する。（出席重視）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	障がいを持って生きるということ（自己紹介と授業の進めたかたについて）
2	相談援助における対象の理解	①社会福祉相談援助活動の概念と定義、②相談援助の対象、③新たなソーシャルワークの展開
3	ケースマネジメント	①ケースマネジメントの基本、②過程、③アセスメント、④ケアプランの作成・実施、⑤特徴、⑥ケースマネジメントとソーシャルワークの関係
4	グループワーク	①グループを活用した相談援助、②自助グループを活用した相談援助
5	コーディネーションとネットワーク	①コーディネーションの目的と意義、②ネットワークの目的と意義
6	相談援助における社会資源の活用・調整・開発	①社会資源の活用・調整・開発の意義と目的、②社会資源の活用・調整・開発の方法と留意点、③ソーシャルアクションによるシステムづくり
7	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ	①実践モデルとその意味、②治療モデル、生活モデル、ストレングスマodel、③ジェネラリストソーシャルワークの展開と実践モデル
8	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ	①心理社会アプローチ、②機能的アプローチ、③問題解決アプローチ、④課題中心アプローチ、⑤危機介入アプローチ、行動変容アプローチ
9	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ	①エンパワーメントアプローチ、②ナラティブアプローチ、③認知アプローチ、④その他のアプローチ
10	スーパービジョンとコンサルテーション	①スーパービジョンの意義と目的、②スーパービジョンの方法と留意点、③コンサルテーション
11	ケースカンファレンスの技術	①ケースカンファレンスの意義と目的、②運営と展開過程、③ケースカンファレンスの実際、④ケースカンファレンスの評価と普遍化
12	個人情報保護と情報通信技術の活用	①相談援助における個人情報保護、相談援助における情報通信技術の活用
13	事例研究・事例分析	①事例研究の目的と意義、②事例研究の方法と留意点、③事例分析の目的と意義、④事例分析の方法と留意点
14	相談援助の実際	実践事例
15	まとめ	相談援助の理論と方法Ⅱのまとめと社会福祉士国家試験の対策について

科目名	相談援助演習 I B		科目ナンバリング	SSPB23006	
担当者氏名	和田 光徳				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 				

《授業の概要》

2年II期に行った相談援助演習Iaを基礎に、ソーシャルワーク理論に基づいた展開過程を演習します。そのため、授業は事例やビネットを使ったグループ討議が中心になりますが、面接技術の基本技能について、授業内で反復練習（ロールプレイ等）します。

《テキスト》

- ・新・社会福祉士養成講座「社会福祉士相談援助演習 第2版」中央法規
- ・配布プリント

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ・ソーシャルワークの代表的なモデル（問題をどのようにとらえるかの範型）の概要を理解する。
- ・代表的なアプローチ（課題解決に向けての接近法）について習得する。

《授業時間外学習》

新・社会福祉士養成講座「相談援助の理論と方法I・II」（中央法規）を基本知識としています。理解しているものとして、学習を深めますので、テキストと合わせて再度講読し、予習・復習してください。

《成績評価の方法》

下記により総合的に評価します。

- ①出席と授業への参加態度、意見の表明
- ②授業後の振り返りレポート
- ③課題レポート

《備考》

演習は自らが体験し、学びを深める授業です。したがって、出席し授業に積極的に参加・協力することが、通常講義より大きな評価基準となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーションと演習の基礎	授業全体のオリエンテーション及び、演習の基本的学習方法である事例分析・ケースカンファレンスの方法と実際について学ぶ。
2	ソーシャルワークの主要なモデル①	ライフモデル（エコロジカルアプローチ）による支援プロセスを学び、ビネットによる演習とグループワークにより支援の範型を理解する。
3	ソーシャルワークの主要なモデル②	ストレングスモデルを中心にしたBio・psycho・social Modelの概略を学び、ビネットによる演習とグループワークにより、支援の範型を理解する。
4	ソーシャルワークの基本的アプローチ	エンパワーメント・アプローチの概略を学び、ビネットによる演習とグループワークにより、支援の範型を理解する。
5	地域を基盤とした実践展開	マイクロ・メゾ・マクロをつらぬく支援の視点をおさえながら、地域におけるサービス提供やネットワークの支援活動を事例による演習（グループワーク）で学ぶ。
6	地域を基盤とした実践展開	マイクロ・メゾ・マクロをつらぬく支援の視点をおさえながら、地域における権利擁護活動や社会資源の活用・開発の支援活動を事例による演習（グループワーク）で学ぶ。
7	ソーシャルワークの主要なアプローチ	ジェネラリスト・アプローチ（Johnson & Yancaのものを中心に）の理論を学び、支援プロセスの要点を、ビネット、事例を通じて学ぶ。
8	ソーシャルワークの主要なアプローチ	ジェネラリスト・アプローチ（Johnson & Yancaのものを中心に）の理論を学び、支援プロセスの要点を、ビネット、事例を通じて学ぶ。
9	問題解決アプローチについて	Johnson & Yancaによるジェネラリスト・アプローチの基礎的構造である「問題解決アプローチ」を理解する。
10	ケアマネジメント（高齢者・要支援、要介護者）	事例を通じ、ケアマネジメント手法によるアセスメントから支援計画（ケアプラン）の作成を試みる。グループ討議と発表を行う。
11	ケアマネジメント（障害者）	事例を通じ、ケアマネジメント手法によるアセスメントから支援計画（ケアプラン）の作成を試みる。グループ討議と発表を行う。
12	心理社会アプローチについて	講義と、ビネット・事例を使用した演習（グループワーク）を通じて、面接場面での具体的応答を学ぶ。
13	行動変容アプローチ（認知行動療法を含む）	講義と、ビネット・事例を使用した演習（グループワーク）を通じて、面接場面での具体的応答を学ぶ。
14	家族システムとナラティブアプローチ	講義と、ビネット・事例を使用した演習（グループワーク）を通じて、面接場面での具体的応答を学ぶ。
15	まとめ・本実習に向けて	認知症利用者への諸アプローチを概観し、対人支援技能として共通する「傾聴技能」を再確認するとともに、観察、アセスメント、計画の支援過程を確認する。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助演習Ⅱ	科目ナンバリング	SSPB23007
担当者氏名	小倉 毅		
授業方法	演習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）		

《授業の概要》

本科目はこれまで学んできた社会サービスと相談援助技術の演習、相談援助実習を通じて具体的な支援に結び付けられるよう講義、事例研究、グループ討議、ロールプレイ、ディベートを使って体得することを目的としている。

《テキスト》

[編集]白澤正和・福山和女・石川久展[監修]社団法人日本社会福祉士養成協会『社会福祉士相談援助演習』中央法規出版 ISBN-978-4-8058-3124-3

《参考図書》

授業内で指示をします。

《授業の到達目標》

将来の社会福祉専門職としての必要な実践力を基礎を習得する
 ・ケアマネジメントを用いた支援を組み立てることができる。
 ・メゾ領域における支援計画を立てることができる。
 ・マクロ領域における支援計画を立てることができる。
 ・実習終了後の学びを深めるため、理論と実践の関係を理解する。

《授業時間外学習》

- ①グループ討議を中心に授業を行うので、教科書を事前に読むこと。
- ②新聞やニュース等で取り上げられた社会問題に関心をもつ。

《成績評価の方法》

演習は、毎回出席が原則である。課題・レポート（20%）演習態度（30%）、学期末に事例に基づいてニーズの把握、アセスメント、支援計画を作成し評価する（50%）
 なお、毎回振り返りシートを提出してもらいます。

《備考》

演習の進め方は、事例を活用したグループ討議、ロールプレイ、プレゼンテーション、ディベートです。ソーシャルワーカーの力量を培うために、積極的に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション、演習に参加する意義と目的を理解し、授業の進め方について説明する。
2	社会問題を基盤とした相談援助演習①	社会的排除に関するソーシャルワークを学ぶ。
3	社会問題を基盤とした相談援助演習②	ミクロからマクロ・レベル実践に焦点を当てたソーシャルワークを学ぶ。
4	社会問題を基盤とした相談援助演習③	就労支援（障害者・母子）に関するソーシャルワークを学ぶ。
5	社会問題を基盤とした相談援助演習④	病院からの退院に関するソーシャルワークを学ぶ。
6	社会問題を基盤とした相談援助演習⑤	家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス：DV）に関するソーシャルワークを学ぶ。
7	社会問題を基盤とした相談援助演習⑥	虐待（高齢者）へのソーシャルワークを学ぶ。
8	社会問題を基盤とした相談援助演習⑦	虐待（児童）へのソーシャルワークを学ぶ。
9	対象別にみた相談援助演習①	低所得者へのソーシャルワークを学ぶ。
10	対象別にみた相談援助演習②	高齢者（認知症・要介護）とその家族へのソーシャルワークを学ぶ。
11	対象別にみた相談援助演習③	障害者（身体障害・知的障害・発達障害）とその家族へのソーシャルワークを学ぶ。
12	対象別にみた相談援助演習④	児童（児童養護施設入所）とその家族へのソーシャルワークを学ぶ。
13	利用者との関わりからの学びを活かす①	実習中に利用者や職員と関わった場面（プロセスレコード）を再現し、よりよい関わりや支援について考察する
14	利用者との関わりからの学びを活かす②	利用者を理解するために、ニーズの把握、アセスメント（ケアプラン）について、実習での学びを共有し理解を深める
15	まとめ	これまでの振り返りとまとめを行う。

科目名	相談援助実習指導Ⅲ		科目ナンバリング	SSWB23008	
担当者氏名	田端 和彦、牧田 満知子、和田 光徳、小倉 毅				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） 				

《授業の概要》

相談援助実習指導Ⅲの前半部分では、相談援助実習の実習計画書の作成と実習先での学習のため、これまで学んだ知識を実践の現場で生かすことができるよう準備を行います。準備としては、実習先について調べることで、実習先での相談援助で用いられるツールを確認することなど、相談援助に携わる者として必要な知識、技術を学ぶことなどが含まれます。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会（監修）、長谷川匠俊、上野谷加代子、白澤 政和他編「社会福祉士相談援助実習（第2版）」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業の到達目標》

相談援助実習における到達目標（実習目標）と4～5週間に及ぶ実習における、各週での実習の目標、それを達するために実習で行う内容などの詳細な実習計画書を作成することが到達目標です。また相談援助実習において支援を行うためのアセスメントシートや支援計画書などの実習支援に係るツールについても理解をすることができるようになります。

《授業時間外学習》

実習計画書の作成のためには、実習先の周辺地域に関する踏査や相談援助に関する技術について調べるなどが必要になります。これらはいずれも時間外での学習になります。詳細については授業時間中に指示をします。

《成績評価の方法》

授業を受ける態度、グループワークでの発言等の状況、授業内で課す理解度を図る試験（40点）。実習計画書の内容（60点）。

《備考》

支援者としての自覚とその基盤となる知識、福祉の理解が十分ではないと教員が判断した場合、相談援助実習に赴くことはできません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助実習指導Ⅲの位置づけ、実習前教育に必要な内容の概略を学びます。実習の日程、実習先や巡回担当者などを確認します。配布された個人票に記入します。
2	実習計画書について/実習先での業務	実習計画書の構成、目的を学びます。実習先での業務や行われる支援について、法制度などを含めて調査をします。授業では、調査に必要な項目、内容について学びます。
3	実習先の立地	実習先の立地状況について調査をします。授業では、地域と施設との関係や調査及び現地踏査に必要な項目、内容について学びます。
4	実習先の把握/実習内容についての検討	実習先の事業や支援の方法、周辺環境について調べた結果をまとめます。実習先で何を学ぶかを考え、想定される実習内容を踏まえながら、実習の内容を組立てます。
5	実習計画書の作成①	実習先の状況、及び実習先で学ぶことを踏まえ、巡回担当者との相談を行いながら、各週、日々の目標を作成、それを実現するための実習内容の構成を考えましょう。
6	実習計画書の作成②	引き続き、巡回担当者とも相談をしながら、各週、日々の目標と実習内容の構成を考え、実現可能な計画を組立てます。実習目標についても考えておきましょう。
7	実習計画書の作成③	引き続き、巡回担当者とも相談をしながら、詳細な実習計画書を作成します。実習の成果としての実習目標、目標を達成するための課題を立てます。
8	実習計画書の作成④	引き続き、巡回担当者とも相談をしながら、詳細な実習計画書を完成させましょう。
9	実習先への事前訪問について	事前訪問の重要性と事前方法で行うべき実習計画の調整について理解をします。また訪問にあたっての一般的なマナーを学びます。事前訪問は第12週までに終了させます。
10	事務手続き等について	健康診断書の提出、実習先への通勤時の学生割引など、実習までに必要な事務手続きについて理解をします。
11	実習日誌・アセスメントシート等の作成①	実習日誌の書き方（日誌での表現の方法を含む）について学びます。実習巡回や機構日指導の意味について学びます。
12	実習日誌・アセスメントシート等の作成②	相談援助実習を通しての支援の成果を表現するアセスメントシートや支援計画書の作成について学びます。
13	実習計画書の確認	事前訪問の結果を踏まえ、実習計画書を見直します。巡回担当者とも相談をしながら実習計画書を確定します。実習巡回日などの調整も行います。
14	直前学習①	個人のプライバシー保護について学びます。また実習先での個人情報の取り扱いや注意すべき内容について理解をします。
15	直前学習②	実習期間中、実習生が自らの心身の健康等を守るために必要なことを学び、緊急時の連絡体制について確認をします。

科目名	相談援助実習指導Ⅲ		科目ナンバリング	SSWB23008	
担当者氏名	田端 和彦、牧田 満知子、和田 光徳、小倉 毅				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解) ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力) ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力) ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) 				

《授業の概要》

相談援助実習指導Ⅲ(Ⅱ期)は相談援助実習の振り返りを行います。実習先の概要、制度的背景、利用者や家族、職員との関わりから、ソーシャルワーカーの役割を振り返り整理をします。またグループワークの場で他者と実践内容の討議を行う中で、様々なアプローチの方法や利用者理解の視点などを理解します。これらを踏まえ実習報告書を作成、途中で行う実習報告会での指摘などを踏まえ、報告書を完成させます。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会(監修)、長谷川匠俊、上野谷加代子、白澤 政和他編「社会福祉士相談援助実習(第2版)」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業の到達目標》

相談援助実習を振り返る中で、利用者支援やソーシャルワーカーの役割・業務、専門職連携の重要性を認識し身につけます。これらの振り返りの中でソーシャルワーカーとしての自覚を養い、ケアマネジメント力を理解します。さらに、客観的に実習を見直すことで、今後の学習の課題や進路を考えるとともに、求められる社会福祉士像を明確にします。

《授業時間外学習》

実習報告書の作成、実習報告会の準備等は授業時間内だけでは終わることが難しく、時間外を大いに活用することになるでしょう。実習先への確認ための問い合わせや再度の訪問も必要になるかもしれません。

《成績評価の方法》

実習の記録の整理状況、実習報告会の準備、グループワークでの役割、授業内で課すレポート、実習報告会での報告内容、実習報告書による分析を含めた総合点で評価をします(100点)。

《備考》

実習報告会の日程、実習報告書の作成の期限等については、平成28年度中に提示します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助実習指導Ⅰの位置づけ、目的、課題を再確認します。Ⅰ期の振り返りを行い、その定着を図ります。
2	実習振り返りのための整理	実習日誌やアセスメントシート等の記録を点検、整理し、必要な追学習を行い、また実習計画を踏まえて学びの確認をします。
3	実習振り返りにおけるグループ学習①	実習先で体験したことを報告し実習内容を共有し、施設や実習目標の異なる学生の実習経験を元に、グループワークにより達成できたことや課題を確認します。
4	実習振り返りにおけるグループ学習②	実習先で体験したことを報告し実習内容を共有し、施設や実習目標の異なる学生の実習経験を元に、グループワークにより達成できたことや課題を確認します。
5	実習振り返りにおけるグループ学習③	専門職として求められる価値や倫理を挙げ、共有、種類別に整理し、実習でのジレンマなどを越えるための解決法をグループワークで見出します。
6	実習振り返りにおけるグループ学習④	専門職として求められる価値や倫理を挙げ、共有、種類別に整理し、実習でのジレンマなどを越えるための解決法をグループワークで見出します。
7	実習報告書の作成と実習報告会の準備①	実習の成果を制度的背景や学んだスキル、価値から評価、分析します。その際には、グループワークで明らかにした各分野での課題などを踏まえて行います。
8	実習報告書の作成と実習報告会の準備②	実習の成果を制度的背景や学んだスキル、価値から評価、分析します。その際には、グループワークで明らかにした各分野での課題などを踏まえて行います。
9	実習報告書の作成と実習報告会の準備③	実習報告会の準備を行います。実習報告書に記載する実習の成果とその分析や評価の内容について報告会で報告をするための資料を作成します。
10	実習報告会①	実習報告会では実習の成果と評価等の報告を行い、実習指導者や教員からの質問、指摘に答えるとともに、それらを実習報告書に活用するために学ぶ機会とします。
11	実習報告会②	実習報告会では実習の成果と評価等の報告を行い、実習指導者や教員からの質問、指摘に答えるとともに、それらを実習報告書に活用するために学ぶ機会とします。
12	実習報告書の完成①	実習の成果、分析、評価及び、グループワークによるジレンマの克服などを通しソーシャルワーカーとしての自覚に至る過程などを踏まえ実習報告書を作成します。
13	実習報告書の完成②	実習の成果、分析、評価及び、グループワークによるジレンマの克服などを通しソーシャルワーカーとしての自覚に至る過程などを踏まえ実習報告書を作成します。
14	実習報告書の完成③	実習先に対する評価や実習プログラムに対する評価など、客観的な視点から実習を振り返り、提言なども行います。
15	実習報告書の完成④	実習先に対する評価や実習プログラムに対する評価など、客観的な視点から実習を振り返り、提言なども行います。

科目名	相談援助実習	科目ナンバリング	SSWB23009
担当者氏名	田端 和彦、牧田 満知子、和田 光徳、小倉 毅、小林 茂		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 		

《授業の概要》

180時間の、社会福祉現場の実習を行います。その中で、施設の機能、利用者とその家族を理解し、職員やソーシャルワーカーとの関係や実践を通して支援の必要性を実感し、アプローチの方法等を学びます。色々な支援の場面で気づいたことを記録し、分析し、スーパーバイザーの指示や意見を受け止め、実践の場面での支援のあり方を修正しながら実習を進めます。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会（監修）、長谷川匠俊、上野谷加代子、白澤政和他編「社会福祉士相談援助実習（第2版）」中央法規出版

《参考図書》

授業の中で指示をします。

《授業の到達目標》

実践を通して、習得してきた知識や技術とを統合し、現場のソーシャルワーカーとしての姿勢・価値・理論を培い、必要に応じて活用する力を身につけることができます。同時に、利用者の姿や福祉を担う施設や従事者の実践活動、その運営や経営実態を知ることで、社会福祉施設における専門職の要としての役割を理解し体得する第一歩を踏み出すことができます。

《授業時間外学習》

実習先の特性や周辺にある社会資源の分布状況などを事前踏査で把握しておきましょう。さらに、利用者支援の根拠法・関係法規を読んでおき、授業で学習し、必要と思われる事項は繰り返し復習をしておきましょう。社会福祉士の倫理綱領や実習先施設の概要なども事前に読んで理解をしておきましょう。

《成績評価の方法》

実習巡回者の評価（40%）・実習先の評価（60%）により評価します。

《備考》

シラバスの形式上、15週の授業計画が記載されていますが、実習期間の4～5週間について、下記内容を参考に、実習計画を作成し、実習先の指導に従い、実習に臨んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習先の概要についての理解	実習先の業務内容と施設の方針、職員の役割や配置、建物の概要、関連施設などについて、説明を受け、理解をします。
2	実習先の組織についての理解	施設に係る法的根拠や支出・収入を含む経営状況、運営や意思決定、業務日誌等の日常用いられる文書様式について説明を受ける等で学びます。
3	基本的なコミュニケーションの理解	職員や利用者、家族、住民と接する中で挨拶、自己紹介を行うなど基本的なコミュニケーションを取り、関わり方を学びます。
4	言語的・非言語的コミュニケーションの理解	対応が難しい利用者等へ関わる中で、言語的、非言語的なコミュニケーションの取り方を理解し、利用者個々に合致する円滑な関係形成の方法を学びます。
5	支援等を通しての利用者の理解	日常的な利用者の行動や施設職員と利用者との関わりを観察したり、カルテや支援計画等を閲覧することにより心身的特徴について分析し、利用者理解を深めます。
6	社会福祉士の職種・倫理の理解	実習指導者など社会福祉士の業務に同行することから、社会福祉士の職種を学び、倫理に基づく判断を理解し、実習中に感じたディレンマを分析します。
7	職員の業務を踏まえての施設運営の理解	施設職員の役割と業務を踏まえてのチームアプローチの意義やケースカンファレンスなどの会議の運営や社会福祉士の役割などを参加や観察を通して学びます。
8	利用者との援助関係の形成についての理解	援助関係形成を意識して利用者に関わるとともに、社会福祉士による面接を観察するなどにより面接技法について学びます。個人情報保護についても学びましょう。
9	施設のある地域の理解	地域にある施設や住民組織が参加する会議や行事に参加することなどを通して地域に存する社会資源について学びましょう。
10	地域への働きかけについての理解	地域の方や学校、家族によるボランティア活動への関与を通し、地域の組織化、当事者グループの形成などについて理解をしましょう。
11	アセスメントシートについての理解	利用者や家族へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解するために、アセスメント・シートの構造や使用方法を学びましょう。
12	利用者と家族のエンパワメント実践の理解	利用者と家族との関係性を明らかにするエコマップやジェノグラムを学び、権利擁護を踏まえて、利用者のエンパワメントの方法を理解しましょう。
13	アセスメントの実践	担当する利用者へのアセスメントを行い、利用者や家族が抱える課題を把握し、ニーズを確定しましょう。
14	個別支援計画の策定①	利用者のアセスメントやニーズに基づき、支援目標、支援計画を作成しましょう。
15	個別支援計画の策定②	個別支援計画について、カンファレンスでの検討を行うとともに、計画に従っての実践とモニタリングを行いましょう。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助実習	科目ナンバリング	SSWB23009
担当者氏名	田端 和彦、牧田 満知子、和田 光徳、小倉 毅、稲富 恭		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力) ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任) ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ) ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感性、観察力、問題発見力) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) 		

《授業の概要》

180時間の、社会福祉現場の実習を行います。その中で、施設の機能、利用者とその家族を理解し、職員やソーシャルワーカーとの関係や実践を通して支援の必要性を実感し、アプローチの方法等を学びます。色々な支援の場面で気づいたことを記録し、分析し、スーパーバイザーの指示や意見を受け止め、実践の場面での支援のあり方を修正しながら実習を進めます。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会(監修)、長谷川匠俊、上野谷加代子、白澤政和他編「社会福祉士相談援助実習(第2版)」中央法規出版

《参考図書》

授業の中で指示をします。

《授業の到達目標》

実践を通して、習得してきた知識や技術とを統合し、現場のソーシャルワーカーとしての姿勢・価値・理論を培い、必要に応じて活用する力を身につけることができます。同時に、利用者の姿や福祉を担う施設や従事者の実践活動、その運営や経営実態を知ることで、社会福祉施設における専門職の要としての役割を理解し得する第一歩を踏み出すことができます。

《授業時間外学習》

実習先の特性や周辺にある社会資源の分布状況などを事前踏査で把握しておきましょう。さらに、利用者支援の根拠法・関係法規を読んでおき、授業で学習し、必要と思われる事項は繰り返し復習をしておきましょう。社会福祉士の倫理綱領や実習先施設の概要なども事前に読んで理解をしておきましょう。

《成績評価の方法》

実習巡回者の評価(40%)・実習先の評価(60%)により評価します。

《備考》

シラバスの形式上、Ⅰ期と同じ内容を記載しています。下記の授業計画の内容を参考にしながら、4~5週間の実習計画を作成し、実習先の指導に従い、実習に臨んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習先の概要についての理解	実習先の業務内容と施設の方針、職員の役割や配置、建物の概要、関連施設などについて、説明を受け、理解をします。
2	実習先の組織についての理解	施設に係る法的根拠や支出・収入を含む経営状況、運営や意思決定、業務日誌等の日常用いられる文書様式について説明を受ける等で学びます。
3	基本的なコミュニケーションの理解	職員や利用者、家族、住民と接する中で挨拶、自己紹介を行うなど基本的なコミュニケーションを取り、関わり方を学びます。
4	言語的・非言語的コミュニケーションの理解	対応が難しい利用者等へ関わる中で、言語的、非言語的コミュニケーションの取り方を理解し、利用者個々に合致する円滑な関係形成の方法を学びます。
5	支援等を通しての利用者の理解	日常的な利用者の行動や施設職員と利用者との関わりを観察したり、カルテや支援計画等を閲覧することにより心身的特徴について分析し、利用者理解を深めます。
6	社会福祉士の職種・倫理の理解	実習指導者など社会福祉士の業務に同行することから、社会福祉士の職種を学び、倫理に基づく判断を理解し、実習中に感じたディレンマを分析します。
7	職員の業務を踏まえての施設運営の理解	施設職員の役割と業務を踏まえてのチームアプローチの意義やケースカンファレンスなどの会議の運営や社会福祉士の役割などを参加や観察を通して学びます。
8	利用者との援助関係の形成についての理解	援助関係形成を意識して利用者に関わるとともに、社会福祉士による面接を観察するなどにより面接技法について学びます。個人情報保護についても学びましょう。
9	施設のある地域の理解	地域にある施設や住民組織が参加する会議や行事に参加することなどを通して地域に存する社会資源について学びましょう。
10	地域への働きかけについての理解	地域の方や学校、家族によるボランティア活動への関与を通し、地域の組織化、当事者グループの形成などについて理解をしましょう。
11	アセスメントシートについての理解	利用者や家族へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解するために、アセスメント・シートの構造や使用方法を学びましょう。
12	利用者と家族のエンパワメント実践の理解	利用者と家族との関係性を明らかにするエコマップやジェノグラムを学び、権利擁護を踏まえて、利用者のエンパワメントの方法を理解しましょう。
13	アセスメントの実践	担当する利用者へのアセスメントを行い、利用者や家族が抱える課題を把握し、ニーズを確定しましょう。
14	個別支援計画の策定①	利用者のアセスメントやニーズに基づき、支援目標、支援計画を作成しましょう。
15	個別支援計画の策定②	個別支援計画について、カンファレンスでの検討を行うとともに、計画に従っての実践とモニタリングを行いましょう。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	専門ゼミナール I	科目ナンバリング	SFFB13010
担当者氏名	和田 光徳、小倉 毅、小林 茂		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる (論理的思考力、情報リテラシー) ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる (統計分析力) ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力) ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる (人に働きかける力) 		

《授業の概要》

4年生での卒業論文を執筆を目指して、2年間の卒業研究に取り組みます。最初には、教員の指導に従い、基本的な文献の読解や研究手法の学習などに取り組みます。そして研究課題の設定、課題に即しての仮説の作成のための文献の読解などを行います。

《テキスト》

指導にあたる教員の指示に従ってください。

《参考図書》

指導にあたる教員の指示に従ってください。

《授業の到達目標》

指導にあたる教員により違いもありますが、専門ゼミナール I では、基本となる文献等の読解を通し、卒業研究の課題を見出すための知識の基盤を創ることや、調査や分析に関わる方法について身につけることが目標となります。

《授業時間外学習》

文献の講読、調査、分析、考察の他、発表の準備等は時間外に行います。

《成績評価の方法》

指導にあたる教員により違いもありますが、原則としては日常的な学習態度、課される課題への対応状況などが評価の対象となります。

《備考》

専門ゼミナール (ゼミ) は少人数指導です。教員やゼミ仲間 (ゼミ生) とともに学び合うこととなります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	指導にあたる教員から、授業の概要の説明を受けるとともに、計画や日程、今後の学習の方針などについて教員やゼミ生とともに検討をします。
2	卒業研究のための基礎	指導教員の指示に従い、基本文献の読解、分析、研究方法の基礎についての学習を進めましょう。
3	卒業研究のための基礎	指導教員の指示に従い、基本文献の読解、分析、研究方法の基礎についての学習を進めましょう。
4	卒業研究のための基礎	指導教員の指示に従い、基本文献の読解、分析、研究方法の基礎についての学習を進めましょう。
5	卒業研究のための基礎	指導教員の指示に従い、基本文献の読解、分析、研究方法の基礎についての学習を進めましょう。
6	卒業研究のための基礎	指導教員の指示に従い、基本文献の読解、分析、研究方法の基礎についての学習を進めましょう。
7	卒業研究のための基礎	指導教員の指示に従い、基本文献の読解、分析、研究方法の基礎についての学習を進めましょう。
8	卒業研究のための基礎	指導教員の指示に従い、基本文献の読解、分析、研究方法の基礎についての学習を進めましょう。
9	卒業研究のための基礎	指導教員の指示に従い、基本文献の読解、分析、研究方法の基礎についての学習を進めましょう。
10	卒業研究のための基礎	指導教員の指示に従い、基本文献の読解、分析、研究方法の基礎についての学習を進めましょう。
11	卒業研究のための基礎	指導教員の指示に従い、基本文献の読解、分析、研究方法の基礎についての学習を進めましょう。
12	卒業研究課題の提示	指導教員と話し合うことで、ゼミ生個々の研究課題の選定 (グループでの課題選定可)、課題に伴っての仮定の作成を行ないます。
13	卒業研究課題の提示	指導教員と話し合うことで、ゼミ生個々の研究課題の選定 (グループでの課題選定可)、課題に伴っての仮定の作成を行ないます。
14	卒業研究課題の提示	指導教員と話し合うことで、ゼミ生個々の研究課題の選定 (グループでの課題選定可)、課題に伴っての仮定の作成を行ないます。
15	卒業研究課題の提示	指導教員と話し合うことで、ゼミ生個々の研究課題の選定 (グループでの課題選定可)、課題に伴っての仮定の作成を行ないます。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	専門ゼミナールⅡ	科目ナンバリング	SFFB13011
担当者氏名	和田 光徳、小倉 毅、小林 茂		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） 		

《授業の概要》

4年生での卒業論文を執筆を目指して、2年間の卒業研究に取り組みます。専門ゼミナールⅠでは、卒業研究のための基盤となる学習を踏まえ、それぞれの課題意識に伴っての卒業研究課題を設定しました。専門ゼミナールⅡでは、ゼミ生個々の研究課題に従っての仮説の設定や資料の収集、課題に関する文献の読解、調査などを行います。

《テキスト》

指導にあたる教員の指示に従ってください。

《参考図書》

指導にあたる教員の指示に従ってください。

《授業の到達目標》

指導にあたる教員により違いもありますが、専門ゼミナールⅡでは、主として、個々のゼミ生の卒業研究に合わせて、関連文献を読解したり、資料を収集したりします。学生は学んだことをゼミ詩や指導の教員の前で発表するなどをして指導を受けることを通して、卒業論文作成のための準備を行うことが授業の到達目標になります。

《授業時間外学習》

文献の講読、調査、分析、考察の他、発表の準備等は時間外に行います。

《成績評価の方法》

指導にあたる教員により違いもありますが、原則としては日常的な学習態度、課される課題への対応状況などが評価の対象となります。

《備考》

専門ゼミナール（ゼミ）は少人数指導です。教員やゼミ仲間（ゼミ生）とともに学び合うこととなります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	指導にあたる教員から、授業の概要の説明を受けるとともに、計画や日程、今後の学習の方針などについて教員やゼミ生とともに検討をします。
2	卒業研究課題に関する資料収集・文献読解・調査	それぞれの卒業研究の課題に従って、資料収集・文献読解・調査などを行い、ゼミナールで発表しながら教員の指導、ゼミ生同士の話し合いでの検討を行いましょ。
3	卒業研究課題に関する資料収集・文献読解・調査	それぞれの卒業研究の課題に従って、資料収集・文献読解・調査などを行い、ゼミナールで発表しながら教員の指導、ゼミ生同士の話し合いでの検討を行いましょ。
4	卒業研究課題に関する資料収集・文献読解・調査	それぞれの卒業研究の課題に従って、資料収集・文献読解・調査などを行い、ゼミナールで発表しながら教員の指導、ゼミ生同士の話し合いでの検討を行いましょ。
5	卒業研究課題に関する資料収集・文献読解・調査	それぞれの卒業研究の課題に従って、資料収集・文献読解・調査などを行い、ゼミナールで発表しながら教員の指導、ゼミ生同士の話し合いでの検討を行いましょ。
6	卒業研究課題に関する資料収集・文献読解・調査	それぞれの卒業研究の課題に従って、資料収集・文献読解・調査などを行い、ゼミナールで発表しながら教員の指導、ゼミ生同士の話し合いでの検討を行いましょ。
7	卒業研究課題に関する資料収集・文献読解・調査	それぞれの卒業研究の課題に従って、資料収集・文献読解・調査などを行い、ゼミナールで発表しながら教員の指導、ゼミ生同士の話し合いでの検討を行いましょ。
8	卒業研究課題に関する資料収集・文献読解・調査	それぞれの卒業研究の課題に従って、資料収集・文献読解・調査などを行い、ゼミナールで発表しながら教員の指導、ゼミ生同士の話し合いでの検討を行いましょ。
9	卒業研究課題に関する資料収集・文献読解・調査	それぞれの卒業研究の課題に従って、資料収集・文献読解・調査などを行い、ゼミナールで発表しながら教員の指導、ゼミ生同士の話し合いでの検討を行いましょ。
10	卒業研究課題に関する資料収集・文献読解・調査	それぞれの卒業研究の課題に従って、資料収集・文献読解・調査などを行い、ゼミナールで発表しながら教員の指導、ゼミ生同士の話し合いでの検討を行いましょ。
11	卒業研究課題に関する資料収集・文献読解・調査	それぞれの卒業研究の課題に従って、資料収集・文献読解・調査などを行い、ゼミナールで発表しながら教員の指導、ゼミ生同士の話し合いでの検討を行いましょ。
12	卒業研究課題に関する資料収集・文献読解・調査	それぞれの卒業研究の課題に従って、資料収集・文献読解・調査などを行い、ゼミナールで発表しながら教員の指導、ゼミ生同士の話し合いでの検討を行いましょ。
13	卒業論文執筆の基礎学習	卒業論文の執筆方法や構成について学びましょ。
14	卒業論文執筆の基礎学習	卒業論文の執筆方法や構成について学びましょ。
15	卒業論文執筆の基礎学習	卒業論文の執筆方法や構成について学びましょ。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	就労支援サービス		科目ナンバリング	SSWC23012	
担当者氏名	香木 明美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

- ①雇用・就労の動向と労働施策の概要
 - ②就労支援制度の概要
 - ③就労支援に係る組織、団体の役割
 - ④就労支援に係る専門職
 - ⑤就労支援分野における連携
- 上記5点について講義と事例検討を通じて学ぶ。

《テキスト》

『新・社会福祉士養成講座18 就労支援サービス 第4版』
 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規 2016年

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①労働および就労支援に関する法制度を理解する。
- ②就労支援に関わる専門職者の役割について理解する。
- ③就労支援における各機関の連携について理解する。
- ④障害者、シングルマザー、低所得者、ホームレス等の対象者ごとの課題と支援のあり方について理解する。
- ⑤上記①②③④について説明し、自分の意見が言えるようになる。

《成績評価の方法》

授業への参加意欲、態度 20%
 レポート等の提出 20%
 定期試験 60%

《授業時間外学習》

- ①各回の講義の前にテキストの該当箇所を目を通し、予習しておくこと。
- ②「労働」「障害者の就労支援」「シングルマザーの就労支援」「ホームレスの就労支援」等、本講義に関連すると思われる事柄について、新聞やテレビ等から情報収集すること。

《備考》

- ①ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。
- ②講義中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 働くことの意味	本講義についてのオリエンテーション
2	就労支援とは	就労支援が必要とされる背景と、就労支援の基本的な視点の持ち方
3	現代社会の労働市場について	現代社会における労働市場の動向、雇用と就労の特徴と課題
4	労働法規の概要と就労支援に関する法制度	労働法規と就労支援に関する法制度
5	就労支援の実施体制	就労支援の実施体制と専門機関
6	専門職の役割と実際	就労支援に関わる専門職者の役割と支援内容
7	障害のある人への就労支援①	障害者の雇用・就労の現状と、障害者雇用促進法の概要
8	障害のある人への就労支援②	公共職業安定所（ハローワーク）、地域障害者職業センターの役割
9	障害のある人への就労支援③	障害者総合支援法における就労支援サービスの概要
10	障害のある人への就労支援④	障害者雇用施策と障害者福祉施策、教育施策との連携
11	低所得者への就労支援	生活保護制度における就労支援
12	ひとり親家庭への就労支援	ひとり親家庭の現状と、ひとり親家庭に対する就労支援
13	ホームレスへの就労支援	ホームレスの現状とホームレス対策における就労支援
14	就労支援における今後の課題	就労支援の今後の課題と、社会福祉士に求められる役割
15	まとめ	本講義で学んだことに関するふりかえり

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	心理検査法	科目ナンバリング	SFFC23013
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

福祉の現場に出て行った時、利用者さんに関する心理検査のデータや情報等をケースワークに活かすため、知っておくと役に立つ「心理検査」について学ぶ。体験・実習した心理検査については自己理解を深めるためにも有効である。

《テキスト》

必要な資料は適宜配布する。

《参考図書》

心理検査の理論と実際 第IV版 花沢・佐藤・大村著
駿河台出版社 2800円

《授業の到達目標》

知能・発達テスト、人格検査・性格検査・パーソナリティテストを体験・理解し、自己理解・他者理解を深める。

《授業時間外学習》

配布された資料は、きちんとファイルに閉じて自宅をよく読みこんでくること。

《成績評価の方法》

受講態度30% 数回のレポート30% まとめレポート40%

《備考》

同日に連続で開講する「臨床心理学」とあわせて履修のこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	福祉の現場や医療の現場で使用される心理検査をソーシャルワーカーがいかに関活用するかを知る
2	パーソナリティテスト	自己理解を深めるためのパーソナリティテストの体験を行う
3	子どもの現場で使用される心理検査①	児童相談所で使用される発達検査について知る
4	子どもの現場で使用される心理検査②	児童相談所で使用される心理検査と社会生活能力検査について知る
5	子どもの現場で使用される心理検査③	描画テストについて・・・バウムテストを学ぶ
6	子どもの現場で使用される心理検査④	描画テストについて・・・風景構成法を学ぶ
7	病院で使用される心理テスト①	インテークに必要な心理テストについて知る
8	病院で使用される心理テスト②	インテークに必要な心理テストについて知る
9	病院で使用される心理テスト③	投影法①を体験する
10	病院で使用される心理テスト④	投影法②を体験する
11	病院で使用される心理テスト⑤	投影法③を体験する
12	病院で使用される心理テスト⑥	投影法④を体験する
13	親子関係を知るテスト	親子関係テスト実習を行う
14	高齢者のための心理テスト	高齢者のための心理テストを知る
15	まとめ	この授業をふりかえりレポートにまとめて自己理解を深める

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	臨床心理学	科目ナンバリング	SFFC23014
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

臨床心理学とは人のこころを理解しようとし人にとっての意味を理解しようとする心理学である。こころの世界の開拓者フロイトは大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の重要性を発見した。この授業の中で「こころ」の研究の歴史を辿り人と人との関わることで育まれる「関係性」について知り、自分自身と他者のこころを理解できるよう学んでほしい。

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る
- ・対人関係上の問題を呈する人々を理解する上で、乳幼児と母親との関係性と関連させて、より適切な関わりが実践できるよう学ぶ。

《成績評価の方法》

- 受講態度30%
- レポート20%
- 筆記テスト50%

《テキスト》

こころの処方箋 （新潮文庫）河合隼雄

《参考図書》

授業内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

テキストを読んで、最終授業日までに、レポートを提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理学の基本的な考え方を知る
2	フロイトの発見	無意識をめぐって、フロイトの発見から考える
3	フロイトの精神分析①	自由連想法について知る
4	フロイトの精神分析②	フロイトの理論を用いて学ぶ
5	ユングの分析心理学①	ユング自身の人生と分析心理学について知る
6	ユングの分析心理学①	ユングのタイプ論を知る
7	乳幼児期のこころの発達①	赤ちゃんの不安の源泉 メラニー・クラインの精神分析理論を知る
8	乳幼児期のこころの発達②	マーガレット・マラーの分離・個体化過程とウィニコットのホールディングについて学ぶ
9	遊戯療法	子どもの心理療法としての遊戯療法を知る
10	箱庭療法①	ユング心理学と箱庭療法の関連について知る
11	箱庭療法②	箱庭療法の実際を学ぶ
12	行動療法	行動療法の理論を学ぶ
13	認知行動療法	考え方や思考のくせに気づき改善していくための認知行動療法を知る
14	フォーカシング	セルフ・カウンセリングとしてのフォーカシングを知る
15	臨床心理学の理解について	全体のふりかえりと確認を行う

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	加齢及び障害に関する理解		科目ナンバリング	STTC23015
担当者氏名	奥 典之			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

高齢者・障がい者の心理についての基本書を用いて、基本的・理論的な枠組みを事例等も活用し、理論と実践の両面からの学習を行う。本講義は、特に「障がいの受容」という事をテーマにして、その理解を進めていくとともに、後半は介護福祉分野からも障害を見ていく。

《テキスト》

中野善達・守屋國光 編著「老人・障害者の心理」（改訂版）
福村出版

《参考図書》

介護福祉士養成講座編集委員会 編「障害の理解」新・介護福祉士養成講座 中央法規出版

《授業の到達目標》

社会福祉の専門職をめざす学生に対して、高齢者や障がい者に適切に接し、あるいは支援したり介護し、地域社会で共に生活していく基盤づくりができるようになるために、高齢者や障がい者をよりよく理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめる訓練を続けて欲しい。

《成績評価の方法》

平常点と筆記試験、及び課題レポートによる。
全評価に対する割合（％）については、最初の授業で説明する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老人の心理	老年期と老化
2	老人の心理	老年心理学の主要理論
3	老人の心理	老人意識の問題
4	障害とその心理的影響	障害と障害者
5	障害とその心理的影響	障害の及ぼす心理的影響
6	障害とその心理的影響	適応と適応機制
7	障害とその心理的影響	障害の受容
8	老人の心理的特性	老年期の精神・感覚・知覚機能
9	老人の心理的特性	老年期の知能
10	老人の心理的特性	老年期の記憶機能
11	障害のある人の生活の理解Ⅰ	視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害のある人の生活
12	障害のある人の生活の理解Ⅱ	肢体不自由、知的障害、精神障害のある人の生活
13	障害のある人の生活の理解Ⅱ	高次脳機能障害、発達障害、重症心身障害のある人の生活
14	障害のある人の生活の理解Ⅲ	内部障害、難病のある人の生活
15	加齢及び障がいに対する理解	まとめ

科目名	人体の構造及び日常生活行動に関する理解		科目ナンバリング	STTC23016
担当者氏名	長尾 光城			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）			

《授業の概要》

日本の社会保障制度には保健・医療・福祉のセーフティネットがあり、各分野が単独で対象者を支えることはできない。この社会保障が円滑に機能するには、社会福祉士が各関係機関との連携及び調整を図る必要がある。そこで、普段行っている生活行動を理論的に学び、かつ人体の構造と機能に対する理解及び疾病に対する対処方法等の基礎を理解し、連携に必要な基礎知識を身につける。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座〈1〉人体の構造と機能及び疾病—医学一般 社会福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版

《参考図書》

ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版 障害者福祉研究会編 中央法規出版 2002年

《授業の到達目標》

- (1) 心身機能と身体構造及び様々な疾病や人の成長・発達や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活行動との関係を踏まえて理解する。
- (2) 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。
- (3) リハビリテーションの概要について理解する。

《授業時間外学習》

授業のなかで、3回レポート課題を出します。しっかり取り組んでください。

《成績評価の方法》

授業態度（20%）
レポート課題（30%）
定期試験（50%）

《備考》

医学一般の項目を興味を持てるように勉学に励んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人の成長と発達	身体の成長と発達について理解する。
2	人の成長と発達	身体及び精神の加齢と老化について理解する。
3	人体の構造と機能の概要	人体の運動神経器官の構造と機能について理解する
4	人体の構造と機能の概要	人体の内臓器官等の構造と機能について理解する
5	国際生活機能分類の基本的な考え方と概要①	国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）への変遷を学ぶ。
6	国際生活機能分類の基本的な考え方と概要②	心身機能と身体構造、活動、参加の概念を理解する。
7	国際生活機能分類の基本的な考え方と概要③	環境因子と個人因子の概念、健康状態と生活機能低下の概念を理解する。
8	健康の捉え方	健康と概念と公衆衛生、保健の概要について理解する。
9	疾病の概要①	悪性腫瘍、生活習慣病、感染症について理解する。
10	疾病の概要②	神経・精神疾患、精神疾患、難病について理解する。
11	障害の概要①	視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害について理解する。
12	障害の概要②	知的障害、精神障害、発達障害、認知症、高次機能障害について理解する。
13	リハビリテーションの概要①	リハビリテーションの定義、目的、対象方法について学ぶ。
14	日常生活上の工夫について①	日常生活様式と生活行動について短文事例を用いて理解する。
15	日常生活上の工夫について②	日常生活様式と生活上の工夫や生活リハビリについて短文事例を用いて理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神障害者の生活支援システム		科目ナンバリング	SPSC23017	
担当者氏名	真野 元四郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）			

《授業の概要》

精神障害者を取り巻く現状について検討し、障害者の生活の諸相と課題を概括します。精神保健福祉法等の変遷、施策やサービスの現状、改革の動向を踏まえ生活支援システムについて、とりわけ相談支援、居住支援さらに就労支援を軸に実践課題を明らかにします。精神障害者の理解を疾病や障害の側面からだけでなく、地域で暮らす主体者、市民としてあるべき社会的システム（について検討を加えていきます。

《テキスト》

「精神障害者の生活支援システム」日本精神保健福祉士養成校協会編、中央法規、2012

《参考図書》

「生きている働いている一障がい者の就労を地域で支える」、目黒輝美他、大学教育出版、2012

《授業の到達目標》

- 精神障害者の生活支援の理念と特徴について理解する。
- 地域生活における精神障害者の暮らしにくさと課題解決のための支援のあり方、制度や施策について理解する。
 - ・就労支援及び居住支援に関する制度・施策
 - ・精神保健福祉士の相談支援活動について

《授業時間外学習》

- 「精神保健福祉に関する制度とサービス」等のテキスト及び授業内容について再確認し歴史や精神障害者支援の課題等を把握しておくこと。
- 新聞等の記事に注目し関連する記事を収集すること。

《成績評価の方法》

- 下記により総合的に評価する
- (1) 授業への出席と討議や質問等による参加状況
 - (2) 授業でのミニレポート内容
 - (3) 課題レポート

《備考》

- 授業への積極的な参加を求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神障害者の概念	オリエンテーション及び障害の概念
2	精神障害者の生活の実際	精神障害者を取り巻く現状と生活
3	精神障害者の生活と人権	精神障害者の生活支援の理念、生活支援における人権
4	精神障害者の居住支援1	居住支援制度の概要
5	精神障害者の居住支援2	居住支援の実際
6	精神障害者の居住支援3	居住支援における関係機関等との連携
7	精神障害者の就労支援1	就労支援制度の概要
8	精神障害者の就労支援2	就労支援の実際
9	精神障害者の就労支援3	就労支援における関係機関等との連携
10	精神障害者の生活支援システム1	精神障害者の自立と社会参加
11	精神障害者の生活支援システム2	福祉的就労等の生活支援
12	精神障害者の生活支援システム3	生活支援における地域の役割
13	ソーシャル・サポートネットワーク	ソーシャル・サポートネットワーク
14	行政機関における相談支援	市町村における相談支援
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健の課題と支援 I		科目ナンバリング	SPSC23018
担当者氏名	瀬尾 学			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） 			

《授業の概要》

私たちにとって非常に身近であり、かつ、とても重要な課題である「精神保健」についての理解を深めていくことを目標とし、こころの健康を保持・増進させるために必要な基礎知識を学ぶ。基本的な精神保健について理解するために、概論について学習をし、ライフサイクルにおける精神発達について理解、また、ストレスと精神の健康について学習する。

《テキスト》

中央法規出版 新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援 第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 編集

《参考図書》

《授業の到達目標》

①精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 ②精神保健を維持、増進するための機能の理解と、精神の健康に関わる専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。

《授業時間外学習》

こころの問題に関する課題について気が付くことができるように、新聞、雑誌、報道等に注意しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・授業態度50% レポート課題・試験50%

《備考》

授業内容等に関する疑問や意見は積極的に述べること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	メンタルヘルス（こころの問題）について。
2	精神保健についての基礎知識	精神保健についての基本的な考え方を学ぶ。
3	精神保健の概要	精神保健の重要性と精神保健の・定義についての基本的な考え方を学ぶ。 日本・アメリカ等の精神保健の歴史。
4	精神の健康と、精神の健康に関連する要因（1）	精神保健にとって重要な概念：健康についての現在の考え方を学ぶ。
5	精神の健康と、精神の健康に関連する要因（2）	精神保健にとって重要な概念：疾患の定義、障害についての考え方を学ぶ。
6	ライフサイクルと精神の健康（1）	胎児期・妊産婦の精神保健：生命の誕生から出産まで。 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。
7	ライフサイクルと精神の健康（2）	乳幼児期の精神保健：乳児～幼児まで。 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。
8	ライフサイクルと精神の健康（3）	学童期における精神保健：7歳から12歳まで。 ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。
9	ライフサイクルと精神の健康（4）	思春期・青年期における精神保健：12歳頃から25歳頃まで。 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。
10	ライフサイクルと精神の健康（5）	成人期における精神保健：25歳頃から60歳頃まで。 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。
11	ライフサイクルと精神の健康（6）	初老期・老年期における精神保健。 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。
12	精神の健康とその要因	ストレス・生活習慣・身体、精神疾患に由来する障害を学習する。
13	精神の健康への関与と支援（1）	精神の健康に関する心的態度について理解する。
14	精神の健康への関与と支援（2）	精神保健に関する予防の概念を理解する。
15	精神の健康への関与と支援（3）	精神保健福祉制度、地域保健制度 精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体等の役割、および専門職種を理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健の課題と支援Ⅱ		科目ナンバリング	SPSC23019	
担当者氏名	瀬尾 学				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心を持ち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 			

《授業の概要》

現代社会における、家庭、学校、職場、地域等のそれぞれにおいて、精神の健康に関わる課題と、その解決のためのアプローチを学習し、精神保健福祉士の役割について理解する。

《テキスト》

中央法規出版 新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援 第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 編集

《参考図書》

《授業の到達目標》

①現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。②国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

《授業時間外学習》

テキストを読んで授業にのぞむこと。こころの問題に関する課題について意識し、気が付くことができるように、新聞、雑誌、報道等に注意しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・授業態度50% レポート課題・試験50%

《備考》

授業内容等に関する疑問や意見は積極的に述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健の視点からみた家族の課題 1	現代日本の家族の特徴 現代日本の家族の形態と機能を理解する。
2	精神保健の視点からみた家族の課題 2	結婚生活・育児をめぐる家族に関する精神保健を理解する。
3	精神保健の視点からみた家族の課題 3	病气療養や介護をめぐる精神保健を理解する。病气療養と介護、認知高齢者、ターミナルケア
4	精神保健の視点から見た学校教育の課題 1	現代日本の学校教育と生徒児童の特徴について理解する。不登校、いじめ
5	精神保健の視点から見た学校教育の課題 2	教員の精神保健、関与する専門職と関係法規・学校保健法について理解する。
6	精神保健の視点からみた勤労者の課題 1	現代日本の労働環境について理解する。職場内でのメンタルヘルス、関連法規
7	精神保健に関する対策 うつ病・自殺対策	うつ病と自殺防止対策について理解する。
8	精神保健の視点からみた勤労者の課題 2	アルコール飲酒問題、アルコール依存やギャンブルに関する問題・対策について理解する。
9	精神保健に関する対策 アルコール・薬物問題	アルコール飲酒に対する対策、薬物依存対策等について理解する。
10	精神保健に関する対策 発達障害、ひきこもり	発達障害、社会的ひきこもりをめぐる精神保健について理解する。
11	精神保健に関する対策と課題 1	災害、災害被災者の精神保健 犯罪被害者の精神保健について理解する。
12	精神保健に関する対策と課題 2	ニート・若年無業者と精神保健 ホームレス・貧困問題 ほかに現代社会の課題等について理解する。
13	地域精神保健に関する諸活動 1	精神保健に関係する法規などについて理解する。
14	地域精神保健に関する諸活動 2	精神保健に関する調査、資源開発、ネットワークづくりなどについて理解する。
15	諸外国の精神保健活動の現状及び対策	世界の精神保健の実情について理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I A		科目ナンバリング	SPSC23020	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）			

《授業の概要》

精神科リハビリテーションは精神疾患を抱えた人達に対して、その人達が生きて行く上での生活の質（QOL）を少しでも良くするための援助の方法です。この援助の基本的知識として、精神科リハビリテーションの概念や歴史、その構成、及びプロセスについて講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座4『精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2014

《参考図書》

【精神障害リハビリテーション】野中猛、中央法規出版、2003

《授業の到達目標》

精神科リハビリテーションの目的、意義を理解し、精神科病院や社会復帰施設、地域の様々な施設、機関での精神科リハビリテーションの取り組みについて説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向	わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向を概観し、その制度の背景についても理解する。
2	諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷	諸外国（アメリカ、カナダイギリス、イタリア等）の精神保健医療福祉制度の変遷について理解する。
3	精神保健福祉士における活動の歴史	精神保健福祉士のこれまでの活動の歴史を振り返り、精神障害者に対する支援の基本的な考え方を理解する。
4	精神障害者支援の理念	精神障害者支援の基盤となる考え方とその原理について理解する。
5	精神保健医療福祉領域における支援対象	精神障害者の定義とその特性について理解する。
6	精神障害者の人権	精神障害者の権利擁護システムについて理解する。
7	精神科リハビリテーションの概念	精神科リハビリテーションの定義や精神科リハビリテーションの起源やその歴史について理解する。
8	精神科リハビリテーションの理念と意義	WHOのリハビリテーションの理念や精神科リハビリテーションの特徴や意義、基本原則について理解する。
9	精神科リハビリテーションの構成と展開	精神科リハビリテーションの対象と、精神科リハビリテーションにかかわる専門職等との連携について理解する。
10	リハビリテーションのプロセス	リハビリテーションの計画とその評価について理解する。
11	アプローチの方法	病院や地域におけるリハビリテーションの方法について理解する。
12	作業療法	精神科作業療法の今日までの歴史を知り、どのような作業療法の活動があるのか、また回復状態に応じて作業療法の目的や役割が違うということを理解する。
13	精神科作業療法の実際	実際に医療現場で行われている精神科作業療法のプログラムや活動内容について理解する。（ゲスト講師予定：作業療法士）
14	レクリエーション療法	レクリエーション療法の活動内容やその目的、そして、レクリエーション療法を行う時の原則について理解する。
15	集団精神療法	集団精神療法とはどのようなものか、グループワークとどう違うのかを知り、集団精神療法の効果や構造について理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I B		科目ナンバリング	SPSC23021
担当者氏名	光田 豊茂			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）			

《授業の概要》

精神科リハビリテーション I を踏まえ、医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を提示し、それに携わる精神保健福祉士の役割について講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 4 『精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2014

《参考図書》

【精神障害リハビリテーション】野中猛、中央法規出版、2003

《授業の到達目標》

医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を知り、そこにおける精神保健福祉士の果たす役割を説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	行動療法	学習理論を基に不適応行動の変容に応用した治療技法である行動療法について理解する。（主に、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論の技法）
2	認知行動療法の概要	認知行動療法の基本的な考え方について理解する。（認知・感情・行動の三要素、自動思考やスキーマについて理解する。）
3	認知行動療法の実際	自動思考記録表（7つのコラム表）を用いて、実際の状況について認知再構成を試してみる。
4	社会生活技能訓練の理論	社会生活技能訓練の基本的考え方やその特色について理解する。
5	社会生活技能訓練の実際	具体的な例を用いて、実際にロールプレイを行いながら社会生活技能訓練の技法を体験してみる。（ゲスト講師予定：精神保健福祉士）
6	家族教育プログラム	精神障害者を抱える家族に対して、家族教育プログラムがどうして必要であるのか、また求められる家族教育プログラムの方法や進め方について理解する。
7	デイケア、ナイトケア	地域精神保健福祉活動のひとつとして、デイケアやナイトケアがどのように行われているかを理解する。
8	精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護指導	なぜ精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導が必要であるかを理解し、実際の訪問看護・指導がどのように行われているかを知る。
9	チーム医療の概要	精神科医療機関におけるチーム医療の必要性について理解する。
10	医療機関における多職種との協働・連携	医療機関における多職種による協働・連携を通じてチームアプローチの必要性を理解する。
11	精神障害者支援の実践モデル	精神障害者支援の実践モデルの意味とその内容について理解する。
12	相談援助の過程および対象との援助関係	地域における相談援助の展開を念頭に、「ケースの発見」「面接・契約」から「支援・計画」「支援と評価」そして「終結・アフターケア」に至る一連の過程を理解する。
13	相談援助活動のための面接技術	面接を効果的に行う方法や面接技法について理解する。
14	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義や機能・形態およびコンサルテーションの意義や方法について理解する。
15	まとめ	これまで講義してきた精神科リハビリテーションの実際について総括し、医療機関における精神保健福祉士の果たす役割の重要性について理解する。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ A		科目ナンバリング	SPSC23022
担当者氏名	香木 明美			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） <input checked="" type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

- ①精神障害者を対象とした相談援助活動の展開
 - ②家族調整・支援
 - ③地域移行
 - ④地域を基盤にした相談援助
- 上記4点について、講義と事例検討を通して学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会編 中央法規 2014年

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①精神障害者を対象とした支援の基本的考え方と相談援助技術の展開について理解する。
- ②精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。
- ③精神障害者の地域生活の実態と社会情勢および地域相談援助における基本的な考え方について理解する。
- ④上記①②③について説明し自分の意見が言えるようになる。

《授業時間外学習》

各回の講義の前にテキストの該当箇所を目を通し、予習しておくこと。

《成績評価の方法》

授業への参加意欲、態度 20%
 レポート等の提出 20%
 定期試験 60%

《備考》

- ①ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。
- ②講義中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の展開①	個別支援の実際と事例分析
2	相談援助の展開②	集団を活用した支援の実際と事例分析
3	相談援助の展開③	事例による相談援助活動の検討
4	相談援助の展開④	事例による相談援助活動の検討
5	相談援助の展開⑤	事例による相談援助活動の検討
6	家族調整・支援の実際①	精神保健福祉における精神障害者と家族の関係、家族支援の方法
7	家族調整・支援の実際②	事例による家族調整・支援の検討
8	地域移行の対象および支援体制①	地域移行支援の対象と地域移行の体制
9	地域移行の対象および支援体制②	精神保健福祉士の役割と多職種との連携
10	地域移行の対象および支援体制③	地域移行支援・地域定着支援の取組
11	地域移行の対象および支援体制④	地域移行にかかる組織や機関
12	地域移行の対象および支援体制⑤	事例による地域移行支援の検討
13	地域を基盤にした相談援助の主体と対象①	精神障害者をとりまく社会的状況、地域相談援助の主体・対象・体制
14	地域を基盤にした相談援助の主体と対象②	事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討
15	まとめ	本講義で学んだことに関するふりかえり

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB		科目ナンバリング	SPSC23023
担当者氏名	香木 明美			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 何事にも関心を持ち、探求しようとする態度（知的好奇心） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） <input checked="" type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）		

《授業の概要》

- ①地域を基盤にした精神科リハビリテーションの基本的考え方
 - ②精神障害者のケアマネジメント
 - ③地域を基盤にした支援とネットワーク
 - ④地域生活を支援する包括的な支援
- 上記4点について講義と事例検討を通じて学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会編 中央法規 2014年

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①精神障害者を対象とした地域リハビリテーション、ケアマネジメント、コミュニティワークについて理解する。
- ②地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援の意義と展開について理解する。
- ③上記①②について説明し、自分の意見が言えるようになる。

《授業時間外学習》

各回の講義の前にテキストの該当箇所を目を通し、予習しておくこと。

《成績評価の方法》

授業への参加意欲、態度 20%
レポート等の提出 20%
定期試験 60%

《備考》

- ①ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。
- ②講義中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方①	地域ネットワーク、アウトリーチ
2	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方②	地域生活支援事業と訪問援助、家族会およびセルフヘルプグループ
3	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方③	精神保健福祉ボランティアの育成と活用
4	精神障害者のケアマネジメント①	ケアマネジメントの原則
5	精神障害者のケアマネジメント②	ケアマネジメントの意義と方法
6	精神障害者のケアマネジメント③	ケアマネジメントの展開過程、チームケアとチームワーク
7	精神障害者のケアマネジメント④	事例による精神障害者ケアマネジメントの検討
8	地域を基盤にした支援とネットワーク①	地域を基盤にした支援の概念と基本的性格
9	地域を基盤にした支援とネットワーク②	地域アセスメントとBSCおよびSWOT分析
10	地域を基盤にした支援とネットワーク③	地域を基盤にした支援の具体的展開
11	地域を基盤にした支援とネットワーク④	事例による地域を基盤にした支援の検討①
12	地域を基盤にした支援とネットワーク⑤	事例による地域を基盤にした支援の検討②
13	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開①	包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開
14	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開②	事例による地域生活を支援する包括的な取組の検討
15	まとめ	本講義で学んだことに関するふりかえり

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習指導		科目ナンバリング	SPSC23026	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） <input type="radio"/> 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

- 1、必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 2、職業倫理を身につける。
- 3、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 4、専門職種との連携のあり方を理解する。

《授業の到達目標》

精神障害者の特性や、置かれている状況や生活課題を理解し、精神保健福祉士がどのような制度、サービスを用いてその支援を行っているかを理解する。そして、次年度の実習に備えるようにする。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2013年

《参考図書》

《授業時間外学習》

機会があれば精神保健福祉現場の見学研修も実施する。

《成績評価の方法》

授業態度及び事前学習の発表内容（50%）
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	精神保健福祉援助実習の意味および組み立てについて
2	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（統合失調症）
3	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（気分障害）
4	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（依存症）
5	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（不安障害、認知症）
6	当事者理解	精神障害者の抱えている生活課題や困難について理解する（ゲスト講師予定：精神障害者当事者）
7	面接技法	実際に面接をロールプレイで行い、面接技法について深めて行く
8	精神保健福祉士業務の実際を知る	精神科医療機関における精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：医療機関で働く精神保健福祉士）
9	障がい者支援施設の見学	障がい者支援施設を見学して、利用者の状況や精神保健福祉士の役割について理解する
10	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
11	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
12	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
13	精神保健福祉士業務の実際を知る	地域で働く精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：地域で働く精神保健福祉士）
14	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
15	実習先の検討および調整	実習生の住所地、興味、進路に応じ実習先の検討を行う

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	福祉レクリエーションⅡ	科目ナンバリング	SFFD23027
担当者氏名	マーレー 寛子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）		

《授業の概要》

福祉レクリエーション論Ⅰを土台に、「楽しむことができるようになる」ための援助に関するシステムの理論的背景を理解する。一人一人のクライアントのニーズを理解し、そのニーズに沿ったレクリエーションの計画を立てるための方法論を学ぶ。

《テキスト》

よく分かる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル2
日本レクリエーション協会編 2013

《参考図書》

《授業の到達目標》

福祉レクリエーション総合計画について理解する。APIEシステムについて理解する。

《授業時間外学習》

課題レポート：授業内で示される課題についてリサーチし、レポートをまとめる

《成績評価の方法》

課題レポート(期日厳守) 50% 振
 振り返りテスト(コースの最終日に行う。持ち込み不可) 5
 0%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉レクリエーション総合計画	個人のニーズと共通のニーズの理解を深める
2	福祉レクリエーション総合計画	福祉レクリエーション総合計画：分析1) 組織の分析
3	福祉レクリエーション総合計画	福祉レクリエーション総合計画：分析2) 資源の分析 3) 地域の分析
4	福祉レクリエーション総合計画	福祉レクリエーション総合計画：概念化・検討・決定
5	福祉レクリエーションサービス活用支援プラン	APIEプロセス：アセスメント、ICFを活用したアセスメント
6	福祉レクリエーションサービス活用支援プラン	APIEプロセス：プランニング(福祉レクリエーションサービス活用計画)
7	福祉レクリエーションサービス活用支援プラン	APIEプロセス：プランニング(福祉レクリエーションサービス活用支援プラン)
8	福祉レクリエーションサービス活用支援プラン	APIEプロセス：評価(評価の視点)
9	グループレクリエーション	グループを介したレクリエーションの計画立案
10	グループレクリエーション	グループを介したレクリエーションの計画立案：グループダイナミックス
11	一人ひとりを支える行事・イベントの計画	福祉レクリエーション総合計画の中での位置づけ・目標設定
12	一人ひとりを支える行事・イベントの計画	イベント企画：準備・実施のポイント
13	福祉レクリエーション支援の評価	記録と評価の方法
14	レジャー教育	レジャー教育の概要
15	コースのまとめ	学期の振り返り・筆記試験

科目名	福祉レクリエーション演習Ⅱ		科目ナンバリング	SFFD23028
担当者氏名	原 志津			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

福祉レクリエーション支援は、①支援者と対象者が1対1で関わる個人への介入 ②小集団のグループダイナミクスを活かした介入 ③レクリエーション活動への参加を促す環境づくりの方法がある。これらの技術をそれぞれの理論に基づいた学習をし、3年夏の本実習で実践したり、将来の現場で実践できるように学んでいく。

《授業の到達目標》

- ①福祉レクリエーション支援の3つの方法について理解する。
- ②対象者と現場のニーズにあわせた福祉レクリエーション活動を考え実践できる。

《成績評価の方法》

授業参加点（出席状況・受講態度20）＋毎回の振り返り提出点30＋実技指導評価点20（企画書と指導）＋最終レポート提出点30

《テキスト》

必要な資料は適宜配布する。

《参考図書》

「レクリエーション支援の基礎－楽しさ・心地よさを活かす理論と技術－」（日本レクリエーション協会・2007）「リハビリテーションとレクリエーション援助」（嵯峨野書院・1998）「楽しいアイスブレイキングゲーム集」（日本レクリエーション協会・2002）

《授業時間外学習》

授業後に配布プリントを確認・整理しながら、マイノートをまとめ、振り返りカードを貼り付けるようにしてください。

《備考》

実技指導者にふさわしい服装・靴で参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	福祉レクリエーションの介入技術とは
2	1. 個人への福祉レクリエーション支援①	対象者と支援者の交流を活かしたレクリエーション活動の展開①個人への介入の構造
3	1. 個人への福祉レクリエーション支援②	対象者と支援者の交流を活かしたレクリエーション活動の展開②個人への介入方法を活かしたレクリエーション活動の展開
4	個人で楽しむ福祉レクリエーション	施設の種類の展開事例について
5	個人のモチベーションを高めるには	動機付けに用いやすい1対1の福祉レクリエーション活動例
6	2. 小集団の交流を活かした介入技術①	①対象者同士の相互作用を引き出す介入技術
7	2. 小集団の交流を活かした介入技術②	②みんなの楽しさがひとりの楽しさへ
8	2. 小集団の交流を活かした介入技術③	③小集団の長所を生かす支援者のかかわり方
9	2. 小集団を活かした福祉レク活動の展開①②	小集団を生かしたプログラム作りの方法
10	2. 小集団を活かした福祉レク活動の展開②	小集団の力を引き出し、活かしやすい活動について
11	3. 環境づくり	没頭できる趣味活動の発見と継続を支える環境づくり①自立的な生きがい活動の追及や余暇活動の意義②支援の基本的な考え方と方法③社会資源の実際とつなげ方
12	対象者と現場にあわせたレク活動のアレンジ①	対象者と現場にあわせた福祉レクリエーション活動のアレンジ①
13	対象者と現場にあわせたレク活動のアレンジ②	対象者と現場にあわせた福祉レクリエーション活動のアレンジ②
14	対象者と現場にあわせたレク活動のアレンジ③	対象者と現場にあわせた福祉レクリエーション活動のアレンジ③
15	対象者と現場にあわせたレク活動のアレンジ④	対象者と現場にあわせた福祉レクリエーション活動のアレンジ④

科目名	病気の理解		科目ナンバリング	SFFD23029
担当者氏名	和田 光徳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

ソーシャルワークは「全人的理解：Bio・psycho・social・cultural」としながら、「Bio」については、理解が置き去りにされてきたという指摘がある。人間である以上生物学的理解は不可欠であり、現在の多職種協働の支援システムとしても必須の共通知識といえる。本講義は単に医学的知識の習得だけを目的とするのではなく、ソーシャルワークの視点から「病気」を全人的に理解するところに立つことを目的とする。

《授業の到達目標》

1. 全人的理解の視点を習得する。
2. 健康・不健康と社会的要因の関連を理解する。
3. 人体の構造・機能の変調を症状として説明できる。
4. 症状をソーシャルワーク・アセスメントとして活用できる。

《成績評価の方法》

下記により総合的に評価する

- (1) 授業への出席と討議や質問等による参加状況
- (2) 授業内で担当課題の発表内容（30分程度、パワーポイント使用）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	疾患理解とソーシャルワーク（疾患と病気）	疾患と病気の概念の違いから、疾患から派生する個人及び社会での意味、さらに実存的課題にまで影響が及ぶ「病気」を、ソーシャルワークの視点から理解する。
2	関連領域の理論（社会的要因と健康）	応用医学のひとつである社会医学や、疾病予防・健康の維持増進に関わる公衆衛生の概要から、社会的要因と健康との関係について理解を深める。
3	関連領域の理論（こころの健康）	自殺者数の多いわが国では、こころの健康は大きな課題である。精神医学・心身医学の知見から、ソーシャルワーカーが「こころ」を理解するために必要な枠組みを学ぶ。
4	関連領域の理論（リハビリテーションと人権）	リハビリテーションには語源的に「復権」という意味もある。ソーシャルワーカーにとって有用な概念であるリハビリテーションと障害の概念について理解する。
5	各種検査と理解	現代の医学的治療は最新の検査機器とその検査内容の結果によって、診断・治療が進められる。全人的理解のためにソーシャルワーカーにとって不可欠な知識を習得する。
6	身体アセスメント①	学内講師による講義
7	身体アセスメント②	メディカル・シミュレーションセンターを活用した身体アセスメントの実際
8	循環器疾患・心臓血管外科領域	高い死因順位である循環器疾患の代表的なものについて、学生自らが学習・発表する。疾患と症状、障害の状態から、治療過程に応じた生活課題、生態学的理解につなげる。
9	消化器内科・外科領域	代表的な消化器系疾患について、学生自らが学習・発表する。人工肛門や肝臓機能障害等、症状・障害の状態と、ケアの内容や生活のしづらさ、制度・サービスを理解する。
10	代謝内分泌内科・血液内科領域	糖尿病と合併症、血液内科疾患の代表的なものを、学生自らが学習・発表する。長期治療、ケアの内容、経済的負担などの生活問題、薬価による転院困難な状況を理解する。
11	泌尿器科・腎臓内科領域	世界に類を見ない患者数である人工透析（慢性腎不全）について、学生自らが学習・発表する。症状、障害と生活課題、移植医療、脳死など関連する社会問題も考察する。
12	脳神経外科・神経内科領域	脳血管疾患、神経難病を代表する疾患について、学生自らが学習し発表する。意識障害の基準、症状、合併症に対する治療、各種障害と生活課題について理解する。
13	呼吸器内科・外科領域	肺がん、肺気腫、嚥下性肺炎など、現代の特徴的な疾患について学生自らが学習し発表する。呼吸器機能の理解と症状発現の機序、各種治療法と生活課題を理解する。
14	乳腺外科・婦人科系領域	乳がん、婦人科系疾患の代表的なものを、学生自らが学習し発表する。治療副作用、ボディイメージ、リンパ浮腫など、治療、後遺症と生活のしづらさの理解を深める。
15	整形外科・形成外科領域・まとめ	社会的状況や患者のQOLに関連する整形外科、形成外科領域のアプローチについて知る。

《テキスト》

授業内容に即したプリントを配布します。

《参考図書》

新・社会福祉士養成講座「人体の構造と機能及び疾病」 中央法規 2015

《授業時間外学習》

臓器の構造と働きを理解し、その変調である「症状」がなぜ表れるのかの生理学的理解を求めます。さらにその症状や障害が、その人の生活にどのように影響を及ぼすのかといった生態学的理解に広げます。したがって、解剖学・生理学など自己学習に努めるとともに、ソーシャルワーク理論についても並行して学習を深めてください。

《備考》

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	ケアマネジメント I	科目ナンバリング	SFFD23030
担当者氏名	竹内 一夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 		

《授業の概要》

ケアマネジメントは高齢者支援だけでなく、障害者支援についても有効な支援技術である。この講義ではケアマネジメントについての基礎理論と、支援計画作成に至るまでの各プロセスと、支援者の持つべき基礎知識と専門職としての視点について検討を加える。

《テキスト》

5訂介護支援専門員実務研修テキスト 介護支援専門員実務研修テキスト作成委員会編 長寿社会開発センター 2012

《参考図書》

ケアマネジメントの進め方 渡部律子編著 兵庫県介護支援専門員協会編 2015

《授業の到達目標》

ケアマネジメントの支援プロセスがわかり、インテーク、アセスメントに基づく、解決課題の抽出と、支援方法の組み立てについて理解できるようになる。

《授業時間外学習》

高齢者サービス、障害者サービス、また、難病患者等への支援などについて、常に敏感に情報を集め、それについての検討を行う姿勢を持ち続けてほしい。専門雑誌等にも目を注ぐこと。

《成績評価の方法》

この授業の評価は、以下に示す評価項目と、比率により、評価がなされる。その項目と比率は次の通り。出席態度30%、課題評価20%、定期試験50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ケアマネジメントの目指すところを理解する	ケアマネジメント開発に至る経緯と、これまでの支援技術との差異について学ぶ。
2	介護保険制度とケアマネジメント	我が国で介護保険制度にケアマネジメントの手法が組み入れられた目的、また実施上で生じた問題点について検討する
3	ケアマネジャーの機能と役割	対人援助専門職としての支援技術に加え、ケアマネジャーは利用者との間で、どのような機能を求められ、どのような立ち位置が必要とされるのかを検討する
4	ケアマネジメントの過程 インテーク	第一段階の契約に至るインテークでの留意点、また、利用者理解のための情報収集の視点について、事例を活用しながら検討する
5	ケアマネジメントの過程 アセスメント	利用者のおかれた環境、利用者自身についてのポジティブアセスメントとネガティブアセスメントの重要性について検討する
6	ケアマネジメントの過程 追加情報の収集と分析	アセスメントの深化のためにどのような追加情報を求めるのか、情報と情報の関連性を見出すためにはどのように対話を展開するべきかなど、情報収集のスキルを検討する
7	ケアマネジメントの過程 解決課題の抽出	最も効果的で、最も効率的な支援のためには、解決課題が適切に抽出されることが不可避の要件である。アセスメントの結果を生かす課題抽出を検討する。
8	ケアマネジメントの過程 支援計画の検討	支援方法は何通りもあることを事例を使って追体験してもらい、何を要因に支援計画を決定すべきかを検討する
9	ケアマネジメントの過程 支援方法の決定	支援計画を基にして、いかに効率的・効果的な支援方法（具体的なサービスの導入）を組み立てつかについて検討する
10	ケアマネジメントの過程 支援の実施	対人援助の支援の実施での、支援者の留意点。特に利用者の心理的、身体的負担に関する、留意の必要性について検討する
11	ケアマネジメントの過程 効果のモニタリング	支援はいかなるものでも、必ず効果と、介入による反作用とを生じる。モニタリングでは、どのような変化も的確にとらえる視点を検討する
12	ケアマネジメントの過程 支援方法の修正	より効果的な変化を生み出すための修正が常に求められている。モニタリングの結果を参考に何を残し何を加えるべきかの視点を持つことの重要性について検討する
13	事例検討による支援過程の確認 介護予防	介護予防の事例ではどのような視点で、自立支援に向けてのプログラムを組むべきか、どのように利用者を動機付けるかを検討する
14	事例検討による支援過程の確認 要介護	過不足のない支援の在り方とはどのようなものか、事例を使いながら、サービスの量による利用者の生活状況をシミュレートし、適切な支援とはを考える
15	ケアマネジメントでの留意点のまとめ	ケアマネジメントは単にサービスと利用者をつなげる道具ではなく、自立支援に向けての働きかけであることを確認し、ケアマネジャーの姿勢を考える

科目名	ケアマネジメントⅡ	科目ナンバリング	SFFD23031
担当者氏名	竹内 一夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）		

《授業の概要》

この講義では、これまでの学習を基に、具体的なケアプランの作成について、事例を使い、ケアマネジメントのプロセスをトレースしながら、効率的効果的な、また過不足のないケアプランが作成できるように、学習を進めていく。

《テキスト》

5訂 介護支援専門員実務研修テキスト 介護支援専門員実務研修テキスト編集委員会編 長寿社会開発センター 2013

《参考図書》

ケアマネジメントの進め方 渡部律子編著 兵庫県介護支援専門員協会編 中央法規 2015

《授業の到達目標》

受講生各自が、与えられた事例を基に、解決課題を抽出し、支援計画（ケアプラン）が組めるようになる。授業は講義と事例を使つての演習、ロールプレイで構成される。

《授業時間外学習》

支援に有効な社会資源の発見は、ケアマネジャーに常に求められる課題である。メディアの情報、地域社会の観察等常に自身の周りに目を注ぎ、支援に有効なものを見つけ出す努力をしてほしい。

《成績評価の方法》

授業態度、課題の成果、定期試験の各項目で評価する。各評価項目の成績への関与率は、授業参加度30%、課題20%、定期試験50%である。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ケアプラン作成の心得	全人格的な視点での、またBIO-PSYCHO-SOCIALな視点からのニーズ把握が必須であり、利用者の立場に立つてのケアプランがすべてを決めることを確認する。
2	面接技術：留意すべき態度	バイステティックの7原則を中心に、コミュニケーションでの留意点について確認し、時間を有効に使う面接技術として、予備的共感についても検討する
3	面接技術：聞いてまとめる	ロールプレイを活用しながら、どのように利用者の話を聞き、深め、どのように聞いたことをまとめて伝えると、利用者に伝わるのかを検討する
4	受理面接：相談、サービスの説明、契約	ケアマネジャーの仕事をどのように説明し、また利用するであろうサービスをどのように説明するのか、ロールプレイを使って学びを深めていく
5	アセスメントとニーズ把握	利用者の困りごとからニーズを把握し、それを返していくプロセスをいかに有効に進めるか、体験を通してまとめていく
6	解決課題の抽出	解決課題の抽出には、利用者にとって最も負担が少なく、有効性が高く、汎用性が高いものを抽出するというルールがある。これをどう実現するか、模擬面接の中で確かめる
7	ケアプランの作成：考える最良のプラン 1	出来上がったプランが、利用者にとってどのようなプランであるかを検討する。出てくる反省事項まとめる
8	ケアプランの作成：考える最良のプラン 2	プラン1での反省事項を基に、より良いプランを考える。利用者にとってどのような意味を持つものであるか、意向を汲んでいるかを検討する
9	ケアプランの作成：考える最良のプラン 3	プランの中で、不要なものを省き、かけていたものを補充し、意向を汲んで組み上げたプランは？
10	要介護利用者のケアプラン	要介護利用の事例を用い、グループで、これまでの学習から、最適なケアプランの作成を行い、相互評価を行う（ピアレビューに変えて）
11	要支援利用者のケアプラン	要支援利用の事例を用い、グループで、これまでの学習から、最適なケアプランの作成を行い、相互評価を行う（ピアレビューに変えて）
12	介護予防ケアプラン	介護予防利用の事例を用い、グループで、これまでの学習から、最適なケアプランの作成を行い、相互評価を行う（ピアレビューに変えて）
13	ケア会議でのケースプレゼンテーション	事例の概要を他者にわかりやすく、5分間で適切に説明する（ケアマネジャーとして不可欠なスキル）ことにグループで取り組み、相互評価を行う
14	サービス担当者会議の在り方を学ぶ	チームアプローチ、地域包括ケアが求められる現場の中で、どのようにサービス担当者会議が運営されるべきか検討する
15	チームアプローチとケアマネジャー	ケアマネジャーはケアチームのチームリーダーである。リーダーの役割、リーダーの責任について検討する

科目名	在宅ケア論	科目ナンバリング	SFFD23032
担当者氏名	小林 茂		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力）		

《授業の概要》

現代社会の保健・医療・福祉は、その施策展開の「場」を地域や在宅に焦点をあてている。ケアの場を在宅にすることとは、利用者主体にサービス供給側が利用者のニーズに細やかに応えていく支援展開を問われることを意味するが、さまざまな課題も浮かび上がってきた。本講義では、2000年以降の施策変化の中で展開される「在宅ケア」の意義と課題、実際について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ①現代社会において「在宅ケア」が重要視される意味を理解できる。
- ②在宅ケアの構成要素、施策的構造、過程が理解できる
- ③在宅ケア過程にソーシャルワークの視点や技能が介入することの意義を主体的に考えることができる

《成績評価の方法》

下記により総合的に評価する

- (1) 授業への出席と討議や質問等による参加・協力状況
- (2) 課題レポート（テーマについては講義期間後半に提示します）

《テキスト》

授業内容に即したプリントを配布します。

《参考図書》

- ①「在宅医療ソーシャルワーク」 京極高宣・村上須賀子・永野なおみ著 勁草書房 2008
- ②「医療ソーシャルワーカーの力」 村上須賀子・竹内一夫編著 医学書院出版サービス 2012

《授業時間外学習》

あらためて自己の家庭を振り返り、日常性（日々繰り返される営み）を意識しながら、非日常と日常性が交錯する「在宅ケア」の利用者とその家族に思いをはせること。新聞や書籍によって、在宅ケアの体験談等を読み、学習を深めてください。

《備考》

授業内で、考えたことや意見の表明を求めます。ある意味、「正解のない問い」もあるかと思いますが、積極的な発言を心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	在宅ケア論を進めるにあたって	「在宅ケア」と関連用語（在宅福祉・在宅医療・家族福祉・地域福祉）を整理をし、現代社会で要請される「在宅ケア」と、社会福祉の視点をもつことの意義を理解する。
2	「在宅」と「ケア」について	「場」としての在宅での、基本的な生活行動、生活ニーズ、及び「ケア」の概念を整理し、在宅ケアの枠組みを理解する。
3	「家族・家庭」の意義と機能	「家庭機能の支援」が社会保障の目的のひとつとされている現代において、家族形態の変化、家族の機能の変化を学び、在宅ケア上の課題について理解する。
4	「住環境福祉」と「在宅ケア」①	ライフモデルにおける社会的環境及び物理的環境の概念から、「医療の提供場所」だけではない、そこに集う人々の個性や価値の場（住まい）における在宅ケアを理解する。
5	「住環境福祉」と「在宅ケア」②	メディカル・シミュレーションセンターでの在宅ケア演習
6	「在宅ケア」を支える人々	「在宅ケア」に関わる機関及び関係職種、クリティカルパスやケアマネジメントなど連携の手法について理解する。
7	「在宅ケア」を支える制度・サービス	介護保険法や障害者総合支援法、高齢者の居住の安定確保に関する法律など、「在宅ケア」に関係する制度・サービスを学び、説明することができる。
8	高齢要介護者（認知症含む）と在宅ケア	高齢者虐待、孤独死、ゴミ屋敷などの近隣トラブル、認知症介護裁判にみる家族負担など、高齢要介護者の在宅ケアの諸相について理解する。
9	障害者と在宅ケア	先天性障害（児・者）、発達障害、中途障害者の生活問題、また自立生活運動や社会モデルの考え方など、障害者の権利としての「在宅ケア」について理解する。
10	難病患者と在宅ケア	これまでの難病施策の流れを概観し、ALS、希少難病等在宅で生活する難病患者の生活状況と課題を、医療福祉の観点から理解を深める。
11	がん終末期患者の在宅ケア	2人に1人が罹患し、死因の第1位であるがん患者の看取りについて、在宅医療システムを概観し、医療福祉の観点から理解を深める。
12	非がん終末期患者の在宅ケア	慢性呼吸不全、慢性心不全等、高齢者の終末期医療のあり方等、在宅ケア上の課題について、医療福祉の観点から理解を深める。
13	精神障害者と在宅ケア	精神障害者がおかれている社会的状況と、地域移行支援・地域定着支援、ACT等在宅ケアの実践と課題について理解する。
14	地域包括ケアシステムと在宅ケア	施策として進められている「地域包括ケアシステム」の現況を概観し、医療一介護連携上の「在宅ケア拠点」等システム上の位置づけと運用の実際について理解する。
15	地域福祉と在宅ケア	コミュニティの中での「在宅ケア」を思考し、コミュニティ・オブティマムを具体化させる臨床実践としての地域福祉に位置づく「在宅ケア」のあり方を理解する。

《教職に関する科目》

科目名	福祉科教育法	科目ナンバリング	STSW43001
担当者氏名	牧田 満知子、吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本科目では、高等学校の教科「福祉」を教える教員に必要な「福祉科教育法」の習得をめざす。高校「福祉」を教えるためには、指定9科目の学習内容を理解するとともに、適切な指導方法を習得し、学習が円滑にできるよう、実践力を身につけることを目標とする。I期では、「福祉」の位置づけ・科目構成等、各科目の内容・指導法について学ぶ。また、授業展開の基本的理解に基づいた学習指導案が作成できるようにする。

《テキスト》

『高等学校学習指導要領 福祉編』文部科学省、海文堂
『新学習指導要領の展開 福祉科編』保住芳美編、明治図書出版

《参考図書》

高校「福祉」教科書（9科目）

《授業の到達目標》

1. 福祉教育の理念と教科「福祉」創設について説明できる。
2. 「福祉」に携わる教員に求められる知識と技術、倫理観や責任感を身につける。
3. 「福祉」の教育内容・指導法について理解し実践できる。
4. 「福祉」の介護関連の知識を統合し実習指導ができる。
5. 年間指導計画および学習指導案を作成し授業を実施できる。

《授業時間外学習》

毎日、新聞を読み、授業時に適宜、高校教育や福祉教育に関係する記事について、3分程度で解説できること。

《成績評価の方法》

1. 授業内討論等への参加および発表とその成果（20%）
2. レポートおよび授業案等の提出物（40%）
3. 模擬授業の実施とその成果（40%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講義の講義内容、講義形態、受講のこころ構え等について理解し、年間の学習の見通しを立て、学習計画を立てることができる。
2	教科「福祉」の意義と目的	(1)福祉教育の変遷過程と現代社会における意義、(2)教科「福祉」創設の背景、(3)教科「福祉」の概要等について理解する。
3	高等学校学習指導要領（福祉編）（1）	(1)学習指導要領の性格及び内容、(2)高等学校の教育課程、(3)高等学校の教育課程の編成等について理解する。
4	高等学校学習指導要領（福祉編）（2）	(1)高校福祉科の目的と役割、(2)教科「福祉」の科目構成及び教育課程の編成等について理解する。
5	学習指導計画と学習指導案	(1)学習指導計画の意義、(2)学習指導計画の作成方法、(3)学習指導案の意義、(4)学習指導案の作成方法等について理解する。
6	教材研究	(1)重点指導項目の理解、(2)素材の教材化、(3)他の学習内容との関連性等について理解する。
7	各科目の内容理解「社会福祉基礎」I	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
8	各科目の内容理解「社会福祉基礎」II	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
9	指導案の作成「社会福祉基礎」III	実際に授業案を作成できる。
10	模擬授業「社会福祉基礎」IV	指導案に沿って授業を実施できる。
11	各科目の内容理解「介護福祉基礎」I	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
12	各科目の内容理解「介護福祉基礎」II	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
13	指導案の作成と模擬授業「介護福祉基礎」III	実際に授業案を作成して、授業を実施できる
14	各科目の内容理解「コミュニケーション技術」I	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
15	各科目の内容理解「コミュニケーション技術」II	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。

《教職に関する科目》

科目名	福祉科教育法	科目ナンバリング	STSW43001
担当者氏名	牧田 満知子、吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本科目では、高等学校の教科「福祉」を教える教員に必要な「福祉科教育法」の習得をめざす。高校「福祉」を教えるためには、指定9科目の学習内容を理解するとともに、適切な指導方法を習得し、学習が円滑にできるよう、実践力を身につけることを目標とする。I期では、「福祉」の位置づけ・科目構成等、各科目の内容・指導法について学ぶ。また、授業展開の基本的理解に基づいた学習指導案が作成できるようにする。

《テキスト》

『高等学校学習指導要領 福祉編』文部科学省、海文堂
『新学習指導要領の展開 福祉科編』保住芳美編、明治図書出版

《参考図書》

高校「福祉」教科書(9科目)

《授業の到達目標》

1. 福祉教育の理念と教科「福祉」創設について説明できる。
2. 「福祉」に携わる教員に求められる知識と技術、倫理観や責任感を身につける。
3. 「福祉」の教育内容・指導法について理解し実践できる。
4. 「福祉」の介護関連の知識を統合し実習指導ができる。
5. 年間指導計画および学習指導案を作成し授業を実施できる。

《授業時間外学習》

毎日、新聞を読み、授業時に適宜、高校教育や福祉教育に関係する記事について、3分程度で解説できること。

《成績評価の方法》

1. 授業内討論等への参加および発表とその成果(20%)
2. レポートおよび授業案等の提出物(40%)
3. 模擬授業の実施とその成果(40%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	各科目の内容理解 「生活支援技術」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
2	各科目の内容理解 「生活支援技術」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
3	指導案作成と模擬授業 「生活支援技術」Ⅲ	実際に授業案を作成して、授業を実施できる
4	各科目の内容理解 「介護過程」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
5	各科目の内容理解 「介護過程」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
6	各科目の内容理解 「介護総合演習」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
7	各科目の内容理解 「介護総合演習」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
8	各科目の内容理解 「介護実習」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画、(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法等について理解できる。(DVD視聴、ゲストスピーカー)
9	各科目の内容理解 「介護実習」Ⅱ	(6)実習の運営計画、(7)実習実施の留意点等について理解できる。 (学校現場見学と授業参観等)
10	各科目の内容理解「こころとからだの理解」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
11	各科目の内容理解「こころとからだの理解」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
12	各科目の内容理解 「福祉情報活用」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
13	各科目の内容理解 「福祉情報活用」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
14	学習のまとめ(1) 授業案作成	教科「福祉」の総合的理解を土台として、特定の単元を取り上げ、授業展開を組み立て、教材研究ができる。
15	学習のまとめ(2) 模擬授業実施と講評	教科「福祉」の総合的理解を土台として作成した授業案に基づき授業を実施できる。

《教職に関する科目》

科目名	事前・事後指導	科目ナンバリング	STSW43002
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育実習とは、高等学校の実際の教育現場において、観察、参加、実習（研究授業）等を行うことである。本科目は、(1)自発的な創造性と旺盛な研究意欲をもって現場実習に臨むことができるよう十全な準備を行うことを目的とする事前指導、および(2)実習校での経験をふり返るとともに明確化し、意味づけるために行う事後指導により構成される。授業形態として、討議と発表、ロールプレイや模擬授業などを中心とする。

《授業の到達目標》

(1)教育実習で行うことからの体系についての情報と知識を理解し、説明できる。(2)教育実習を行う上で心がけなければならないマナーや心得等について説明できる。(3)教科指導について、模擬授業を実施し、自己評価できる。(4)実習の経験を踏まえて、研究授業を行い、自己評価できる。(5)実習の経験を踏まえて、学級経営について、問題点を発見し、解決できる。

《成績評価の方法》

事前指導においては、(1)演習への参加意欲10%、(2)知識・技術の習得10%、(3)模擬授業30%の配点により評価する。事後指導においては、(1)演習への参加意欲10%、(2)研究授業20%、(3)問題解決力20%の配点により評価する。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

本科目では、授業ごとの予習復習というよりは、日頃から教育問題に関心を持ち、「教育とは何か」「子どもを導くとはどのようなことか」などについて自分なりの考えを述べられるようにまとめておくことが大切である。教授・指導上の観点だけでなく、教育法規的な側面、学校の社会的な役割など、多面的・複眼的に捉える力を養う努力が求められる。

《備考》

演習という授業形態のため、全回出席することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習の全体	(1)教師(教員)養成と教育実習 (2)教育実習の目標 (3)教育実習の展開 (4)教育実習の心得について理解する
2	教育実習の内容 (1)	(1)学校経営 (2)学校の組織 (3)生徒の理解事項 (4)教育課程 (5)学習指導について理解する
3	教育実習の内容 (2)	(1)道徳と特別活動 (2)生徒指導と学級経営 (3)学校の施設と環境 (4)教師としての勤務について理解する
4	教育実習の実際	(1)教材研究の実際 (2)学習指導の実際 (3)学習指導案の事例 (4)授業研究の実際 (5)道徳・特別活動・生活指導の実際 (6)教育実習の評価について理解する
5	教育の方法及び技術	(1)授業の仕組みとはたらき (2)授業を創る (3)その他について理解する
6	教材研究と指導案づくり	(1)授業準備としての教材研究と指導案作成の技術を習得する (講義および演習)
7	教材研究と指導案づくり	(2)授業準備としての教材研究と指導案作成の技術を習得する (講義および演習)
8	教材研究と指導案づくり	(3)授業準備としての教材研究と指導案作成の技術を習得する (講義および演習)
9	模擬授業 (および討議)	実際の授業を想定して、教室にて模擬授業を実施し、講評を行う
10	「教育実習」の諸注意と準備	教育実習のマナーと心得、授業記録の書き方、教育実習の評価について理解する
11	「教育実習」全体のふり返り	実習内容の明確化・体系化を目的として、討議および発表 (実習内容の検証・共有化)を行う
12	事後の教材研究と事後の授業研究	教育実習における授業実践上の経験や学習内容を振り返る
13	研究授業 (および討議)	教育実習における授業実践の最終的な総括として研究授業を行う
14	学級経営の問題点と課題 (発表と討議)	教育実習における学級経営の経験や学習内容を振り返る
15	「教育実習」全体の総括	教育実習における事前指導、現場における実習、事後指導の総括を行う

平成 25（2013）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	P S W	高等学 校教諭 福祉	理 士 認 定 心	学年配当（数字は週当たり授業時間）				平成28年度の 担 当 者	ページ				
			必修	選択					1年		2年				3年		4年	
									I	II	I	II			I	II	I	II
専 門 基 礎 科 目	人間の生物的功能と反応	講義	2		○	◆			2									
	人間の心理・社会的機能と支援	講義	2		○	◆		□	2									
	社会理論と社会システム	講義	2		○	◆			2									
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○	◇				2								
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○						2							
	美と感性	講義		2					2									
	法学	講義		2					2									
	生涯学習社会とライフデザイン	講義		2									2	吉原 恵子	217			
	行政法	講義		2					2									
	家族社会学	講義		2							2							
	家族福祉論	講義		2							2							
	発達心理学	講義		2			▲	■	2									
	社会心理学	講義		2				■	2									
演習Ⅰ	演習	4						4										
演習Ⅱ	演習	6							6									
ソ シ ヤ ル ワ ー ク 基 礎 科 目	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2		○	◇	△		2									
	現代社会と福祉Ⅱ	講義	2		○	◇	△		2									
	社会保障論Ⅰ	講義	2		○	◇				2								
	社会保障論Ⅱ	講義	2		○	◇					2							
	社会調査の基礎	講義		2	○				2									
	社会調査の応用	講義		2							2							
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義		2	○		△			2								
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2	○		△				2							
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義		2	○	◇	△			2								
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義		2	○	◇					2							
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2	○	◇						2						
	保健医療サービス	講義		2	○	◇						2						
	医療ソーシャルワーク	講義		2									2					
	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○	◇						2						
	権利擁護と成年後見制度	講義		2	○	◇					2							
	福祉行財政と福祉計画	講義		2	○	◇							2					
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	講義	4		○	◇	△				4							
ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	講義	4		○	◇	△					4							
ソーシャルワーク基礎演習	演習	2		○	◇	△				2								
社会福祉特別演習	演習		4									4	(本多 彩)	218～219				
卒業演習	演習	6										6	※1	220～221				
ソ シ ヤ ル ワ ー ク 基 礎 科 目	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	講義		2	○		△			2								
	就労支援の制度とサービス	講義		2	○							2						
	介護概論	講義		2			△			2								
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習	1	○		△			2									
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習	1	○		△				2								
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習	1	○		△						2						
	ソーシャルワーク実習	実習	4	○		△						12						
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	4	○		△					4							
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	4	○		△						4						

※1 吉原、牧田、田端、(北島)、和田、(稲富)、原、光田、小倉、(本多)

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成25年度（2013年度）入学対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭 福祉	認定心理士	学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成28年度の担当者	ページ
			必修	選択					1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
専 門 基 盤 科 目	地域ソーシャルワーク実践	演習		2										2	田端 和彦	222		
	成人教育と地域発展	講義		2									2					
	更生保護制度	講義		1	○									1	光田 豊茂	223		
	福祉サービスの組織と経営	講義		2	○									2				
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	講義		2		◇					2							
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	講義		2		◇					2							
	精神障害者の生活支援システム	講義		2		◇					2							
	精神疾患とその治療Ⅰ	講義		2		◇		■			2							
	精神疾患とその治療Ⅱ	講義		2		◇		■			2							
	精神保健の課題と支援Ⅰ	講義		2		◇							2					
	精神保健の課題と支援Ⅱ	講義		2		◇							2					
	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ	講義		2		◇					2							
	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ	講義		4		◇							4					
	精神科ソーシャルワーク論Ⅲ	講義		4		◇							4					
	精神科ソーシャルワーク演習	演習		4		◇								4	光田 豊茂	224～225		
	精神保健福祉援助実習指導	実習		3		◇								6	光田 豊茂・和田 光徳	226～227		
	精神保健福祉援助実習	実習		4		◇								12	光田 豊茂・和田 光徳	228		
	インターンシップ	実習		4										12	(稲富 恭)	229～230		
	専 門 展 示 科 目	レクリエーションワーク	講義		2						2							
人間関係論		講義		2				■		2								
親子関係の心理学		講義		2				■		2								
健康心理学		講義		2				■		2								
集団心理学		講義		2				■			2							
コミュニケーション心理学		講義		2				■		2								
教育心理学		講義		2			△	■		2								
認知心理学		講義		2				■		2								
心理統計学		講義		2				□		2								
臨床心理学		講義		2				■		2								
心理学研究法		講義		2				□		2								
心理学基礎実験		実験		2				□			4							
心理学研究実習		実験		2				□			4							
心理療法		講義		2				■			2							
心理検査法実習		実習		2				■			4							
行動分析論		講義		2				■			2							
加齢及び障害に関する理解		講義		2			△				2							
人体の構造及び日常生活行動に関する理解		講義		2			△				2							
福祉工学		講義		2									2	(稲富 恭)	231			
まちづくり論	講義		2								2							
国際福祉論	講義		2						2									
スクールソーシャルワーク	講義		2									2	不開講					
仏教と社会福祉	講義		2									2	(本多 彩)	232				
社会福祉特別講義Ⅰ	講義		2						②	②	②	②		不開講				
社会福祉特別講義Ⅱ	講義		2						②	②	②	②		不開講				

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士(PSW)国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		社 会 福 祉 士	P S W	高 等 学 校 教 諭 福 祉	認 定 心 理 士	学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)								担 当 者 平 成 2 8 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択					1 年		2 年		3 年		4 年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義		2			△		2										
	教育原理	講義		2			△		2										
	教育制度論	講義		2			△			2									
	教育課程論	講義		2			△				2								
	福祉科教育法	講義		4			△					4							
	特別活動論	講義		2			△					2							
	教育方法・技術論	講義		2			△					2							
	生徒指導論（進路指導を含む。）	講義		2			△					2							
	教育相談（含カウンセリング）	講義		2			△	■		2									
	事前・事後指導	演習		1			△						1						
	高等学校教育実習	実習		2			△							4				吉原 恵子	233
教職実践演習（高）	演習		2			△								2			吉原 恵子	234	

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士(PSW)国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、
日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、
指定の科目を履修すること。

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		社 会 福 祉 士	P S W	高 等 学 校 教 諭 福 祉	認 定 心 理 士	学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)								担 当 者 平 成 2 8 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択					1 年		2 年		3 年		4 年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
課 程 外 科 目	卒業演習プレゼミナル	講義		2									2						

※1 吉原、牧田、田端、北島、稲富、原、光田、小倉、本多

※課程外科目を修得しても卒業要件には含まれない。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	生涯学習社会とライフデザイン				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） ◎ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力） 				

《授業の概要》

人の一生は、入学、就職、結婚、出産といったライフイベントで構成されており、教育、労働、子育てなどの分野で様々な問題に遭遇する。複雑化する現代社会と多様化するライフスタイルにより、生活や人生の選択肢が増える一方、予期せぬリスクへの対応が求められる。本講義では、生活資源・社会資源を生かし、リスクマネジメントを行うライフデザインとそのために必要な生涯学習の役割について考える。

《授業の到達目標》

- (1) ライフサイクルやライフイベントの変遷について説明できる。
- (2) 現代社会における人々の生活を構成する要素と直面するリスクについて理解し、課題を説明できる。
- (3) その人らしい人生について考え、そのために必要な生涯学習のあり方について問題提起できる。

《成績評価の方法》

- ミニ・テスト(配点：文章作成力および知識の定着度25%)
- プレゼンテーション(配点：コミュニケーション力および表現力25%)
- 学習のまとめによる学習達成度評価(配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：50%)

《テキスト》

『リスク社会のライフデザイン-変わりゆく家族をみすえて-』宮本みち子・岩上真珠(2014, 放送大学教育振興会)

《参考図書》

適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3) グループワークやプレゼンテーションでは主体的・積極的に参加し学習する態度が求められます。

《備考》

受講者は、変化の激しい現代社会の「生活」を理解することが重要との考えから、日頃よりニュース等により最近のトピックに触れ、関心をもつことが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ソーシャルワークとライフデザイン	「生活資源」「社会資源」の活用とリスクマネジメントに関する理論を学び、ソーシャルワークにおける仕事とどのように関わっているのか理解する。
2	ライフサイクルからライフコースへ	ライフサイクル論を理解するとともに、ライフコース論へと変化してきた社会的背景について考える。
3	生活の構造的把握	法システム、政治システム、経済システムのなかに展開する「生活」を多面的に理解し、構造的に捉える視点を学ぶ。
4	現代の家族のかたち	家族について、近代家族から現代家族への変化、多様化する家族のかたちを理解する。
5	家族とジェンダー	家族におけるジェンダー関係を理解する。ジェンダー概念の理解を土台として、性別役割分業、男女共同参画等の問題を考察する。
6	企業社会と家族	企業社会における家族形態や家族関係、結婚に関する考え方の変化を概観し、理解する。また、女性の就労状況を理解し、それが家族に与える影響を考察する。
7	性・生殖と家族	妊娠、出産、子育てをめぐる家族の問題について現状と問題を理解し、解決策を検討する。
8	家族と親子関係	個人化する家族と親子関係に焦点を当て、家族の存在意義、家族のあり方について考える。
9	家族とケア	在宅ケアにおける家族の役割、家族の課題等について考察を深める。また、ケアにおけるジェンダー問題について考察を深める。
10	男性と家族	男性の就労と家族の問題について現状を把握し、問題を理解する。また、解決策を検討する。
11	子どもの貧困化と家族	子どもの貧困化の現状とその背景要因について理解し、解決策を検討する。
12	若者の貧困化と家族	若者の貧困化の現状とその背景要因について理解し、解決策を検討する。
13	家族とリスクマネジメント	人の一生の土台となる家族が遭遇するリスクについて検討し、それに対するマネジメントについて理解を深める。
14	地域コミュニティと家族	家族とその「生活」基盤である地域との関係を、ソーシャルワークの観点から考察する。また、問題の解決策を検討する。
15	生涯学習とライフデザイン	生涯学習の余暇的側面だけでなく、リカレント教育、キャリア教育、人生設計、人生のリスクマネジメントといった人生の課題へ対応するための学習と捉える視点を学ぶ。

《専門教育科目 ソーシャルワーク共通科目》

科目名	社会福祉特別演習				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） <input type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input checked="" type="radio"/> 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

4年間の学びの集大成の一環として、社会福祉士国家試験の合格をめざし、そのための学習を集中して行うことが授業のねらいです。合わせて精神保健福祉士の国家試験の準備講座も行います。各受験科目については、担当分野の教員から講義も受けますが、自主的に学習に取り組んでください。不明なところは教員に質問したり、友人と学び合いながら、成果を上げることがをめざします。

《授業の到達目標》

- 社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家試験の各試験科目ごとの出題基準と傾向を理解する。
- 各試験科目の要点やキーワードを整理して理解する。
- 模擬試験等により、試験の特徴をつかみ、合格をめざす。

《成績評価の方法》

出席・授業態度（50%）、模擬試験等の結果（50%）

《テキスト》

社会福祉士国家試験ワークブック（適宜指定する）精神保健福祉士国家試験ワークブック（適宜指定する）

《参考図書》

適宜提示します。

《授業時間外学習》

- 授業時間だけでは国家試験に合格することは難しいとされます。受験生であることを常に意識して、法改正のほか、新聞の福祉関連記事等にも目を通すようにしましょう。
- また、模擬試験は実施に5時間以上かかります。変則的なスケジュールに対応できるよう、生活スタイルを受験用に整えておくことが望まれます。

《備考》

本演習の履修が国家試験受験の前提条件となります。履修登録時に注意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション人体の構造と機能及び疾病	問題演習（解答・解説）、要点整理
2	心理学理論と心理的支援 社会理論と社会システム	問題演習（解答・解説）、要点整理
3	現代社会と福祉 社会調査の基礎	問題演習（解答・解説）、要点整理
4	相談援助の基盤と専門職 相談援助の理論と方法	問題演習（解答・解説）、要点整理
5	地域福祉の理論と方法 福祉行財政と福祉計画	問題演習（解答・解説）、要点整理
6	福祉サービスの組織と 経営／社会保障	問題演習（解答・解説）、要点整理
7	高齢者に対する支援と 介護保険制度	問題演習（解答・解説）、要点整理
8	障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	問題演習（解答・解説）、要点整理
9	児童や家庭に対する支援 と児童・家庭福祉制度	問題演習（解答・解説）、要点整理
10	低所得者に対する支援と 生活保護制度	学内模擬試験（1）
11	保健医療サービス 就労支援サービス	学内模擬試験（2）
12	更生保護制度 権利擁護と成年後見制度	学内模擬試験（3）
13	精神医学／精神保健学 精神保健福祉論	学内模擬試験（4）
14	精神科リハビリテーショ ン学	学内模擬試験（5）
15	精神保健福祉援助技術	学内模擬試験（6）

《専門教育科目 ソーシャルワーク共通科目》

科目名	社会福祉特別演習				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性) ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) ◎ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)				

《授業の概要》

4年間の学びの集大成の一環として、社会福祉士国家試験の合格をめざし、そのための学習を集中して行うことが授業のねらいです。合わせて精神保健福祉士の国家試験の準備講座も行います。各受験科目については、担当分野の教員から講義も受けますが、自主的に学習に取り組んでください。不明なところは教員に質問したり、友人と学び合いながら、成果を上げることがをめざします。

《授業の到達目標》

- 社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家試験の各試験科目ごとの出題基準と傾向を理解する。
- 各試験科目の要点やキーワードを整理して理解する。
- 模擬試験等により、試験の特徴をつかみ、合格をめざす。

《成績評価の方法》

出席・授業態度(50%)、模擬試験等の結果(50%)

《テキスト》

社会福祉士国家試験ワークブック(適宜指定する) 精神保健福祉士国家試験ワークブック(適宜指定する)

《参考図書》

適宜提示します。

《授業時間外学習》

- 授業時間だけでは国家試験に合格することは難しいと思われます。受験生であることを常に意識して、法改正のほか、新聞の福祉関連記事等にも目を通すようにしましょう。
- また、模擬試験は実施に5時間以上かかります。変則的なスケジュールに対応できるよう、生活スタイルを受験用に整えておくことが望まれます。

《備考》

本演習の履修が国家試験受験の前提条件となります。履修時には注意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション人体の構造と機能及び疾病	問題演習(解答・解説)、要点整理
2	心理学理論と心理的支援 社会理論と社会システム	問題演習(解答・解説)、要点整理
3	現代社会と福祉 社会調査の基礎	問題演習(解答・解説)、要点整理
4	相談援助の基盤と専門職 相談援助の理論と方法	問題演習(解答・解説)、要点整理
5	地域福祉の理論と方法 福祉行財政と福祉計画	問題演習(解答・解説)、要点整理
6	福祉サービスの組織と 経営/社会保障	問題演習(解答・解説)、要点整理
7	高齢者に対する支援と 介護保険制度	問題演習(解答・解説)、要点整理
8	障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	問題演習(解答・解説)、要点整理
9	児童や家庭に対する支援 と児童・家庭福祉制度	問題演習(解答・解説)、要点整理
10	低所得者に対する支援と 生活保護制度	学外模擬試験(1)
11	保健医療サービス 就労支援サービス	学外模擬試験(2)
12	更生保護制度 権利擁護と成年後見制度	学外模擬試験(3)
13	精神医学/精神保健学 精神保健福祉論	学外模擬試験(4)
14	精神科リハビリテーショ ン学	学外模擬試験(5)
15	精神保健福祉援助技術	学外模擬試験(6)

科目名	卒業演習				
担当者氏名	吉原 恵子、牧田 満知子、田端 和彦、北島 律之、和田 光徳、稲富 恭、原 志津、光田 豊茂、小倉 毅、本多 彩				
授業方法	演習	単位・必選	6・必修	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） 				

《授業の概要》

・4年間の学習の集大成として、それぞれの指導教員の指導に従って、卒業論文を執筆、完成させます。その論文を報告会において発表します。
 ・卒業論文の執筆にあたっては、課題の設定、仮説の作成のための文献の読解、データや資料の収集と分析、考察という過程が必要です。さらに分析、考察、結果を論文として仕上げるために整理し、執筆する能力が求められます。

《授業の到達目標》

・卒業論文を執筆し発表することが目標です。卒業論文を執筆するまでの文献読解、資料収集、分析などの手法を身につけることが一つ目の目標です。
 ・二つ目の目標は、卒業論文の発表に向けて、論文の要約を作成し、概要を発表するプレゼンテーション能力を身につけることです。

《成績評価の方法》

卒業論文執筆までの過程における研究への取組み、論文の内容と発表準備および成果発表の結果を総合的に評価します。
 ※卒業論文の締め切りや発表会等の日程は別途指示をします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
2	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
3	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
4	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
5	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
6	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
7	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
8	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
9	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
10	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
11	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
12	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
13	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
14	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
15	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。

《テキスト》

演習担当教員の指示に従ってください。

《参考図書》

演習担当教員の指示に従ってください。

《授業時間外学習》

卒業論文執筆における文献の講読、調査、分析、考察の他、発表の準備等は時間外に行います。授業時間は、事前課題の成果を担当教員に報告し、資料収集や執筆に関する助言を得るために用います。

《備考》

卒業論文は人生におけるおそらくは最初で最後の論文の執筆となるかもしれません。これまでの学校生活、大学生活で培ったすべての能力を傾けて取り組んでください。

科目名	卒業演習			
担当者氏名	吉原 恵子、牧田 満知子、田端 和彦、北島 律之、和田 光徳、稲富 恭、原 志津、光田 豊茂、小倉 毅、本多 彩			
授業方法	演習	単位・必選	6・必修	開講年次・開講期
				4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー) <input type="radio"/> 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力) <input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力) <input type="radio"/> 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)			

《授業の概要》

・4年間の学習の集大成として、それぞれの指導教員の指導に従って、卒業論文を執筆、完成させます。その論文を報告会において発表します。
 ・卒業論文の執筆にあたっては、課題の設定、仮説の作成のための文献の読解、データや資料の収集と分析、考察という過程が必要です。さらに分析、考察、結果を論文として仕上げるために整理し、執筆する能力が求められます。

《授業の到達目標》

・卒業論文を執筆し発表することが目標です。卒業論文を執筆するまでの文献読解、資料収集、分析などの手法を身につけることが一つ目の目標です。
 ・二つ目の目標は、卒業論文の発表に向けて、論文の要約を作成し、概要を発表するプレゼンテーション能力を身につけることです。

《成績評価の方法》

卒業論文執筆までの過程における研究への取組み、論文の内容と発表準備および成果発表の結果を総合的に評価します。
 ※卒業論文の締め切りや発表会等の日程は別途指示をします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
2	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
3	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
4	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
5	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
6	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
7	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
8	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
9	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
10	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
11	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
12	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
13	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
14	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
15	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮説の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。

《テキスト》

演習担当教員の指示に従ってください。

《参考図書》

演習担当教員の指示に従ってください。

《授業時間外学習》

卒業論文執筆における文献の講読、調査、分析、考察の他、発表の準備等は時間外に行います。授業時間は、事前課題の成果を担当教員に報告し、資料収集や執筆に関する助言を得るために用います。

《備考》

卒業論文は人生におけるおそらくは最初で最後の論文の執筆となるかもしれません。これまでの学校生活、大学生活で培ったすべての能力を傾けて取り組んでください。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	地域ソーシャルワーク実践				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） <input type="radio"/> 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） <input checked="" type="radio"/> 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

NPOなどの組織的な活動、地元自治体の行政などに実際に知りつつ（演習）、組織としての背景や実情を知り、さらに活動等における課題を見出し、その解決を共に考えます。

《テキスト》

特にありません。

《参考図書》

その都度指示をします。

《授業の到達目標》

地域での活動の原点にはどのようなことがあるのか、またそれら組織の草の根での実情はどのようなものであるのかを理解し、さらに学習を進めることで、自らをしてそうした立場（例えば、NPOの創設や地方議員への立候補など）への可能性を開くきっかけとします。

《授業時間外学習》

行政の実情や活動する団体の歴史などを理解し、インターンシップとしての役割を果たすための準備学習が必要になります。

《成績評価の方法》

レポート（100%）

《備考》

教員の指示する団体等でのインターンシップ（複数日）が必要になります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要、受講者との個別面談等行います。
2	事前学習①	事前学習として、インターンシップ先である行政やNPOについて解説を行います。
3	事前学習②	引き続き、事前学習として、インターンシップ先である行政やNPOについて解説を行います。
4	事前学習③	引き続き、事前学習として、インターンシップ先である行政やNPOについて解説を行います。
5	インターンシップ事前調整①	インターンシップ先について解説を行うとともに、そこで学習計画を作成します。
6	インターンシップ事前調整②	引き続き、インターンシップ先について解説を行うとともに、そこで学習計画を作成します。
7	インターンシップ①	NPOや自治体、その出先等でのインターンシップを行います。
8	インターンシップ②	同上
9	インターンシップ③	同上
10	インターンシップ④	同上
11	インターンシップ⑤	同上
12	学びの振り返り①	インターンシップで学んだことを振り返ります。
13	学びの振り返り②	引き続き、インターンシップで学んだことを振り返ります。
14	報告書（レポート）の作成①	振り返りを踏まえ、レポートを作成します。
15	報告書（レポート）の作成②	振り返りを踏まえ、レポートを作成します。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	更生保護制度				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）				

《授業の概要》

更生保護制度は「犯罪をした者及び非行のある少年に対し、社会内において適切な処遇を行うことにより、再び犯罪をすることを防ぎ、又はその非行をなくし、これらの者が社会の一員として自立し、改善更生することを助けること」が、その目的である。その具体的な制度の内容や、それに携わる人達の働きについて講義する。（より実際的な業務を知るために、その業務に携わる職員をゲスト講師として招く予定です。）

《授業の到達目標》

更生保護制度の概要を把握し、この制度の目的を果たすために働いている保護観察官や保護司等の業務やその役割が理解できる。それと共に、これに関する諸機関、更生保護施設等の役割についても理解できる。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）
レポート課題に対する取り組み（50%）

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座20『更生保護制度』第3版（社会福祉士養成講座編集委員会）、中央法規出版、2014

《参考図書》

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。事情が許せば、矯正施設（刑務所または少年院）の見学学習を考えた。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。
8週の授業計画です。必要授業時間数=(90分×7週) + 45分

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	更生保護制度の概要	刑事司法の中の更生保護の果たす役割やこれまでの歴史、位置づけについて理解する。
2	仮釈放等の制度	仮釈放等の制度の流れと更生保護委員会・保護観察所の業務とその役割について理解する。
3	保護観察	保護観察の目的、方法とその担い手である保護観察官・保護司の業務とその役割について理解する。
4	保護観察の実際	更生保護制度の担い手である保護観察官の仕事の実際を理解する。（ゲスト講師予定）
5	触法障害者の福祉的支援	犯罪を犯した障害者に対して、福祉的支援がなぜ必要であるのかを、その支援を行っている福祉職から話を聞いて、その支援の必要性を理解する。（ゲスト講師予定）
6	地域生活定着支援センターの役割	高齢者や障害を抱える自立困難な刑務所出所者等に対する社会復帰の支援内容や、それに携わる支援者のかかわりについて理解する。（ゲスト講師予定）
7	医療観察制度	医療観察制度における処遇の流れと、その中で果たす社会復帰調整官の業務とその役割について理解する。（ゲスト講師予定）
8	まとめ	更生保護制度の全体の流れをもう一度確認して、本制度の役割について理解する。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神科ソーシャルワーク演習				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

精神障害者に対する援助技術（ケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク等）及び地域生活支援の技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰や地域生活支援に対する援助技術を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し、小グループで議論し合う形で事例検討及びロールプレイを行う。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座8『精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2012

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神障害者の生活支援を目指して、精神保健福祉士としての援助の視点を踏まえて、精神保健福祉士のもつ専門的援助技術及び地域生活支援の技法について理解できる。

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える技術・技法の習得を目指すので、学生自身も率直な意見・質問を積極的に考えて来て授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	インテーク面接	インテーク面接での留意事項や面接内容について、ロールプレイを行いながら学習する。
2	事例2/ストレングスモデル①	ストレングスモデルによるアセスメントを理解する。
3	事例2/ストレングスモデル②	ストレングス視点に基づいたアセスメントからケアプランを作成する。
4	事例3/SSTを用いたりハビリテーション①	相談援助の過程でのSSTの活用を理解する。
5	事例3/SSTを用いたりハビリテーション②	SSTとは、何を目的として、どのように実施するのかを理解する。
6	事例5/デイケアでのリハビリテーション①	デイケアにおける精神保健福祉士の役割について理解する。
7	事例5/デイケアでのリハビリテーション②	グループワークの意義や手法について理解する。
8	社会復帰施設見学予定	社会復帰施設を見学学習することによって、地域で生活している精神障害者の生活支援について考える。
9	精神保健福祉士の実際業務	精神保健福祉現場で働いている精神保健福祉士の実際業務について理解する。（ゲスト講師予定）
10	当事者理解	当事者の体験談を聞くことによって、当事者の思いやニーズを知り、支援者の役割を考える。（ゲスト講師予定）
11	事例11/自殺予防①	自殺の危機にある人の、どのような様子や態度に気づくべきかを学ぶ。
12	事例11/自殺予防②	自殺の危機にある人を適切な機関や人へつなげる方法を学ぶ。
13	事例14/地域定着支援①	地域定着支援の目的およびプロセスを知り、そこにかかわる精神保健福祉士の視点、役割について理解する。
14	事例14/地域定着支援②	地域定着支援のための社会資源の活用を通して、関係機関等との連携、協働によるネットワーク形成の意味を理解する。
15	夏季休暇課題説明（社会資源調査）	自分が住んでいる地域の精神保健福祉領域の社会資源調査とマップ作りについて

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神科ソーシャルワーク演習				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力) <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力) <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)				

《授業の概要》

精神障害者に対する援助技術(ケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク等)及び地域生活支援の技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰や地域生活支援に対する援助技術を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し、小グループで議論し合う形で事例検討及びロールプレイを行う。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座8『精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2012

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神障害者の生活支援を目指して、精神保健福祉士としての援助の視点を踏まえて、精神保健福祉士のもつ専門的援助技術及び地域生活支援の技法について理解できる。

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える技術・技法の習得を目指すので、学生自身も率直な意見・質問を積極的に考えて来て授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み(50%)
レポート課題に対する取り組み(50%)

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	夏季休暇の課題報告	学生に夏休暇に調べた自分の住んでいる地域の精神保健福祉領域の社会資源調査報告(マップ)を発表する。
2	事例2 1/障害年金の活用①	精神障害者が障害年金を活用することの意味と意義について理解する。
3	事例2 1/障害年金の活用②	精神保健福祉士による障害年金受給支援のあり方について学ぶ。
4	事例2 4/アルコール依存①	アルコール依存の進行により、依存症本人が抱える問題の構造を理解する。
5	事例2 4/アルコール依存②	アルコール依存への介入における精神保健福祉士の役割・援助方法について学ぶ。
6	自助グループの実際	AAのメンバーを招いて、当事者の体験談を聞き、自助グループの役割を理解する。(ゲスト講師予定)
7	事例2 6/うつ病(成人)①	気分障害の当事者が地域生活を送るために精神保健福祉士が果たす役割を学び、病院と地域の連携の必要性について理解する。
8	事例2 6/うつ病(成人)②	職場との関係調整について考える。
9	地域で働く精神保健福祉士の業務について	地域生活を行っている精神障害者に対して、地域で様々な形で支援を行っている精神保健福祉士を招き、その支援内容や役割について学習する。(ゲスト講師予定)
10	事例3 1/医療観察法の対象者①	医療観察法の概要と社会復帰調整官の業務を理解し、社会復帰調整官である精神保健福祉士の専門性について学ぶ。
11	事例3 1/医療観察法の対象者②	地域ケアを展開するうえで関連する社会資源とその連携について学ぶ。
12	事例3 3/低所得者への支援①	低所得の問題に対し手、社会福祉制度を活用しながら支援を組み立てていく過程を実践的に学ぶ。
13	事例3 3/低所得者への支援②	経済的な支援のみにとらわれず、利用者・家族の思いを受けとめて支援を行うことの重要性を理解する。
14	生活保護制度の実際	事例を通して生活保護制度の実際の活用について考える。
15	学習の振り返り	これまでの事例検討を通して、精神保健福祉士としての援助の視点や援助技術、関係機関との連携の仕方について、考えてきたことについて振り返る。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習指導				
担当者氏名	光田 豊茂、和田 光徳				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

- 1、必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 2、職業倫理を身につける。
- 3、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 4、専門職種との連携のあり方を理解する。

《授業の到達目標》

精神保健福祉士のあるべき姿を学び、これまで勉強してきたことを実習をとおして理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2013年

《参考図書》

《授業時間外学習》

実習計画書作成、実習先の特性調査など授業時間内では出来ない内容については各自その学習をする。
機会があれば、精神保健福祉現場の見学研修も実施する。

《成績評価の方法》

授業態度及び事前学習の発表内容（30%）
実習記録及び実習先の評価（40%）
実習報告会、実習報告書の内容（30%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 実習先の検討および調整	精神保健福祉援助実習の意味および組み立てについて 実習生の住所地、興味、進路に応じ実習先の検討を行う
2	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表する
3	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表する
4	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表する
5	当事者理解	精神障害者の抱えている生活課題や困難について理解する（ゲスト講師予定：精神障害者当事者）
6	実習に向けての事前学習	実習先（医療機関）の概要を調べ発表する
7	精神保健福祉士業務の実際を知る	精神科医療機関における精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：医療機関で働く精神保健福祉士）
8	実習に向けての事前学習	実習先（地域の事業所）の概要を調べ発表する
9	精神保健福祉士業務の実際を知る	地域で働く精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：地域で働く精神保健福祉士）
10	実習計画書作成	各自、実習中のテーマを設定し、それに基づいて実習計画を立てる
11	実習計画書作成	各自、実習中のテーマを設定し、それに基づいて実習計画を立てる
12	実習計画書作成	各自、実習中のテーマを設定し、それに基づいて実習計画を立てる
13	実習先への事前訪問について	実習先に対する事前訪問の方法や留意点などを理解する
14	個人指導	実習における留意点の確認を行う。実習関連書類の作成など
15	個人指導	実習における留意点の確認を行う。実習関連書類の作成など

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習指導				
担当者氏名	光田 豊茂、和田 光徳				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感性、観察力、問題発見力) <input type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) <input type="radio"/> 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー) <input type="radio"/> 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)				

《授業の概要》

- 1、必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 2、職業倫理を身につける。
- 3、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 4、専門職種との連携のあり方を理解する。

《授業の到達目標》

精神保健福祉士のあるべき姿を学び、これまで勉強してきたことを実習をとおして理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2013年

《参考図書》

《授業時間外学習》

実習報告会のプレゼンテーション内容の準備や実習報告書作成などは授業時間外でも各自その準備を行う。
機会があれば、精神保健福祉現場の見学研修も実施する。

《成績評価の方法》

授業態度及び事前学習の発表内容 (30%)
実習記録及び実習先の評価 (40%)
実習報告会、実習報告書の内容 (30%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習の振り返り・各実習施設の印象・特色・全体的な振り返り
2	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習各自の個別振り返り・スーパーバイザーからの学び・印象的なエピソード・課題など
3	精神保健福祉現場実習の振り返り	各自の学び、課題の掘り下げ・ディスカッション
4	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会に向けてのプレゼンテーション内容掘り下げ
5	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会に向けてのプレゼンテーション内容掘り下げ
6	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会に向けてのプレゼンテーション内容掘り下げ
7	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会で発表
8	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習で学んだ内容についての実習報告書作り
9	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習で学んだ内容についての実習報告書作り
10	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習で学んだ内容についての実習報告書作り
11	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告書提出
12	精神保健福祉現場実習の振り返り	事後学習
13	精神保健福祉現場実習の振り返り	事後学習
14	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習の総まとめ
15	精神保健福祉現場実習の振り返り	国家試験に向けての取り組み

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習				
担当者氏名	光田 豊茂、和田 光徳				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 				

《授業の概要》

厚生労働省指定の精神保健福祉現場（精神科医療機関及び地域の事業所等）においてトータルで210時間以上の実習を行う。実習を通して精神障害者の置かれている状況やその生活課題を理解し、その課題に対して精神保健福祉士がどのように支援を行っているのかを理解する。また、精神保健福祉士が行う支援において、求められる倫理や価値を基にして、必要な知識や技術について実習において会得する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2013年

《参考図書》

浦河べてるの家 『べてるの家の「当事者研究」』 医学書院 2009年

《授業の到達目標》

精神障害者の置かれている状況を理解しながら、その生活課題に対して精神保健福祉士が実際現場でどのような支援を行っているかを自分の頭で理解し、その支援が自分の実践に近づけるように体得する。

《授業時間外学習》

精神保健福祉士法を理解して実習に臨むこと。

《成績評価の方法》

実習記録、実習先の評価、実習報告会、実習報告書、実習に対する参加意欲を総合的に見て評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
2	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
3	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
4	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
5	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
6	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
7	精神科医療機関における現場実習	精神科医療機関における入通院患者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
8	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
9	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
10	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
11	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
12	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
13	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
14	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。
15	地域の精神保健福祉分野における現場実習	地域の事業所を利用している精神障害者とのかかわりから、その方々の生活状況を理解し、その生活課題に対して精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを学ぶ。

科目名	インターンシップ				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

インターンシップは、企業やNPOなどの団体で実際に勤務をし、社会の仕組みや団体でのコミュニケーションの方法などの体験を通して学ぶことを目的としています。また企業などの組織について知ることも重要な目的となっています。

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考図書》

授業時間中に指示します。

《授業の到達目標》

- ・インターンシップを通し、企業や労働の実態の理解を深めるとともに職種ごとの働き方について理解することが出来ます。
- ・インターンシップを通し、社会との関わり方や多様な世代とのコミュニケーションの取り方を身につけることが出来ます。
- ・インターンシップを通し、企業研究を進め、将来の進路を見定めることが出来るようになります。

《授業時間外学習》

インターンシップ先の検討、企業研究においては、インターネットでの情報収集、有価証券報告書や新聞記事、雑誌記事などの読解を通し自主的な取り組みで実施するため、その準備はすべて授業時間外で実施することになります。インターンシップ中は業務日報の作成が必要になります。

《成績評価の方法》

授業中の課題達成度(30%)、インターンシップ先での評価(30%)、事後の振り返りにおけるレポート等(40%)

《備考》

この授業は、ソーシャルワーク実習を履修しない学生のみ履修することが出来ます。ソーシャルワーク実習と両方の履修はできません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	インターンシップの目的とスケジュールについて
2	キャリア教育とインターンシップ	雇用の現状と大学設置基準等によるキャリア教育の位置づけについて 社会人基礎力
3	社会人基礎力の形成	一般教養とSPI試験 ビジネスマナー・書類の書き方等、ビジネス等の活動に必要なスキル
4	企業研究	法人組織の仕組み 会社概要、事業内容、企業業績等の理解
5	インターンシップ先の検討	インターンシップ先の希望調査と調整
6	インターンシップ計画の作成	インターンシップ計画について検討し、計画書を作成する
7	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
8	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
9	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
10	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
11	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
12	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
13	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
14	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
15	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))

科目名	インターンシップ				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任) ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)				

《授業の概要》

インターンシップは、企業やNPOなどの団体で実際に勤務をし、社会の仕組みや団体でのコミュニケーションの方法などの体験を通して学ぶことを目的としています。また企業などの組織について知ること重要な目的となっています。

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考図書》

授業時間中に指示します。

《授業の到達目標》

- ・インターンシップを通し、企業や労働の実態の理解を深めるとともに職種ごとの働き方について理解することが出来ます。
- ・インターンシップを通し、社会との関わり方や多様な世代とのコミュニケーションの取り方を身につけることが出来ます。
- ・インターンシップを通し、企業研究を進め、将来の進路を見定めることが出来るようになります。

《授業時間外学習》

インターンシップ先の検討、企業研究においては、インターネットでの情報収集、有価証券報告書や新聞記事、雑誌記事などの読解を通し自主的な取り組みで実施するため、その準備はすべて授業時間外で実施することになります。インターンシップ中は業務日報の作成が必要になります。

《成績評価の方法》

授業中の課題達成度(30%)、インターンシップ先での評価(30%)、事後の振り返りにおけるレポート等(40%)

《備考》

この授業は、ソーシャルワーク実習を履修しない学生のみ履修することが出来ます。ソーシャルワーク実習と両方の履修はできません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	インターンシップ帰校日	進行中のインターンシップにおける現状について評価・検討し、改善方法について検討する。
2	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
3	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
4	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
5	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
6	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
7	(実習)	インターンシップ(3週間(予定)) 実習巡回指導
8	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
9	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
10	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
11	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
12	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
13	インターンシップ報告書の作成	インターンシップ報告会のための資料を整備する
14	インターンシップ報告会	インターンシップの報告会を実施する
15	授業のまとめ	インターンシップの振り返りと反省を行う

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	福祉工学				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） <input checked="" type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input type="radio"/> 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） <input type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

高齢者、障害者が地域社会の中で普通の生活を送るためには、福祉の視点にたった住環境整備を欠かすことが出来ない。本講義では、(1)住環境整備の背景となる社会福祉の現状について概観するとともに、(2)住宅改修、バリアフリー、ユニバーサルデザインを中心に福祉住環境整備手法について学ぶ。

《テキスト》

「福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 改訂4版」東京商工会議所, 2016

《参考図書》

「福祉住環境コーディネーター検定試験 3級過去問題集 2016年版」HIPS合格対策プロジェクト, 2016

《授業の到達目標》

- 福祉住環境コーディネーター3級に相当する能力を身につける。
- 生活環境の不適合に対して、物理的な問題解決手段を提案することができる能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
シラバスを参考に、テキストの該当箇所に目を通し、疑問点を明確にしておく。
- ・復習の方法
テキストの必要箇所を暗記する。配布プリントの問題を復習し、次回の小テストの準備を行う。

《成績評価の方法》

- ・授業中に毎回実施する小テスト(100%)によって評価する。

《備考》

原則として「福祉住環境コーディネーター検定試験3級」の受験を目指す学生を対象とする。
試験日程に合わせて、開講日を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	少子高齢社会と福祉住環境整備	少子高齢社会の現状と今後のあり方について理解する
2	日本の住環境と福祉住環境整備	日本の住空間の特性と福祉住環境整備の必要性について理解する
3	福祉住環境と在宅ケア	介護保険制度と障害者総合支援法を中心に在宅生活の支援について理解する
4	高齢者の健康と生活	老化の特性とヘルスプロモーションについて理解する
5	障害者の自立と生活	障害の種類と障害者の社会参加状況について理解する
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリー、ユニバーサルデザインの歴史、概念について理解し、具体的なデザイン手法について理解する
7	福祉用具の分類と活用	共用品、福祉用具の概念、分類、役割について理解する
8	居住環境整備の技術(1)	居住環境整備に必要な空間設計について理解する
9	居住環境整備の技術(2)	居住環境整備に必要なデザイン、設備計画、避難防災計画について理解する
10	生活行為と空間整備	移動、入浴、排泄等の生活行為に必要な空間整備方法について理解する
11	ライフスタイルの多様化と住まい	戦後の家族形態の変化とそれに伴う生活形態について理解する
12	安心できる住生活	高齢者居住法、住宅セーフティネット法等の居住安定政策について理解する
13	安心して暮らせるまちづくり	福祉のまちづくり条例等、地域における福祉住環境整備について理解する
14	授業の補足と重要箇所の復習	授業内容の重要ポイントについて補足し、「福祉住環境コーディネーター検定試験」の準備を行う。
15	授業のまとめ	授業のまとめと小テストの解説

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	仏教と社会福祉				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 				

《授業の概要》

この講義は、仏教の教えについて理解を深めることから始める。社会福祉の現場で求められる、他者へのやさしさや利他のことについて学びを深める。さらに実践の場を取り上げ、現代社会における仏教社会福祉の取り組みを解説する。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活領域にある仏教への理解を深め、人間や生老病死について考える。縁起や利他や慈悲といった仏教の教えを学び、社会福祉の現場に立つときの他者理解のきっかけとしてほしい。

《授業時間外学習》

学内で行われる仏教行事への参加を積極的に評価する。
定例礼拝
宗教セミナー

《成績評価の方法》

受講態度30%
小テスト・レポート25%
期末レポート45%

その他宗教ツアーへの花まつり法要もあるので参加してほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	仏教社会福祉とは	仏教社会福祉の概要を理解する
2	仏教のはじまりと釈尊	釈尊の生涯やジャータカ物語から釈尊と他者との関わりについて学ぶ
3	大乘仏教の興隆	大乘仏教登場の背景と特徴について学ぶ
4	大乘仏教の発展	インド発祥の大乘仏教の教えの展開と広がりについて学ぶ
5	大乘仏教と利他	大乘仏教の利他について学び理解を深める
6	日本仏教社会福祉①	聖徳太子など日本仏教社会福祉のはじまりについて学ぶ
7	日本仏教社会福祉②	浄土仏教と日本仏教社会福祉について学ぶ
8	日本仏教社会福祉③	明治時代以降の日本仏教社会福祉と実践について学ぶ
9	高齢者福祉と仏教	高齢者福祉と仏教の関係について理解を深める
10	こどもと仏教	仏教の児童養護施設やこどもと仏教に関する取り組みについて学ぶ
11	若者と仏教	若者がかかえる諸問題について仏教社会福祉の視点から理解を深める
12	障がい者と仏教	障がい者福祉と仏教について学ぶ
13	仏教の死生観	死や生やいのちについて仏教の考えを学ぶ
14	仏教ターミナルケア	仏教のターミナルケアであるビハラー活動を理解し学びを深める
15	仏教社会福祉の現場	仏教社会福祉の現場を知り具体的な活動について理解を深める

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

授業のねらいは、教育実習の目的を達成することにある。具体的には、事前指導において、教育現場や教員の職務範囲などについて理解するとともに、すでに履修している教職に関わる科目の振り返りによって、実習時に必要な知識と理論を統合化する。事後指導においては、教育実習の成果を自己確認するとともに、他の実習生との意見交換、情報交換、討議などにより経験の共有化を図る。

《授業の到達目標》

- (1) 教職に関する科目の振り返りを行い、それらの知識や技術を現場実習のどの場面でもどのように用いるのか説明できる。
- (2) 教科に関する科目の振り返りを行い、それらの知識や技術を現場実習のどの場面でもどのように用いるのか説明できる。
- (3) 教職を希望する者にとって、教育実習がどのような意義をもつか説明できる。

《成績評価の方法》

実習校による実習評価(50%)、およびレポート(30%)、実習報告会における発表(20%)の総合評価

《テキスト》

『教育実習の研究』 教師養成研究会（学芸図書，2001）

《参考図書》

『教育実習の新たな展開』 有吉秀樹・長沢憲保（ミネルヴァ書房，2001）
 『福祉教育論』 村上尚三郎他（1998、北大路書房）
 『福祉教育の理論と実践』 阪野貢編著（2000、相川書房）

《授業時間外学習》

履修期間だけでなく、日常生活および学業生活全体のなかで、教職をめざす者としての自覚を持って行動することが求められる。

《備考》

授業案作成および模擬授業に関しては授業外の指導も合わせて行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習全体の理解	教科「教育実習」の目的と方法を理解する
2	教育実習の全体（1）	1）教員養成と教育実習 2）教育実習の目的を理解する
3	教育実習の全体（2）	3）教育実習の展開 4）教育実習の心得を理解する
4	教育実習の内容（1）	1）学校経営 2）学校の組織を理解する
5	教育実習の内容（2）	3）生徒の理解 4）教育課程 5）学習指導を理解する
6	教育実習の実際（1）	1）教材研究の実際 2）学習指導の実際を理解する
7	教育実習の実際（2）	3）学習指導案の事例を理解する
8	教育実習の実際（3）	4）授業研究の実際を理解する
9	教育実習の実際（4）	5）道徳・特別活動・生活指導の実際 6）教育実習の評価を理解する
10	教育の方法及び技術（1）	1）授業の仕組みとはたらきを理解する
11	教育の方法及び技術（2）	2）教育方法および教育技術を理解する
12	教材研究と指導案づくり（1）	1）学習指導要領 2）学習分野を理解する
13	教材研究と指導案づくり（2）	3）発問や応答 4）時間配分 5）学習目標と評価を理解する
14	模擬授業（1）	1）授業の位置づけ 2）授業の構成要素を理解する
15	模擬授業（2）	3）授業内容の難易度 4）授業目標の達成と評価を理解する

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（高）				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

学生は「教職」を教科指導を中心とした教職イメージで捉えがちである。本演習では、学校現場の視点から見た教員の仕事内容とその職務について学習することを中心として、これまでの教職課程で得られた知識・技術を総合的に用いる能力を実践的授業方法により養う。

《テキスト》

・「自己成長を目指す教職実践演習」（原田 恵理子、森山賢一著）

《参考図書》

「教職実践演習ワークブック -ポートフォリオで教師力アップ」（西岡 加名恵、川地 亜弥子著）

《授業の到達目標》

- (1) 教職課程において既に習得している専門的な知識・技能および教育実習経験の統合を図ることができる。
- (2) 教員としての使命感や責任感を説明できる。
- (3) 教科指導のほか生徒指導など教員の多様な職務内容を説明できる。
- (4) 教育現場で実践するために必要な諸能力（汎用的技能など）を身につけ、示すことができる。

《授業時間外学習》

本科目では、授業ごとの予習復習というよりは、日頃から教育問題に関心を持ち、「教育とは何か」「子どもを導くとはどのようなことか」などについて自分なりの考えを述べられるようにまとめておくことが大切である。教授・指導上の観点だけでなく、教育法規範的な側面、学校の社会的な役割、世界の動向など、多面的・複眼的に捉える力を養う努力が求められる。

《成績評価の方法》

毎回の授業記録（ポートフォリオ等）に基づく学生による自己評価（40%）と教員による評価（60%）の相互評価を実施する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実践演習とは何か 教育実習のふり返り	教職実践演習の科目としての意義を理解するとともに、教育実習のふり返りを通して教職に就く者として必要な能力・技能について検討する。
2	学習指導要領の内容理解 学習指導案作成のまとめ	学習指導要領の内容についてふりかえり、学習指導案作成の要点や技術についてまとめる（事例研究および討議）
3	模擬授業	模擬授業を実施する（授業実施および討議）
4	道徳教育と特別活動(1)	道徳教育と特別活動について知識としてふり返りを行うとともに、多様な事例を検討し実践的課題を検討する（事例研究および討議）
5	道徳教育と特別活動(2)	道徳教育と特別活動について知識としてふり返りを行うとともに、多様な事例を検討し実践的課題を検討する（事例研究および討議）
6	子どもの発達の理解	思春期・青年期の特性と発達課題を理解するとともに、認知的発達、人間関係の発達について考察する
7	生徒指導と教育相談(1)	生徒指導および教育相談の概念についてふり返るとともに、一次的援助と二次的援助、三次的援助について理解する
8	生徒指導と教育相談(2)	一次的援助と二次的援助、三次的援助について事例（不登校、いじめ、発達障害、問題行動等）をもとに理解を深める（ロールプレイングおよび討議）
9	特別支援教育	就学指導のあり方、個別の指導計画の活用、発達検査等について知識の確認を行うとともに、協働による子ども支援、専門機関・地域・保護者との連携等について検討する
10	学級経営のあり方について(1)	学級担任の役割を理解するとともに、学級経営の進め方、保護者との関わり方などについて、困難事例を中心として検討する（事例研究および討議）
11	学級経営のあり方について(2)	学級担任の役割を理解するとともに、学級経営の進め方、保護者との関わり方などについて、困難事例を中心として検討する（事例研究および討議）
12	教師のコミュニケーション力について	教師は学校組織の一員である一方、児童生徒に対しては指導的立場にある。これらを理解し、教員のコミュニケーション力について検討する（ロールプレイングおよび討議）
13	保護者・地域社会への対応について	保護者および地域との連携・協働の重要性について理解するとともに、それに必要なソーシャルスキルについて、事例を検討し習得する
14	教師としての使命感・責任感、倫理観、教育的愛情	現場で求められている教師の資質・能力とはなにかについて理解するとともに、教育委員会や社会が求める教師の力量についても検討し、自己成長の重要性を知る
15	学習のまとめ	学習のふり返りと学習成果の評価

授業科目索引一覧 (50音順)

授業科目の名称	ページ
<イ> インターンシップ	229～230
<エ> 英語	33
<カ> 介護概論	131
化学	62、84
加齢及び障害に関する理解	193
韓国語(初級)	39、40、91
韓国語(中級)	41、42、92
<キ> 基礎ゼミナールⅠ	111
基礎ゼミナールⅡ	112
教育課程論	168
教育原理	122
教育心理学	166
教育制度論	123
教育相談(含カウンセリング)	124
教育方法・技術論	170
教職概論	121
教職実践演習(高)	234
行政法	109
<ケ> ケアマネジメントⅠ	206
ケアマネジメントⅡ	207
ケアマネジメント論	165
経済学	59、83
芸術	50、73
健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	65、66、67、94
健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	67、95
健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	68、96
現代社会と福祉Ⅰ	113
現代社会と福祉Ⅱ	114
権利擁護と成年後見制度	147
<コ> 更生保護制度	223
高等学校教育実習	233
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	140
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	141
国際関係論	46、167
国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)	44、76
国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)	45、77
こころの基盤の理解	132
コミュニケーション論	133
コンピュータ演習	43
在宅ケア論	208
<サ> 色彩とデザイン	51、78
<シ> 事前・事後指導	211
実用英語(初級)	87
実用英語(中級)	88

授業科目の名称	ページ
<シ> 実用英語Ⅰ	34～36
児童・高齢者・障害者の心理	120
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	143
社会学	58
社会心理学	134
社会調査の基礎	115
社会福祉調査	177
社会福祉特別演習	218～219
社会保障論Ⅰ	138
社会保障論Ⅱ	139
社会理論と社会システム	106
宗教と人生	30
就労支援サービス	190
生涯学習社会とライフデザイン	217
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	142
生涯発達心理学	110
食と健康	64、86
人権の歴史	56、81
人体の構造及び日常生活行動に関する理解	194
人体の構造と機能及び疾病	104
心理学	61、74
心理学理論と心理的支援	105
心理検査法	191
<セ> 生活支援技術	163
政治学	57、82
精神科ソーシャルワーク演習	224～225
精神疾患とその治療Ⅰ	158
精神疾患とその治療Ⅱ	159
精神障害者の生活支援システム	195
精神保健の課題と支援Ⅰ	196
精神保健の課題と支援Ⅱ	197
精神保健福祉援助実習	228
精神保健福祉援助実習指導	202、226～227
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	160
精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	156
精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	157
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠA	198
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠB	199
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡA	200
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB	201
生徒指導論	171
生物学	63、85
生物基礎	103
生命倫理学	60、70
専門ゼミナールⅠ	188
専門ゼミナールⅡ	189

授業科目の名称	ページ
<セ> 専門プレゼミナールⅠ	136
専門プレゼミナールⅡ	137
相談援助演習ⅠA	149
<ソ> 相談援助演習ⅠB	182
相談援助演習Ⅱ	183
相談援助基礎実習	153～154
相談援助実習	186～187
相談援助実習指導Ⅰ	116～117、150
相談援助実習指導Ⅱ	151～152
相談援助実習指導Ⅲ	184～185
相談援助の基盤と専門職Ⅰ	107、129
相談援助の基盤と専門職Ⅱ	130
相談援助の理論と方法Ⅰ	148
相談援助の理論と方法Ⅱ	181
卒業演習	220～221
<タ> 態度の心理学	135
<チ> 地域ソーシャルワーク実践	222
地域福祉の理論と方法Ⅰ	144
地域福祉の理論と方法Ⅱ	178
地域文化論	52
中国語(初級)	37、89
中国語(中級)	38、90
<テ> 低所得者に対する支援と生活保護制度	146
哲学	53、71
<ト> 統計学の基礎	155
特別活動論	169
<ニ> 日本語(読解と表現)	32
日本国憲法	55、80
<ヒ> 比較文化論	47
病気の理解	164、205
<フ> 福祉科教育法	209～210
福祉行政と福祉計画	180
福祉工学	231
福祉住環境論	118
福祉レクリエーションⅠ	161
福祉レクリエーションⅡ	203
福祉レクリエーション演習Ⅰ	162
福祉レクリエーション演習Ⅱ	204
仏教と現代社会	31、75
仏教と社会福祉	232
文学	49、72
<ホ> 法学	108
法と社会	54、79
保健医療サービス	145、179
<リ> 臨床心理学	192
<レ> 歴史学	48
レクリエーションワーク	119
私のためのキャリア設計	69、97

